

博士論文

現代日本語における

カテゴリーを形成する派生語の意味分析

名古屋大学大学院人文学研究科

人文学専攻

大志民 彩加

2022年2月

# 目次

第1章 序論.....	1
1. 1  研究対象と目的.....	1
1. 2  本論文の構成.....	5
第2章 理論的背景.....	7
2. 1  はじめに.....	7
2. 2  現代日本語における語構成論について.....	7
2. 3  言語単位や品詞の分類について.....	11
2. 4  カテゴリー化.....	14
2. 5  構文理論について.....	16
2. 5. 1  構文理論の概要.....	17
2. 5. 2  構文理論の枠組みにおける合成語研究.....	20
2. 6  その他の援用する諸概念.....	24
2. 6. 1  百科事典的意味.....	24
2. 6. 2  比喩（メタファー・シネクドキー・メトニミー）.....	27
2. 6. 3  多義語分析の課題.....	29
2. 6. 4  文法化.....	33
2. 7  本章のまとめ.....	36
第3章 カテゴリーを形成する [X+系] 構文の意味分析.....	38
3. 1  はじめに.....	38
3. 2  先行研究概観.....	38
3. 2. 1  中島（2010）.....	38
3. 2. 2  山下（2013）.....	41
3. 2. 3  山下（2015）.....	43
3. 2. 4  先行研究における問題点.....	43
3. 3  [X+系] 構文の形式的特徴.....	47

3. 4	[X+系] 構文の多義性.....	51
3. 4. 1	意味①.....	52
3. 4. 2	意味②.....	58
3. 4. 3	意味③.....	63
3. 4. 4	意味④.....	67
3. 4. 5	意味⑤.....	71
3. 4. 6	意味⑥.....	75
3. 4. 7	意味⑦.....	81
3. 4. 8	意味⑧.....	87
3. 4. 9	意味⑨.....	93
3. 5	[X+系] 構文のメトニミー的用法.....	99
3. 6	[X+系] 構文における意味拡張の方向性.....	101
3. 6. 1	[X+系] 構文におけるプロトタイプの意味の認定.....	102
3. 6. 2	[X+系] 構文における各意味の相互関係の明示.....	104
3. 6. 3	単純語「系」と派生語 [X+系] の関連性.....	112
3. 7	本章のまとめ.....	114
第4章	カテゴリーを形成する [X+派] 構文の意味分析.....	116
4. 1	はじめに.....	116
4. 2	先行研究概観.....	116
4. 3	[X+派] 構文の形式的特徴.....	118
4. 4	[X+派] 構文の多義性.....	120
4. 4. 1	意味①.....	121
4. 4. 2	意味②.....	126
4. 4. 3	意味③.....	130
4. 4. 4	意味④.....	134
4. 5	[X+派] 構文のメトニミー的用法.....	138
4. 6	[X+派] 構文における意味拡張の方向性.....	140
4. 6. 1	[X+派] 構文におけるプロトタイプの意味の認定.....	141
4. 6. 2	[X+派] 構文における各意味の相互関係.....	141

4. 6. 3	単純語「派」と派生語 [X+派] の関連性.....	146
4. 7	本章のまとめ.....	147
第5章	カテゴリーを形成する [X+型] 構文の意味分析 .....	149
5. 1	はじめに .....	149
5. 2	先行研究概観.....	150
5. 3	[X+型] 構文の形式的特徴.....	151
5. 4	[X+型] 構文の多義性.....	155
5. 4. 1	意味①.....	156
5. 4. 2	意味②.....	159
5. 4. 3	意味③.....	163
5. 4. 4	意味④.....	167
5. 4. 5	意味⑤.....	170
5. 4. 6	意味⑥.....	175
5. 5	[X+型] 構文のメトニミー的用法.....	179
5. 6	[X+型] 構文における意味拡張の方向性.....	181
5. 6. 1	[X+型] 構文におけるプロトタイプの意味の認定 .....	182
5. 6. 2	[X+型] 構文における各意味の相互関係.....	182
5. 6. 3	単純語「型 (かた)」と派生語 [X+型] の関連性.....	188
5. 7	本章のまとめ.....	191
第6章	カテゴリーを形成する [X+系] 構文・[X+派] 構文・[X+型] 構文の拡張的用法 一句・文が前接するケースー .....	192
6. 1	はじめに .....	192
6. 2	先行研究概観.....	193
6. 3	[X+系] 構文の拡張的用法のケース .....	195
6. 4	[X+派] 構文の拡張的用法のケース .....	197
6. 5	[X+型] 構文の拡張的用法のケース .....	199
6. 6	本章のまとめ.....	200

第7章 結論 .....	203
参考文献 .....	213
参考辞書 .....	217
用例出典 .....	217
謝辞.....	218

本論文の第3章、第4章、第5章の内容は以下の論文に基づき、さらにその後の研究によって明らかにしたことを加味して加筆・修正したものである。

### 第3章

2020年10月

「[X系]の多義性と意味拡張の方向性について」『表現研究』第112号, pp.1-10

### 第4章

2021年5月

「現代日本語における[X+派]構文の多義構造」『日本認知言語学会論文集』第21号,  
pp.278-290

### 第5章

2022年5月(近刊)

「現代日本語における[X+型]タイプの派生名詞 —カテゴリーの属性に注目して—」  
『日本認知言語学会論文集』第22号

## 本論文における表記法

- (1) 例文や引用箇所には、各章ごとの通し番号を( )で括って付してある。
- (2) 引用例の出典は、例文の後の( )内に示す。なお、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」、「筑波ウェブコーパス」、検索エンジン「Yahoo! JAPAN」を用いて採集した、インターネット上で公開されているウェブページから引用している例文に関しては、( )内に URL を記載する。また、朝日新聞データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」を用いて収集した例文に関しては、( )内に該当する記事の新聞名または雑誌名、及び掲載日を記載する。そして、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」、『CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊』を用いて収集した、書籍から引用している例文に関しては、( )内に該当する書籍名（雑誌名、文庫名など）を記載する。
- (3) 例文中、直接考察対象となっている箇所は実線の下線\_\_\_\_\_で示す。
- (4) 先行研究を直接引用する場合、その引用部分を「 」で括って示す。
- (5) 図表番号は、各章ごとの通し番号を付してある。
- (6) 注は、通し番号を付し、各ページ末に挙げる。
- (7) 個々の構文における意味、スキーマなど、あらゆるレベルの意味を、< >で括って記述する。

## 第1章 序論

### 1. 1 研究対象と目的

「カテゴリー化 (categorization)」は認知言語学の分野において、言語の使用と密接に関わる重要な概念の一つとして位置づけられている。「カテゴリー化」とは、一般的に「事物や事象について同定 (identification) や差異化 (differentiation) を行い、共通性や関係性に従って般化することで諸事例を同類であると判断し、まとめる認知過程 (辻 2013: 40)」とされている。そして、辻 (2013: 40) では、言語の使用によって記憶への効率的な貯蔵と創造的な再利用が可能になることから、人間の知識形成においてカテゴリー化と言語のはたらかきは切り離せない関係にあると述べている。このことからカテゴリー化は言語の産出や理解にとって必要不可欠な認知能力の一つであるといえる。

ところで、様々な言語において、何らかの事物をあるカテゴリーに位置づける上での属性を明示する接尾辞が存在する。例えば、現代日本語における「系」という形態素は、以下の例のように、ある形態素に後接し、接尾辞として用いることで、対象とする事物を何らかのカテゴリーに位置づける機能を有している。

(1) あの店員はアジア系の留学生だ。 (作例)

(1) では、様々な「留学生」がいる中で、話者が対象とする「店員」を<アジア系の留学生>というカテゴリーに位置づけている。つまり、この場合の「アジア系」は「留学生」のカテゴリーを限定する上での<属性>であるといえる。

このような<カテゴリーの属性>としての意味を表す際に用いられる形態素は「系」の他にも、以下の例のように「派」や「型 (がた)」などがある。

(2) 彼女は演技派の女優として知られている。 (作例)

(3) 私はどちらかという直感型だ。 (作例)

このような接尾辞を用いることによって、これまでに認識されることのなかった新たな



カテゴリーを明示したり、より適切に対象の属するカテゴリーを明示したりすることが可能となる。本研究は、(1) から (3) に挙げた「系」「派」「型」を接尾辞として含む派生語の意味を、認知言語学および構文理論の枠組み<sup>1</sup>によって考察し、その多義性や意味拡張の様相、そしてその背景にあるカテゴリー化のメカニズムを明らかにすることを目的とするものである。これらの表現の意味を考察することによって、「現代日本語において事物がどのようにカテゴリー化されているのか」というしくみの一端を明らかにすることができると考えられる。

なお、現代日本語において<カテゴリーの属性>を表す際に用いられる接尾辞は極めて多岐にわたる中、本研究において「系」「派」「型」を考察対象とする主な理由は次の2点である。

1点目は、これらの接尾辞を用いた具体的な事例において、既に現代日本語において定着していると思われる事例が多く見られることである。例えば、上述の(1) から (3) の事例に加え、以下における「系」「派」「型」の事例も頻用されていると考えられる。

- (4) 外資系メーカーでも最も人気が高いのは P&G Japan、ユニリーバ・ジャパン、日本ロレアル、ネスレ日本の4社ではないでしょうか。  
(<https://www.nikki.ne.jp/magazine/entry/2018/06/0101>)
- (5) 職場見学を通じて、中学生に医師や薬剤師、看護師といった医療系の仕事に関心を持ってもらう秋田大の「理科大好き☆夢発見プロジェクト」が31日、秋田市川尻町の県赤十字血液センターであった。  
(『朝日新聞』2010年6月1日 朝刊)
- (6) 印象派の絵は人気がある、モネやゴッホやルノワールやゴーギャン、どれもうっとり幸せな気分にしてくれる優しい絵画たちだ。  
(<https://tabispain.com/impressoinism/>)
- (7) 「犬派の方」の【犬が好きな理由】は「忠実」や「人懐っこい」という回答が断トツ。(略) 一方「猫派の方」の【猫が好きな理由】は「かわいい」がトップ。  
(<https://news.nifty.com/article/item/neta/12225-120607000490/>)
- (8) ハート型のピザのラインアップは、「ハートのアメリカン」「ハートのドミノ・デ

<sup>1</sup> 本研究で構文理論の枠組みを援用する理由に関しては、本節の後半または第2章5節で述べる。

ラックス」 「ハートのウルトラチーズ 250g」 の3品。

(<https://news.yahoo.co.jp/articles/fb8ffb596e24f9fee6c00578c0352842e0fd51>

03)

- (9) (岐阜県の気象情報について) 冬型の気圧配置が強まった影響で18日、県内の広い範囲で雪が降った。 (2021年2月19日『朝日新聞』朝刊)

2点目は、これらの接尾辞の造語力が高く、特に近年、前接要素に用いられる語の品詞や形態が多様になってきていることである。例えば、(1)の「アジア系」、(2)の「演技派」、(3)の「直感型」のような語基が名詞の事例だけでなく、次の事例からも分かるように、動詞や形容詞、副詞などが語基として結びつく事例も見られる。

- (10) 最近、まぜそば・油そばなどの混ぜる系ラーメンにハマっており、その流れに乗って「汁なし担々麺」にしました！

(<https://ameblo.jp/santiago1947madrid/entry-12253321092.html>)

- (11) フォリフォリのラインストーン付き時計は可愛い派の私らしいアイテム。

(『J J』2004年)

- (12) うちの子どもはおっとり型でおとなしい性格。この子にあった幼稚園を探しているのですが、なかなか見つかりません。

([https://satoshi.blogs.com/life/2010/07/working\\_style.html](https://satoshi.blogs.com/life/2010/07/working_style.html))

また、以下の例は、それぞれ「系」「派」「型」に、複数の語が結びついた句、あるいは、文が前接しているケースである。

- (13) (『28日後…』という映画の評価コメント)

単純におもしろかった。というか、興味深かった。人間の心理を描いてる点は「es」に近い。ああいう世界が絶望の中でも一つの希望がある系の映画は好きです。

([http://www.tcp-ip.or.jp/~iwamatsu/bbs\\_log03/28nitigo.html](http://www.tcp-ip.or.jp/~iwamatsu/bbs_log03/28nitigo.html))

- (14) お買い物のタイプは、買いだめ派ではなくて、その日の特売品を中心に献立を決めて毎日お買い物をする派です。

(<http://tokyo.l-ma.jp/tokyo/column/index69.html>)

- (15) 次に、1960年代から75年頃までは、工業型社会への移行の時代であり、「夢の時代」ともいえる時代である。工業型社会となり、技術革新が進み、高度経済成長がもたらされた。欧米に追いつけ追い越せ型の近代化が進められ、生きる目的が未来の豊かな生活や便利な都市生活などに収斂されていく時期であり、学校教育への依存度が高まり、高校・大学進学率が上昇し、受験競争という状況も生まれた。(https://www.pref.kanagawa.jp/documents/26947/26008.pdf)

「系」「派」「型」には、上述の(1)から(9)のように、現代日本語における定着度が高いと思われる事例もあれば、(10)から(15)のように、新奇な事例も見られる。そのため本研究では、このように定着度の高い例から新奇な例までも含めて、統一的に「系」「派」「型」の意味や用法の拡張を明らかにすることを目指す。

なお、接尾辞としての「系」「派」「型」そのものの意味を記述することは理論上可能であると考えられるものの、接尾辞という語構成要素の性質上、それ自体は極めてスキーマティックな意味しか表さず、個々の語基が接続することによって、具体的かつ多様な意味が形成されていると考えられる<sup>2</sup>。また、先に述べたように、前接する要素は語のカテゴリーに留まらず、句や文といった形式に接続する新奇な事例も見られる。これらの点を踏まえると、本研究の分析には「構文理論 (construction grammar)」の枠組みを援用することが極めて有用であると考えられる。そのため、本研究では、「系」「派」「型」に前接する要素 X<sup>3</sup>を含めた単位を「構文 (construction)」<sup>4</sup>として捉え、それぞれの構文におけるカテゴリー化の様相について考察する（以降、本論文では、この個々の具体的な単位を [X+系] 構文、[X+派] 構文、[X+型] 構文と呼ぶ）<sup>5</sup>。

<sup>2</sup> 接尾辞自体のスキーマティックな意味や、前接する要素を含めた具体性の高い意味も含め、個々の意味の詳細については第3章以降で考察する（「系」に関しては第3章で、「派」に関しては第4章で、「型」に関しては第5章で取り上げる）。

<sup>3</sup> 本研究では、「系」「派」「型」に前接する要素（語、句、節、文など）を一貫して X と呼ぶ。

<sup>4</sup> construction という用語の訳語については、「統合体」や「構成体」、あるいは「コンストラクション」といった呼び方もなされている。本研究で考察対象とするのが語レベルであるため、これらの訳語を用いるのが適切ではあるが、野田（2013: 41）が述べているように、「構文」が最も普及し、定着していることに鑑みて、本研究においても一貫して「構文」と呼ぶこととする。

<sup>5</sup> 構文理論の枠組みを派生語の分析に適用させることの具体的な意義については、第2章5節において詳述する。

## 1. 2 本論文の構成

本節では、本論文の構成について述べる。

まず、第2章「理論的背景」では、従来の語構成論において接尾辞や派生語がどのように定義されているかを確認する。また、本研究全体の分析に関わる言語単位（単語・句・節・文）と、単語における品詞の定義を概観する。そして、認知言語学におけるカテゴリー化やカテゴリーの概念について概観する。さらに、本研究が依拠する構文理論について概観し、この枠組みを援用した合成語研究について概観する。最後に、本研究において援用する、認知言語学における諸概念についても確認する。

次に、第3章「カテゴリーを形成する [X+系] 構文の意味分析」では、[X+系] という単位を考察対象とする。具体的には、まず個々の事例の意味記述を踏まえて、その共通点として抽出できる意味を [X+系] 構文が有する1つの意味として認定する。そして、[X+系] 構文の複数の意味の相互関係を比喻による意味拡張という観点から検討し、その大きな意味拡張の方向性について、単純語の「系」の意味との関係から考察する。

次に、第4章「カテゴリーを形成する [X+派] 構文の意味分析」では、[X+派] という単位を考察対象とする。第3章における [X+系] 構文の分析と同様に、個々の事例の意味記述を踏まえて、その共通点として抽出できる意味を [X+派] 構文が有する1つの意味として認定する。そして、[X+派] 構文の複数の意味の相互関係を比喻による意味拡張という観点から検討し、その大きな意味拡張の方向性について、単純語の「派」の意味との関係から考察する。

次に、第5章「カテゴリーを形成する [X+型 (がた)] 構文の意味分析」では、[X+型] という単位を考察対象とする。第3章の [X+系] 構文、第4章の [X+派] 構文の分析と同様に、個々の事例の意味記述を踏まえて、その共通点として抽出できる意味を [X+型] 構文が有する1つの意味として認定する。そして、[X+型] 構文の複数の意味の相互関係を比喻による意味拡張という観点から検討し、その大きな意味拡張の方向性について、単純語の「型 (かた)」の意味との関係から考察する。

次に、第6章「カテゴリーを形成する [X+系] 構文・[X+派] 構文・[X+型] 構文の拡張的用法一句・文が前接するケース」では、本章第1節における(13)から(15)の事例のように、句や文が前接する [X+系] 構文、[X+派] 構文、[X+型] 構文の事例を挙げ、第3章から第5章において行った分析内容との関連から、どのようにその用法が拡張して

いるのかについて考察する。

最後に、第7章「結論」では、本研究のまとめと、今後の課題について提示する。

## 第2章 理論的背景

### 2.1 はじめに

本章では、本研究全体を通して関わる先行研究、及び諸概念について概観する。

まず、2.2節では、従来の語構成論において単語や語構成要素がどのように区分されているのかを概観する。

次に、2.3節では、本研究全体の分析に関わる言語単位（単語・句・文）と、単語における品詞の定義を概観する。

次に、2.4節では、認知言語学における「カテゴリー化」や「カテゴリー」について概観する。

次に、2.5節では、「構文理論」に関する先行研究を概観する。まず、2.5.1節において構文理論の諸特徴について確認し、2.5.2節においてこの枠組みを援用した合成語研究に関する先行研究について概観する。

次に、2.6節では、前節までに概観した諸概念の他に、本研究において援用する認知言語学の諸概念について確認する。

最後に、2.7節では、本章の内容についてまとめる。

### 2.2 現代日本語における語構成論について

一般に、「単語の形態的構造のあり方」は「語構成 (word formation)」あるいは「語形成」と呼ばれ、これを研究する分野は「語構成論」あるいは「語形成論」と呼ばれている（山本1995:36）。例えば、山本（1995:36）では、語構成における「単語」の分類として、それ以上意味を有する小さな要素（=形態素）に分析することが不可能な単語（単一の要素から成り立っている語）を「単純語」、さらに小さな要素に分析することが可能な単語（複数の要素から成り立っている単語）を「合成語」と呼ぶと述べている。そして、単独でも単語として用いられる可能性のある要素どうしが結合している単語を「複合語」（「山道」「磨りガラス」など）、それ自体では独立して用いられることのない要素（=接辞）が単純語と結びついてできた単語を「派生語」（「お米」「人間的」など）としている。

また、斎藤 (2011:29-30) は、語構成要素には大きく2種類あり、語の意味的な中核をなし、単独でも語を構成できる要素を「語基」、形式的な意味を担い、語の品詞を決定するはたらきを持ち、それのみでは構成できず、必ず語基と結合して一語を構成する要素を「接辞」とし、語基の前に位置する接辞を「接頭辞」、語基の後に位置する接辞を「接尾辞」としている。そして、合成語 (2つ以上の形態素からなる語) のうち、語基と接辞が結合したものを「派生語」、2つ以上の語基が結合したものを「複合語」としている。

一般的に語構成論において、「単語」はこのように「単純語」「合成語」に区別され、さらに「合成語」は「語基」と「接辞」という語構成要素の結びつき方によって、「複合語」「派生語」に区別されている。ただし、このような区別はなされているものの、「単純語」と「合成語」あるいは「複合語」と「派生語」は、二者択一的に区別されるものではないと考えられている。例えば、山本 (1995:37) では、単語を語構成のあり方から分類していくことは必ずしも明確に行なえるわけではなく、分類の基準を立てることはできても、それは典型的な語例のみで分類の説明がなされがちであり、網羅的に分析を進めようとする判断に迷う語例がどうしても出てくると述べ、「このことは「単純語」「複合語」「派生語」あるいは「連語」が流動的な関係にあることと、日本語の語構成においては漢語の果たす役割が大きいことに起因している」と指摘している。

また、単語を構成する語構成要素についても同様のことが言える。例えば、斎藤 (2011:31-32) では、「本来の実質的意味から希薄化し接尾辞化することがある」として、「語基」と「接辞」は截然と区別できるわけではなく、それぞれは連続的な存在であると指摘している。

なお、水野 (1987:60) では、「接辞」について、「お寺」における「お」、「山田さん」における「さん」のように、「独立して用いられることがなく (=結合形式)、語の基幹となる要素 (=語基) と結合して用いられるもの」と述べている。ただし、水野 (1987:60-61) は、特に「漢語系接辞」についてはその定義が難しいとし、「静的な見方」ではなく、「動的な見方」で語基と接辞を捉えると述べている。「静的な見方」とは、「接辞と語基が、語を構成する形態の下位分類であり、一つ一つの形態が接辞と語基のどちらかに分類される」という見方であり、「動的な見方」とは、「語基は形態の下位分類ではなく、語構成のそれぞれの段階で基幹をなす要素である」とする見方である。例えば、ある語が「A・B・C・D」という4つの部分に分けられ、「A・C・D」が結合形式で接辞と認められるもの、「B」が単独でも用いられうる自立形式で語基と認められるものである場合、以下のようになるとし

ている。

- (1) 静的な見方…A (接辞) + B (語基) + C (接辞) + D (接辞)  
 動的な見方…A (接辞) + B (語基) → A B (語基) + C (接辞)  
 → A B C (語基) + D (接辞) (水野 1987: 60)

そのため、例えば「積極性」「近代化」の「性」「化」に焦点を置くと、静的な見方では、「性格」「化学」などがあることからこれらは接辞とは考えられず、「語基」に分類されるが、動的な見方では「積極性」「近代化」のように用いられる限りにおいて、「接辞」として捉えることができる」と述べている。

また、森岡 (2001) では、「語基としての性質をもちながら、実際には接辞のように用いられるもの」を典型的な「接辞」とは区別し、「準接辞」と呼んでいる。特に、漢語の準接辞 (準接尾辞) の例として森岡は以下のような例を挙げている<sup>6</sup>。

- (2) 運転-手 火山-岩 近代-的 経済-性 (森岡 2001: 115)

森岡 (2001: 115) はこれらの例について、「選手」「奇岩」「目的」「知性」のように二字漢語の構成要素として用いる場合においては、「意味は同じでも準接辞として取り出しにくい」としており、(2) のように、二字漢語に一字の漢字が付く場合において、その一字漢字が接辞的性質を帯びてくるとしている。

さらに、山下 (2018: 217-218) では、「問題視」における「視」や「歴史的」における「的」など、「主に二字漢語や和語、外来語等に前接または後接して合成語を形成する場合の形態素」を「字音接辞」として位置づけ、複数の資料から抽出した膨大なデータを基に、字音接辞を意味に基づいて分類 (カテゴリー化) している。なお、山下 (2018: 217-218) は、字音接辞には先の「視」「的」のように、常に他の語や語基と接合して合成語を形成する「典型的な接辞」もあれば、「大発見」における「大」や、「改革派」における「派」のように、一字漢語としての用法<sup>7</sup>も有する「非典型的な接辞」もあるとし、これらの接辞を包括して、

<sup>6</sup> ここでは一部の例を抜粋して取り上げる。

<sup>7</sup> 一字漢語の用例として、山下 (2018: 217) は「大は小を兼ねる」「異なる派に属す」といった用例を挙げている。



字音接辞を一つのプロトタイプ・カテゴリーとして位置づけている。

以上の先行研究を踏まえると、「単純語」と「合成語」、「複合語」と「派生語」、そして「語基」と「接辞」は連続的な区分であり、それぞれの区分は典型的なものから周辺的なものまで、プロトタイプ・カテゴリー<sup>8</sup>を成しているといえる。そして、本研究が挙げる3つの考察対象のうち、特に「系」「派」は漢語（字音）であるが、山下（2018:217）が挙げた「異なる派に属す」のように、「派」は単独の語（一字漢語）として用いられる。また、「系」に関しても、次の例のように単独でも用いられることから、典型的な接尾辞ではないと考えられる。

- (3) 原子・分子・電子などのミクロな構成要素がたくさん集まると、構成要素間の相互作用のために、異なる性質を持つ複数の状態（相）がマクロに出現します。最も身近なものとしては、水分子の集合体で、氷（固体）・水（液体）・水蒸気（気体）の3相があります。非常に多くの構成要素からなる系のマクロなふるまいをミクロな立場から説明するのが統計力学です。

(<http://www.sci.osaka-u.ac.jp/introduction/undergraduate/physics.html>)

しかし、水野（1987:60-61）で指摘されていたように、「動的な見方」を採れば、「系」や「派」についても接尾辞として見なすことができる。すなわち、「アジア系」や「演技派」のように、前接する要素Xが自由形態素である個々のケースにおいては、「系」や「派」を接尾辞として捉えられるということである。

以上を踏まえて、本研究では、[X+系]における「系」、[X+派]における「派」を、前接する要素Xが自由形態素である個々の形態素の場合において、「接尾辞」として捉えて分析する。なお、[X+型]に関しては、単純語の「型」の場合は/kata/と発音するのに対し、合成語の場合は/gata/と発音するという音韻的特徴がある。また、<カテゴリー>を表す意味は、「ハート型」「冬型」「直感型」のように、[X+型]という形式において現れ、「Xの型」のような単独の「型」の形式では表すことができない。これらの点を踏まえて、本研究では、特に考察対象とする<カテゴリー>を表す[X+型]における「型」を、「接尾辞」として

<sup>8</sup> プロトタイプ・カテゴリーについては、本章2.4節で概観する。

捉えて分析する<sup>9</sup>。

## 2. 3 言語単位や品詞の分類について

第1章1節において言及したように、本研究で扱う「系」「派」「型」は、特に新奇な事例において、その前接する要素の品詞や言語単位が様々であるという特徴がある。そのため本節では、本研究全体の分析に関わる言語単位（単語・句・節・文）と、単語における品詞の定義を概観する。

はじめに、「単語（語）」「句」「節」「文」について整理する。

まず、日本語記述文法研究会（2010）において、「(典型的で基本的な) 単語」とは、「文の構成要素（2010: 8）」であるとし、さらに「文の形成にあたって自立しうる最小の単位（2010: 83）」であると述べている。

また、西村（2015: 50）では、「句」について、「いくつかの語が結合して文構造の単位となり、さらにそうした単位同士が次々に結合してより大きなまとまりができ、最終的に階層的な（hierarchical）構造を持つ文が成立する」と述べ、「句」は「文を構成するそのような文法上のまとまり」としている。そして、西村は、「句の文法的な性格を決定づける語」を「主要部（head）」とした上で、主要部が何であるかによって、名詞句、動詞句などと呼ばれることを述べている。

なお、日本語記述文法研究会（2010: 12）では、「節」について、「文の構成要素であり、1つの述語とそれに従属するいくつかの成分から成り立っている」とし、「意味的にはおおよそ1つの出来事や事柄を表している」と述べている。

そして、「文」については、日本語記述文法研究会（2010: 5-6）において、「文は言語活動の基本的な単位であり、文には事柄的な内容と、それに対する話し手のとらえ方や伝達的な態度が含まれている」と述べられている。

本研究では、「単語（語）」「句」「節」「文」について、これらの既定に従う。

さらに、単語には、単独で述語になるもの、ほかの単語について用いられるものなど、文法的な性質が異なるものがあり、「品詞」とは、そのような文法的な性質によって単語を分類したものであるとされている（日本語記述文法研究会 2010: 93）。日本語記述文法研究会

---

<sup>9</sup> 接尾辞としての「型（がた）」の詳細な検討については第5章で扱う。

(2010: 93-120) では、品詞の種類とその主な文法的性質や意味、下位分類について規定している。以下に挙げる表1は、日本語記述文法研究会による各品詞の規定やその主な種類と具体例から、本研究の分析に特に関わるものを抜粋し、筆者が整理したものである。

表1：各品詞とその主な性質や種類

品詞	主な性質や種類
名詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・格助詞がついて主語や補語になったり、「だ」がついて述語になったりする。活用はしない。</li> <li>・典型的には、「もの」を表す。</li> <li>・人を表す名詞、物を表す名詞、事を表す名詞、場所を表す名詞、時を表す名詞などがある。</li> <li>・特殊な名詞として、「私」「これ」のような代名詞、「3冊」「5人」のような数量名詞、「紫式部」「東京タワー」のような固有名詞、「勉強」「ドライブ」のような動作名詞、「もの」「こと」のような形式名詞がある。 (日本語記述文法研究会 2010: 103)</li> </ul>
動詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・述語になる。活用し、基本形はウ段で終わる。</li> <li>・典型的には動きを表す。</li> <li>・さまざまな観点から分類できる。</li> <li>例：I型動詞（「書く」「読む」、II型動詞（「見る」「受ける」、不規則動詞（「する」「来る」）など</li> <li>・特殊な動詞として、補助動詞（「～してもらう」など）や、スル動詞（「散歩する」など）がある。</li> <li>(日本語記述文法研究会 2010: 95)</li> </ul>
形容詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名詞を修飾したり、述語になったりする。述語を修飾することもある。活用する。</li> <li>・事物の性質や状態を表す。</li> <li>・形の上では、名詞を修飾するときに「～い」の形をとるイ形容詞と、「～な」の形をとるナ形容詞に分かれる。</li> <li>例：イ形容詞…大きい（家）、悲しい（歌）など</li> </ul>

	<p>ナ形容詞…便利な（場所）、好きな（色）など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意味の上では、事物の属性を表す属性形容詞と、感情・感覚を表す感情・感覚形容詞に分かれる。</li> </ul> <p>例：属性形容詞…大きい（家）、便利な（場所）など</p> <p>感情形容詞…痛い（傷）、好きな（色）など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特殊な形容詞として、補助形容詞（「～てほしい」や、否定文に近い文を作る「ない」がある。</li> </ul> <p style="text-align: right;">（日本語記述文法研究会 2010: 100）</p>
<p>副詞</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動詞、形容詞、副詞を修飾する。活用はしない。</li> <li>・動きや状態の様子を詳しく表し分けたり、程度を詳しく表し分けたりする。</li> <li>・動きや状態の様子を詳しく表し分けるあり方の副詞と、各文法カテゴリーに関係する、テンスの副詞、アスペクトの副詞、モダリティの副詞、とりたての副詞がある。</li> <li>・あり方の副詞は、次のように分類される。</li> </ul> <p>例：雨が<u>ざあざあ</u>降っている。（様態副詞）</p> <p>廊下が<u>びかびか</u>になった。（結果副詞）</p> <p>沖縄は、<u>とても</u>暑かった。（程度副詞）</p> <p>久しぶりに<u>たっぷり</u>寝た。（量副詞）</p> <p style="text-align: right;">（日本語記述文法研究会 2010: 106-107）</p>
<p>助詞</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単独では用いられず、名詞や動詞などにつく。活用はしない。</li> <li>・次のように分類される。</li> </ul> <p>…格助詞、連体助詞、並列助詞、とりたて助詞、接続助詞、終助詞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・格助詞は、名詞について、述語との意味的關係を表す「が」「を」「に」「へ」「と」「で」「から」「より」「まで」である。</li> <li>・連体助詞は、名詞によって名詞を修飾する際に間に入る「の」である。</li> <li>・並列助詞は、名詞と名詞を対等な關係を結びつける「と」「や」</li> </ul>

	<p>「か」「なり」「に」などである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とりたて助詞は、ほかの要素との関係を背景に、文中のある要素に焦点を当て、累加（「も」）・限定（「だけ」）・極限（「さえ」）などを表す。</li> <li>・接続助詞は、従属節と主節の関係を表す「なら」「から」「が」「し」などである。</li> <li>・終助詞は、文末に用いられる「ね」「よ」「ぞ」「さ」などである。</li> </ul> <p style="text-align: right;">（日本語記述文法研究会 2010: 111）</p>
助動詞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動詞、形容詞、名詞などの後について、複雑な述語を作る。活用するものが多いが、活用しないものもある。</li> <li>・認識のモダリティを表す「だろう」「かもしれない」「ようだ」など、評価のモダリティを表す「べきだ」「ものだ」など、説明のモダリティを表す「のだ」「わけだ」などがある。</li> <li>・特殊な助動詞として、名詞について述語を作る「だ」「です」がある。</li> </ul> <p style="text-align: right;">（日本語記述文法研究会 2010: 116）</p>

本研究では、主な品詞についてこれらの規定に従う。なお、次章以降で、「系」「派」「型」について考察していくが、これらの規定を踏まえて、具体的にどのような品詞の要素が前接しているのか、あるいは、どのような要素が共起しているのかという観点から、それぞれの形式的特徴を整理する。

## 2. 4 カテゴリー化

本節では、認知言語学における「カテゴリー化 (categorization)」、および「カテゴリー (category)」の概念について確認する。

まず、第1章1節においても述べたように、辻 (2013: 40) はカテゴリー化について、「事物や事象について同定 (identification) や差異化 (differentiation) を行い、共通性や関係性に従って般化 (generalization) することで諸事例を同類であると判断し、まとめる認知過程」と定義している。また、靱山 (2010: 18) はカテゴリー化について、「さまざまなモノやコトを、必要に応じて何らかの観点から整理・分類する (=まとめるべきものはまとめ、区

別するものは区別する) こと」と定義している。そして、そのような「カテゴリー化の結果作り出されたまとまりの1つ1つ」がカテゴリーであり、私たちはそれぞれのカテゴリーに「(それぞれの言語で) 名前をつけるということを行ってきた」と述べている。

このようなカテゴリーのあり方に対して、靱山 (2010: 18-19) は2つの方法があるとしており、「必要十分条件に基づくカテゴリー」と、「プロトタイプに基づくカテゴリー」を挙げている。

まず、「必要十分条件に基づくカテゴリー」とは、あるものが当該のカテゴリーに属するか否かが明確であり (つまり、カテゴリーの境界が明確であり)、カテゴリーのメンバーは同じ資格でそのカテゴリーに所属しているものである。その具体例として、靱山 (2010) では、「偶数」というカテゴリーを挙げている。つまり、「2で割り切れる整数」という条件を満たす数であれば必ず「偶数」というカテゴリーに属し、この条件を満たさない数は「偶数」ではないことから、「偶数」は必要十分条件に基づくカテゴリーであるとされている。

一方、「あるカテゴリーの典型的なメンバー、あるいは典型的なメンバーが満たす条件・特性の集合」が「プロトタイプ」であり、プロトタイプに基づいて形成されたカテゴリーが、「プロトタイプ・カテゴリー」とであるとされている。その具体例として、靱山 (2010) は「論文」を挙げている。「論文」とは何かを考える上で、「学術的な研究に値するテーマを取り上げている」、「独自の明示的な仮説が提示されている」、「仮説が適切に検証されている」といった条件を満たすものを、プロトタイプ的な論文であるとしている。つまり、このような「論文」カテゴリーについては、上述の典型的な論文が満たすべき条件のうち、「満たすものの数や満たす程度に応じて、プロトタイプに近いところに位置づけられたり、より周辺的なものとして位置づけられたりする」とし、「プロトタイプ・カテゴリーは、必要十分条件に基づくカテゴリーとは異なり、メンバーによって典型性の程度に差がある (優劣が存在する)」とともに、「カテゴリーの境界が明確ではない」としている。

なお、カテゴリーはその位置づけがすでに固まって安定しているものばかりが存在しているのではなく、通常は思いつかない類似性に基づいて、その場で即時に形成されることもあるとされている (早瀬・堀田 2005: 15)。その例として、早瀬・堀田 (2005: 15-16) は、「預金通帳」「宝石」「子ども」「執筆中の論文」に共通するカテゴリーを問われても、通常はすぐに思いつかないが、「火事のとくに持ち出すものは何か」と問われた場合の答えだとすれば、納得がいくのではないかと述べている。つまり、これらの特徴の中に「火事のとくに持ち出すもの」という項目は通常含まれないが、状況に応じて、知識の活性化される部分

を変え、一時的なカテゴリーを形成することができるとしている。この「一時的なカテゴリー」のことを、早瀬・堀田（2005:16）は、Barsalou（1983）を踏まえて、「アドホック・カテゴリー（ad hoc category）」としている。

さらに、早瀬・堀田（2005:117）は、言語表現もカテゴリーを成しているとし、「用法基盤モデル（usage-based model）」<sup>10</sup>における諸概念（頻度、スキーマ抽出、類推など）が具体的な言語表現カテゴリーを形成し、拡張させ、また変容させていくと指摘し、その具体例として「～触り」という複合語を挙げ、その用法が拡張していく仕組みについて考察している。「～触り」は、「手触り」「足触り」「口触り」「歯触り」「舌触り」「肌触り」などの例から、「触り」と結びつく名詞に関して、「対象物に直接ふれる身体部位」というスキーマが抽出されるとし、「定着度や具体例の数からこのスキーマがプロトタイプとなっている」と述べている。また、「毛触り」「湯触り」「畳触り」などの例から、「触り」と結びつく名詞に関して、「身体部位によってふれられる対象物」というスキーマが抽出されるとし、「この用法は触る身体部位から触られる対象へと焦点が移った、プロトタイプからの拡張である」としている。他に、例えば「箸触り」という常用されない例に関しては、箸は手にもつものであり、「対象物に直接ふれる（身体部位がもつ）道具」と考えられることから、「手触り」との類似性が見出され、このカテゴリーに一時的にしろ組み込まれることはおかしくはないと述べている。また、「耳触り」（「この曲は耳触りがいい」）という例も広く使われるようになってきているとし、「対象物に直接ふれる身体部位」という定着しているスキーマからの、メタファー的な拡張として位置づけられている。このように、複合表現における用法の形成や拡張、変容に関しても、「言語の創造性を反映するカテゴリー化の動的な側面（早瀬・堀田 2005:119）」として捉えることができるといえる。

## 2. 5 構文理論について

第1章1節において述べたように、接尾辞としての「系」「派」「型」は、個々の語基が接続することで具体的かつ多様な意味が形成されていること、そして、名詞、動詞、形容詞と

---

<sup>10</sup> 「用法基盤モデル」に関しては、次節で詳しく取り上げる。なお、Langacker の usage-based model の訳語について、早瀬・堀田（2005）では、「用法基盤モデル」とされているが、次節以降で取り上げる坪井・早瀬（2020）及び村尾（2013a）では、「使用基盤モデル」が用いられている。そのため、本研究ではこれ以降「使用基盤モデル」という訳語を用いることとする。

いった様々な品詞に接続する事例や、句や文に接続する新奇な事例も見られることから、本研究の分析には「構文理論 (construction grammar)」の枠組みを援用することが有用であると考えられる。以下では、まず2.5.1節で構文理論の理論的枠組みについて概観し、さらに2.5.2節で構文理論を合成語の意味分析に適用させた先行研究について概観する。

## 2. 5. 1 構文理論の概要

坪井・早瀬 (2020: 122) によると、「構文 (construction)」とは「ある言語形式に対し、それ特有の慣習化された意味解釈が結びついたペア」であり、「構文文法理論は、この構文こそが言語知識・言語分析における出発点であり基本単位であると考え、個々の構文の意味形式の特徴や、その他の構文との関係性を探求する理論である」とされている。ただし、大堀(2001: 528)、野田 (2011a: 9)、村尾 (2013a: 207) などが指摘するように、「構文理論 (construction grammar)」とは、Fillmore et al. (1988)、Goldberg (1995)、Croft (2001) を始めとする複数の研究者によって研究されてきた文法理論であり、「部分的に見解の違いを持ちつつも、共通の前提を持つ複数の理論の流れの中で発展してきているもの (村尾 2013a: 207)」である。

例えば、Fillmore らは、let alone 構文 (Fillmore et al. 1988) や What is doing Y 構文 (Kay and Fillmore 1999) などの一連の研究を示し、それまで周辺的な言語現象として捉えられてきたイディオム表現を構文として捉えることによって、その形式に結びついた特有の意味や機能があることを説いている。

また、Goldberg (1995) は、従来の研究において、語を構成的 (compositional) に足し合わせていく統語的規則によって産出できると考えられていた文形式に着目し、文の構成要素である語を足し合わせた以上の意味、つまり非構成的 (non-compositional) な意味を文レベル全体で持つものがあるということを主張した。例えば、Goldberg (1995) では、以下の例を挙げている。

- (4) Frank sneezed the tissue off the table.  
 (5) They laughed the poor guy out of the room. (Goldberg 1995: 152)

sneeze と laugh は自動詞として用いられるものであり、通常目的語を取ることはない動



詞である。しかし、(4) は<フランクはくしゃみをしてナプキンをテーブルから吹き飛ばした>という意味として、(5) は<彼らはその哀れな男を笑い飛ばして部屋の外へ追いやった>という意味として理解される<sup>11</sup>。つまり、sneeze と laugh がこのような目的語の項を取ることと、<くしゃみをすることによってものを移動させる>、<笑うことで人を部屋から移動させる>という使役移動の意味を表すことは、sneeze と laugh 自体が有する意味に還元して説明することができないものであり、以下に示す「使役移動構文 (caused-motion construction)」によってもたらされた意味であるとしている。

(6) [SUBJ [V OBJ OBL]] X CAUSES Y to MOVE Z

このように、構文理論ではどのようなアプローチを取るか、構文をどのように捉えるかなどの見解が諸家によって異なっているが、尾谷 (2011)、野田 (2011a)、村尾 (2013a) を踏まえると、認知言語学における主な構文観は、概ね次のようにまとめられると考えられる。

- (7) ① 構文は形式と意味が対となった記号であり、非要素還元的な意味を有する。  
 ② 構文は典型事例から拡張事例までの幅を有するカテゴリーであり、ネットワーク構造を成している。  
 ③ 構文理論は使用基盤モデルに依拠する。

まず、(7) の①に関して確認する。尾谷 (2011: 15) では、「認知言語学では、レキシコンとシンタクスをモジュールとして切り分けることなく、むしろ両者が連続体をなすと考えている」と述べている。また、野田 (2011a: 10) では、Langacker (1987) や Croft (2007: 471) を踏まえて、「文法体系も語彙 (レキシコン) と同様に、意味と形式のペアとしての記号であり、語彙的知識と文法的 (統語的) 知識は連続的なものである」と述べている。

また、「非要素還元的」について、野田 (2011a: 10) は、「構成要素の意味は構文 (複合表現) の意味を動機づけるものの、構文 (複合表現) 全体の意味は構成要素に還元して捉えられるものではない」と述べている。なお、このような考え方は Langacker (1987) などにおける「部分的合成性 (partial compositionality)」に基づくものである。つまり、「あらゆる

<sup>11</sup> 日本語訳は、早瀬 (2001: 204) によるものである。

複合表現の意味は、単に構成要素の意味を足し合わせたものでもなければ、構成要素の意味と全く無関係でもなく、構成要素の意味を基盤として（構成要素の意味に部分的に動機付けられて）さらに意味が限定されたものになる（野田 2011a: 8）」という考え方である。

なお、この部分的合成性と関連して、Langacker (1987: 192-198) は「分析可能性 (analyzability)」という概念を示している。分析可能性とは、「言語表現の構成要素が表現全体の意味にどの程度寄与すると認められるかの度合い(野村 2013: 330)」のことである。例えば、diversifier > complainer > printer > computer > propeller > drawer という 'V+er' の事例においては、左に行くほど分析可能性が高く、構成要素が強く意識されるのに対して、右に行くほど分析可能性が低く、一語としての認識が強くなるとされている。また、Langacker (2000: 38) では、分析可能性について、以下のように述べている。

- (8) One factor facilitating a decline in analyzability is the usual discrepancy between an expression's expected compositional meaning and the actual contextual meaning that eventually becomes its conventional value.

（「分析可能性の低下を促進する一つの要因は、部分の意味から予想される表現全体の合成的意味と、最終的にその表現の慣習的な値となる、実際の文脈における意味との間に通常ずれが存在することである。」<sup>12)</sup>

(Langacker 2000: 38)

このように分析可能性が低くなる例として、Langacker (2000: 38) では、'printer' と 'ruler' を挙げている。'printer' については、単に「何かを印刷するもの」という意味を有するのではなく、「特定の種類のコンピュータの周辺機器」を指すとしており、'ruler' については、一般的には「測定器」というよりも、「線を引くための道具」として理解されていると述べている。

次に、(7) の②③に関して確認する。村尾 (2013a: 209) では、構文のネットワーク構造と使用基盤モデルの関係について、以下のように述べている。

- (9) 使用基盤モデルでは、構文という単位は具体的な言語使用の中からボトムアップ

<sup>12)</sup> 日本語訳は、坪井訳 (2000: 110) によるものである。

式に抽出され、ネットワークを形成していくという見方を取る。類似性に基づいて複数の具体事例から共通項としての構文スキーマが抽出され、それに合致する事例であれば同じカテゴリーのメンバーとして認可され、部分的に合致するものはスキーマを柔軟に修正しながら拡張事例として新たに取り込んでいくことでネットワークを広げていく。(村尾 2013a: 209)

このような観点から、村尾 (2013a: 209-210) では、文レベルの構文ネットワークの例を示しており、典型的な他動詞構文 (例: 「太郎ガ紙ヲ破る」) から、他動性の低い他動詞構文 (例: 「彼ガ約束ヲ破る」「太郎ガ花子ニ会う」) が柔軟に取り込まれていく過程を示している。そして、典型的な自動詞構文 (例: 「花瓶ガ割れる」) から、他動詞構文に近い (もう1つの参与者を合意する) 自動詞構文 (例: 「(私ニ) 星が見える」) が取り込まれていき、さらに典型的な他動詞構文にも繋がるとして、その全体をネットワークによって示している。なお、前節で述べた早瀬・堀田 (2005) における「～触り」という複合語における拡張も、このような使用基盤モデルに基づく「～触り」という構文におけるカテゴリーの拡張として捉えることができる。

## 2. 5. 2 構文理論の枠組みにおける合成語研究

構文理論の枠組みは Fillmore et al. (1988) におけるイディオム表現や、Goldberg (1995) における項構造構文 (argument structure construction) など、主に句や文のレベルの言語単位を考察対象としてきたが、近年では使用基盤モデルの考え方に基づいた構文理論の枠組みを、合成語分析に適用させた先行研究が見られるようになった (Langacker 1999、尾谷 2006、Booij 2010、村尾 2013b、野田 2011a、野田 2013、野田 2014 など)。

例えば、Langacker (1999: 109) は、英語の複合語 *jar lid* のように、単一の合成によってできる構造体を「最小構文 (minimal construction)」として位置づけている。また、Booij (2010) は、従来句や文のレベルの言語表現に対して用いられていた「構文 (construction)」という概念を語のレベルに適用させることを「構文形態論 (Construction morphology)」として理論化し、構文の生産性 (productivity) や予測不可能性 (unpredictability) といった様々な観点に基づいて、単語における形式と意味の結びつきを体系的に捉える方法論を構築している。なお、坪井・早瀬 (2020: 220-221) は、「語形成は、従来どのような語のグル

ープに対してどのような変化が加えられ、その結果どのような意味・形式のグループができるか、というプロセスを、入力形および出力形への制約を伴った「規則」でとらえ、その例外を列挙する方法が取られていた。しかし Booij はこの従来の「規則」を、意味と形式がペアを成す構文スキーマ、特に、具体事例に基づき抽出される共通性という形で取り出したものだとする使用基盤の立場から語形成を捉え直すことを提案する」と述べ、従来の語形成の理論と Booij の構文形態論における相違点について指摘している。

また、野田 (2013: 43) は、構文理論における諸研究を踏まえて、構文を「意味と形式との結び付きが慣習化したゲシュタルト的な複合体<sup>13</sup>」と定義し、あらゆるレベルの複合表現（複合語、句、節、文など）に適用できる概念として位置づけている。そして、「魚屋」「政治屋」「お天気屋」など、接尾辞「屋」を含む派生名詞を、Langacker の最小構文の考え方を踏まえて、「現代日本語における（2つの形態素による、単一の合成によって形成される）最小構文の1つの事例である」とした上で、[X+屋] 構文として位置づけ、その多義性について分析している。その中で、野田 (2013: 41) は、テイラー・瀬戸 (2008: 142-143) を踏まえて、「接辞は一般に、当該の接辞を含む複合表現に対してスキーマ的であり、そのスキーマの内実を埋める補部として語基が機能する」ことから、「前項要素+接尾辞」という構文を設定して分析、記述することが有用であると指摘している。このような考え方を踏まえて、さらに野田 (2014) では、「売り子」などの [X+子] 型複合名詞や、「わんぱく坊主」などの [X+坊主] 型複合名詞、さらには「甘えん坊」などの [X+坊] 型派生名詞や、「メール魔」などの [X+魔] 型複合名詞も構文として捉えた上で、その意味形成のしくみについて百科事典的意味観<sup>14</sup>によるアプローチから分析している。

また、尾谷 (2006: 39-40) は、個々の語彙も含め、「特定の形式が特定の意味と結びついているものは全て“Construction”と呼ばれる」とし、「叩き落とす」などの複合動詞も並列構造 [AB] という構文として捉えている。また、村尾 (2013b: 125-139) は、「読みかけの本」

<sup>13</sup> なお、「ゲシュタルト」について、野田 (2011a: 6) では、河上 (2000: 177-178) を踏まえて、「各要素が有機的に関わり合い、1つの単位を構成して機能を果たす、まとまりを持った全体」と規定している。このゲシュタルトの考え方は21世紀初頭に発展したゲシュタルト心理学における考え方であるが、本章5.1のLangacker (1987) における部分的合成性や分析可能性という考え方、そして、(7) に挙げた「①構文は形式と意味が対となった記号であり、非要素還元的な意味を有する」という構文理論における構文観とも通ずるものである。

<sup>14</sup> 「百科事典的意味観」の考え方は本研究の分析にも有用であると考えられる。本章6.1節にて詳しく概観する。

などの派生接辞「-かけ」を「-かけ」名詞構文として捉えて分析している。

これらの先行研究は、複合語と派生語のいずれの分析においても、合成語レベルの単位に対して構文理論を援用することの有用性を述べたケーススタディとして位置づけられる。

そして、本研究で扱う接尾辞「系」「派」「型」はいずれも、第1章1節で述べたように、前接要素の品詞が多様であり、また、単独の語が前接するケースだけでなく、句や文が前接するケースも見られることから、その言語単位の大きさも多様であるといえる。そのため、本研究では構文理論の枠組みを援用し、「系」「派」「型」に前接する要素 X を含めた単位をそれぞれ [X+系] 構文、[X+派] 構文、[X+型] 構文として捉えて考察する。これによって使用基盤モデルの観点から、実際の言語現象に基づいて、各接尾辞の意味や用法の動的な広がり過程を、より定着している事例から新奇な事例までも含めて、統一的に捉えることが可能になると考えられる。

なお、先にも述べたように、語のレベルの形式に対して構文理論の考え方を適用させた理論的枠組みとしては、Booij の構文形態論がある。また、その枠組みを援用したケーススタディとして位置づけられる事例研究には、史 (2014)、HAMLITSCH (2020) などがある。本研究が考察対象とする [X+系] [X+派] [X+型] においても構文形態論に基づいた分析が可能であると考えられるが、それを本研究では敢えて援用しないこととする。以下ではその理由について述べる。

まず、Booij の提唱する構文形態論では、ある語の形式と意味の結びつきについて、記号による特殊なラベルを用いながら<sup>15</sup>、個々の具体事例 (instance) と、それらからボトムアップ的に抽象化されるスキーマ (schema) が階層的に表示される「階層的レキシコン (Hierarchical lexicon)」によって示されている。例えば、以下の図は acceptable、playable といった V-able として表示できる語の階層的レキシコンを示したものである (陳・松本 2018: 45)。

---

<sup>15</sup> ここでは理論の内容には深く立ち入らないため、詳細は Booij (2010: 17) を参照されたい。

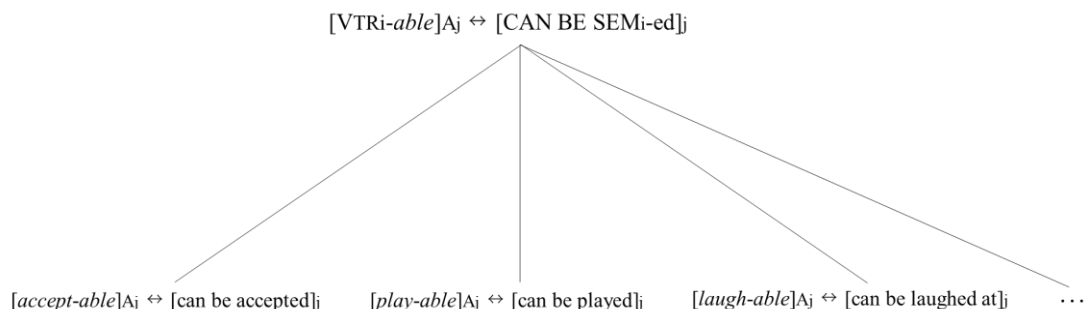


図1：階層的レキシコンにおける V-able (陳・松本 2018: 45, 図1)

そして、このような考え方によると、「ある語の全ての予測可能な性質は上位のスキーマ（樹形図の節点）から受け継がれる」とされている。これを、Booij (2010: 27) は「デフォルト継承 (default inheritance)」と呼んでいる (陳・松本 2018: 45)。

一方で、Booij (2010) の構文形態論では、HAMLITSCH (2020: 35) などが述べているように、「継承階層の多義性ネットワークの詳細には立ち入らない (HAMLITSCH 2020: 35)」としている。その理由として、様々な言語の事例において、メタファーやメトニミーといった拡張の方向性が通時的に必ずしも得られないケース<sup>16</sup>があることや、語源が異なる形態素が現代においては単一の形態素として見なされるケース<sup>17</sup>があることなどが挙げられている。

このような Booij (2010) の見解に対し、本研究では [X+系] [X+派] [X+型] という3つの構文に関して、それぞれの具現事例からボトムアップ的に抽象化される個々の意味がどのような拡張関係にあるのかという点についても検討することによって、これら3つの構文におけるカテゴリー化の様相がどのようなものであるかということをより詳細に明らかにできると考える。そのため本研究では、Booij (2010) の構文形態論における構文観などは支持しつつ、従来の意味論における方式で各構文に結びつく意味を記述し、それぞれの構文のネットワークにおいてどのように意味拡張が生じているのかを検討する<sup>18</sup>。

<sup>16</sup> このようなケースに関して、Booij (2010: 80) では、スペイン語の *-dor* 'er' という接辞は、元々＜道具＞を表す接尾辞であったが、後に＜動作主＞も表すようになったと説明されており、一般的なメタファー拡張の方向性に逆行する意味変化として挙げられている。

<sup>17</sup> このようなケースに関して、Booij (2010: 81) では、オランダ語の *-er* という接辞は、ゲルマン語の *-warja* およびラテン語の *-arius* に由来するが、共時的には単一の接尾辞として扱うことができると説明している。

<sup>18</sup> なお、構文形態論を本研究が考察する3つの構文の分析に適用する可能性については、今後慎重に検討していきたい。

## 2. 6 その他の援用する諸概念

本節では、前節までに提示した諸概念の他に、本研究で援用する認知言語学における諸概念について取り上げる。

### 2. 6. 1 百科事典的意味

本研究が考察対象とする [X+系]、[X+派]、[X+型] の意味分析においては、百科事典的意味観に基づく考察が有用であると思われる<sup>19</sup>。本節では、百科事典的意味、及び、百科事典的意味に含まれる下位カテゴリーについて概観する。

靱山 (2014:72) によると、「百科事典的意味」とは、「その語から想起される（可能性がある）知識の総体のこと」であり、「ある語を聞いたときに、頭に浮かぶ（可能性のある）すべての物事のこと」とされている。また、ある語の百科事典的意味には、「一般性<sup>20</sup>の程度が完全でない意味（＝その語が表すカテゴリーの一部の成員にのみ当てはまる意味）も含まれる」としており、そのような一部の成員の集合を「下位カテゴリー」として位置づけている。そして、このような場合の「下位カテゴリー」がどのような特徴を持っているのかによって、以下のように分類できるとしている。

(10) **プロトタイプ (典型例)**：(ある言語共同体において) あるカテゴリーの中で、典型的な特徴を有し、数多くの成員を含む想起しやすい下位カテゴリーのこと。

**顕著例**：(ある言語共同体において) あるカテゴリーの中で、そのカテゴリーの何らかの程度性のある特徴を顕著に有する下位カテゴリーのこと。

<sup>19</sup> 例えば、中島 (2010) では、接尾辞「系」の用法について分析しているが、その考察の一部で典型例やステレオタイプの観点から各分類の特徴を見出している（詳しくは第3章で示す）。また、本章5.2節で述べたように、野田 (2014) は、[X+子] 型複合名詞（例：「売り子」）や、[X+坊主] 型複合名詞（例：「わんぱく坊主」）などの意味形成のしくみを百科事典的意味観のアプローチから分析している。これらの先行研究を踏まえ、本研究においても百科事典的意味観のアプローチに基づいて [X+系] 構文、[X+派] 構文、[X+型] 構文の意味形成のしくみを分析する。

<sup>20</sup> 靱山 (2014:86) によると「一般性」とは、「ある語の百科事典的意味を構成する要素が、その語が表すカテゴリーのどれだけの成員に当てはまるかという程度のこと」とされている。

**理想例：**(ある言語共同体において) あるカテゴリーの中で、(何らかの観点から見て) 理想的な (一群の) 特徴を有する下位カテゴリーのこと。

**ステレオタイプ：**(ある言語共同体において) あるカテゴリーの成員全般に関して、十分な根拠なしにある特徴を有すると広く信じられてはいるが、実際のそのような特徴を有するのは、カテゴリーの一部であるという場合に、そのような下位カテゴリーのこと。 (靱山 2014:86)

まず、「プロトタイプ (典型例)」について、靱山 (2014) は「リンゴ」を例として挙げている。特に、「リンゴ」の「色」に着目し、我々には「典型的なリンゴは赤い (が赤くないリンゴもある)」という知識があり、「<赤い>という特徴は「リンゴ」の典型例が有する特徴である」と述べられている。例えば、「青リンゴ」という言葉が存在するのに対して、「赤リンゴ」とは言わないのは、「リンゴ」は<赤い>のが普通、つまり典型的なリンゴであり、<青い>リンゴは典型的なリンゴではないためであるとされている。

次に、「顕著例」について、靱山 (2014) は「ゴールまでにはまだ距離があるから、力を振り絞ってもう一頑張りしよう」という例文における「距離」を例として挙げている。この場合の「距離」は、実際の距離は問題としておらず、「(ある観点から見て) <長い>という特徴を持つもの」であるとしている。また、「距離」という語は、「短い距離を歩いただけでも息切れがする」といった例などのように、常に<長い>という特徴を有するわけではなく、「A 選手の残りの距離は 15km だ」とも、「A 選手の残りの距離は 500m だ」とも言うことができるとしている。つまり、「距離」という語が表すカテゴリーは、一次元的に伸びている程度 (「長さ」) についての広い範囲を表すことができるが、「まだ距離がある」という場合の「距離」は、長さの程度が顕著である場合に限定していると述べている。

次に、「理想例」について、靱山 (2014) は「実力」を例として挙げている。「実力」は、例えば「これは実力を試すのにいい問題だ」、「好成績を残すにはもっと実力をつけなければならない」という場合では、おおよそ、(ある人が持っている) <実際の力>という意味であるとしている。一方、「A 選手は実力があるから、今度の相手にも難なく勝つだろう」や、「B 選手は今日の試合でも実力を見せつけた」という場合の「実力」は、<実際の優れた力>を表すとしている。つまり、この場合の「実力」は、「実力」という語が表すカテゴリーの成員、すなわち、何らかの程度のさまざまな「実力」のうちの、(何らかの観点から見た) 「優れた実力」のみを表すとしている。そのため、このような「実力」の意味を理解するに



は、「理想的な「実力」だけが持つ＜実際の優れた力＞という特徴を認めなければならない」とされている。

最後に「ステレオタイプ」について、靱山（2014）は「学生気分を一新させ…」という文脈における「学生」を例として挙げている。「学生気分」というような語があるということは、「学生」には、「規律が身についておらず、集団行動の意義が理解できていないということが前提とされている」とされている。特に、「＜規律正しくない＞という特徴を有する学生は学生の一部、つまりはステレオタイプである」とし、「学生気分」という語を理解するためには、「学生」に＜規律正しくない＞という特徴を認めなければならないが、この種の特徴は、社会人が、学生一般がそうであると十分な根拠なしに信じていることであり、該当するのは学生の一部であると指摘している。

また、百科事典的意味と関連する概念として、「フレーム (frame)」がある。フレームについて、例えば靱山（2010:86）では、Fillmore（1982）を踏まえて、「日常の経験を一般化することによって身につけた、複数の要素が統合された知識の型」と定義しており、例として「商取引」のフレームを挙げている。

#### (11) 「商取引」のフレーム

構成要素：「売り手」「買い手」「品物（＝商品）」「お金（＝代金）」

構成要素間の関係①：品物（の所有権）：売り手→買い手

構成要素間の関係②：お金（の所有権）：買い手→売り手（靱山 2010:88）

そして、「買う」「売る」「(支)払う」という動詞の意味は、各動詞によって焦点化されるフレームの構成要素が何であるか、焦点化される構成要素間の関係がどうであるかが異なっていると述べている。例えば、「売る」であれば、「売り手」と「品物」に焦点を当てており、特に「品物の所有権が売り手から離れる」ことが注目されていることから、各構成要素は、関係①の「品物（の所有権）：売り手→」という関係によって表せるとしている。このようにフレームは、ある種の言語事実を適切に説明する上で不可欠なものであるとされている。

なお、靱山（2010:94）では、フレームの他、認知領域、ベース、イメージスキーマなどを含めて、「言語表現の意味を適切に把握する際に必須の基盤・背景を成すもの」、または「人間を取り巻く世界や自分が身を置く社会・文化に関する知識（のパターン）」という性質を有

するもの」としてまとめられると述べている。このことから、フレームは百科事典的意味を構成する要素の1つであるといえる。

## 2. 6. 2 比喩（メタファー・シネクドキー・メトニミー）

本研究において考察対象とする3つの構文の事例の中には、次章以降で詳述するように、それぞれ[X+系]、[X+派]、[X+型]という形式レベルにおいて比喩を表すケースが散見される<sup>21</sup>。3種の比喩（メタファー、シネクドキー、メトニミー）については、靱山・深田（2003: 76-83）において、以下のように定義されている。

(12) **メタファー**：2つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表す比喩。

**シネクドキー**：より一般的な意味をもつ形式を用いて、より特殊な意味を表す、あるいは逆により特殊な意味をもつ形式を用いて、より一般的な意味を表す比喩。

**メトニミー**：2つの事物の外界における隣接性、さらに広く2つの事物・概念の思考内、概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表す比喩。 (靱山・深田 2003: 76-83)

以下では、それぞれの比喩について、具体例と共に確認する。

まず、メタファーについて確認する。靱山・深田（2003: 74-75）では、「花」をメタファーの例として挙げている。例えば、「花瓶に花を活ける」という場合の「花」の意味はおおよそ、<植物が咲かせる美しく人目を引くもの>であり、これは「花」の最も基本的な意味であるとされている。一方で、「Aさんは職場の花だ」という場合の「花」の意味は、おおよそ<美しく人目を引く人>であると述べている。つまり、それぞれの「花」は、<美しく人目を引く（もの）>という点において共通していることから、前者の意味から後者の意味へと

<sup>21</sup> この点については、山下（2015: 116）においても、「雑草系」「昆虫系」や、「ハト派」「タカ派」のようにメタファーを表す具体例などが挙げられており、「前接語に接尾辞「系」や「派」が結合することによって比喩表現が形成される」と指摘されている。

メタファーによって拡張していると述べられている。なお、靱山（2010: 35）では、メタファーにおける2つの事物・概念からはスキーマ（個々の意味の共通点）が抽出できることを述べており、先の「花」の場合、〈美しく人目を引く（もの）〉という特徴がスキーマであるといえる。

次に、シネクドキーについて確認する。靱山・深田（2003: 79）では、「花見」における「花」をシネクドキーの例として挙げている。この場合の「花」の意味はおよそ〈サクラ〉を表しており、〈植物が咲かせる美しく人目を引くもの〉と〈サクラ〉を比べると、前者に含まれるもののほうが後者に含まれるものよりも多く、サクラ以外の「花」も前者には含まれることから、〈サクラ〉は〈植物が咲かせる美しく人目を引くもの〉の一種であるという包摂関係が成り立っているとされている。

最後に、メトニミーについて確認する。靱山・深田（2003: 83）では、「一晩で一升瓶を飲み干してしまった。」という場合の「一升瓶」をメトニミーの例として挙げている。この場合の「一升瓶」は、「飲み干す」という動詞から考えて、〈びん〉そのものではなく、びんの中身である〈酒〉を指しているとされている。このような例に基づいて、靱山・深田（2003）では、「メトニミーの最も基本的なものは、2つの物が現実世界において隣接していることに基づき、本来一方の物を表す語が、他方の物を表すという比喻である」と述べられている。

なお、多門（2018: 772）では、「換喩（メトニミー）」について、以下のように規定している。

- (13) 換喩は関与性に基づく比喻である。換喩成立のためには当の事物についての経験的知識や百科事典的知識が重要である。また使用因として表現の省略への志向がある。従来、換喩は事物の近接性または隣接性に基づくものとされてきたが、隣接性・近接性というだけでは覆いきれない例がある点、また換喩解釈の機構に、関与という概念が必須である点から、関与性という用語を使うのが適当である。従来の隣接性・近接性という概念はこの関与性という概念に包摂される。

（多門 2018: 772）

また、「表現の省略への志向」という点に関して、多門（2018: 772）は、「(前略) 我々は伝達したい意味を逐一表現化することなく、経験的・百科事典的知識に依拠しながら、省略表現を産出し、聞き手・詠み手の方は同じく知識に依拠しながら、省略表現に、いわば辻褄

が合うような解釈を施していると考えられる」と述べている<sup>22</sup>。

以上を踏まえて、メトニミーの定義に関しては、靱山・深田(2003:83)に従うこととし、メトニミーにおける「表現の省略への志向」という点については、多門(2018:772)の考え方に従うこととする。

## 2. 6. 3 多義語分析の課題

前節で述べた3つの比喻は、個々の事例レベルにおける関与だけでなく、考察対象とする3つの構文の多義構造全体の形成にも関与している。この点に関連して、靱山(2021:14-16)では、「多義語分析の課題」として、以下の4点を挙げている。

### (14) 「多義語分析の課題」

- 1) 何らかの程度の自立性を有する複数の意味(多義的別義)の認定
- 2) プロトタイプの意味の認定
- 3) 複数の意味の相互関係の明示
- 4) 複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明

(靱山 2021:14-16)

まず、課題1)に関して、靱山(2021:15)は「多義語は、(相互に関連のある)複数の意味を有するものである」ことから、個々の多義語(と想定されるもの)の意味を記述するにあたっては、複数の意味を持つことを明示することが前提となると述べている。なお、多義語の個々の意味(多義的別義)の自立性の程度は様々であるが、靱山(2021)では、その自立性の程度を検証するための言語事実に基づく具体的な方法を提案している。

また、課題2)は「プロトタイプ理論」に基づくものである。つまり、多義語の複数の意味の全体を1つのカテゴリーとして考え、そのカテゴリーを構成する個々の意味は、すべて同等の重要性を持つのではなく、何らかの意味で優劣があるということを前提とし、複数の意味の中で、(ある言語の母語話者(の大半)にとって)最も基本的な意味(であると直観

---

<sup>22</sup> このメトニミーにおける「表現の省略への志向」は、本研究における3つの構文の「メトニミー的用法による事例」において関連していると思われる。詳しくは第3章5節、第4章5節、第5章5節において論じる。

的に感じられる意味)をプロトタイプの意味と考えるとしている<sup>23</sup>。このプロトタイプの意味に関しても、靱山(2021)では言語事実に基づく認定方法を提案している。

さらに、課題3)は課題1)と関連するものであり、多義語の複数の意味には相互に何らかの関連が認められることから、その関連の実態を明らかにすることが課題となるとされている。なお、その複数の意味の関連に対して、靱山(2021:16)は「メタファー、シネクドキー、メトニミーという3種の比喩が、複数の意味の関連付けに重要な役割を果たす」と主張している。

そして、課題4)は課題3)をさらに発展させたものである。つまり、多義語の複数の意味の相互関係を明示することに加え、個々の意味に共通する意味(スキーマ的意味)を抽出することや、個々の意味を構成要素として含むフレームを明示すること、そして、多義構造全体における個々の意味の位置付けを示すことなどが課題となるとしている。この課題4)に関しては、多義語分析そのものを扱う際の、理論的な枠組みを示しているといえる。すなわち、どのようなアプローチによって多義語の多義性を適切に扱えるかということ、より一般化した形で考えることが必要であるという観点からの提案であると考えられる。

なお、この課題4)に関連する多義語分析に有用な理論的枠組みの1つとして、Langacker(1987,1991)が提案している「スキーマティック・ネットワークモデル(schematic-network model)」がある。Langacker(1987:369-408)は、言語カテゴリーは通常複合的なものであり、あらゆる種類とサイズの言語構造が「カテゴリー化関係(categorizing relationships)」によって相互に結びついているネットワークとみなすことができるとしている。そして、スキーマティック・ネットワークモデルは、複数の事例がプロトタイプからの拡張(extension)とスキーマ(schema)からの精緻化(elaboration)によって構造化されるモデルであるとされている(鷲見 2019: 577)。ネットワークは、以下の図2のように、「スキーマ」「プロトタイプ」「拡張事例」の3つの節点からなるとされる。

---

<sup>23</sup> 靱山(2021)では、このようなプロトタイプの意味を「直観的プロトタイプ(的意味)」と呼んでいる。なお、プロトタイプの意味については、第3章6.1節で詳述する。

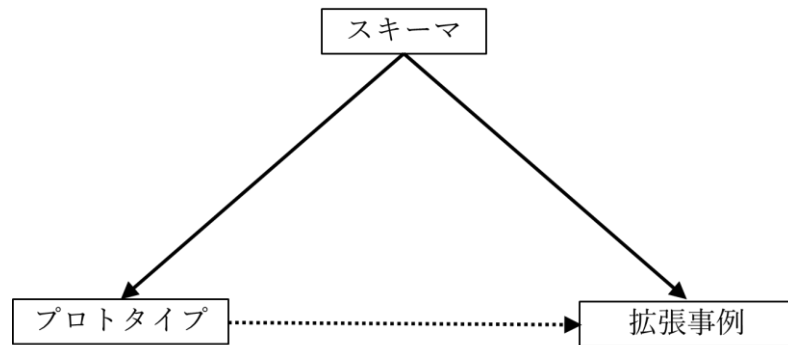


図2：スキーマティック・ネットワークモデル (Langacker 1991: 271, 図4 (a))

まず、ある事例が、プロトタイプと同じカテゴリーに属すると認められるに十分な共通点を持ちながら、何らかの不一致を含む場合、拡張というカテゴリー関係（破線矢印によって表されている関係）によって結びつけられ、カテゴリーに含まれる。これが拡張事例である。また、スキーマは、いくつかの事例が抽象化のあるレベルで示す共通性であり、異なる事例を大まかに見て概略化することによって生じるとされている。つまり、プロトタイプと拡張事例は、スキーマからの精緻化というカテゴリー化関係（実線矢印によって表されている関係）によって結びつけられる。なお、全ての事例が共有する、最も抽象的な意味は、スーパー・スキーマ (super schema) と呼ばれるが、これは常に抽出できるというわけではなく、たとえスーパー・スキーマがカテゴリーにあるとしても、おそらく定着度が低く、認知的際立ちはないと考えられている (Langacker1987 : 381)。

なお、靱山 (2021: 154) では、「スキーマ関係」は比喻の一種であるシネクドキーに相当し、「拡張関係」はメタファーに相当すると指摘している。その具体的な意味拡張の例として、靱山 (2021: 157) では、前節でメタファーとシネクドキーの事例として取り上げた「花」の意味拡張を挙げており、以下のように整理している。

(15) 意味 (1) : <植物が咲かせる美しく人目を引くもの>

(例) 庭に花が咲いている。

意味 (2) : <美しく人目を引く人> (例) Aさんは職場の花だ。

意味 (3) : <サクラ> (例) 花見に行く。

(靱山 2021: 157)

この3つの意味のうち、意味(1)が「花」のプロトタイプの意味であり、意味(2)は意味(1)から拡張関係(メタファー)によって成立したものであるとされている。そして、意味(1)と意味(2)に共通する意味として、〈美しく人目を引くもの〉というスキーマが抽出することができる。このスキーマは以下のように、意味(4)とされている。

(16) 意味(4) (スキーマ) : 〈美しく人目を引くもの〉

(靱山 2021: 157)

また、意味(3)は、意味(1)とスキーマ関係(シネクドキー)にあり、意味(1)が特殊化して成立したものであるとされている。以上の分析をスキーマティック・ネットワークモデルに基づき示したものが図3である。

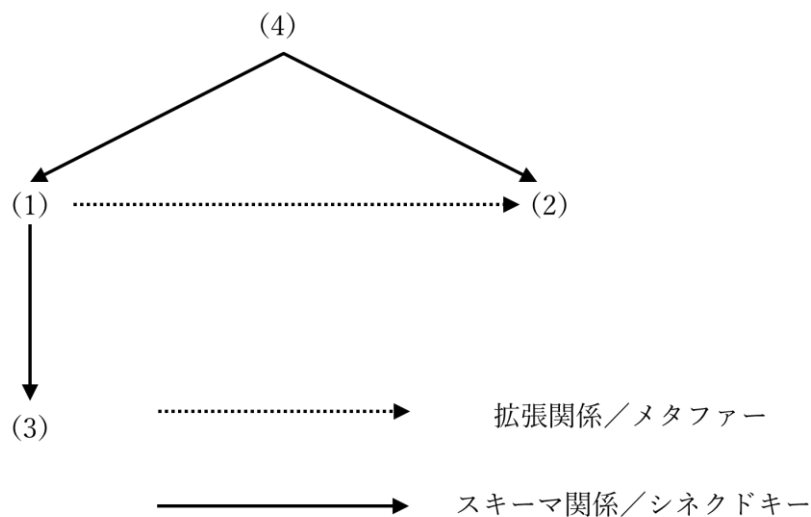


図3 : 「花」の多義構造 (靱山 2021: 158, 図2)

さらに、靱山 (2021: 207) では、メトニミーが関与している多義語の意味拡張に関しては、「フレーム (frame)」に基づく分析が有効であると指摘している<sup>24</sup>。

ここまで、靱山 (2021) における「多義語分析の課題」と、課題4) に有効な理論的枠組みとして、Langacker のスキーマティック・ネットワークモデルについて概観した。なお、

<sup>24</sup> 結論を先に述べると、第3章以降で示す3つの構文の意味分析では、その全ての多義構造全体においてメトニミーが関与するケースは見られなかった。そのため、ここではフレームに基づく分析の詳細な説明は割愛する。

このような4つの課題に関連して、野田(2011b)では、[他動詞連用形+具体名詞]型複合名詞(例:「和え物」「折り紙」「打ち水」など)を構文として分析する際に、「個々の複合名詞の意味形成の動機づけとしての比喻」と、「構文的多義ネットワーク形成の動機づけとしての比喻」という2つの異なるレベルでの比喻について論じている。特に、後者に関しては、靱山(2021)の「多義語分析の課題」の前提となる考えを示した靱山(2001)などを踏まえ、「意味拡張の動機づけとしての3種の比喻に基づく意味ネットワークが、言語表現の多義の実相を適切かつ詳細に捉えられるモデルである(野田 2011b: 13)」という考え方に基つき、複合語レベルの構文的多義性に適用して分析している。

以上の考え方に従い、本研究においても、次章以降で分析する3つの構文について、複数の意味(多義的意味)を認定し、プロトタイプの意味を認定し、複数の意味の相互関係を比喻による意味拡張という観点から検討する。つまり、靱山が提示しているこれらの課題のうち、本研究では課題1)から課題3)までに関して、[X+系]、[X+派]、[X+型]という形式の共時的なレベルでの多義性、意味拡張の方向性について分析を行うものとする。

## 2. 6. 4 文法化

「文法化(grammaticalization)」とは、一般に「語彙項目や語彙構造が、ある言語の文脈の中で文法的な機能を果たすようになる過程(ホッパー・トラウゴット 2003: xv)」や、「語彙的意味を有する形式(典型的には語)がその語彙的意味を(一部)希薄化または消失させ、新たに文法的意味を獲得する、あるいはすでに文法的意味を獲得した形式がさらに新たな文法的意味を獲得する通時的過程(堀江 2019: 336)」のように規定される言語現象である。従来の精力的な文法化研究の蓄積によって、文法化の様々な特徴が明らかにされてきているが、例えば大堀(2005: 2-5)では、文法化における5つの基準について、以下のように整理している<sup>25</sup>。

### (17) 基準1：意味の抽象性

「新しい仕事場が欲しかったところだ」(大堀 2005: 3)などにおける「とこ

<sup>25</sup> 以下の内容は、大堀(2005: 2-5)で述べられている文法化における5つの基準と、それぞれの基準に該当する具体例を筆者が整理したものである。



ろだ」は、具体的な場所の意味はなく、抽象的な状況・時間を表すようになっている。

#### 基準2：範列の成立

「これから日本橋の知ってるクラブへ行くんだけど」（大堀 2005: 2）などの「へ」は「沖離けて 漕ぎ来る舟 辺つきて 漕ぎ来る舟」（『万葉集』巻二 153; 大堀 2005:3）などの「辺」に由来しており、この場合は（ある程度の）自立性をもった名詞から助詞への変化の例といえる。

#### 基準3：標示の義務性

義務性とは特定の形態素による標示が、ある機能を表すために要求されることである。現代フランス語では「Il ne boit pas de vin（彼はワインを飲まない）」（大堀 2005:5）のように、否定を表すには pas が不可欠であるが、元来はそうではなく、それは文法化の結果である。

#### 基準4：形態素の拘束性

「自立語から付属語へ」という変化そのものであり、上述の3つの事例はどれもこの変化が起きている。それは文法化される形が動詞や名詞といった元来の語彙カテゴリーの性質を失うプロセスと密接に結びついている。

#### 基準5：文法内での相互作用

「決して」は元々強調表現であって、否定との呼応すなわち相互作用はなかったが、現在では呼応は文法規則の一部となっている。

（大堀 2005: 2-5）

これらの5つの基準は、「文法化が進んだ場合にはどうなるかを規定したもの」とされている（大堀 2005:4）。さらに、大堀（2005:4）では、Hopper（1991）において、文法化に伴う変化の「兆候」とでも言うべきものとして、「層状化（layering）」「分岐（divergence）」「特化（specialization）」「保存（persistence）」「脱カテゴリー化（decategorization）」の5つが挙げられていると指摘している<sup>26</sup>。

また、三宅（2005: 62-63）は、文法化を「内容語だったものが、機能語としての性格を持

<sup>26</sup> このうち、本研究において特に関連する現象であると思われる「分岐」について、第3章6.3節において詳述する。

つものに変化する現象」と規定した上で、文法化には実質的な意味が抽象化、希薄化、あるいは消失する「漂白化 (bleaching)」の側面と、名詞や動詞などの本来的なカテゴリーへの帰属度が希薄になる「脱範疇化 (decategorization)」の側面があると述べている。その例として、三宅 (2005: 62) では、「今、その問題について、議論しているところだ」という例を挙げている。この場合、「～について」は、動詞の「つく」から「～について」という固定した形となり、一種の格助詞として機能しているとされている。また、「～ところだ」は、名詞の「ところ」が「～ところだ」という固定した形となり、一種の助動詞として機能しているとされている。そして、「～について」は、動詞である「つく」の「付着する」という本来有する意味を、「ところ」は、名詞である「場所」という本来有する意味を、ほぼ喪失していると述べている。なお、三宅 (2005) における「漂白化」は、大堀 (2005) の「意味の抽象性 (基準1)」と同様の現象であり、意味の漂白化の結果として抽象性が高まっているものと考えられる。

なお、文法化は、先に述べたその規定からもわかるように、主に通時的研究において論じられてきた言語現象である。ただし、ホッパー・トラウゴット (2003: 3) は、「文法化は二つの観点から研究されてきた」と述べた上で、「歴史的な見方」と、「共時的な見方」を挙げている。特に、共時的な見方に関しては、「文法化を主として統語論的、談話語用論的現象 (discourse pragmatic phenomenon) としてとらえ、言語使用を流動的パターンとして研究すべきである」と述べている。また、堀江 (2019: 336) においても、「文法化は、通常通時的な、数十年、数百年といった時間の経過の中で生起する現象を指すが、ここでは、現在進行中でまだ完全に文法体系の中に定着していない半ば共時的なバリエーションも文法化の対象に含める」と述べている。

さらに、三宅 (2005: 67) では、現代日本語を考察対象とし、共時態において文法化に関する研究を行うこと、つまり、共時的研究において文法化という視点を導入することにも十分な有効性があると指摘している。特にその意義としては、次の2点を挙げている<sup>27</sup>。

- (18) ① 同一の形式で、内容語的な用法と機能語的な用法を合わせ持つ場合、その用法間の連続性、及び有機的な関連性を捉えることが可能になる。
- ② 「有機的な関連性を捉えられるようになる」ということの帰結として、文法

<sup>27</sup> 以下の通し番号は筆者によるものである。

化により作られた機能語の抽象的な意味、あるいは文法機能を説明しようとする際に、文法化される前の内容語としての意味からの類推が可能になる。  
(三宅 2005: 67)

まず、①について三宅 (2005: 67) は、「～てある」という形式を取り上げ、「行為の結果としての事物の存在」を表す意味 (例:「リビングルームには花が飾ってある」) を基本的な意味とし、そこから、「行為の結果もたらされる事物の状態が視覚可能な形で存在していること」を表す意味 (例:「入口に近い片すみが一畳余りの広さだけあけてある」)、「基準時における行為の結果の存続性」を表す意味 (例:「荷物も所持金も一切をレイクサンドのホテルに残してあった」)、「基準時以後における行為の結果の有効性」を表す意味 (例:「京都府警に鑑定をたのんである」) に至る連続体をなすものとして分析できることを示している。

また、②について三宅 (2005: 68) は、行為の相互性を表す複合動詞の「～あう」について考察しており、相互行為としての意味を表すためには、「太郎と次郎が〇殴り合った」のように、前項動詞が要求する項の内、適当なものが空でなければならず、この条件が満たされずに「太郎と次郎がサンドバッグを殴り合った」のようになると、複数の主体が共通の行為をするという解釈になるとしている。この特性は、本動詞「会う」(または「合う」) の特性から予測可能であるとし、例えば「会う」においても、「太郎と次郎が〇会った」のように「二格」名詞句が空のときに相互行為としての意味が表され、「太郎と次郎が花子に会った」のように、「二格」が表される場合は、主体である「太郎と次郎」が共に「花子」に会ったという解釈になるとしている。このように、「～あう」という複合動詞の特性を本動詞「会う」から文法化の過程を経たものとする、両者の関連性は保証されると指摘している。

以上の先行研究を踏まえて、本研究では文法化を共時的なレベルに適用させることとする。そして、次章以降において、考察対象とする接尾辞「系」「派」「型(がた)」を含んだ構文に<カテゴリー>を表す意味が生じた要因について、単純語(単独の名詞)としての「系」「派」「型(かた)」からの文法化という観点から考察する。

## 2. 7 本章のまとめ

以上、本章では、本研究全体を通して関わる先行研究、及び諸概念について概観した。まず、語構成論における単語の区分(単純語、合成語、複合語、派生語)と、語構成要素の区

分（語基、接辞）について概観し、それぞれが連続的な区分であることを確認した。次に、本研究全体の分析に関わる言語単位（単語・句・節・文）と、単語における品詞の定義について概観した。また、認知言語学における「カテゴリー化」や「構文理論」に関する諸特徴について確認し、この枠組みを援用した合成語研究に関する先行研究について概観した。さらに、次章以降の分析において援用する認知言語学の諸概念について概観した。

## 第3章 カテゴリーを形成する [X+系] 構文の意味分析

### 3. 1 はじめに

本章では、接尾辞「系」と、それに前接する要素 X から形成される [X+系] 構文を考察対象とし、その多義性、及び意味拡張の様相について共時的に分析する。

まず、3.2 節では、接尾辞「系」に関する主な先行研究として、中島 (2010)、山下 (2013)、山下 (2015) における記述を概観し、個々の先行研究に共通する問題点を指摘する。

次に、3.3 節では、[X+系] 構文における X に様々な品詞や言語単位の要素を取りうることを改めて確認する。また、[X+系] 構文は、さらに大きな単位の構文である [X+系の Y] を始めとする複数の構文によって用いられること、そして、本章ではその複数の構文に共通する [X+系] という形式における構文の意味を検討することを確認する。

次に、3.4 節では、[X+系] 構文における複数の意味を記述し、その多義性について検討する。ここでは、個々の実例の意味記述を踏まえて、ボトムアップ的に [X+系] 構文の複数の意味を認定する。また、3.5 節では、[X+系] 構文の事例がメトニミー的に用いられるケース (本研究ではこのような用法を「メトニミー的用法」と呼ぶ) について考察する。

次に、3.6 節では、3.4 節で認定した [X+系] 構文における 9 つの意味の相互関係について、比喻による意味拡張という観点から検討する。特に、単純語として用いられる「系」の意味との関係から、[X+系] 構文における意味拡張の方向性について検討する。

最後に、3.7 節では、本章の内容をまとめる。

### 3. 2 先行研究概観

以下では、接尾辞「系」に関する主な先行研究として、中島 (2010)、山下 (2013)、山下 (2015) における記述を概観し、それぞれの先行研究に共通する主な問題点を指摘する。

#### 3. 2. 1 中島 (2010)

中島 (2010) では、「新造語<sup>28</sup>」という観点から「度」「系」「力」という3つの漢語接尾辞を取り上げて考察している。そのうち、「系」に関しては、前接語や後接語の意味にも焦点を当てた上で、以下のように4つの用法があるとしている。

(1) ・「新しいカテゴリーの名付け」

(例: 「大人系」「癒し系」「絶叫系」など)

・「典型的なカテゴリー成員の焦点化」

(例: 「インディーズ系映画」「中野系オタク」「アート系カフェ」など)

・「認識的モダリティ表現としての解釈による周辺的な構成員の焦点化」

(例: 「ロック系の音楽」「医療系の仕事」など)

・「語用論的レベルでのあいまい表現」

(例: 「頑張ってる系 (の人)」「いい感じ系 (のお店)」など)

(中島 2010: 168-171)

まず、「新しいカテゴリーの名付け」とは、ある程度認識されているものに名がない場合に1つのカテゴリーとして位置づける用法である。語基には「カテゴリー属性を最も想起させやすい語」が選ばれ、「ある語に「系」が後接すると意味変化が見られ、別の新しいカテゴリーを指示する」と述べている。中島 (2010: 168) では、この用法の具体例として、人の容姿のほか、店、服装など物のイメージに対しても使われる「大人系」を挙げている。「大人」という語は、通常「子供」と対立する年齢区分を表すが、「大人系」という場合に表すのはそのような年齢区分ではなく、その年齢層に付与される落ち着きというステレオタイプに基づく属性、あるいはそのような雰囲気をもつものがカテゴリーの成員になると述べられている。これは、前接する語に対するステレオタイプのものの見方が関わる用法であるとされている。

また、「典型的なカテゴリー成員の焦点化」とは、「あるカテゴリーをその構成員のなかで最も典型的なものによって代表させるものである」としている。中島 (2010: 169) では、この用法の具体例として、「インディーズ系映画」を挙げている。「インディーズ」という語

---

<sup>28</sup> 中島 (2010) は、「ブログなどの電子メディアで話し言葉的に言葉を綴る文体が普及するなか、そこに現れる新語及び臨時的につくられる語や語句」をまとめて「新造語」と呼ぶとしている。

は元々、映画や音楽製作などにおいて、大手の製作会社に所属せずに、独自に製作や販売などを行うプロダクションや会社、あるいは作家や音楽家を指す語であるが、「インディーズ系映画」という派生語になると、その作品の制作方法よりも、そのような制作方法の映画が典型的に持つような独自の作風の方が焦点化されていると考えられ、この用法をメトニミーとしての用法であるとしている<sup>29</sup>。

また、「認識的モダリティ表現としての解釈による周辺的な構成員の焦点化」とは、先述の「典型的なカテゴリー成員の焦点化」の用法とは対照的な用法であると述べている。つまり、「[系]が「っぽい」のように解釈され、外延の指示があいまいになる」ということから、典型的な構成員ではなく周辺的な構成員、あるいは、近いながらも外延に含まれないものが焦点化されるとしている。この用法の具体例として、中島（2010: 170）は「ロック系の音楽」を挙げている。この場合は「ロックっぽい/ロックのようでロックでない音楽」を指すことから、「ロック」という音楽ジャンルの周辺的な、似て非なるジャンルとして再構築されるとしている。

そして、「語用論的レベルでのあいまい表現」とは、「発話内容そのものをあいまい化させる用法」であり、「便宜的にあるいは場面に対応した問題解決策として使用される」として用いられている。この用法の具体例として、中島（2010: 170-171）は「頑張ってる系（の人）」を挙げている。これは、「系」をつけることで、発話の緩衝や意味のぼかしを目的としたあいまい表現であり、「頑張ってる」と明言しないことに対する何らかの意図がある場合<sup>30</sup>に用いられるモダリティ表現であると位置づけている。

さらに、中島（2010: 171）では、これら4つの用法の関係について、「新しいカテゴリーの名付け、典型的なカテゴリー成員の焦点化、認識的モダリティ表現としての解釈による周辺的な構成員の焦点化、語用論的レベルでのあいまい表現へと意味機能の拡張が見られる」と述べている<sup>31</sup>。そして、「とりわけ、表現をあいまい化する語用論的效果は「系」を使う強い動機となっている」と述べられている。

<sup>29</sup> 「インディーズ」が本来表す<制作方法>という意味よりも、そのような<インディーズらしい作風>としての意味へと焦点がずれることから、メトニミーの用法として主張していると思われる。ただし、中島（2010）では、メトニミーの定義については明示していない。

<sup>30</sup> この「何らかの意図」について、中島（2010）では詳細に記述されていない。しかし、例えばある人物Aが努力していることに対して、他の人物Bがそれを好意的に受け取っていない場合、その人物Bが皮肉めかして「Aって頑張ってる系の人だね」と言う場面が推測できる。

<sup>31</sup> 中島（2010）ではこのように述べられているが、意味拡張の動機づけについては示されていない。

以上のように、中島 (2010) は、カテゴリー化、ステレオタイプなどの認知言語学的な視点、さらには語用論的な視点も取り入れた分析をしており、その記述や指摘には注目すべき面がある。特に、「系」の用法を「カテゴリー化」の観点から検討し、「系」がどのようなカテゴリーを形成しているのかという観点から考察することは、「系」の多義性を検討する上で重要な観点であると考えられる。また、「系」を使用する動機づけとして、表現をあいまい化する語用論的效果があると述べており、「系」が用いられる表現が生産的である根拠として興味深い指摘がなされているといえる。

### 3. 2. 2 山下 (2013)

山下 (2013) は、「系」が接尾辞として合成語を形成する際の特徴について、「どのような語 (前接語) と結合するのか (結合機能)」、「前接語にどのような意味を添加し造語機能を果たすのか (意味添加機能)」という2つの造語機能の観点から考察している。

まず、結合機能に関しては、収集した合成語のデータ (延べ語数 1300 語) から前接語を『分類語彙表』に基づいて意味分類をし、その傾向を示している。その中で最も多い分野は「人間活動精神および行為」の「心・言語・芸術・生活・交わり・待遇・経済・事業」に分類される語で、「脱力、情念、イスラム、カトリック、実験、語学、理工、保守、理想」などを挙げており、比較的抽象的な概念を表す語が約 40% を占めるとしている。

次に、意味添加機能に関しては、「アラブ系カメラマン」や「介護系 NPO」など、後接語 Y を伴う「X 系 Y」という形式の実例を考察し、「系」の意味を6つに分類している。その意味区分を踏まえて、「X 系」における「系」の意味として、プロトタイプ的意味、拡張的意味、スキーマ的意味を抽出し、その多義構造を示すことによって、「系」の意味拡張のプロセスを明示している。このような分析手法は、Langacker (2000) におけるスキーマティック・ネットワークモデルに基づくものである。以下は、山下 (2013: 99-105) における「X 系」の「系」の意味記述である。

(2) ① プロトタイプ的意味 A: 「X に連なる関係にあること」を表す。

(例: 「中国系マレーシア人」「介護系 NPO」「家庭系ゴミ」)<sup>32</sup>

<sup>32</sup> 山下 (2013: 102) では、「Y は X の血筋である (例: 「中国系マレーシア人」)」、「Y は X を専門とする



- ② 拡張的意味 B: 「組織、体系であること」を表す。  
(例: 「油圧系トラブル」「生態系原生林」「勘定系システム」)
- ③ 拡張的意味 C: 「X に連なる状態にあること」を表す。  
(例: 「さわやか系ホームドラマ」「ヴィジュアル系バンド」「癒し系ロボット」)
- ④ 拡張的意味 D: 「X のようであること」 比喩を表す。  
(例: 「格闘技系シェイクスピア」、「草食系男子」、「肉食系女子」)
- ⑤ スキーマ的意味 A' (プロトタイプの意味 A と拡張的意味 B のスキーマ的意味): 「X の領域に属すること」を表す。
- ⑥ スキーマ的意味 C' (拡張的意味 C と拡張的意味 D のスキーマ的意味): 「X のようであること」 比喩を表す。
- ⑦ スーパー・スキーマ的意味 E': 「X と類似性を有すること」を表す。

(山下 2013: 99-105)

なお、山下 (2013: 103) では、⑦のスーパー・スキーマ的意味について、ある領域に属する対象や事態をどのように認知するのか、という認知プロセスで見たとき、前接語 X がプロファイル (焦点化) され、対象・事態は X と類似性をもつものとして分別 (カテゴリー化) できることを表すと述べている。また、「ある対象世界の一部について「X 系」と捉えることは、認知主体が対象の中に X に通じる類似性を認識し、それに分別のレッテルを貼る認知プロセスということができる」とされている。

以上のように、山下 (2013) は「系」の造語機能に関して、豊富なデータに基づく分析がなされている。また、意味添加機能に関して、それぞれの意味の相互関係についても検討されている。つまり、「系」の意味添加機能によって表される意味を列挙するに留まらず、何らかの動機づけによって意味が拡張しているものと捉え、各意味の相互関係を示すことによって、接尾辞としての「系」が表す意味の動的な側面にも焦点を当てた分析になっているといえる。

---

(例: 「介護系 NPO」)、「Y は X に属する (例: 「家庭系ゴミ」)」という 3 つの意味がいずれも「Y は X に連なる関係にあること」を表していることから、これらの意味を意味 A としてまとめている。さらに柁山・深田 (2003: 141) を踏まえ、意味 A が「複数の意味のなかで、最も基本的であり、慣習化の程度・認知的際立ちが高い」と考えられることから、意味 A をプロトタイプとして認定している。

### 3. 2. 3 山下 (2015)

山下 (2015) は、山下 (2013) の「系」の記述を基盤とし、さらに漢語接尾辞「派」を考察対象として加え、「彼は草食系だ」における「草食系」や「彼は和食派だ」における「和食派」などを、ある種の人物を表す派生語として捉え、その意味を分析している。

まず、これらの派生語を前接語の意味に基づいて分類し、次に派生語全体のスキーマ構造を抽出している。そして、接尾辞「系・派」には前接語に比喻性を添加する機能があると捉え、何を焦点化し、どのような比喻表現になるのかに基づいて、これらの派生語の意味を分類している。この分類に基づき、人物を表す「Y系・派」の派生語の意味について、以下のように記述しており、それぞれの意味の相互関係をメタファー、メトニミーという比喻に基づく多義構造として示している。

- (3) A プロトタイプ的意味…人や集団の出自や帰属先が前接語 Y であることを表す。  
 (例：アフリカ系・北方系・大陸系、西欧派・反信長派・狩野派)
- B 拡張的意味…人や集団が前接語 Y に似た特徴をもつことを表す。メタファー  
 (例：雑草系・昆虫系、ハト派・タカ派)
- C 拡張的意味…人や集団が前接語 Y が示す特徴や傾向（所有物、嗜好、所属、職業、習慣、行為、様相、思考主張等）を持つことを表す。メトニミー  
 (例：癒し系・お笑い系・理工系・農業手伝い系、スカート派・ナチュラル派・シャワー派・図書館派・超実力派)
- S スキーマ的意味…人や集団が前接語 Y とある関係をもつことを表す。

(山下 2015: 121)

山下 (2015) は、山下 (2013) と同様に、「系」「派」の多義構造を示すという体系的な分析を行っている点において非常に参考になる。また、「系」「派」が用いられることで比喻性を添加するという指摘は、接尾辞として「系」や「派」が用いられる際に表される意味がより多義的であるということに対する重要な指摘であるといえる。

### 3. 2. 4 先行研究における問題点

ここまで、接尾辞「系」を考察対象（の一部）としている先行研究として、中島（2010）、山下（2013, 2015）の記述を概観した。本節では、それぞれの先行研究に共通する問題点（これらの先行研究では十分に検討されていないと考えられる点）について検討する。

1つ目は、「系」の意味記述および意味分類に関する問題点が挙げられる。

まず、中島（2010）では、「新造語」を考察対象としていることから、新奇性、臨時性の高い事例を中心に考察されている。また、山下（2015）では、「Y系・派」によって人物を表す派生語のみに限定されている。つまり、慣習性が高く、さらに人物以外のものを表すと考えられる、「外資系」（企業）「塩素系」（漂白剤）などの事例も含めて、その意味の多義性を再検討する必要があるといえる。

そして、山下（2013）では、考察対象を人や具体物などに絞らず、「X系Y」という形式で表される合成語全般を考察しているため、一見網羅的な記述となっているように思える。しかし、例えば「私は外資系の企業を志望しています」や、「このクラスの大半はアジア系だ」のように、「系」は必ずしも「X系Y」という形式のみで使用されるわけではないため、さらに多様な形式で用いられる「X系」についても考察をする必要があるといえる<sup>33</sup>。

また、以下のような実例の意味に関しては、中島（2010）や山下（2013, 2015）において、十分な説明がなされていないと考えられる。

- (4) 日本では古来、ショウブ湯、ユズ湯など、草花や果物を湯に入れる慣習があり、特定の植物から溶け出す成分には芳香だけでなく、様々な効用があることが知られてきた。そんな先人の知恵を生かし、薬用植物を主成分にしたのが生薬系入浴剤だ。センキュウ、チンピ、カミツレなどの生薬を刻んだり、エキスにして配合したりする。1897年、日本で初めて発売された入浴剤も生薬系だった。

（『朝日新聞』2017年1月21日 朝刊）

- (5) スライダー、カーブなどの曲がる系の変化球がなかなか投げれないのは自分で曲げようとしているからです

つまり、無意識に手首をひねっているのです

(<https://haruceo.hatenablog.com/entry/2018/06/02/104807>)

- (6) 「循環器」とは、体液を決まった形で流動させるための器官、つまり循環器の体

<sup>33</sup> 「系」が用いられうる主な形式的な特徴については、3.3節において詳述する。

系を指すものです。具体的には、血液の通り道である血管と、血液を循環させる役割をする心臓などをまとめ、循環器系と呼ばれます。

(<https://www.nipro.co.jp/sukoyakanet/37/>)

まず、(4) では、「生薬系」(入浴剤) が用いられている。例文内に「センキュウ、チンピ、カミツレなどの生薬を刻んだり、エキスにして配合したりする」と述べられているように、ここでは「(センキュウ、チンピ、カミツレなどの) 生薬」を材料として含んでいる「入浴剤」のことをひとまとめにして、「生薬系」と述べていると考えられる。

また、(5) では、「スライダー」や「カーブ」と呼ばれる「(ある特定の位置で) 曲がる」という性質を持つ「球種」を、「曲がる系」と述べていると考えられる。つまり、「曲がる系」における「曲がる」は、「スライダー」や「カーブ」という投球が成立するプロセスにおいて、特に重要な変化を表す動詞であると考えられる。

そして、(6) では、「体液を決まった形で流動させるための器官」の総称が「循環器」であることが述べられており、「血管」「心臓」などの器官をまとめて「循環器系」と呼ぶことが述べられている。つまり、「循環器系」における「循環器」は、「血管」「心臓」の「類」であり、カテゴリー化されている「血管」「心臓」は、そのような類に属する「種」であるといえる。

このように、およそ<何らかの構成要素を含む>という特徴によってカテゴリー化されている事例((4)の「生薬系」など)や、<ある変化が何らかのプロセスに含まれる>という特徴によってカテゴリー化される事例((5)の「曲がる系」など)、そして、<何らかの総称によって表される類に属する>という特徴によってカテゴリー化されている事例((6)の「循環器系」など)は、先に挙げた先行研究では扱われていない。そのため、このような事例も含めたさらなる考察が必要であると考えられる<sup>34</sup>。

なお、このように検討しきれていない事例があることから、山下(2013, 2015)で記述されているスキーマ的意味の記述も修正する必要があると考えられる。まず、山下(2013)の記述に基づいて検討してみると、(4)の「生薬系」(入浴剤)の場合、X(=生薬)という構成要素がプロファイル(焦点化)されてはいるものの、対象である「入浴剤」は、X(=生薬)と類似性をもつものとして分別(カテゴリー化)されているわけではなく、「入浴剤」

---

<sup>34</sup> これらの意味については、3.4節において詳細に検討する。

の構成要素として X (=生菓) が物理的に含まれていること (つまり、物理的な隣接性) に基づいて分別 (カテゴリー化) されていると考えられる。そのため、山下 (2013) における「X と類似性を有すること」というスーパー・スキーマの意味は再検討する必要があると考えられる。また、山下 (2015) では、「ある種の人」を表す「Y 系・派」を考察対象としているため、「スキーマの意味」としては、「人や集団が前接語 Y とある関係をもつことを表す」と記述している。しかし、(4)、(5)、(6) のように人以外の事物がカテゴリー化されるケースも多く見られることから、考察対象を「人や集団」に関するものに限定せず、網羅的に事例を収集した上で、その意味を検討する必要があるといえる。

なお、山下 (2015) では、人物を表す「Y 系・派」の派生語の意味として (3) のように記述し、その多義構造を示している。そして、それぞれの接尾辞の違いについては、「派」は必ずしも集団を表すとは言えず、個人の状態、性質、傾向、思考内容を表すこともあるが、「Y 系」より人の集団が強固で、個人についての言及であっても、背景に同類の存在が含意されていると捉えられる」と指摘されている。しかし、この点に関して個々の事例に基づいた十分な検討はなされておらず、一貫して「Y 系・派」に共通する意味特徴として個々の意味を抽出しているため、「Y 系」がどの意味特徴を有しているのか、「Y 派」がどの意味特徴を有しているのかといった個別の記述は示されていないといえる。例えば、(3) に挙げている「A プロトタイプの意味」は、「人や集団の出自や帰属先が前接語 Y であることを表す」と記述され、その具体例として、「アフリカ系」「北方系」「大陸系」と「西欧派」「反信長派」「狩野派」が挙げられている。これらの具体例が「人や集団の出自や帰属先が前接語 Y であることを表す」ということは共通していると考えられるものの、「アフリカ系」「北方系」「大陸系」と、「西欧派」「反信長派」「狩野派」がどのような点で異なるのかについて、詳細には述べられていない。

また、山下 (2015) では、「系」によって「ある種の人物」を表すと述べられているが、「系」が用いられる表現が、ある種の人物を表すということは、山下 (2015: 123) が指摘する「人の集団が強固で、個人についての言及であっても、背景に同類の存在が含意されている」という特徴は、「派」に固有の特徴とは言い難く、「系」においても当てはまる特徴なのではないかと考えられる。以上のことから、「系」と「派」については、個々の意味特徴をより精緻に記述し、それぞれの接尾辞にどのような特徴があるのか (どのような点で共通していて、どのような点で異なっているのか) について、より明確にする必要があると考えられる。

2つ目は、「系」の個々の意味の相互関係（多義構造）に関する問題点が挙げられる。

まず、中島（2010）では4つの用法を挙げており、「新しいカテゴリーの名付け、典型的なカテゴリー成員の焦点化、認識モダリティ表現としての解釈による周辺的な構成員の焦点化、語用論的レベルでのあいまい表現へと意味機能の拡張が見られる（中島 2010: 171）」と述べられている。しかし、拡張の動機づけについては、「表現をあいまい化する語用論的效果」という点のみに留まっているため、より詳細な検討が必要であると考えられる。

また、山下（2013; 2015）では、Langacker のネットワークモデルに基づいて「系」の多義構造を示しているが、先にも述べたように、扱われていない事例を含めて詳細にその意味を検討し、より包括的に多義構造を示す必要があると考えられる。

ここまで、接尾辞「系」に関する3つの先行研究を取り上げ、そこから見出せる主な問題点（十分に検討されていないと考えられる点）を指摘した。その内容を以下にまとめる。

#### 「系」の意味記述及び意味分類に関する問題点

- ① 接尾辞「系」の事例が網羅的に扱われていないこと。
- ② ①の問題点により、スキーマ的意味の記述が適切ではないこと。
- ③ 接尾辞「系」と接尾辞「派」のそれぞれの意味記述が十分ではないこと。

#### 「系」の個々の意味の相互関係に関する問題点

- ④ ①～③の問題点により、「系」の個々の意味の相互関係（多義構造）の考察が十分ではないこと。

これらの問題点を踏まえて、次節では「系」の前接する要素 X を含めた単位を [X+系] 構文として捉え、この単位レベルの多義構造の様相について、より網羅的に検討していく<sup>35</sup>。

### 3. 3 [X+系] 構文の形式的特徴

本節では、[X+系] 構文の形式的特徴について確認する。まず、[X+系] 構文は、本稿

---

<sup>35</sup> なお、問題点③に関しては接尾辞「派」に関する詳細な分析が必要であるため、第4章において詳しく論じる。

第1章1節、および本章2節で触れたように、様々な品詞、あるいは様々な言語単位を含む要素が X として前接する表現である。そして、[X+系] 構文における事例を観察すると、以下に示すように、[X系 Y]、[X系の Y]、[Y は/が X系] という3つの形式が見られる。以下では、これらの形式について、具体的に X がどのような品詞であるかに基づいて分類する。なお、以下の分類では [X+系] における X が自由形態素である場合は、その品詞が何であるかによって、また X が句レベルの場合は、その主要部がどのような品詞の句（レベルの要素）であるかによって分類し、それぞれのケースに該当する主な事例を挙げる。

なお、X が文レベルの形式である場合には、その意味の慣習性の問題がある。例えば、「私って〇〇じゃないですか系の人」のような事例<sup>36</sup>が見られたが、このように文レベルの要素<sup>37</sup>が結びついた形式の事例は、新奇性が高く、慣習性の低い表現であると思われる。このような新奇な表現（つまり、[X+系] における X が文、あるいは文相当の句である、新奇性の高い表現）の詳細な考察は第6章において検討することとし、本章では主に単独の「語」および「句」が前接する、慣習性の高い [X+系] 構文の事例を網羅的に考察することを目指す。

まず、表1は [X+系] が [X系 Y] という形式を構成する要素として用いられるケースであり、その X の品詞性<sup>38</sup>に基づいて分類したものである。

表1：[X系 Y] における X の品詞分類

X の品詞	事例 <sup>39</sup>
名詞（句）	交通系 I C カード、酸素系漂白剤、ヨーロッパ系香料、農林業系廃棄物、自民党系議員、ビール系飲料、教育系大学、外資系企業、草食系男子、猫系女子
動詞（句）	曲がる系球種、混ぜる系ラーメン、食べる系ダイエット、自分

<sup>36</sup> 用例出典：<http://ncode.syosetu.com/n0172f/64>

<sup>37</sup> この事例では「〇〇」という言語記号ではない記号も含まれている。

<sup>38</sup> 本来、「名詞」「動詞」といった呼称は語レベルの品詞に対して用いるものである。厳密に言えば、ここで述べている X は語ではなく、派生名詞を形成する形態素であるが、便宜的に「名詞」「動詞」などの呼称を用いることとする。

<sup>39</sup> 以下、表1から表3に挙げる事例は、「筑波ウェブコーパス（NINJAL-LWP for TWC）」、検索エンジン「Yahoo! JAPAN」、朝日新聞のデータベース「聞蔵II ビジュアル」、『CD-ROM 版 新潮文庫の100冊』を用いて収集した事例である。

	で作る系家電、塗る系パック、煮る系料理、育てる系アプリ、働く系 CM
形容詞 (句)	切ない系ラヴソング、かっこいい系女子、ゆるい系アニメ、辛い系レシピ、安い系チェーン店、色素薄い系メイク、日本スゴい系番組、前髪重い系バンドマン
形容動詞 (句)	さわやか系イケメン、派手系女子、ナチュラル系ブランド、華やか系ネイル、ふわふわ系パーマ、黒髪清楚系女子
副詞 (句)	あっさり系パスタ、がっつり系メイク、ゆったり系オンラインゲーム、ほのぼの系アニメ、スッキリ系シャンプー、豚骨こってり系ラーメン、さらっと系乳液

次に、表2は [X+系] が [X系のY] という形式を構成する要素として用いられるケースであり、そのXの品詞性に基づいて分類したものである。

表2 : [X系のY] におけるXの品詞分類

Xの品詞	事例
名詞 (句)	医療系の仕事、塩素系の漂白剤、ラテン系の顔立ち、三井系の会社、中国系の観光客、胃腸系の薬、柑橘系の果物、昔ながらの喫茶店系の味付け
動詞 (句)	打ち上がる系のアトラクション、温める系のカクテル、ドレッシングをかけて食べる系のサラダ、体を動かす系のゲーム、血管が詰まる系の病気、ご飯にかける系の商品
形容詞 (句)	かわいい系のピンクのガーベラ、意識高い系の人たち、痛い系の痩身エステマッサージ、辛い系のラーメン、苦い系のビール、明るい系の色、懐かしい系の映画
形容動詞 (句)	キレイ系の女の子、モフモフ系の猫たち、地味系のおかず、ちょっと残念系の人、便利系のアプリ、清楚系の服装、無理系の仕事
副詞 (句)	がっつり系の料理、じっくり系の読書のスタイル、お肉ごろごろ



	ろ系のミートソース、突然系の誘い、カリカリ系のボールペン
--	------------------------------

次に、表3は [X+系] が [Y は/が X 系] という形式を構成する要素として用いられるケースであり、その X の品詞性に基づいて分類したものである。

表3：[Y は/が X 系] における X の品詞分類

X の品詞	事例
名詞 (句)	a. 私の会社は <u>体育会系</u> なので… b. 坂本龍馬の登場 BGM が <u>ラテン系</u>
動詞 (句)	a. チョコは <u>しみ込む系</u> ではなく <u>かける系</u> 。 b. スパイダーマンというのは、ジュラシックパークみたいに <u>落ちる系</u> でしょうか。
形容詞 (句)	a. 味は <u>甘い系</u> です。 b. ごはんは雑穀米におかずが数品つく感じの体に <u>やさしい系</u> です。
形容動詞 (句)	a. キャッチフレーズは「嵐、JAL で夏旅。」という <u>さわやか系</u> だ。 b. 生駒ちゃんはどちらかと言えば <u>元気系</u> です。
副詞 (句)	a. 待ちに待ったランチは女性受けばっちりの <u>小鉢いっぱい系</u> です。 b. 豚丼は、スタミナたっぷりの <u>がっつり系</u> 。

ここまで、「系」を含む主な形式として、[X 系 Y]、[X 系の Y]、[Y は/が X 系] という3つのケースがあることを確認した。次節では、これら3つの形式に共通する [X+系] 構文の多義性を考察する。その具体例として、ここでは (ほぼ) 同一の意味で用いられていると考えられる、「クリーム系」という実例を以下に示す。

- (7) 普段はあんまり私に付き合ってクリーム系ケーキを食べてくれない夫が大絶賛していました。むしろそっちのほうがビックリ…すごくスポンジがふわふわで、クリームがミルクィでおいしい。(https://item.rakuten.co.jp/sakuranbo/ky912/)

(8) クリーム系のパスタは、太めのパスタでつくと味がよく絡んでおいしいです。

(<https://www.hotpepper.jp/mesitsu/entry/edajun/18-00059>)

(9) (ハンバーグの好みについて)

外で食べる時は、旦那はひたすらデミグラス系、娘は基本はトマト系。私は和風（おろしやわさびなど）かオニオンかガーリック系です。たまに照り焼きも。3人ともあまり頼まないのはクリーム系ですね。

(<https://girlschannel.net/topics/60835/>)

これらの例文は全て料理に関する例文であり、(7) では「ケーキ」、(8) では「パスタ」、(9) では「ハンバーグ」に対して「クリーム系」が用いられている。ここでは、およそく生クリームや牛乳などが使用されているクリーム状のソースを物理的な構成要素として含んでいるという特徴に基づいて、当該のケーキやパスタ、ハンバーグが他のものとは区別されていると考えられる。すなわち、それぞれの表される構文は異なっているものの、「クリーム系」が表す意味はおよそ共通しているといえる。

なお、本研究で収集した全ての事例において、Yに名詞（句）以外の品詞の要素を取るケースは見られなかった。つまり、[X+系] 構文が用いられる全てのケースにおいて、Yに当てはまる要素は名詞（句）であるという点が共通しているといえる。そして、それぞれの構文に現れるYの要素は、< [X+系] がカテゴリー化する対象 > を表しているといえる。例えば、(7) では「ケーキ」が、(8) では「パスタ」が、(9) では「ハンバーグ」がそれぞれカテゴリー化される対象である。[X+系] 構文の多義性を捉える上では、この「何がカテゴリー化されているのか」という点を考慮することが重要であると考えられる。そのため、次節では、[X+系] という形式とカテゴリー化される対象（Y）との関係を考慮した上で、[X+系] 構文においてXと「系」がどのような意味的貢献をしているのかという観点から、各意味の区分や記述を検討していく。

### 3. 4 [X+系] 構文の多義性

本節では、前節までの検討を踏まえて、[X+系] という形式を構文として捉え、その多義性について考察する。具体的には、「筑波ウェブコーパス (NINJAL-LWP for TWC)」、検索エンジン「Yahoo! JAPAN」、朝日新聞のデータベース「聞蔵II ビジュアル」、そして、『CD-

ROM版『新潮文庫の100冊』を用いて収集した、計342例の実例の意味を踏まえ、(現代日本語において確立していると考えられる) 9つの意味を提示する<sup>40</sup>。

各意味の分類と記述の方法は以下の通りである。まず、収集した個々の事例を観察し、「[X+系] がどのような対象 Y と共起しているのか」という観点と、「[X+系] 全体や対象 Y、[X+系] が用いられている句や文全体に対して、X がどのように意味的な貢献をしているのか」という観点から、同種の意味特徴を有すると思われる複数の事例を1つのグループとしてまとめ、分類する。そして、そのグループの中からいくつかの事例を取り挙げ、その意味を検討する<sup>41</sup>。さらに、それらの意味の検討を踏まえてボトムアップ的に抽出した、複数の事例に共通する意味を [X+系] 構文における1つの意味として認定する。また、認定した意味に関連する諸々の特徴(その意味における個々の意味特徴や、Xの品詞が何であるかといった形態的特徴、どのような文脈において用いられやすいかなど)について記述する。

### 3. 4. 1 意味①

はじめに、同種の意味特徴を有する主な例を(10)に提示する<sup>42</sup>。

- (10) 太陽系(惑星)、生薬系(入浴剤)、しょうのう系(防虫剤)、ピレスノイド系(防虫剤)、ナフタリン系(防虫剤)、ナトリウム系(漂白剤)、塩素系(漂白剤)、酸素系(漂白剤)、アミノ酸系(シャンプー)、保湿成分系(ハンドクリーム)、天然成分系(衣類用防虫剤)、チョコ系(ケーキ)、フルーツ系(リキュール)、ベリー系(クレープ)、抹茶系(スイーツ)、野菜系(惣菜)、ハーブ系(精油)、ト

<sup>40</sup> 本節における9つの意味の提示は第2章6.3節で述べた初山(2021)の「多義語分析の課題」における課題1)に相当する。

<sup>41</sup> なお、個々の事例の意味を検討するにあたり、その考察の一部に『明鏡国語辞典 第二版』(以下、『明鏡(第二版)』と呼ぶ)、『デジタル大辞泉』(以下、『大辞泉』と呼ぶ)の意味記述を参照する。また、「太陽系」や「外資系」など慣習性が高い事例に関しても、これらの辞書に見出し語がある場合はその意味記述を参照する。

<sup>42</sup> 本章3.3節において述べた [X+系] によってカテゴリー化される対象(以下、「対象」と呼ぶ)を各事例の後の( )内に示す。つまり、[X系 Y] という形式(表1)や [X系の Y] という形式(表2)、[Yは X系] という形式(表3)における Y が「対象」である。なお、「A、B、C…などの X系」の場合、「A、B、C」が「対象」であるが、このように複数の「対象」が [X+系] によってカテゴリー化されている場合は、便宜上それらの上位概念を表す一語を示すこととする。

マト系 (ハンバーグ)、クリーム系 (料理、スイーツ)、オイル系 (パスタ)、水系 (アトラクション)、外資系 (企業)

次に、(10) の中から 3 つの実例を取り上げ、その意味について考察する。まず、(11) は「生薬系」が用いられている例文である。

- (11) 薬用植物を主成分にしたのが生薬系入浴剤だ。センキュウ、チンピ、カミツレなどの生薬を刻んだり、エキスにして配合したりする。1897年、日本で初めて発売された入浴剤も生薬系だった。<sup>43</sup> (= (4) 再掲)

(11) では、「センキュウ、チンピ、カミツレなど」の「生薬 (薬用植物)」を刻んだり、エキスにして配合したりしたものが含まれている「入浴剤」に対して、「生薬系」と表している。つまり、「生薬 (の一部やエキス)」という具体物が構成要素として含まれているという特徴によって、当該の入浴剤を「生薬系」という 1 つのカテゴリーとして表していると考えられる。

なお、このように「生薬系」が用いられる類例として、「生薬系健康食品<sup>44</sup>」、「生薬系義歯洗浄剤<sup>45</sup>」が見られた。これらの類例も含めて「生薬系」の意味を抽出すると、概略以下のように記述できる。

### 「生薬系」の意味

<薬用植物やそのエキスを物理的な構成要素として含む複数の食品や薬品などによって形成されるカテゴリー>

次に、「太陽系」が用いられている例文を (12) に挙げる。

- (12) 地球がある太陽系には太陽系の中心的存在でもある恒星の太陽の他に惑星であ

---

<sup>43</sup> 以下、[X+系] 構文によって表されるカテゴリーの対象が例文内に示されている場合には、点線の下線を.....を施す。

<sup>44</sup> 用例出典：http://www.kimeido.co.jp/sapli/sapli\_01.html

<sup>45</sup> 用例出典：http://www.nissin-dental.jp/products/materials/allmaterials/spadent/index.html

る地球や火星によって構成されています。(略) 太陽系の惑星には地球、火星、金星、水星、木星、土星 (略) があります。 (<http://宇宙.net/taiyoukei-2/>)

(12) では、「地球」「火星」「金星」などの惑星について、「太陽系」と述べられている。なお、「太陽系」は極めて慣習性の高い事例であり、『明鏡 (第二版)』では、「太陽系」について、「太陽とその引力の影響を受けて運行している天体の集団。水星・金星・地球などの惑星とその衛星や、小惑星・彗星などが含まれる」と記述されている。つまり (12) では、「太陽」の引力の影響によって運行する「水星」「金星」「地球」といった惑星を「太陽系」と表しているといえる。そして、その「引力」という物理的な影響も含めて考えると、「太陽」は対象である、個々の惑星との関係性においての、物理的な構成要素であると考えられる。

また、先に述べた『明鏡 (第二版)』における「太陽系」の意味記述を参照すると、「太陽系」の対象となるのは、「惑星」の他、それらの惑星の「衛星」や「小惑星」、「彗星」も含まれるとされ、これらは全て<天体>であるといえる。

以上の点を踏まえると、「太陽系」の意味は概略、以下のように記述できる。

### 「太陽系」の意味

<太陽を (その引力によって運行するという影響も含めて) 物理的な構成要素として含む複数の天体によって形成されるカテゴリー>

次に、「外資系」が用いられている例文を (13) に挙げる。

(13) 外資系メーカーでも最も人気が高いのは P&G Japan、ユニリーバ・ジャパン、日本ロレアル、ネスレ日本の4社ではないでしょうか。

(<https://www.nikki.ne.jp/magazine/entry/2018/06/0101>)

(13) の「外資系」は、「P&G Japan」、「ユニリーバ・ジャパン」、「日本ロレアル」、「ネスレ日本」といった「メーカー」について述べているものである。『大辞泉』によると、「外資系」は、「企業などが外国の資本で経営されていること」と記述されていることから、「外資系」にはおよそ<外国の資本によって経営されている>という特徴があると考えられる。

また、「企業」という語は通常、＜資本＞の他に、＜人(々)＞、＜建物＞、＜営利目的＞、＜経済活動＞といった様々な構成要素によって成り立つフレームを形成している。そして、そのフレーム内における＜資本＞という構成要素に注目し、それが＜外国の資本である＞ということによって、「外資系」と表されているといえる。なお、＜資本＞という構成要素は、(11)の「生薬系」などと比べると、必ずしも具体物として（直接的に知覚できるものとして）存在しているとはいえない＜構成要素＞であると考えられる。

また、「外資系」によってカテゴリー化される対象は、(13)の「メーカー」の他、「外資系のホテル<sup>46)</sup>」、「外資系銀行<sup>47)</sup>」のような例が見られたことから、＜複数の企業<sup>48)</sup>＞であると考えられる。以上の点を踏まえると、「外資系」の意味は概略、以下のように記述できる。

### 「外資系」の意味

＜外国の資本によって経営されている複数の企業によって形成されるカテゴリー＞

なお、「外資系」については、以下のような実例も見られる。

- (14) 就職してちょうど1年経ちますが、外資系への転職をと考えています。高校時代に3年間の留学で培った語学力（英語）を活かしたいという考えが強いからです。

(<https://www.daijob.com/tipsadvice/askexpert/list02/expertqa100336.html>)

(14)の「外資系」は、「外資系への転職をと考えています」と述べられていることから、＜企業＞を表しているといえる。一方で、「高校時代に3年間の留学で培った語学力（英語）を活かしたい」と述べられていることから、話者は＜外国の資本を構成要素として含んでいる＞という特徴よりも、＜英語が話されている＞という特徴を焦点化することによって、「外資系」と表していると考えられる。つまり、＜外国の資本によって経営されている＞という特徴を有する企業では、外国人が多く働いている、あるいは、外国の企業との取引が多

---

<sup>46)</sup> 用例出典：<http://hotel-kokura.com/gaishi-hotel/>

<sup>47)</sup> 用例出典：<https://asia-magazine.com/archives/14089>

<sup>48)</sup> ここでの＜企業＞に関しては、『明鏡（第二版）』の「営利を目的として、継続的に生産・販売・サービスなどの経済活動を営む組織体。」という意味記述を参照した。

いなどが考えられることから、話者は<英語が話されている>という特徴を焦点化していると考えられる。

その他、(10) に挙げた全ての例に共通する意味特徴も踏まえ、意味①を以下のように記述する。

### [X+系] 構文の意味①

<何らかのモノ<sub>x</sub>を構成要素として含む複数のモノによって形成されるカテゴリー><sup>49</sup>

以下では、意味①の特徴について述べる。まず、<何らかのモノ>とは、「系」に前接する名詞である X によって動機づけられる意味特徴である。例えば、「生薬系」であれば、「生薬」であり、先に述べた意味記述における、<薬用植物やそのエキス>という意味特徴を表している。そして、「外資系」であれば、「外資」であり、先に述べた意味記述における、<外国の資本>という意味特徴を表している。

また、<モノ>には、「生薬系」における「生薬」などのように、具体物として存在している程度の高い<モノ>と、「外資系」の「外資」などのように、必ずしも具体物として存在しているわけではない<モノ>があるが、それらを含めて<モノ>というメタ言語によって表している<sup>50</sup>。

なお、ここでの<モノ>というメタ言語については、意味①における X、また [X+系] の対象が名詞 (句) によって表わされるという形式的特徴を踏まえて定義したものであり、上原 (2010:24-38) の記述を参照している。上原 (2010:27) では、名詞と (それと最も対比的に捉えられる) 動詞を比較することによって、名詞の性質・名詞らしさ (名詞性) について述べている。具体的には、Langacker (1987, 1991) などを踏まえ、「名詞は概念的に独立していると特徴づけられる「もの概念 (thing)」であり、「動詞は概念的に他の概念に依存する「関係概念 (relation)」 (の一つ) である」と述べ、両者の品詞は意味的な特徴づけが

<sup>49</sup> これ以降、各意味記述の中で特に「系」に前接する要素 X によって動機づけられていると思われる意味特徴に関しては、点線の下線.....を引き、下付きで X を施すこととする。

<sup>50</sup> 本研究で用いている<具体物>というメタ言語は、『明鏡 (第二版)』の「具体」の項目にある、「物事ははっきりとした形態・内容を備えていて、直接知覚できるものであること」という記述を参照している。つまり、対象とする<モノ>が直接知覚できる場合は、<具体物>というメタ言語を使用する。そして、本研究における<モノ>には、このような直接知覚できる (具体物である) <モノ>と、そうではない (抽象度の高い) <モノ>があるが、それらを含めて<モノ>というメタ言語を使用する。

異なるとしている。

そして、意味①における X、そして [X+系] によってカテゴリー化される対象は名詞(句)によって表されている。以上の点を踏まえて、X を〈何らかのモノ〉、そして対象を〈複数のモノ〉というメタ言語によって表すこととする。なお、熊代 (2013: 153) を始めとし、ラネカーの定義する“thing”は「モノ」というカタカナによる訳が多いことに鑑み、本研究においても〈モノ〉というカタカナ表記によるメタ言語を用いることとする。また、3.2 節で挙げた先行研究では、[X+系] が何らかの特徴を有するカテゴリーを表すという指摘は見られるものの、それが意味記述には反映されていない。そのため、これ以降取り上げる [X+系] の全ての意味を、〈複数のモノによって形成されるカテゴリー〉という意味特徴を含めて記述する。

また、〈構成要素〉という意味特徴についても、「生薬系」における「生薬」のように、具体物として存在している程度の高い〈構成要素〉と、「外資系」における「外資」のように、必ずしも具体物として存在しているわけではない〈構成要素〉も含んでいる。

つまり、意味①は、対象とする〈複数のモノ〉に関して、X という〈モノ〉を〈構成要素として含む〉という特徴によって、カテゴリー化されるケースであるといえる<sup>51</sup>。

なお、X が〈具体物としての構成要素〉の場合は、X と〈複数のモノ〉は物理的な隣接関係 (全体と部分の関係) にあるといえる。一方、X が〈具体物ではない構成要素〉である場合は、[X+系] の対象となる〈複数のモノ〉と、概念的に関連性の高い構成要素が X として表されていると考えられる。つまり、対象が有するフレームにおける〈構成要素〉として理解されるということである。「外資系」は、「メーカー (企業)」をカテゴリー化しているものであるが、先の考察では「企業」は通常、〈資本〉、〈人(々)〉、〈建物〉、〈営利目的〉、〈経済活動〉といった様々な構成要素によって成り立っているということを述べた。このような個々の要素は、「企業」のフレームを構成する要素であると考えられる。以下に示すのは、「企業」のフレームにおける構成要素と、各構成要素間の関係 (の一部) である。

### 「企業」のフレーム

構成要素：〈人(々)〉〈建物〉〈資本〉〈営利目的〉〈経済活動〉

<sup>51</sup> なお、3.2 節において指摘したように、先行研究では、このような〈構成要素〉という観点から「系」によるカテゴリー化の様相を捉えた記述は見られなかった。



構成要素の関係：<営利目的>を持つ<人(々)>が<建物>で<資本>によって  
 <経済活動>を行う

つまり、「外資系」は、「企業」のフレームを構成するこれらの要素のうち、<資本>を焦点化することによって表されているといえる。

なお、(12)の「太陽系」については、Xが具体物として存在する<モノ>ではあるが、カテゴリー化される対象との（物理的な）隣接性がないケースである。本研究では、「引力によって運行する」という物理的な影響を含めて、「太陽系」における「太陽」を、個々の惑星との関係においての<構成要素>として位置づけている。そして、本研究ではこのような例も意味①の事例として含めており、意味①におけるカテゴリー化される対象と<構成要素>の関係については、物理的な隣接性の程度が高い意味から、（フレームにおける）概念上の関連性の程度が高いものまで、連続的なものとして捉えている。

以上の考察を踏まえ、意味①を<何らかのモノ<sub>X</sub>>を構成要素として含むという特徴を有する複数のモノによって形成されるカテゴリー>と記述する。

なお、意味①は、対象そのものに含まれる<構成要素>に基づいてカテゴリー化されるケースであることから、[X+系]が表すカテゴリーの境界が極めて明瞭であると考えられる。例えば、「生薬系」（入浴剤）であれば、「生薬」が「入浴剤」に<構成要素>として含まれていることによって、「生薬系」というカテゴリーを形成している。つまり、実際に「生薬」が含まれていなければ「生薬系」と表すことはできないことから、当該のカテゴリーに位置づけられる条件が極めて明確であるといえる。このことから、意味①で表されるカテゴリーの境界は明瞭であると考えられる<sup>52</sup>。

### 3. 4. 2 意味②

はじめに、同種の意味特徴を有する主な例を（15）に提示する。

(15) イオン系（ショッピングセンター）、マックスバリュ系（スーパーマーケット）、

<sup>52</sup> このような [X+系] によって表されるカテゴリーの境界などの観点から、3.6節では [X+系] 構文におけるプロトタイプの意味の認定、及び各意味の相互関係について考察する。

トヨタ系（企業）、西武系（交通会社）、京阪系（交通会社）、三井系（会社）、三菱系（ディーラー）、日立系（自動車部品メーカー）、コメダ系（和カフェ）、TBS系（テレビ局）、フジテレビ系（地方テレビ局）、日本テレビ系（地方テレビ局）、テレビ朝日系（地方テレビ局）、テレビ東京系（地方テレビ局）、自民党系（会派）、民進党系（会派）、政友会系（人）、憲政会系（議員）、神戸山口組系（組員）、住吉会系（組員）

次に、(15) に挙げた事例の中から3つの例を以下に示し、その意味について考察する。まず、(16) に「トヨタ系」が用いられている例文を挙げる。

- (16) 刈谷市で生まれ育ったYさん(34)は名古屋大学に進学し、新卒で地元のトヨタ系の企業に就職。(略) Yさんが育った刈谷市には、デンソーやアイシン精機、豊田自動織機といったトヨタ系の企業がたくさんある。

(『週刊アエラ』2017年3月6日)

(16) では、「デンソー」や「アイシン精機」、「豊田自動織機」といった企業に対して、「トヨタ系」と表されている。そして、この場合のXに当たる「トヨタ」は、「トヨタ自動車」という企業である。つまり、「デンソー」などの企業は「トヨタ自動車」を中核とする「トヨタグループ」に属しているという特徴を有していることによって、「トヨタ系」と表されているといえる。

また、他にも、「トヨタ系ディーラー<sup>53</sup>」のような例も見られたことから、「トヨタ系」によってカテゴリー化される対象は、典型的には<複数の企業>であると考えられる。なお、「トヨタ系の社員」のような例も見られるが、この場合は<トヨタ系というカテゴリーに位置づけられる企業に勤めている人(々)>を表しているといえるため、「トヨタ系」がメトニミー的に表されていると考えられる<sup>54</sup>。

以上の点を踏まえると、「トヨタ系」の意味は概略、以下のように記述できる。

<sup>53</sup> 用例出典：<https://newswitch.jp/p/9860>

<sup>54</sup> このような [X+系] のメトニミー的用法については3.5節で詳述する。

### 「トヨタ系」の意味

<「トヨタ自動車」を中核とする「トヨタグループ」に属する複数の企業によって形成されるカテゴリー>

次に、「テレビ朝日系」が用いられている例文を (17) に挙げる。

- (17) テレビ朝日系のメ〜テレ (名古屋テレビ) で放送されている、『ドデスカ!』や『UP!』『デルサタ』といったニュース情報番組や『BOMBER-E』などのバラエティ番組を制作する仕事です。

([https://en-gage.net/pickup\\_saiyo/work\\_18825/](https://en-gage.net/pickup_saiyo/work_18825/))

(17) では、「メ〜テレ (名古屋テレビ)」という民放のテレビ局に対して、「テレビ朝日系」と表されている。「名古屋テレビ」は、「テレビ朝日」をキー局とする放送ネットワークに位置づけられるローカル局であり、このようなテレビ局のネットワークによって「テレビ朝日系」と表されていると考えられる<sup>55</sup>。なお、このようなテレビ局の放送ネットワークに関して、村上 (2010: 7-54) では以下のように述べられている。

- (18) 2009年現在、地上波のテレビ放送を行っている民放は127社 (ラジオ兼営も含む) あり、制度上はそれぞれが対等な存在として位置づけられている。放送内容についても、地域ごとに独立した放送局が置かれることで、地域放送の充実が図られることになっている。

しかし、こうした地域免許制度の理念の一方で、現実には、地上波民放のネットワークがテレビ放送に大きな影響力を持っている。多くの地域では、経済規模を考えれば、番組制作の面でも、広告営業の面でも、ネットワークに依存しなければ、ローカル局の経営が成り立たなくなっているためである。番組を自社で制作する割合は多くのローカル局で放送全体の10%を割り込み、民放キー局を核とするネットワークへの依存度は高まっている。 (村上 2010: 8)

---

<sup>55</sup> 参照 URL : <https://www.nagoyatv.com/corporate/network.html>

村上 (2010: 8) は、ローカル局 (地方のテレビ局) について、番組制作や広告営業の面において、経済的に民放キー局を核とするネットワークに依存しているということを指摘している。このような点を踏まえると、ローカル局である「名古屋テレビ」と、ネットワークのキー局である「テレビ朝日」とは、経済的な差があるものと思われることから、「名古屋テレビ」は、「テレビ朝日」を中核とする放送ネットワークに属する関係にあると位置づけられる。

なお、「テレビ朝日系」は、「テレビ朝日系の制作会社<sup>56</sup>」のような例にも見られる。そのため、カテゴリー化される対象は広く<複数の企業>であると考えられるが、このような<複数の企業>が、<「テレビ朝日」を中核とするグループに属する>という点では共通しているといえる<sup>57</sup>。

以上の点を踏まえると、「テレビ朝日系」の意味は概略、以下のように記述できる。

#### 「テレビ朝日系」の意味

<「テレビ朝日」を中核とするグループに属する複数の企業によって形成されるカテゴリー>

次に、「自民党系」が用いられている例文を (19) に挙げる。

- (19) 自民党系の「あまがさき志誠の会」(旧新政会) は前回、全員が非公開だったが、今回は半数以上が公開した。

(『朝日新聞』2017年11月17日 朝刊)

「あまがさき志誠の会」とは、「兵庫県尼崎市議会」という地方議会を構成する「会派」の1つである。(19) では、そのような「会派」に対して、「自民党系」と表されている。『明鏡 (第二版)』によると「会派」とは、「主義・主張を同じくする人々によって結成された派閥や団体。特に政治的なものをいう」と記述されている。このような「会派」の特徴を踏ま

<sup>56</sup> 用例出典: <https://ameblo.jp/asagaya-kouza/>

<sup>57</sup> 「テレビ朝日系の制作会社」の場合、対象である「制作会社」は、およそ<「テレビ朝日」に委託されて番組制作を行う会社>であるといえる。この点を踏まえると、当該の制作会社は<「テレビ朝日」に属する>という関係にあると考えられる。

えると、「自民党系」における「自民党」は、「あまがさき志誠の会」から見て、＜政治を行う上で主義・主張を同じくする政党＞であると考えられる。

また、「自民党系」はこのような例の他に、「自民党系政治塾<sup>58</sup>」のような例にも見られた。このような例においても、＜「自民党」と政治的な主義、主張を同じくする＞という特徴は共通していると思われる。

以上の点を踏まえると、「自民党系」の意味は概略、以下のように記述できる。

### 「自民党系」の意味

＜「自民党」と政治的な主義、主張を同じくする複数の政治団体によって形成されるカテゴリー＞

その他、(15) に挙げた全ての例に共通する意味特徴も踏まえ、意味②を以下のように記述する。

### [X+系] 構文の意味②

＜何らかの組織<sub>x</sub>を中核とするグループに属する複数の組織によって形成されるカテゴリー＞

以下では、意味②の特徴について述べる。まず、＜何らかの組織＞とは、「系」に前接する名詞である X によって動機づけられる意味特徴である。例えば、「トヨタ系」であれば、「トヨタ」であり、先に述べた意味記述における＜「トヨタ自動車」＞という意味特徴を表している。また、ここでは「トヨタ系」における「トヨタ」や、「朝日テレビ系」における「朝日テレビ」のような＜企業＞や、「自民党系」における「自民党」のような＜政党＞などを含めて、＜組織＞というメタ言語によって表している。

そして、＜何らかの組織を中核とするグループに属する＞については、典型的には(16)の「トヨタ系」における、＜「トヨタ自動車」を中核とするグループに属する＞という特徴によるものであるが、(19)の「自民党系」における、＜「自民党」と政治的主義、主張を同じくする＞という特徴も含めて、＜何らかの組織を中核とするグループに属する＞とい

---

<sup>58</sup> 用例出典：<https://www.sankei.com/politics/news/141103/pl1411030030-n1.html>

うメタ言語によって表している。つまり、<「自民党」と政治的主義、主張を同じくする>という特徴において、焦点化されているのは「自民党」という政党であることから、<政治的主義・主張を通じて「自民党」を中核とする一つのグループに属する>と考えられるためである。

以上の考察を踏まえ、意味②を<何らかの組織<sub>X</sub>を中核とするグループに属する複数の組織によって形成されるカテゴリー>と記述する。なお、山下 (2013: 99) では、本研究における意味②と類似する意味区分として「所属・付属」が記述されているが、該当する例には「新聞社系サイト」や「旧民社党系グループ」などがあり、これらの X と対象の「所属・付属」の関係は様々であるように思われる。本発表では、「トヨタ系」(企業) や、山下 (2013: 99) で挙げられている「旧民社党系」(グループ) のように、対象が<複数の組織>であり、組織 X を中核とするグループに属することを表すケースを、意味②として分類した。また、「任天堂系」(ゲーム) や、山下 (2013) で挙げられている「新聞社系」(サイト) などは、対象が何らかの組織 X によって作り出されていることを表すと考え、このようなケースを、後述する意味③として分類した。

また、意味②は、意味①と同様、カテゴリーの境界が明瞭であると考えられる。例えば、(16) の「トヨタ系」であれば、<「トヨタ自動車」を中核とするグループに属する>という、「トヨタ自動車」と個々の子会社の関係性によって、「トヨタ系」という1つのカテゴリーを形成している。つまり、このような関係性がなければ、「トヨタ系」と表すことはできないことから、当該のカテゴリーに位置づけられる条件が明確であるといえる。そのため、意味②におけるカテゴリーの境界は明瞭であると考えられる。

### 3. 4. 3 意味③

はじめに、同種の意味特徴を有する主な例を (20) に提示する。

- (20) メキシコ系 (人)、台湾系 (アメリカ人)、中国系 (観光客)、ドイツ系 (メーカー)、イタリア系 (スーツ)、フランス系 (住民)、ブラジル系 (ニューカマー)、大陸系 (青銅器)、アジア系 (留学生)、ヨーロッパ系 (香料)、北欧系 (食器)、欧米系 (島民)、東洋系 (カブ)、南米系 (外国人)、ラテン系 (男性)、ゲルマン系 (言語)、インディアン系 (人)、ヒスパニック系 (人) ハーフ系 (モデル)、

クォーター系（芸能人）、移民系（議員）、江戸系（ハナショウブ）、大阪系（議員）、神戸系（ブランド）、家庭系（ごみ）、任天堂系（ゲーム）

次に、(20) に挙げた事例の中から4つの例を以下に示し、その意味について考察する。まず、(21) に「メキシコ系」と「インディアン系」が用いられている例文を挙げる。

- (21) ラスヴェガス行のバスの横に、順序良く並んでいた人々の列の最後部につき、見回すと、中流階級以上の白人といった人はほとんど見当らず、約半数が黒人であり、他にメキシコ系、インディアン系などもいた。

（『若き数学者のアメリカ』）

(21) では、「ラスヴェガス行のバスの横に、順序良く並んでいた人々」について述べられており、そのうち「メキシコ系」は、メキシコ合衆国の生まれである人、あるいはメキシコ人の血筋を引く人を表していると考えられる。なお、このような「メキシコ系」は、「メキシコ系の映画<sup>59</sup>」、「メキシコ系のニュースサイト<sup>60</sup>」などの事例にも見られた。これらの例も含めて「メキシコ系」の意味を抽出すると、概略以下のように記述できる。

### 「メキシコ系」の意味

<メキシコ合衆国を出自とする<sup>61</sup>複数のモノ<sup>62</sup>によって形成されるカテゴリー>

さらに、(21) では、「インディアン系」という表現も見られる。『明鏡（第二版）』によると、「インディアン」とは、「アメリカ大陸の先住民族」であるとされている。つまり、(21) ではそのような民族の血筋を引く人々を、「インディアン系」と表しているといえる。この

<sup>59</sup> 用例出典：<http://teacapan.cocolog-nifty.com/blog/2013/08/post-e8ec.html>

<sup>60</sup> 用例出典：[https://gakushuu.xyz/archives/latinamerican\\_news\\_website.html](https://gakushuu.xyz/archives/latinamerican_news_website.html)

<sup>61</sup> 以下で用いる<出自とする>という意味特徴については、『大辞泉』の「出自」の項目にある、「人の、生まれ。事物の出どころなどにもいう。」という意味記述に基づくものである。つまり、対象が<人>である場合は、ある国や地域などで生まれたことを表すケースや、ある人種や民族の血筋であるケースも含めて、<出自とする>というメタ言語を使用する。また、対象が<人以外のモノ>である場合は、ある国や地域などを出所とするケースについて、<出自とする>というメタ言語を使用する。

<sup>62</sup> <モノ>は、「人」などの<生物>と、「映画」「ニュースサイト」などの<無生物>を含めたメタ言語として表している。

ことから、「インディアン系」の意味は概略、以下のように記述できる。

### 「インディアン系」の意味

＜アメリカ大陸の先住民族を出自とする人々によって形成されるカテゴリー＞

次に、「アジア系」が用いられている例文を (22) に挙げる。

- (22) 「遠い山なみの光」と「浮世の画家」で続けて日本を取り上げたが、ブッカー賞を受けた次の「日の名残り」では全く異なる英国の伝統的な姿をテーマにした。アジア系で英語圏を拠点とする作家は、その出自を生かした作品を期待され、そこから抜け出せずに苦しむことが多いが、イシグロ氏はそのくびきを見事に断ち切り、大きく飛躍した。 (『朝日新聞』2017年10月6日 朝刊)

(22) では、「その出自を生かした作品を期待され、…」とあるように、アジアの地域を出自とする人々 (ここでは、特に「作家」) に対して「アジア系」と表されている。そして、特に「アジア系」で英国圏を拠点とする作家は、「出自を生かした作品を期待され、そこから抜け出せずに苦しむことが多い」とされている中で、「イシグロ氏 (カズオ・イシグロ)」は、「そのくびきを見事に断ち切り、大きく飛躍した」と述べられている。

また、「アジア系」は、「アジア系の野菜<sup>63</sup>」、「アジア系の映画<sup>64</sup>」のような実例にも見られた。このような例も含めて「アジア系」の意味を抽出すると、概略以下のように記述できる。

### 「アジア系」の意味

＜アジア地域を出自とする複数のモノによって形成されるカテゴリー＞

次に、「家庭系」が用いられている例文を (23) に挙げる。

---

<sup>63</sup> 用例出典：『朝日新聞』2016年12月29日 朝刊

<sup>64</sup> 用例出典：『朝日新聞』1997年1月31日 夕刊



- (23) 神戸市では、ごみのさらなる減量・資源化を進めるため、2008年11月から「家庭系ごみの指定袋制度」を導入しています。

(<http://www.city.kobe.lg.jp/life/recycle/environmental/shinsei.html>)

(23) では、「ごみ」に対して「家庭系」が用いられているが、ここでは、各家庭から出た「燃えるごみ」や「燃えないごみ」など、様々な性質のごみについて「家庭系」が用いられていると考えられる。

また、「家庭系」は「家庭系パソコンの処分<sup>65</sup>」、「家庭系の水銀使用廃製品<sup>66</sup>」という実例にも見られるように、主に<不要になったもの>に対して用いられているケースが多く見られた。つまり、このような<不要になったもの>が、家庭という生活区域から排出されるという特徴に基づいて、「家庭系」と表されていると考えられる。以上の点を踏まえると、「家庭系」の意味は概略、以下のように記述できる。

#### 「家庭系」の意味

<家庭から排出される複数の不要になったものによって形成されるカテゴリー>

その他、(20) に挙げた全ての例に共通する意味特徴も踏まえ、意味③を以下のように記述する。

#### [X+系] 構文の意味③

<何らかの空間領域や血筋<sub>x</sub>を出自（あるいは出所）とする複数のモノによって形成されるカテゴリー>

以下では、意味③の特徴について述べる。まず、<何らかの空間領域や血筋>という意味特徴については、「系」に前接する名詞である X によって動機づけられる意味特徴である。例えば、「メキシコ系」であれば、「メキシコ」であり、先の意味記述における<メキシコ合衆国>を表している。また、「インディアン系」であれば「インディアン」であり、先の意

---

<sup>65</sup> 用例出典：<http://www.city.saitama.jp/001/006/010/003/p001366.html>

<sup>66</sup> 用例出典：<http://www.city.noshiro.akita.jp/c.html?seq=12787>

味記述における<アメリカ大陸の先住民族>を表している。

そして、「メキシコ系」における「メキシコ」のような<国>や、「アジア系」における「アジア」のような<地域>、そして、「家庭系」における「家庭」のような<生活区域>などを含めて、<空間領域>というメタ言語によって表している。また、「インディアン系」における「インディアン」のようなケースに関しては、<血筋>というメタ言語によって表している。

なお、<出自とする>という意味特徴に関しては、(21)、(22)のような、カテゴリー化される対象の<生まれ>について述べるケースや、(23)のような、対象の<排出>について述べるケースなどを含めて<出自(あるいは出所)とする>というメタ言語によって表している<sup>67</sup>。

以上の考察を踏まえ、意味③を<何らかの空間領域あるいは血筋<sub>X</sub>を出自とするという特徴を有する複数のモノによって形成されるカテゴリー>と記述する。

なお、意味③におけるカテゴリーの境界については、比較的明瞭であると考えられる。例えば、ある人物(A)に対して、「Aはアジア系である」と述べる場合は、対象である「A」がアジアで生まれた、あるいはアジア人の血筋であるという特徴によって、「アジア系」というカテゴリーに位置づけられているといえる。つまり、アジア地域で生まれなければ、あるいは、アジア人の血筋ではなければ、「アジア系」と表すことはできないことから、当該のカテゴリーに位置づけられる条件は明確であるといえる。そのため、意味③によって表されるカテゴリーの境界は明瞭であると考えられる。

### 3. 4. 4 意味④

はじめに、同種の意味特徴を有する主な例を(24)に提示する。

- (24) 医療系(仕事)、看護系(技官)、舞台系(照明技術)、映像系(照明技術)、服飾系(大学)、土木技術系(職員)、技術系(生徒)、人文系(出版社)、交通系(ICカード)、胃腸系(薬)、教育系(大学)、自然科学系(図書)、IT系(専門学校)、

<sup>67</sup> なお、3.2節で挙げた先行研究では、「家庭系」(ごみ)のような、Xが表す<空間領域>で対象が作り出されることを表す事例は見られなかった。

公務員系（専門学校）、理数系（学科）、文科系（学生）、スポーツ系（生徒）、文化系（生徒）、グルメ系（インスタグラマー）、語学系（専門学校）、ジャズ系（ライブハウス）、ミステリー系、音楽系（団体）、カメラ系（雑誌）、芸能系（人間国宝）、工芸技術系（人間国宝）、観光系（大学）

次に、(24) に挙げた事例の中から3つの例を以下に示し、その意味について考察する。まず、(25)、(26) に「医療系」が用いられている例文を挙げる。

- (25) 職場見学を通じて、中学生に医師や薬剤師、看護師といった医療系の仕事に関心を持ってもらう秋田大の「理科大好き☆夢発見プロジェクト」が31日、秋田市川尻町の県赤十字血液センターであった。

（『朝日新聞』2010年6月1日 朝刊）

- (26) 医療に貢献できる仕事の中でも多様な勤務形態を選択しやすく長く働けると言われる医療事務は、医療系の仕事の中でも人気職種として知られています。

（[https://min-ten.com/guide/guide\\_1716/](https://min-ten.com/guide/guide_1716/)）

(25) では、「医師」や「薬剤師」、「看護師」などの職業に対して、「医療系」と表されている。つまり、これらの職業が<医療に関する業務を行う>という特徴に基づいて、「医療系」と表されていると考えられる。

また、(26) では、「医療事務」という職業に対して、「医療系」と表されている。「医療事務」は、外来受付や治療費の会計などが主な業務内容であるが<sup>68</sup>、(25) に挙げられている「医師」などと同様に<医療に関する業務を行う>という点は共通しているといえることから、「医療系」と表されていると考えられる。

また、このような「医療系」は「医療系サービス<sup>69</sup>」や「医療系大学<sup>70</sup>」のような事例にも見られた。このような例も含めて「医療系」の意味を抽出すると、概略以下のように記述で

---

<sup>68</sup> 『大辞泉』の「医療事務」の項目では、「医療機関における事務業務。外来受付・治療費の会計・レセプトの作成・カルテの管理など。」と記述されている。

<sup>69</sup> 用例出典：[http://www.city.neyagawa.osaka.jp/organization\\_list/fukushi/fukushisomuka/shiteikyotaku/1520571577851.html](http://www.city.neyagawa.osaka.jp/organization_list/fukushi/fukushisomuka/shiteikyotaku/1520571577851.html)

<sup>70</sup> 用例出典：<http://www.thcu.ac.jp/about/>

きる。

### 「医療系」の意味

<医療の分野に特化している複数のモノによって形成されるカテゴリー>

次に、(27)に「交通系」が用いられている例文を挙げる。

- (27) 日本マクドナルドは25日、「Suica（スイカ）」など交通系ICカードによる決済サービスを始めると発表した。8月1日から全国約2900店舗で導入する。  
(『朝日新聞』2017年7月26日 朝刊)

(27)では、「Suica（スイカ）」などの公共交通機関の運営会社によって発行され、公共交通機関の利用時における運賃の支払いを主な目的として使用される「ICカード」に対して「交通系」と表されている。

また、このような「交通系」は、「交通系アプリ<sup>71)</sup>」、「交通系の仕事<sup>72)</sup>」のような事例にも見られた。このような例も含めて「交通系」の意味を抽出すると、概略以下のように記述できる。

### 「交通系」の意味

<交通の分野に特化している複数のモノによって形成されるカテゴリー>

次に、「舞台系」と「映像系」が用いられている例文を(28)に挙げる。

- (28) KEISENのカリキュラムは、ライティングの技術を初歩から指導し、照明のスペシャリストを養成。(略)ライブやイベントなどの舞台系の照明と、テレビや映像などの映像系の照明について基礎から学びます。  
(<http://www.keisen-housou.com/course/lighting.php>)

---

<sup>71)</sup> 用例出典：<http://intherain.hatenablog.jp/entry/netherlands-transport-apps-9292-ns>

<sup>72)</sup> 用例出典：<http://www.km-recruit.jp/shinsotsu/blog/archives/2871>

(28) は、ある専門学校のカリキュラムについて述べている実例である。特に「ライティング（照明技術）」に関して、「ライブ」や「イベント」などで専門的に活躍する照明技術を「舞台系」、「テレビ」や「映像」などにおいて専門的に活躍する照明技術を「映像系」と表している。

このうち、「舞台系」については、「番組のメインキャストは、生瀬勝久を中心とした、普段はバラエティ番組には登場しない舞台系の俳優を中心に配しており、…<sup>73</sup>」のような例にも見られた。このような例も含めて「舞台系」の意味を抽出すると、概略以下のように記述できる。

#### 「舞台系」の意味

＜演劇やライブなどの舞台上で行われる催しに特化した複数のモノによって形成されるカテゴリー＞

その他、(24) に挙げた全ての例に共通する意味特徴も踏まえ、意味④を以下のように記述する。

#### [X+系] 構文の意味④

＜何らかの分野<sub>x</sub>に特化した複数のモノによって形成されるカテゴリー＞

以下では、意味④の特徴について述べる。まず、＜何らかの分野＞という意味特徴は、「系」に前接する名詞である X によって動機づけられる意味特徴である。つまり、「医療系」における「医療」や、「交通系」における「交通」、「舞台系」における「舞台」などを含めて、何らかの＜分野＞を表すと考えられることから、＜何らかの分野＞というメタ言語によって表している。

さらに、＜特化した＞という意味特徴については、「医療系」（仕事）のように、何らかの専門的な職業について述べるケースや、「交通系」（IC カード）のように、何かを目的とし

---

<sup>73</sup> 用例出典：<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B5%E3%83%A9%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%83%9E%E3%83%B3NEO>

たサービスについて述べるケースなども含めて、<特化した>というメタ言語によって表している。なお、このメタ言語の選定については、『明鏡 (第二版)』の「特化」の項目にある、「特定の物事に重点を置くこと。特別に限定すること。」という意味記述を参照した。例えば、「医療系」であれば、「医師」や「医療事務」などは、「医療」に深く携わっている仕事であるといえる。また、「交通系」(ICカード)に関しても、「交通」という1つの<分野>に対して、特に焦点を当てたサービスであるといえる。

以上の考察を踏まえ、意味④を、<何らかの分野<sub>x</sub>に特化した複数のモノによって形成されるカテゴリ>と記述する。

なお、意味④におけるカテゴリの境界については、比較的明瞭であると考えられる。例えば、「医療系」であれば、「医師」や「医療事務」といった職業が、<医療の分野に特化している>という特徴を有していることによって、「医療系」というカテゴリを形成している。つまり、「医療」という分野に特化していなければ、「医療系」と表すことはできないことから、当該のカテゴリに位置づけられる条件が明確であるといえる。そのため、意味④で表されるカテゴリの境界は明瞭であると考えられる。

### 3. 4. 5 意味⑤

はじめに、同種の意味特徴を有する主な例を (29) に提示する。

- (29) 循環器系 (器官)、神経系 (器官)、柑橘系 (果物)、ベリー系 (果物)、ピンク系 (アイシャドウの色)、ブラウン系 (アイシャドウの色)、クッキー系 (お菓子)、ビール系 (飲料)、紅茶系 (飲料)、ファストフード系 (店)、和食系 (料理)、洋食系 (料理)、速球系 (球種)、商社系 (企業)、私小説系 (太宰治の小説)、物語系 (太宰治の小説)、雑誌系 (雑誌)

次に、(29) に挙げた事例の中から3つの例を以下に示し、その意味について考察する。まず、(30) に「循環器系」が用いられている例文を挙げる。

- (30) 「循環器」とは、体液を決まった形で流動させるための器官、つまり循環器の体系を指すものです。具体的には、血液の通り道である血管と、血液を循環させる

役割をする心臓などをまとめ、循環器系と呼びます。 (= (6) 再掲)

(30) では、「体液を決まった形で流動させるための器官」の総称が「循環器」であることが述べられており、「血管」「心臓」などの器官をまとめて「循環器系」と呼ぶことが述べられている。つまり、「循環器系」における「循環器」は、「血管」「心臓」の「類」としての総称であり、カテゴリー化されている対象である「血管」「心臓」は、そのような類に属する「種」であるといえる。以上の点を踏まえると、「循環器系」の意味は概略、以下のよう記述できる。

### 「循環器系」の意味

<「循環器」という総称に属する複数の器官によって形成されるカテゴリー>

次に、「柑橘系」が用いられている例文を (31)、(32) に挙げる。

(31) 健康に良いとされている柑橘系 (かんきつけい) の果物。その代表格ともいえるオレンジやグレープフルーツをよく食べる人は、メラノーマ (皮膚がん) を発症するリスクが最大36%も増加するとの研究論文が米国で発表された。

(<http://www.sankei.com/premium/news/150705/prm1507050014-n1.html>)

(32) みなさん、たんかんってご存知ですか？日本では主に鹿児島と沖縄でのみ栽培されている柑橘系のフルーツ。( <http://www.sugaya-east.com/blog/tankan/> )

(31) では「オレンジ」や「グレープフルーツ」といった「果物」に対して「柑橘系」と表されており、(32) では「たんかん (桶柑)」という「フルーツ」に対して「柑橘系」と表されている。いずれも「柑橘」という「類」に含まれる「果物 (フルーツ)」であり<sup>74</sup>、「オレンジ」、「グレープフルーツ」、「たんかん」は、「柑橘」の一種であるといえる。

以上の点を踏まえると、「柑橘系」の意味は概略、以下のように記述できる。

---

<sup>74</sup> 『明鏡 (第二版)』の「柑橘」の項目では、「ミカン科植物のうち、ミカン属、キンカン属・カラタチ属に属する果樹の総称。また、その果実。」という意味記述が見られる。

### 「柑橘系」の意味

<「柑橘」という類に属する複数の果物によって形成されるカテゴリー>

次に、「クッキー系」が用いられている例文を (33) に挙げる。

- (33) 与野店では、土日祝日のフェアの際、お飲み物と一緒にちょっとしたお菓子も添えさせていただきます。選ぶのもひとつの楽しみなのですが、「KALDI」でクッキー系を買うことが多いです。大人からお子様まで幅広い方に召し上がっていただけるようなクッキーで、ちょっと珍しいもので美味しそうなものを選んでいきます。最近気に入っているのが「ショートブレッドクッキー」。(略) クランベリーが入ったクッキーだったり、イチジクのクッキーだったり、最近人気なのは豆乳のクッキーの間に黒豆きな粉やピーナッツやレモンのクリームがサンドされたクッキーです。

(<https://blog.nissan.co.jp/DEALER/1240/015/entry19675>)

(33) では、「ショートブレッドクッキー」や「クランベリーが入ったクッキー」、「イチジクのクッキー」など、個々の特徴が異なる「クッキー」が「クッキー系」というカテゴリーに位置づけられている。つまり、これらの菓子は全て、「クッキー」という総称によって表される「類」に位置づけられているといえる。

以上の点を踏まえると、「クッキー系」の意味は概略、以下のように記述できる。

### 「クッキー系」の意味

<「クッキー」という総称に属する複数の菓子によって形成されるカテゴリー>

その他、(29) に挙げた全ての例に共通する意味特徴を踏まえ、意味⑤を以下のように記述する。

### [X+系] 構文の意味⑤

<何らかの(総称によって表される)類<sub>x</sub>に属する複数のモノによって形成されるカテゴリー>



以下では、意味⑤の特徴について述べる。まず、<何らかの（総称によって表される）類>という意味特徴は、「系」に前接する名詞である X によって動機づけられる意味特徴である。なお、『明鏡（第二版）』では、「総称」とは「ある共通した性質・傾向などをもつ個々の物をひとまとめにして呼ぶこと。またその呼び名。」と記述されている。このような意味記述を踏まえると、意味⑤では、[X+系]における X が、何らかの共通した性質・傾向などをもつ<複数のモノ>をひとまとめにする際の呼び名を表しているといえることから、<総称>というメタ言語を用いている。例えば、「循環器系」における「循環器」は、カテゴリーの対象である「血管」や「心臓」などの<複数の器官>に対する呼び名、つまり<総称>を表しているといえる。

そして、個々の具体例の意味記述でも述べたように、意味⑤においては、[X+系]の対象となる<複数のモノ>と X の間に類種関係が成り立っているといえる。例えば、「柑橘系」であれば、「オレンジ」「グレープフルーツ」といった果物の類を表す<総称>が「柑橘」であり、「柑橘」と個々の果物との間には類種関係が成り立っている。

以上の考察を踏まえ、意味⑤を<何らかの（総称によって表される）類<sub>X</sub>>に属する複数のモノによって形成されるカテゴリー>と記述する。なお、このような<総称>や<類種関係>という観点からの意味区分を示している先行研究は、管見の限りでは見当たらない。

また、意味⑤におけるカテゴリーの境界に関しては、境界が明瞭なケースと、境界が不明瞭なケースがあると考えられる。例えば、(30)では、「血管」や「心臓」のように、体液を決まった形で流動させるために機能する器官を「循環器系」とすると述べており、これは医学や生物学の分野において明確に定められた専門用語である。つまり、「循環器系」のカテゴリーに位置づけられる条件は明確に定められているといえることから、その境界は明瞭であるといえる。

また、カテゴリーの境界が不明瞭なケースとしては、以下のような例がある。

- (34) 春、ならば花。その花屋さんの店先が、最近ぐんと様変わりしている。花の色が大幅に増えて、なかにはチューリップとかカーネーションといった種類でなく、赤や黄の色別に花を並べる店も出てきた。(略) グラジオラスは、ピンク系だけで白に近いものから赤に近いものまで、やはり数十種類ある。

(『朝日新聞』1986年3月10日 夕刊)

(34) では、花屋に並んでいる「花の色」について述べられており、中でも「グラジオラスの色」については、「ピンク系」と表されている。つまり、複数ある「グラジオラスの色」の中でも、「ピンク」という<総称>によってまとめられる色が「ピンク系」と表されると考えられる。ただし、「白に近いものから赤に近いものまで」と述べられているように、「ピンク」は、白と赤の中間に含まれる色の<総称>ではあるものの、「白」、「ピンク」、「赤」という個々の色の領域は連続的である。つまり、「ピンク系」に含まれる色の境界（「白」「赤」と区別するための境界）を明確に規定することは困難である。そのため、「循環器系」のような例と比べると、カテゴリーの境界は不明瞭であると考えられる。

### 3. 4. 6 意味⑥

はじめに、同種の意味特徴を有する主な例を (35) に提示する。

- (35) 食事系 (料理、菓子)、軽食系 (商品)、原宿系 (ファッション)、渋谷系 (音楽)、秋葉系 (ファッション)、中野系 (オタク)、昭和系 (居酒屋)、洋食喫茶店系 (メニュー)、大衆食堂系 (店)、大人系 (ファッション)、アウトドア系 (ブランド)、インドア系 (趣味)、クラブ系 (女の子)、インディーズ系 (映画)、ロック系 (服)、ホラー系 (メイク)、シトラス系 (香り)

次に、(35) に挙げた事例の中から3つの例を以下に示し、その意味について考察する。まず、(36)、(37) に「食事系」が用いられている例文を挙げる。

- (36) レストラン街で友人と待ち合わせのためお店探していたところ、数日前にオープンしたばかりの「京はやしや」に決定！ (略) お茶と甘味が中心で、抹茶やほうじ茶などお茶を使ったデザートが豊富。食事系はうどん 4 種類とおばんざい御膳 1 種類が用意されています。

(<https://gratefuldays.bean-jam.jp/archives/12256>)

- (37) 砂糖入りの甘いマフィンに対し、甘くなく、野菜やハム、チーズ入りの食事系のマフィンはセイボリーマフィンと呼ばれています。

(<https://macaro-ni.jp/18621>)

まず、(36) では、「京はやしや」という店のメニューについて述べている。「京はやしや」は「お茶と甘味が中心」とされている店であるが、その中でも「うどん」「おばんざい御膳」について「食事系」と表されている。なお、「食事」について『大辞泉』では、「栄養をとるために、習慣的に毎日何度か物を食べること。また、その食べ物。」と記述されている。つまり、このような意味記述を踏まえると、「うどん」「おばんざい御膳」といった料理は、他の「お茶や甘味」などのメニューと比べて、<食べ応えのある量である>、<主食として食される食べ物が含まれている>、<野菜や肉類など、栄養価の高い食材が（バランスよく）含まれている>などの特徴を有するものであると感じられることから、「食事系」と表されていると考えられる。

また、(37) では「セイボリーマフィン」と呼ばれる、「甘くなく、野菜やハム、チーズ入り」のマフィンに対して、「食事系」と表されている。「マフィン」は焼き菓子の一種であり、その典型的なものとしては、<生地に砂糖などが使われており、甘味がある>、<フルーツやチョコレート、ナッツ類などが生地に含まれている>などの特徴を有するものであると考えられ、通常は「食事」として食されるものではないと考えられる。しかし、ここでは、「甘くなく、野菜やハム、チーズ入り」という特徴を有するマフィンを「セイボリーマフィン」と呼ぶということが述べられている。つまり、「セイボリーマフィン」が有する特徴は、通常「食事」として食される食べ物が有する特徴を（一部）有していると感じられることから、「食事系」と表されていると考えられる。

以上の点を踏まえると、「食事系」の意味は概略、以下のように記述できる。

### 「食事系」の意味

<栄養を取るために、習慣的に毎日何度か食べるものとしてふさわしいと感じられる複数の食べ物によって形成されるカテゴリー>

次に、「洋食喫茶店系」が用いられている例文を (38) に挙げる。

- (38) 同潤会アパートと同時期、1927年竣工の名物建築「九段下ビル」1階にあるのが、創業30年を誇る「Bistro Mr.Beans 東京珈琲」。ビル同様、昭和の匂いが漂

う佇まいに常連ファンも多く、とくにランチタイムには近所のサラリーマン、OLですぐに満席になる。カレー・ハヤシライス・オムライスなど、正統派の洋食喫茶店系メニューが揃い、ランチタイムが15時までというのも嬉しい。

([http://www.navi-bura.com/main.php/view/main\\_ca\\_1/sub\\_ca\\_9/0/00495/0/](http://www.navi-bura.com/main.php/view/main_ca_1/sub_ca_9/0/00495/0/))

(38) では、「Bistro Mr.Beans 東京珈琲」という店のメニューにある、「カレー」「ハヤシライス」「オムライス」などの料理に対して、「洋食喫茶店系」と表されている。これらの料理は「洋食（を出している）喫茶店」のメニューとして、いかにもありそうだと思わせる料理であり、「洋食（を出している）喫茶店」における料理の典型例であると感じられる料理であることから、「洋食喫茶店系」と表されていると考えられる。

以上の点を踏まえると、「洋食喫茶店系」の意味は概略、以下のように記述できる。

#### 「洋食喫茶店系」の意味

<コーヒー・紅茶などの飲み物や、洋食の菓子・軽食を出す飲食店のメニューにありそうだと感じられる複数の料理によって形成されるカテゴリー<sup>75</sup>>

次に、「秋葉系」が用いられている例文を(39)に挙げる。

(39) では秋葉系ファッション=オタクファッションとはどんなものをいうのでしょうか?その代表として挙げられるのが、メガネ・リュック・Tシャツ(略)などです  
(<https://www.rcawaii.com/blog/fashionyougocheck/11105>)

(39) の「秋葉系」における「秋葉」は「秋葉原」という東京の街を指している<sup>76</sup>。これ

---

<sup>75</sup> 『明鏡(第二版)』では、「喫茶店」という項目について、「コーヒー・紅茶などの飲み物や菓子・軽食を出す飲食店。」と記述されている。

<sup>76</sup> なお、このように「系」に前接する名詞が何らかの「地名」を表すケースとして、他にも「原宿系」「渋谷系」「中野系」「名古屋系」などが見られた。つまり、慣習性の程度には差があると考えられるものの、このような事例はある程度の生産性のある表現であると考えられる。なお、「系」に前接する名詞が何らかの<地名>を表すケースは、前述の意味③にも見られるが、意味③は「メキシコ系」「アジア系」のように、Xが<国>や<州>を表す事例が多く、意味⑥は「秋葉系」「渋谷系」のように、Xが<日本国内の地名>を表す事例が多いという特徴がある。

は、「秋葉原（にいる特定の人々）」の「ファッション」について述べたものであり、「メガネ（をかけている）」「リュック（を背負っている）」などの具体的な特徴が述べられている。これらの特徴は、「秋葉原（にいる特定の人々）」に結びつく百科事典的な特徴であるが、「秋葉原（にいる人々全体）」が有する特徴とは言い難い。つまり、そのようなファッションの人々は、「秋葉原」にいる人々の中でも一部であると考えられるものの、「秋葉原」にいる人々の大半がそのようなファッションであると、（十分な根拠なしに）信じられていることから、これらの諸々の特徴はステレオタイプ的な特徴であると考えられる。以上の点を踏まえると、「秋葉系」の意味は概略、以下のように記述できる。

### 「秋葉系」の意味

＜「秋葉原」という街（にいる特定の人々）らしいと（十分な根拠なしに）感じられる特徴を有する複数の人々によって形成されるファッションのカテゴリー＞

その他、(35) に挙げた全ての例に共通する意味特徴を踏まえ、意味⑥を以下のように記述する。

### [X+系] 構文の意味⑥

＜何らかのモノ<sub>x</sub>らしいと感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリー＞

以下では、意味⑥の特徴について述べる。まず、＜何らかのモノ＞とは、「系」に前接する名詞である X によって動機づけられる意味特徴である。例えば、「食事系」であれば、「食事」が該当し、先の意味記述における＜栄養を取るために、習慣的に毎日何度か食べる食べ物＞という意味特徴を表している。また、「秋葉系」であれば、「秋葉（秋葉原）」が該当し、先の意味記述における＜「秋葉原」という街＞という意味特徴を表している。そして、主体が X に関して有する何らかの百科事典的知識に基づいて、＜X らしさ＞を捉えることを、＜何らかのモノらしいと感じられる＞というメタ言語で表している。

なお、三宅（2006: 119-136）では、三宅の一連の研究を踏まえて、「命題の真偽に関する話し手の認識を表す意味成分」を「認識的モダリティ」と定義し、そのうち、「命題が真で

あるための証拠が存在すると認識する」ものを、「実証的判断<sup>77</sup>」として定義している。そして、実証的判断を表す認識的モダリティ表現の1つとして、三宅は「ラシイ」を挙げており、「ラシイ」には「「いかにも～ふさわしい」というような意味を表す接辞レベルのものも存在する」と述べている。その例として、三宅は以下のようなものを挙げています。

(40) 友人たちは、この私の発言を聞いて、いかにもあなたらしいと笑った。  
(三宅 2006:129)

(41) ただ心残りなのは、式らしい式も挙げず、内縁のまま終わってしまったことでした。  
(三宅 2006:130)

三宅はこれらの例について、「「ラシイ」に前接する名詞が持つ典型的な属性を表す」と述べており、このような用法を「ラシイ」の「典型的属性表示」としている。

以上の三宅の考察を踏まえると、意味⑥における [X+系] は、主体<sup>78</sup>が〈何らかのモノ〉の典型的な属性を捉える（〈何らかのモノ〉らしい特徴が感じられる）ことによって、対象とする〈複数のモノ〉をカテゴリー化していると考えられることから、〈何らかのモノらしいと感じられる特徴〉というメタ言語によって表している。例えば、「食事系」を例に述べると、〈典型的な「食事」らしい特徴〉とは、先にも述べたように、〈主食として食される食べ物が含まれている〉、〈野菜や肉類など、栄養価の高い食材が（バランスよく）含まれている〉、〈砂糖などは多く使わず、甘味がない〉、などが考えられる。そして、このような特徴が感じられる〈複数の食べ物〉が「食事系」によって表されるカテゴリーであるといえる。

また、三宅（2006:132）は、「典型的属性表示」用法の「[名詞] ラシイ」において、名詞の概念そのものと、その名詞の典型的な属性との間には、「近接的」な関係が成り立っており、「そのような「近接性」を保証しているのが、ラシイと言える」と述べている<sup>79</sup>。この

<sup>77</sup> さらに、三宅（2006:121）は「実証的判断」について、「命題の真偽を話し手の思考の中で直接、認識するのではなく、命題が真であるための証拠の存在を認識するということである。単に命題が真であると認めるための証拠が存在するということを認識しているだけであるので、結果として命題の真偽が不確定であることが表される。」と述べている。

<sup>78</sup> 本研究では、「主体」を〈何らかの（複数の）対象を、あるカテゴリーに位置付ける存在〉と定義する。

<sup>79</sup> この点について、三宅は「（いかにも）子どもらしい」という例を挙げ、「子ども」が持つ典型的な属性（「純真」「すぐ泣く」など）は、「子ども」という概念そのものにとって、「密接である」「目立つ」「容易に

点について、さらに「食事系」を例に見ると、<食べ応えのある量である>、<主食として食される食べ物が含まれている>、<野菜や肉類など、栄養価の高い食材が(バランスよく)含まれている>、<砂糖などは多く使わず、甘味がない>という諸々の特徴は、「食事」という名詞に密接に結びつく特徴であり、容易に類推できる(近接的な関係の)特徴であるといえる。つまり、「食事」とこのような諸特徴が近接的であることによって、「食事」らしいと感じられるのである。

なお、三宅(2006)では、「典型的属性表示」のように、一貫して「典型的」という表現が用いられているが、本研究における意味⑥の事例には(36)、(37)の「食事系」のように「典型的」な特徴によるケースのみではなく、(39)の「秋葉系」のように、「ステレオタイプの」な特徴に基づくケースも見られる。また、「理想的」な特徴に基づくケースも見られた。例えば、「昭和系」(居酒屋)の場合、その意味特徴はおよそ<昭和らしい懐かしさや郷愁を感じさせる>と記述できることから、「昭和(という時代)」における<懐かしさ>や<郷愁>という理想的な特徴に基づいたカテゴリー化であるといえる。

以上の考察を踏まえ、意味⑥を<何らかのモノ<sub>X</sub>らしいと感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリー>と記述する<sup>80</sup>。

なお、以下では意味⑥におけるカテゴリーの境界について述べる。意味⑥においては、個々の主体が対象とする<複数のモノ>に対して、<Xらしいと感じられる特徴>を捉えることによって、[X+系]というカテゴリーを形成している。つまり、[X+系]というカテゴリーの位置づけに関する条件は明確に規定されているものではなく、対象とする<複数のモノ>に対してXらしいと感じられるかどうかは個人差が出る場合もあるため、カテゴリーの境界は比較的不明瞭であると考えられる。

例えば、(38)では、「カレー」「ハヤシライス」「オムライス」などの料理に対して「洋食喫茶店系」と表されているが、これらの料理は<コーヒー・紅茶などの飲み物や、洋食の菓子・軽食を出す飲食店における料理の典型例である>という特徴を有するといえるもの

---

類推できる」ようなものである」と述べている。そして、「近接的」とは、このような「密接である」「目立つ」「容易に類推できる」ということを言い換えたものであるとしている。

<sup>80</sup> なお、中島(2010)では、「大人系」などの例を挙げて、「系」に前接する語に対するステレオタイプのものの見方が関わる用法として、「新しいカテゴリーの名付け」を挙げていた。さらに、「インディーズ系映画」などの例を挙げて、あるカテゴリーをその構成員のなかで最も典型的なものによって代表させる用法を「典型的なカテゴリー成員の焦点化」としていた。本研究における意味⑦は、これらの2つの用法が該当すると考えられる。

の、それはあくまで典型的な特徴であって、確実に全ての「洋食（を出している）喫茶店」で出されている料理であるという規定はできないため、このような特徴は「洋食喫茶店系」というカテゴリーの位置づけに対する必要十分条件ではないといえる。

また、(39)の「秋葉系」においても、「メガネ（をかけている）」「リュック（を背負っている）」などの特徴は、＜「秋葉原」（にいる特定の人々）らしいと感じられる特徴＞であるとはいえるものの、先にも述べたように「秋葉原」という街を構成する人々全般がこのような特徴を有しているとはいえないことから、「秋葉系」というカテゴリーの位置づけに対する必要十分条件ではなく、これらの特徴は主体の「秋葉原」という街や、その街によく来る人々に対しての評価に基づくものであり、その評価は個々の主体によって異なる（個人差がある）と考えられる。

以上の点から、意味⑥におけるカテゴリーの位置づけに関する条件は明確ではないといえることから、カテゴリーの境界は不明瞭であると考えられる。

### 3. 4. 7 意味⑦

はじめに、同種の意味特徴を有する主な例を(42)に提示する。

- (42) 草食系（男子、野球選手）、肉食系（男子、女子）、犬系（男子）、猫系（女子）、ベリー系（色）、ジャニーズ系（新入社員）、エグザイル系（男性）、ボカロ系（メロディー）、モデル系（美人）、アイドル系（女子）、二郎系（ラーメン店）、体育会系（会社、人）、文化系（人）、小悪魔系、塩系（インテリア）

次に、(42)に挙げた事例の中から3つの例を以下に示し、その意味について考察する。まず、(43)、(44)に「草食系」が用いられている例文を挙げる。

- (43) 最近、異性ととの交際に消極的な若者を「草食系」と呼び、恋愛論を語るブームが続いています。正確な統計などありませんが、草食系男子が増えているとの指摘もあります。  
（『朝日新聞』2010年7月10日 朝刊）

- (44) 浅尾拓也さん セ・リーグ優勝の立役者・プロ野球中日投手— アイドルのような童顔に、182センチ、71キロの細身の体。常に周囲に気を配り、お立ち台



に呼ばれたらもじもじしてしまう。見るからに「草食系男子」だが、今季全試合の半分近くに登板し、中継ぎ投手のプロ野球記録を三つ更新。中日を4年ぶりの優勝に導いた。  
(『朝日新聞』2010年10月2日 朝刊)

(43) では、「異性との交際に消極的な若者」に対して「草食系」と表されている。『明鏡(第二版)』によると「草食」とは、「草などの植物質を食物とすること。」とされており、そのような性質を持つ動物が「草食動物」とされている。しかし、「草食系」における「草食」に関しては、「草食(動物)」が「肉食(動物)」と比べて、<他の動物を襲わない>、<協調性がある>などの特徴に焦点が当たっていると考えられる。それによって、「異性との交際に消極的な若者」と「草食(動物)」から、<何らかの対象に対する積極性がない>というスキーマが抽出され、両者は互いに類似していると感じられることから、「草食(動物)」をメタファーとして用いることによって、当該の若者を「草食系」と表していると考えられる。

また、(44) では、「浅尾拓也」というプロ野球選手に対して「草食系」が用いられている。ここでは、当該の投手の特徴として、「アイドルのような童顔」、「182センチ、71キロの細身の体」、「常に周囲に気を配る」、「お立ち台に呼ばれたらもじもじしてしまう」ということが述べられている。このような特徴は、「草食系」というカテゴリーに位置づけられる人全般に共通する特徴ではないと考えられるものの、多くの成員が有すると(十分な根拠なしに)話者が見なしている特徴であると考えられる。そのため、話者個人の、「草食系」というカテゴリー自体へのステレオタイプ的な見方が関与しているケースであるといえる。つまり、(44) で述べられている個々の特徴が、話者にとって「草食系」というカテゴリーが有する特徴であると(十分な根拠なしに)捉えられ、それによって「浅尾拓也」という投手を「草食系」というカテゴリーに位置づけていると考えられる。

以上の点を踏まえると、「草食系」の意味は概略、以下のように記述できる。

### 「草食系」の意味

<草などの植物質を食物とする動物に喩えられる、異性との交際に消極的である、童顔である、細身である、常に周囲に気を配る、人前で恥ずかしがる、などの特徴を有する複数の人によって形成されるカテゴリー>

次に、「体育会系」が用いられている例文を(45)、(46)に挙げる。

- (45) 営業職は毎日忙しく、早く出て遅く帰るが当たり前の世界です。なので時には疲れから体調を崩したりすることも。ですが、私の会社は体育会系なので体調を崩すと「気が緩んでる」と言われます。1度インフルエンザになったので休むと連絡した時も、支店長から「それは気持ちがたるんでるから。やる気があればそんなことにはならない。」と言われました。

(<https://hiroshi-sasada.com/blog/sports-council/>)

- (46) 体つきががっちりしているので、スポーツをやっていたように思われてしまいます。体力があるだろうと勝手に思われたり、体育会系だと勘違いされたり。

(<https://style.nikkei.com/article/DGXMZO20875600X00C17A9W11300?channel=DF110520160091>)

「体育会」について、『明鏡 (第二版)』では、「大学で、運動部が組織する会」と記述されており、さらに「運動部に属する学生の気質や雰囲気などを「体育会系」という」と記述されている。一方、(45)では、「私」の勤め先である「会社」について「体育会系」と表されており、さらにそのような表現を用いている根拠として、「体調を崩すと「気が緩んでる」と言われる」と述べられている。すなわち、<体調を崩すと厳しい言葉をかけられる>という特徴が、大学の「体育会」(を組織する運動部に所属している人)に見られる気質のようである、と主体が捉えることによって、当該の会社が「体育会系」というカテゴリーに位置づけられていると考えられる。

また、(46)では、話者の体つきが「がっちりしている」ために、他者から「「体育会系」であると勘違いされる」ということが述べられている。つまり、運動部に所属している人は典型的には「体つきががっちりしている」という特徴を有していると考えられる。しかし、話者はスポーツをやっていない(運動部に所属していない)にも関わらず、「体つきががっちりしている」という特徴が見られることによって、「体育会系」として表されていると考えられる。

以上の点を踏まえると、「体育会系」の意味は概略、以下のように記述できる。

### 「体育会系」の意味

<「体育会」(を組織する運動部に所属している人)のようであると感じられる、体調を崩すと厳しい言葉をかけられる、体つきががっちりしている、などの特徴を有する複数の人や組織などによって形成されるカテゴリー>

次に、「二郎系」が用いられている例文を(47)に挙げる。

- (47) 私の住む地域には「ラーメン二郎」がないんですよ。二郎系はありますが、やはり物足りないお店が多いです。

(<http://www.zenmashiniki.com/entry/%E5%AE%B6%E4%BA%8C%E9%83%8E>)

(47) では「二郎系」が用いられているが、ここでの「二郎」とは、「ラーメン二郎」というラーメン店の名称を表している。「ラーメン二郎」とは、「メニューは豚の出汁を使った醤油ラーメンのみである」、「麺の量が多い」、「脂の多いスープ」、「大ぶりの厚切りチャーシュー」、「茹でたモヤシとキャベツが加えられる」といった特徴的なラーメンを出しているラーメン店である<sup>81</sup>。そして、「私の住む地域には「ラーメン二郎」がない」と述べられていることから、「ラーメン二郎」ではないが、「ラーメン二郎」のような上述の特徴を有する他のラーメン店はある、ということを話者は述べている。

以上の点を踏まえると、この場合の「二郎系」の意味は概略、以下のように記述できる。

### 「二郎系」の意味

<「ラーメン二郎」という名称の店(で出されているラーメン)に似ていると感じられる、メニューが豚の出汁を使った醤油ラーメンのみである、麺の量が多い、スープの脂が多い、厚切りのチャーシューが載っている、茹でたモヤシとキャベツが載っている、などの特徴を有する店(あるいはその店が出されているラーメン)によって形成されるカテゴリー>

その他、(42)に挙げた全ての例に共通する意味特徴を踏まえ、意味⑦を以下のように記述する。

---

<sup>81</sup> 参照 URL : <http://www.geocities.co.jp/Foodpia-Olive/3433/>

## [X+系] 構文の意味⑦

＜何らかのモノ<sub>x</sub>に類似していると感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリー＞

以下では、意味⑦の特徴について述べる。まず、＜何らかのモノ＞とは、「系」に前接する名詞 X によって動機づけられる意味特徴である。例えば、「草食系」であれば「草食」が相当し、先の意味記述における＜草などの植物質を食物とする動物＞という意味特徴を表している。また、「二郎系」であれば、「二郎」が相当し、先の意味記述における＜「ラーメン二郎」という名称のラーメン店＞という意味特徴を表している。

また、＜何らかのモノに類似していると感じられる＞とは、カテゴリー化される対象となる＜複数のモノ＞が、＜何らかのモノ＞と類似していることが、主体によって＜感じられる＞ことを表す意味特徴である。例えば、(43)における「草食系」であれば、対象とされる複数の若者が、＜異性との交際に消極的である＞という特徴を有することによって、主体が「草食(動物)」に喩えて、「草食系」というカテゴリーに位置づけられていると考えられる。また、(45)の「体育会系」であれば、「私」の勤め先である「会社」が、＜体調を崩すと厳しい言葉をかけられる＞という特徴を有することによって、話者（「私」）が「体育会」（を組織する運動部に所属している人）に見られる気質のようであると感じ、「体育会系」というカテゴリーに位置づけられていると考えられる。さらに、(47)の「二郎系」であれば、対象とする「店（で出されているラーメン）」が、＜メニューが豚の出汁を使った醤油ラーメンのみである、麺の量が多い、スープの脂が多い、厚切りのチャーシューが載っている、茹でたモヤシとキャベツが載っている＞といった特徴を有するものであることによって、話者が「ラーメン二郎」（で出されているラーメン）と似ていると感じ、「二郎系」と表されていると考えられる。

つまり、意味⑦は、「草食系」のように、＜Xに喩えられる＞ケースや、「体育会系」のように、＜Xのようであると感じられる＞ケース、「二郎系」のように、＜Xに似ていると感じられる＞ケースを含めて、＜何らかのモノに類似していると感じられる＞というメタ言語によって表している。

なお、意味⑦において＜何らかのモノに類似していると感じられる＞のは、意味⑥と同様に＜何らかのモノ＞に関する百科事典的意味を構成する、一般性の程度が完全ではない特

徴が大きく関わっていると考えられる。以下、この点については靫山 (2014) を参照する。靫山 (2014) は、「～のように/まるで～」といった、「ある種の直喩表現を適切に理解するのにも、一般性の程度が完全でない意味に注目する必要がある」と述べている。その例として、靫山 (2014) では以下のような例を挙げている。

(48) あの10年前の出来事は、今も昨日のことのように覚えている (靫山 2014:92)

靫山 (2014) は、この場合の「昨日のことのよう<sup>⑦</sup>に覚えている」について、およそ「鮮明に記憶に残っている」という意味を表しているが、このような特徴は全ての「昨日のこと」に当てはまるものではなく、典型的な「昨日のこと」が有するものとしている。つまり、直喩の理解において、ある表現が表すカテゴリーの典型例のみに当てはまる特徴を認める必要があると主張している<sup>82</sup>。

そして、このような指摘は直喩に限らず、[X+系] の意味⑦の理解においても当てはまるものと考えられる。例えば、(43) の「草食系」については、「草食 (動物)」が「他の動物を襲わない、協調性がある」という特徴を有することによって、「異性との交際に消極的な若者」が「草食 (動物)」に喩えられていると考えられるが、このような特徴のうち、特に「協調性がある」という特徴は、全ての「草食 (動物)」に当てはまる特徴ではないにも関わらず、十分な根拠なしに、多くの場合の「草食 (動物)」が有すると見なされている、ステレオタイプのな特徴であると考えられる。

また、(45) の「体育会系」については、「体育会 (を組織する運動部に所属している人々)」が、「体調を崩すと厳しい言葉をかけられる」という特徴を有することによって、「私の会社」が、「体育会 (を組織する運動部に所属している人々)」のようであるとみなされていると考えられるが、このような特徴は、全ての「体育会 (を組織する運動部に所属している人々)」に当てはまる特徴ではないにも関わらず、十分な根拠なしに、多くの場合の「体育会 (を組織する運動部に所属している人々)」が有すると見なされている、ステレオタイプのな特徴であると考えられる。また、(46) における「体育会系」については、「体つきががっちりしている」という特徴を有するが、このような特徴は「体育会 (を組織する運動部

<sup>82</sup> その他、靫山 (2014) では、ある種の直喩表現に関して、「顕著例」「理想例」「ステレオタイプ」のみが有する特徴を認める必要があることも指摘している。

に所属している人々)」の典型的な特徴であると考えられる。

以上の考察を踏まえ、意味⑦を<何らかのモノ<sub>X</sub>に類似していると感じられる特徴を有する複数のモノによって形成されるカテゴリー>と記述する。

なお、以下では意味⑦における [X+系] のカテゴリーの境界について述べる。意味⑦は、個々の主体が対象である<複数のモノ>に対して、Xとの類似性が感じられることによって、[X+系] というカテゴリーを形成している。つまり、意味⑥と同様に、[X+系] というカテゴリーの位置づけに関する必要十分条件を明確に規定はすることはできないといえることから、カテゴリーの境界は不明瞭であると考えられる。例えば、「体育会系」における、<体調を崩すと厳しい言葉をかけられる>という特徴は、先にも述べた通り、「体育会」（を組織する運動部に所属している人々）において見られる気質であると考えられているが、全ての「体育会」（を組織する運動部に所属している人々）がそのような気質であるわけではないため、ステレオタイプ的な特徴であるといえる。つまり、このような特徴は「体育会系」というカテゴリーの位置づけに関する必要十分条件を規定することはできないといえる。

以上により、意味⑦における [X+系] が表すカテゴリーの位置づけに対する条件は明確ではないといえることから、カテゴリーの境界は不明瞭であると考えられる。

### 3. 4. 8 意味⑧

はじめに、同種の意味特徴を有する主な例を (49) に提示する。

- (49) 混ぜる系 (ラーメン)、焼く系 (スイーツ)、蒸す系 (スイーツ)、揚げる系 (スイーツ)、温める系 (カクテル)、煮る系 (料理)、塗る系 (パック)、育てる系 (アプリ)、抱っこする系 (子どものあやし方)、冷蔵庫で固める系 (おやつ)、自分で作る系 (家電)、お肉を煮込む系 (料理)、パーマかけてる系 (男子)、頭に被る系 (コスプレアイテム)、身体を動かす系 (趣味)、発酵系 (微生物)、分解系 (微生物)、合成系 (微生物)、曲がる系 (球種)、落ちる系 (アトラクション)、打ち上がる系 (アトラクション)、立ち上がらない系 (パソコントラブル)、血管が詰まる系 (病気)、運動系 (習い事)、回転系 (サーブ)、独立系 (企業)

次に、(49) に挙げた事例の中から4つの例を以下に示し、その意味について考察する。まず、(50) に「混ぜる系」が用いられている例文を挙げる。

- (50) 最近、まぜそば・油そばなどの混ぜる系ラーメンにハマっており、その流れに乗って「汁なし担々麺」にしました！

(<https://ameblo.jp/santiago1947madrid/entry-12253321092.html>)

(50) では、「まぜそば」「油そば」「汁なし担々麺」などの、「ラーメン (麺料理)」に対して、「混ぜる系」と表されている。これらの料理には、主に注文客が食べる際に、<ソースやスープ、具材などを一つにとけ合うようにする>という行為を行うことが共通しており、そのような特徴によって「混ぜる系」と表されている<sup>83</sup>。つまり、「混ぜる」という行為の主体は主に「注文客」であり、行為の対象は「混ぜる系」というカテゴリーに位置づけられる個々の「ラーメン (麺料理)」であるといえる。

一方、「混ぜる系調理家電<sup>84</sup>」という場合の「混ぜる系」は、対象である「調理家電」が「混ぜる」という行為を行うため、行為の主体が「調理家電」であるといえる。このように行為の主体や対象の違いはあるものの、これら2つの実例から「混ぜる系」の意味を抽出すると、概略以下のように記述できる。

### 「混ぜる系」の意味

<性質や種類の異なるものを一つにとけ合うようにするという行為が関係している複数の具体物によって形成されるカテゴリー>

次に、「発酵系」が用いられている例文を (51) に挙げる。

- (51) EM に含まれる乳酸菌、酵母、光合成細菌などの発酵系微生物は有機物を発酵させる力を有します。EM で発酵分解した堆肥は容易に分解・吸収されやすく、また有用な成分を多く含むため、植物の生長を促進させます。水環境ではヘドロを

<sup>83</sup> 「混ぜる」の意味特徴については、「性質や種類の異なるものが一つにとけ合うようにする」という『明鏡 (第二版)』の意味記述を参照した。

<sup>84</sup> 用例出典：<http://simplelifeameda.hatenablog.jp/entry/2017/07/20/200400>

発酵させ、他の微生物や原生動物が食べやすい形へと変化させます。

(<https://www.emro.co.jp/how/>)

(51) では、「乳酸菌」「酵母」「光合成細菌」などの微生物に対して、「発酵系」と表されている。ここでは、「有機物を発酵させる力を有します」とあるように、「乳酸菌」などの個々の微生物が、「(有機物を) 発酵させる」という力を有しており、それによって当該の微生物を「発酵系」と表しているといえる。つまり、「発酵させる」という使役行為の主体が、「発酵系」というカテゴリーに位置づけられる個々の微生物であり、使役行為の対象は「有機物」であるといえる。

また、このような「発酵系」は、「…プーアル茶、発酵生姜、発酵黒タマネギ、酒粕等の発酵系の素材<sup>85)</sup>」のような実例にも見られた。これらの実例から「発酵系」の意味を抽出すると、概略以下のように記述できる<sup>86)</sup>。

#### 「発酵系」の意味

＜炭水化物・たんぱく質などの有機化合物を分解し、アルコール・有機酸・二酸化炭素などを生成する複数の微生物やそれらが含まれる素材などによって形成されるカテゴリー＞

次に、「曲がる系」が用いられている例文を (52) に挙げる。

- (52) スライダー、カーブなどの曲がる系の変化球がなかなか投げれないのは自分で曲げようとしているからです  
つまり、無意識に手首をひねっているのです (＝ (5) 再掲)

(52) は、「スライダー」「カーブ」と呼ばれる球種（投球）に対して、「曲がる系」と表されている。これはこれらの球種が、＜空中のある位置でボールの進行する方向が変化する

---

<sup>85)</sup> 用例出典：[http://glory-web.com/item/cat29/post\\_4.html](http://glory-web.com/item/cat29/post_4.html)

<sup>86)</sup> 「発酵」の意味特徴については、「細菌・酵母などの微生物が炭水化物・たんぱく質などの有機化合物を分解し、アルコール・有機酸・二酸化炭素などを生成すること。」という『明鏡（第二版）』の意味記述を参照した。



>という位置変化を伴うことに基づいて、「曲がる系」と表されていると考えられる<sup>87</sup>。つまり、「曲がる系」というカテゴリーに位置づけられる「スライダー」などの球種によって投げられる球が、「曲がる」という位置変化における主体であるといえる。

また、このような「曲がる系」は、「曲がる系のロッド<sup>88</sup>」、「曲がる系の替え刃<sup>89</sup>」のような実例にも見られた。これらの類例も含めて「曲がる系」の意味を抽出すると、概略以下のように記述できる。

### 「曲がる系」の意味

< (ある位置で) 進行する方向が変化する複数の具体物によって形成されるカテゴリー >

次に、「血管が詰まる系」が用いられている例文を (53) に挙げる。

- (53) トランス脂肪酸とは、植物性の油脂に人が水素を添加することで出来るものです。そうすることで、分子の構造が安定し、常温でも固体のまま、保存性が高まり酸化しにくくなるというメリットがあります。(略) これを長期にわたり摂りすぎると、LDL (悪玉) コレステロールを増やしHDL (善玉) コレステロールを減らしてしまいます。その結果、心筋梗塞や脳梗塞など血管が詰まる系の病気になりやすくなります。(http://chavcat.com/)

(53) では、「心筋梗塞」や「脳梗塞」などの病気に対して、「血管が詰まる系」と表されている。『明鏡 (第二版)』によると「心筋梗塞」とは、「心臓の冠状動脈に血栓などが生じ、閉塞や血流障害によって心筋が壊死する疾患」と記述されている。また、「脳梗塞」については、同じく『明鏡 (第二版)』によると、「脳の血管が狭くなったり詰まったりして、血液が流れなくなった部分の脳細胞が壊死に陥る病気」と記述されている。つまり、「血管が詰まる (さらに、血流障害が起きる)」という状態変化が関係していることに基づいて、このような病気を「血管が詰まる系」と表しているといえる。

<sup>87</sup> 「曲がる」の意味特徴については、「進む方向を変える。また、進む方向が変わる。」という『明鏡 (第二版)』の意味記述を参照した。

<sup>88</sup> 用例出典：http://wind.ap.teacup.com/bokutachi/583.html

<sup>89</sup> 用例出典：http://d.hatena.ne.jp/walter/20060901/1157101551

以上の点を踏まえると、「血管が詰まる系」の意味は概略、以下のように記述できる<sup>90</sup>。

### 「血管が詰まる系」の意味

＜何らかの要因によって血管がふさがれた状態となり、血液が通じなくなる複数の病気によって形成されるカテゴリー＞

その他、(49) に挙げた全ての例に共通する意味特徴も踏まえ、意味⑧を以下のように記述する。

### [X+系] 構文の意味⑧

＜ある行為や変化<sub>X</sub>が何らかのプロセスの一部として含まれる複数のモノによって形成されるカテゴリー＞

以下では、意味⑧の特徴について述べる。まず、＜何らかの行為あるいは変化＞という意味特徴については、「系」に前接する動詞（句）や動作性名詞である X によって動機づけられる意味特徴である。例えば、「混ぜる系」であれば、「混ぜる」であり、先の意味記述における＜性質や種類の異なるものを一つにとけ合うようにする＞という意味特徴を表している。また、「曲がる系」であれば、「曲がる」であり、先の意味記述における＜（ある位置で）進行する方向が変化する＞という意味特徴を表している。なお、＜行為＞という意味特徴は、「混ぜる系」の「混ぜる」のように、X が他動詞であるケースや、「発酵系」の「発酵」のように、動作性名詞が使役行為として表されるケースも含めて、何らかの＜行為＞を表すと考えられることによるものである<sup>91</sup>。一方、＜変化＞という意味特徴は、「曲がる系」の「曲がる」や、「血管が詰まる系」の「血管が詰まる」のように、X が自動詞であるケースは何らかの＜変化＞を表すと考えられることによるものである<sup>92</sup>。

<sup>90</sup> 「詰まる」の意味特徴については、「管状の通路がふさがれた状態になる。通じなくなる。」という『明鏡（第二版）』の意味記述を参照した。

<sup>91</sup> 日本語記述文法研究会（2009: 23）では、他動詞の例として「たたく」（「鈴木君が隣の席の女の子をたたいた。」）、「しかる」（「コーチが選手をしかった。」）などを挙げており、このような例も本研究における＜行為＞に相当するといえる。

<sup>92</sup> 日本語記述文法研究会（2009: 25）では、自動詞の例として「落ちる」（「柿の木が落ちた。」）を挙げており、このような例も本研究における＜変化＞に相当するといえる。

なお、上原 (2010: 24-38) では、Langacker (1987, 1991) などを踏まえ、「動詞は概念的に他の概念に依存する「関係概念(relation)」(の一つ)である」と述べている。上原は、例えば「食べる」という動詞であれば、「食べる人」「食べられる物」などの、「食べる」という動詞の指示する行為における広義の参加者が前提として想起されなければならないとし、「その点で、動詞はその概念成立をその参加者の概念の存在に依存(概念的依存)しており、動詞が「関係概念」であるというのは、それら参加者間の関係性(動作主と被動者の関係など)をその概念内容として指示する(表す)からである」としている。

この点を踏まえると、意味⑧における [X+系] は、Xによって表される<行為や変化>と、その主体や対象である<複数のモノ>との間における「関係概念」を表していると考えられる。例えば、「混ぜる系」(ラーメン)であれば、<性質や種類の異なるものを一つにとけ合うようにする>という<行為>の対象が、「まぜそば」などの個々の麺料理であり、そのような関係性によって「混ぜる系」と表されているといえる。また、「曲がる系」(球種)であれば、<(ある位置で)進行する方向が変化する>という<変化>の主体が、「スライダー」などの個々の球種であり、そのような関係性によって「曲がる系」と表されているといえる。つまり、意味⑧は、何らかの<行為あるいは変化>の主体や対象となる<複数のモノ>がカテゴリー化されるケースであるといえる。

以上の考察を踏まえ、意味⑧を<ある行為や変化<sub>x</sub>が何らかのプロセスに含まれる複数のモノによって形成されるカテゴリー>と記述する。なお、山下 (2015: 118-120)では、「農業手伝い系」などの例について、「人や集団が(略)習慣的にある行動や行為をする特徴や傾向があることを表す」と記述されている。しかし、このような<行為や変化>に基づいてカテゴリー化される対象は<人>に限らず、先に挙げたように<具体物>を表す例も存在するため、そのようなものも含めて本研究では1つの意味(=意味⑧)として分類、記述した。

なお、意味⑧におけるカテゴリーの境界について検討してみると、カテゴリーの境界は比較的明瞭であると考えられる。例えば、「混ぜる系」における「混ぜる」という<行為>は、行為の対象である「ラーメン」に対して、行為の主体である「注文客」が行う行為であり、その行為を行わなければ、「混ぜる系」と表すことはできない。そのため、「混ぜる系」というカテゴリーに位置づけられる条件が明確であるといえる。また、「曲がる系」における「曲がる」という<変化>についても、変化の対象である「スライダー」「カーブ」と呼ばれる「球種」が、「曲がる」という<変化>を伴うことによって実現されるものであるため、そ

の変化が起こらなければ、「曲がる系」と表すことはできない。そのため、「曲がる系」というカテゴリーに位置づけられる条件が明確であるといえる。

### 3. 4. 9 意味⑨

はじめに、同種の意味特徴を有する主な例を (54) に提示する。

- (54) かわいい系 (ピンクのガーベラ)、甘い系 (梨)、意識高い系 (人)、キレイ系 (女子)、さわやか系 (香り)、清楚系 (女の子)、便利系 (アイテム)、元気系 (アイドル)、地味系 (おかず)、残念系 (イケメン)、迷惑系 (YouTuber)、無理系 (仕事)、ナチュラル系 (雑誌)、がつつり系 (料理)、あっさり系 (スープ)、ゆるふわ系 (女子)、キラキラ系 (女子)、フワフワ系 (蒸しパン)、モチモチ系 (蒸しパン)、ポロポロ系 (蒸しパン)、癒し系 (音楽)、萌え系 (イラスト)、味わい系 (発泡酒)、モテ系 (服)、ヴィジュアル系 (バンド)

次に、(54) に挙げた事例の中から4つの例を以下に示し、その意味について考察する。まず、(55) に「かわいい系」が用いられている例文を挙げる。

- (55) 深い赤色バラとかわいい系のピンクのガーベラに、ひとつだけさりげなく深い赤色のガーベラを添えて、小さなバラのつぼみで軽さを出してある、とてもあまーい雰囲気 ウェルカムボードです。バラの花びら感がたくさんあってひらひらとキュートでありながら、ちょっと大人な雰囲気も漂わせてカッコかわいく仕上がっています。(http://www.floralshop.jp/index.php/products/detail/365)

(55) では、ウェルカムボードに付けられる「ピンクのガーベラ」について「かわいい系」と表されている。この場合の「かわいい」という形容詞の意味について検討してみると、およびよくある具体物の外見に愛らしさを感じられるさま<sup>93</sup>>と記述できる。つまり、ここでは、

<sup>93</sup> 「かわいい」の意味特徴については、『明鏡 (第二版)』による「かわいい」の項目にある「外見・しぐさ・性格行動様式などがほほえましく、愛情を感じさせるさま。愛らしい。愛くるしい。可憐だ。」という意味記述を参照した。

対象である「ピンクのガーベラ」に対して、〈外見の愛らしさ〉という、話者にとって好ましいとされる特徴に基づいて、「かわいい系」と表されているといえる。

また、「かわいい系」は、「球の部分がアイスクリームや動物になっているけん玉ストラップなど、かわいい系のけん玉グッズ<sup>94</sup>」、「祭り見物に「かわいい系」浴衣人気<sup>95</sup>」のような実例にも見られた。このように、何らかの〈(人間以外の) 具体物〉の外見について「かわいい系」が用いられる場合、その意味は概略、以下のように記述できる。

### 「かわいい系」の意味

〈外見の愛らしさが感じられる複数の具体物によって形成されるカテゴリー〉

次に、「地味系」が用いられている例文を(56)に挙げる。

- (56) 伊藤さんは、娘が高校を卒業するまで10年間、お弁当をつくり続けた。その経験は『おべんと帖 百』や『おべんと探訪記』（いずれもマガジンハウス）にまとめられている。紹介されているお弁当は、おひたし、里芋の煮物、ひじきの煮物など“地味系”のおかずが多いが、どれもおいしそう。

(『週刊朝日』2018年4月6日)

(56) では、ある書籍に紹介されている「おひたし」「里芋の煮物」「ひじきの煮物」などの「お弁当のおかず」に対して、「地味系」と表されている。ここでは、このような一連のおかずに対して、「お弁当のおかずとしては見た目の華やかさに欠けており、地味である」という、話者にとっては好ましくないとされる評価に基づいて、「地味系」と表されていると考えられる。なお、このように評価がなされるのは、「お弁当のおかずは彩鮮やかで華やかな見た目のものがよい」という、ステレオタイプ的な見方が関わっていると思われる。つまり、このような見方に基づくと、「おひたし」や「里芋の煮物」などのおかずは華やかさがないと評価され、「地味系」と表されていると考えられる。

また、「地味系」は「スノーボードウエアは黒や茶といった落ち着いた色のある「地味系」が

<sup>94</sup> 用例出典：『朝日新聞』2014年11月18日 朝刊

<sup>95</sup> 用例出典：『朝日新聞』2006年7月8日 朝刊

主流だった(略)<sup>96</sup>、「私は滋賀県民です。関西の中では地味系でパツとせず、「琵琶湖しかない」と言われます。<sup>97</sup>」のような実例にも見られた。このように、<何らかのモノ<sup>98</sup>>に対して「地味系」が用いられる場合、その意味は概略、以下のように記述できる。

### 「地味系」の意味

<見た目に華やかさがなく、目立たないと感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリー><sup>99</sup>

次に、「がつつり系」が用いられている例文を(57)、(58)に挙げる。

- (57) 高まるヘルシー志向にあらがうかのように、カロリー高めdegがつつり系、しかもパパツとできるレシピの人气が盛り上がっている。マヨネーズがけご飯に、レトルトのミートソース、ピザ用のチーズを載せて焼く。沸かした豆乳で、そうめんをゆで、仕上げは食べるラー油とネギ。

(『朝日新聞デジタル』 2017年7月8日)

- (58) たっぷりのジューシーな国産豚バラ肉と、素揚げしてからおぼダレに漬け込み、ほっくりと焼きあげるにんにくがゴロゴロっと5つのは、スタミナたっぷりのがつつり系。 (<http://obo-ya.com/menu1.php>)

(57)、(58)では、共にある料理に関して、「がつつり系」が用いられている。

まず、(57)では、「マヨネーズがけご飯にレトルトのミートソース、ピザ用のチーズを載せて焼いたもの」や、「沸かした豆乳でそうめんをゆで、食べるラー油とネギをかけたもの」といった創作料理に対して、<食べ応えがある>という、話者にとって好ましいとされる特徴によって、「がつつり系」と表していると考えられる。そして、(58)では、ある店舗で提供されている「豚丼」について述べているが、当該の豚丼について、「たっぷりのジューシ

<sup>96</sup> 用例出典：『朝日新聞』2007年12月6日 朝刊

<sup>97</sup> 用例出典：『朝日新聞』2017年6月10日 朝刊

<sup>98</sup> ここでは、「滋賀県」という<空間領域>についても、<モノ>というメタ言語によって表している。

<sup>99</sup> 「地味」の意味特徴については、「形や模様などにはなやかさがなく、目立たないこと。また、そのさま。」という、『大辞泉』の意味記述を参照した。

「な国産豚バラ肉」が使われており、さらに「素揚げしてからおぼダレに漬け込み、ほっこりと焼きあげるにんにく」が5つのっていることによって、「スタミナたっぷり」であると述べられている。つまり、当該の豚丼が「いかにも体力のつきそうな、食べ応えのある食材と量が含まれている」という、話者にとって好ましいとされる特徴を有していることによって、「がっつり系」と表されていると考えられる。

以上の点を踏まえて、このような料理について「がっつり系」が用いられる場合、その意味は概略、以下のように記述できる。

### 「がっつり系」の意味

＜確かな食べ応えが感じられる複数の料理によって形成されるカテゴリー＞<sup>100</sup>

次に、「癒し系」が用いられている例文を (59) に挙げる。

(59) 寝つきが悪いときに癒し系の音楽を流せば、リラックスして眠れると聞く。

だが本当に、音楽に人を眠らせる力なんてあるのだろうか。

(<https://oshiete.goo.ne.jp/watch/entry/c76ab5c2c571ae26f03e7c85539f290d/>)

(59) では、「寝つきが悪いときにリラックスして眠れる音楽」に対して、「癒し系」という表現が用いられている。「癒し系」は『大辞泉』において、「安らぎを感じさせる人や物をいう」と記述されている。このような意味記述を踏まえると、(59) では当該の音楽について、＜安らぎを感じることができる＞という、それを聞いた人物にとって好ましいとされる特徴を有していることによって、「癒し系」と表されているといえる。

さらに、「癒し系」は、「マレーシア新首相は癒し系ナイスガイ<sup>101</sup>」や「癒し系キャラクター<sup>102</sup>」のような実例にも見られた。このように、人や音楽、キャラクターといった何らかの＜モノ＞について「癒し系」が用いられる場合、その意味は概略、以下のように記述できる。

---

<sup>100</sup> 「がっつり」の意味特徴については、「確かな手応えが感じられるさま。」という、『明鏡 (第二版)』の意味記述を参照した。

<sup>101</sup> 用例出典：『週刊アエラ』2003年11月17日

<sup>102</sup> 用例出典：『朝日新聞』2010年3月12日 朝刊

### 「癒し系」の意味

＜人が五感によって安らぎを感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリー＞

その他、(54) に挙げた全ての例に共通する意味特徴を踏まえ、意味⑧を以下のように記述する。

### [X+系] 構文の意味⑨

＜何らかの評価的特徴<sub>x</sub>が感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリー＞

以下では、意味⑨の特徴について述べる。まず、＜何らかの評価的特徴＞とは、「系」に前接する X によって動機づけられる意味特徴であり、「かわいい系」における「かわいい」のように、X に形容詞を取るケースや、「地味系」における「地味」のように、X に形容動詞を取るケース、また「がっつり系」における「がっつり」のように、X に副詞を取るケース、「癒し系」における「癒し」のように、X に動詞連用形による転成名詞を取るケースを含めて、ここでは＜何らかの評価的特徴＞というメタ言語によって表している。

具体的には、例えば「かわいい系」における「かわいい」であれば、先の意味記述において、＜外見の愛らしさが感じられる＞という意味特徴を表している。そして、このような意味特徴は主体にとっての＜好ましさ＞を表しており、対象を何らかの認知能力によって捉えることによってなされる評価であるといえる。例えば、(55) であれば、対象である「ピソクのガーベラ」に対して、主に視覚に基づいて＜愛らしさが感じられる＞ことによって、「かわいい系」と表されているといえる。また、「地味系」における「地味」であれば、先の意味記述における、＜華やかさがなく、目立たないと感じられる＞という意味特徴を表している。そして、このような意味特徴は主体にとっての＜好ましくなさ＞を表しており、例えば、(56) であれば、対象である「おかず」に対して、主に視覚に基づいて＜華やかさがなく、目立たないと感じられる＞ことによって、「地味系」と表されているといえる。そして、「癒し系」における「癒し」であれば、先の意味記述における、＜人が安らぎを感じられる＞という意味特徴を表している。そして、このような意味特徴は主体にとっての＜好ましさ＞を表しており、例えば、(59) の「癒し系の音楽」であれば、対象である「音楽」に対し、聴覚に基づいて＜人が安らぎを感じられる＞ことによって、「癒し系」と表されているといえる。



さらに、次の (60) における「フワフワ系」「モチモチ系」「ポロポロ系」は、触覚に基づく < (食感に対する) 好ましき > を表すケースであり、(61) における「甘い系」は、味覚に基づく < (味に対する) 好ましき > を表すケースである。

- (60) 一口食べた時の印象は「他の蒸しパンと何か違う?!」でした。(略) この食感は、「熟成美味しい蒸しパンリッチ」や「夕張メロン蒸しパン」などのフワフワ系食感ではなく、「ミルクキャラメル蒸し」や「鳴門金時芋蒸し」のようなモチモチ系食感でもない、ポロポロ系の食感だと思います。

(<http://snack-time.sblo.jp/article/46436356.html>)

- (61) 概観はとても美しい均整の取れた洋ナシです。錆が出やすいけれど全体は黄色。日に当たると赤い着色もします。果肉は柔らかくなめらかで、味は甘い系です。

(<http://kitakazoku.web.infoseek.co.jp/nasi/nasinohanasi.html>)

つまり、意味⑨は、主体が何らかの認知能力に基づいて、対象である < 複数のモノ > に対する、< 好ましきあるいは好ましくなさ > に関する < 評価的特徴が感じられる > ことによって形成されるカテゴリーであるといえる。以上の考察を踏まえ、意味⑨を < 何らかの評価的特徴<sub>x</sub> が感じられるという特徴を有する複数のモノによって形成されるカテゴリー > と記述する。

なお、意味⑨は、当該の [X+系] を用いる主体が、対象である < 複数のモノ > に対して、何らかの < 評価的特徴が感じられる > ことに基づいて、1つのカテゴリーとして形成するケースであることから、他の意味に比べて、主体個人の捉え方が最も関与するケースであり、カテゴリーの境界は不明瞭であると考えられる。例えば、以下の「かわいい系」の実例については、対象である「私」への評価が、主体によって異なっているケースであるといえる。

- (62) 共通の知人に紹介する前に私のことを「かわいい系」と紹介したらしい。初対面で「えっ」て顔されたから、なんにでもかわいいって言えばいいってのはやめろ。

(<http://sagisou.sakura.ne.jp/~sakuchin/kazumi/06/05.html>)

(62) では、話者である「私」を、「(他者に) 紹介した人物」が、「私」のことを「かわいい系」と表している。しかし、「初対面で「えっ」て顔された」とあるように、「私」を

紹介された人物」は「私」を「かわいい系」というカテゴリーにはそぐわないと判断した、と「私」は思っているために、「なんにでもかわいって言えばいいってのはやめろ」と述べていると考えられる。つまり、「私」と「「私」を紹介した人物」、さらに「「私」を紹介された人物」との間では、「かわいい(系)」という評価に差があるといえる。

このように、意味⑨における [X+系] は、対象への評価が個々の主体によって異なるケースであることから、[X+系] によって表されるカテゴリーに位置づけられる条件は明確ではないといえる。そのため、他の意味と比べて、相対的にカテゴリーの境界が最も不明瞭であると考えられる。

以上、3.4節では、[X+系] 構文における多義性について検討した。

### 3. 5 [X+系] 構文のメトニミー的用法

前節において検討したように、[X+系] 構文は9つの意味全てに共通して、<何らかの特徴を有する対象 Y によって形成されるカテゴリー>を表していると考えられる。一方で、以下の実例のように、[X+系] が<カテゴリー>を表すのではなく、<当該のカテゴリーに含まれる対象 Y>そのものを表すケースも存在する。

- (63) ラスヴェガス行のバスの横に、順序良く並んでいた人々の列の最後部につき、見回すと、中流階級以上の白人といった人はほとんど見当らず、約半数が黒人であり、他にメキシコ系、インディアン系などもいた。 (= (21) の再掲)

(63) の「メキシコ系」「インディアン系」は、意味③の事例として提示したものである。ここでは、カテゴリー化される対象 Y の要素は例文内に言語化されておらず、省略されている。しかし、「バスの横に並んでいた人々」について述べられていることと、「他にメキシコ系、インディアン系などもいた」とあることから、ここでの Y は<人>であることがわかる。そして、動詞の「いる」が共起しており、その格成分である<存在の主体>を「メキシコ系」「インディアン系」が表しているといえる。つまり、対象 Y が言語化されていなくとも、「メキシコ系」というカテゴリーによって<メキシコ合衆国を出自とする人(々)>を、「インディアン系」というカテゴリーによって<アメリカ大陸の先住民族を出自とする人々>を表しているということである。このようなケースは、< [X+系] というカテゴリ

一>によって、< [X+系] に含まれる対象 Y>を表しているといえることから、[X+系] がメトニミー的に用いられていると考えられる。本研究ではこのような用法を「メトニミー的用法」と呼ぶ。

なお、「メトニミー的用法」は、カテゴリー化される対象 Y が文脈内において言語化されておらず、省略されているという特徴があるが、第2章6.2節で述べたように、多門(2018: 772)では、換喩(メトニミー)の使用因として、表現の省略への志向があることを指摘している。そのため、このような「省略」はメトニミーにおける重要な動機づけの1つであると考えられる。

さらに、以下のような例もメトニミー的用法であるといえる。

(64) 魚介の旨みがたっぷり詰まったシーフードパスタを作ってみませんか？今回は、シーフードミックスを使ったお手軽レシピから、トマト風味、クリーム系のレシピまでボリュームたっぷりにご紹介！ (https://macaro-ni.jp/41404)

(65) 近くの健診センターと言えば、刈谷豊田総合病院健診センターです。(略)  
最近健診センターを含めて病院全体をリニューアルされて大変綺麗で最新の機器がそろった総合病院です。豊田と名前がついていますので、バックはトヨタグループです。刈谷市にはトヨタ自動車大元の豊田自動織機・デンソー・アイシンさんなど本社がありトヨタ系の社員さんもたくさんいらっしゃるので社員さんの福利厚生や社会貢献としての病院の位置づけだと思います。

(http://kamisei.co.jp/news/7802)

(64) では、「クリーム系のレシピ」と述べられている。また、例文内で「シーフードパスタ」について述べられていることから、ここでの「レシピ」とは、実際には「(シーフードパスタの) レシピ」を指しているといえる。そして、ここでの「クリーム系」は、およそ<生クリームや牛乳などが使われているクリーム状のソースを構成要素として含んでいる(複数の)パスタ料理>と記述できることから、意味①の実例であるといえる。つまり、「クリーム系」という<カテゴリー>によって、<「クリーム系」というカテゴリーに位置づけられるパスタ料理>そのものを表しているといえることから、(64) はメトニミー的用法であるといえる。

また(65) では、「トヨタ系の社員」と述べられている。「トヨタ系」は、本章4.2節で

述べたように、<「トヨタ自動車」を中核とするグループに属している複数の企業>と記述できることから、意味②の実例である。そして、ここでは「トヨタ系」という<カテゴリー>によって、<「トヨタ系」というカテゴリーに位置づけられる企業>そのものを表しているといえることから、(65) のような例もメトニミー的用法であるといえる。

以上、[X+系] 構文におけるメトニミー的用法について述べた。なお、本節では意味①、意味②、意味③における実例に基づいて考察したが、このような用法は [X+系] 構文における全ての意味において見られる用法であるといえる。

### 3. 6 [X+系] 構文における意味拡張の方向性

本節では [X+系] という形式が構文として有すると考えられる 9つの意味の相互関係について検討する。まず、前節までに検討した、意味①から意味⑨までの各意味記述とその主な事例を表4に再掲する。

表4：[X+系] 構文の9つの意味とその主な事例

意味①	<何らかのモノ <sub>x</sub> を構成要素として含む複数のモノによって形成されるカテゴリー> 例：生薬系（入浴剤）、太陽系（惑星）、外資系（企業）など
意味②	<何らかの組織 <sub>x</sub> を中核とするグループに属する複数の組織によって形成されるカテゴリー> 例：トヨタ系（企業）、テレビ朝日系（テレビ局）、自民党系（会派）など
意味③	<何らかの空間領域や血筋 <sub>x</sub> を出自（あるいは出所）とする複数のモノによって形成されるカテゴリー> 例：メキシコ系（人）、インディアン系（人）、アジア系（作家）、家庭系（ごみ）など
意味④	<何らかの分野 <sub>x</sub> に特化した複数のモノによって形成されるカテゴリー> 例：医療系（仕事）、交通系（ICカード）、舞台系（照明技術）、映像系（照明技術）など
意味⑤	<何らかの（総称によって表される）類 <sub>x</sub> に属する複数のモノによって形成

	<p>されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：循環器系（器官）、柑橘系（果物）、クッキー系（お菓子）、ピンク系（色）など</p>
意味⑥	<p>&lt;何らかのモノ<sub>x</sub>らしいと感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：食事系（料理、菓子）、洋食喫茶店系（料理）、秋葉系（ファッション）など</p>
意味⑦	<p>&lt;何らかのモノ<sub>x</sub>に類似していると感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：草食系（若者）、体育会系（会社）、二郎系（ラーメン店）など</p>
意味⑧	<p>&lt;ある行為や変化<sub>x</sub>が何らかのプロセスの一部として含まれる複数のモノによって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：混ぜる系（ラーメン）、発酵系（微生物）、曲がる系（球種）、血管が詰まる系（病気）など</p>
意味⑨	<p>&lt;何らかの評価的特徴<sub>x</sub>が感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：かわいい系（ピンクのガーベラ）、地味系（おかず）、がっつり系（料理）、癒し系（音楽）など</p>

以下では、第2章6.3節で述べた靱山（2021）が提案する「多義語分析の課題」に基づいて、課題2に相当するプロトタイプの意味の認定、及び課題3に相当する各意味の相互関係の明示について検討する。

### 3. 6. 1 [X+系] 構文におけるプロトタイプの意味の認定

まず、李（2020: 154）が指摘しているように、プロトタイプの意味の認定の問題を巡っては様々な観点から考察されてきている。例えば、靱山（2021: 69）では、第2章6.3節で述べたように、プロトタイプの意味を「ある言語のある語の複数の意味の中で、母語話者（の大半）にとって、最も基本的な意味であると直観的に感じられる意味」と規定しており、

特にこのようなプロトタイプの意味を「直観的プロトタイプ」と呼んでいる。そして、直観的プロトタイプは、「用法上の制約がない、あるいは（相対的に）少ない意味と対応する」と述べられている。

また、瀬戸（2007: 47）では、プロトタイプの意味と類似する概念である「中心義」について、「共時的な多義ネットワークの中心に位置する意義であり、その出発点となる意義である」とした上で、「中心義は、文字通りで、母語話者の頭の中で中心的であると想定される意義である。つまり、ほかの意義を理解する上での前提となり、具体性（身体性）が高く、認知されやすく、想起されやすく、用法上の制約を受けにくい。それゆえ、意義展開の起点（接点）となることがもっとも多い意義である」と述べられている。

また、松本（2009）では、多義語の中心的意味<sup>103</sup>には「概念的中心性」と「機能的中心性」という2つの性質があることを述べており、それぞれの性質について具体例の考察を踏まえて論じている。この中で、「多義語の構造において、他の個別的意味の派生の基盤となるような、概念的に最も基本的な意味を中心に据えた方が、カテゴリーの構成のためには有益」とし、これを「概念的中心性」と呼んでいる。一方、「一番よくアクセスする意味を中心に据えた方が、伝達活動のためには有益」とし、これを「機能的中心性」と呼んでいる。

これらの先行研究を踏まえて、以下では [X+系] 構文におけるプロトタイプの意味について検討する。まず、用法上の制約という点では、カテゴリー化される対象が〈組織〉に限定される意味②と、Xの品詞が多くの意味で名詞である中、Xが動詞であるケースが基本である意味⑧、そして、Xの品詞が形容詞や形容動詞などであるケースが基本である意味⑨は、用法上の制約があるといえる。そして、[X+系]の9つの意味は全て何らかの〈カテゴリー〉を表すという点が共通していることを踏まえると、より基本的なカテゴリーは〈ある成員が当該のカテゴリーに該当するかどうか判断されやすい共通性を有するカテゴリー〉であり、このような特徴を有する意味が、より具体性が高く、認知されやすいといえる。つまり、「意味特徴の具体性が最も高く、より明確な条件に基づく、境界が明瞭なカテゴリーを表す意味」が、[X+系] 構文におけるプロトタイプの意味であると考えられる。このことを踏まえると、〈あるモノを構成要素として含む〉という意味特徴を有する意味①が、最も

<sup>103</sup> 松本（2010: 89）では、「中心的意味はしばしばプロトタイプの意味とも呼ばれる」と述べられているため、中心的意味とプロトタイプの意味は同類の概念であると考えられる。

概念的に基本的な意味、つまり、派生（拡張）の基盤となる意味であり、松本（2009）が述べる概念的な中心性を有する意味であると考えられる。

以上の点から、本研究では意味①を [X+系] 構文におけるプロトタイプ的意味として認定する<sup>104</sup>。

### 3. 6. 2 [X+系] 構文における各意味の相互関係の明示

本節では、[X+系] 構文における各意味の相互関係について検討する。なお、以下では、前節のプロトタイプ的意味の認定と同様に、「用法上の制約」、「意味特徴の具体性」、「カテゴリーの境界の明瞭さ」といった点から、意味拡張の方向性を検討する。また、結論から先に述べると、メタファー、シネクドキー、メトニミーという3種の比喻のうち、[X+系] 構文の意味拡張に關与する比喻はメタファーのみである。そのため、本研究で提示する [X+系] 構文の多義構造は「スキーマティック・ネットワークモデル」に基づくものである。以下では、各意味から抽出できるスキーマとメタファーによる意味拡張の方向性について述べる。

はじめに、意味①と意味②の相互関係について検討する。

まず、意味①は、〈何らかのモノ〉が対象である〈複数のモノ〉に〈構成要素として含まれている〉ということに基づいて、〈複数のモノ〉がカテゴリー化されるケースである。また、意味②は、〈何らかの組織を中核とするグループに属している〉ことに基づいて、〈複数の組織〉がカテゴリー化されるケースである。この2つの意味からは以下のようなスキーマが抽出できる（これを「スキーマ A」とする）。

#### スキーマ A（意味①と意味②）

〈何らかの存在を含む複数の存在によって形成されるカテゴリー〉

このような共通点はあるものの、両者の意味の具体性に関しては違いが見られる。まず、意味①は「生薬系」（入浴剤）のように、典型的には〈何らかの具体物が構成要素として含まれている〉という、極めて具体性の高い特徴によってカテゴリー化されるケースである。

<sup>104</sup> なお、[X+系] 構文における機能的中心性に関しては、今後慎重に検討していきたい。

一方、意味②は〈何らかの組織を中核とするグループに属する〉という特徴によってカテゴリー化されるケースである。そのため、意味①のほうが、視覚や触覚によって知覚することが可能なく具体物〉を意味特徴として含んでおり、意味②の〈組織〉という意味特徴は、具体性がやや劣るといえる。

以上の点を踏まえると、意味①のほうがより基本的であると考えられる。このことから、意味①から意味②という方向性で、メタファーによって拡張していると考えられる。

次に、意味①と意味③の相互関係について検討する。

まず、意味①の特徴は先に述べた通りである。一方、意味③は、〈何らかの空間領域あるいは血筋を出自とする〉という特徴を有している〈複数のモノ〉を1つのカテゴリーとして形成するケースである。そのため、この2つの意味からは以下のようなスキーマが抽出できる（これを「スキーマB」とする）。

#### スキーマB（意味①と意味③のスキーマ）

##### 〈何らかの存在をルーツとする複数のモノによって形成されるカテゴリー〉

このような共通点はあるものの、各意味の〈ルーツ〉における具体性は異なる。つまり、意味①は〈（物理的な）構成要素としてのルーツ〉であり、意味③は〈出自（出所）としてのルーツ〉であるため、後者のほうがより抽象的であると考えられる。

さらに、意味③に関しては、例えばある人物Aの祖先がメキシコ人であるという場合、「Aの遠い祖先はメキシコ人らしいので、彼もメキシコ系といえればメキシコ系だ」という状況が想定できるが、同じ人物に対して、「Aの遠い祖先はメキシコ人らしいが、もはやメキシコ系とは言い難い」という状況も考えられる。つまり、実際に〈メキシコ合衆国を出自とする〉という意味特徴を有する場合であっても、対象とする人物の外見的特徴や母語などから、〈メキシコ合衆国を出自とする〉という特徴がもはや感じられない場合、当該の人物を「メキシコ系」というカテゴリーに含めないとするケースも想定できる。そのため意味③では、ある対象を当該のカテゴリーに含めるかどうかに関して、主体個人の判断に基づくケースも含まれると考えられる。

以上の点を踏まえると、意味①のほうがより基本的であると考えられる。このことから、意味①から意味③という方向性で、メタファーによって拡張していると考えられる。

次に、意味③と意味④の相互関係について検討する。



意味③については先に述べたとおりである。一方、意味④は、<何らかの分野に特化している>ということによって<複数のモノ>を1つのカテゴリーとして形成するケースである。この2つの意味からは以下のようなスキーマが抽出できる（これを「スキーマC」とする）。

#### スキーマC（意味③と意味④のスキーマ）

<何らかの範囲に含まれる複数のモノによって形成されるカテゴリー>

このような共通点はあるものの、意味③の<空間領域>あるいは<血筋>という具体性の高い<範囲>であり、意味④の<分野>は、ある学問や職業などにおける抽象的な<範囲>であるといえる。

以上の点を踏まえると、意味③のほうがより基本的であるといえる。このことから、意味③から意味④という方向性で、メタファーによって拡張していると考えられる。

次に、意味②と意味⑤の相互関係について検討する。

意味②については先に述べた通りである。一方、意味⑤は、<何らかの（総称によって表される）類に属する>ことによって、<複数のモノ>を1つのカテゴリーとして形成するケースである。この2つの意味からは以下のようなスキーマが抽出できる（これを「スキーマD」とする）。

#### スキーマD（意味②と意味⑤のスキーマ）

<何らかの存在に帰属する複数の存在によって形成されるカテゴリー>

このような共通点はあるものの、意味②と意味⑤では、カテゴリーの境界の明瞭さが大きく異なっている。意味②については、本章4.2節で述べたとおり、<何らかの組織を中核とするグループに属する>という意味特徴を含んでいるため、[X+系]における意味の中でも極めてカテゴリーの境界が明瞭であるといえる。そして、意味⑤については、本章4.5節で述べたように、「循環器系」などの比較的カテゴリーの境界が明瞭なケースと、「ピンク系」などの極めてカテゴリーの境界が不明瞭なケースがどちらも含まれている。つまり、カテゴリーの境界が明瞭である意味②のほうが、ある対象があるカテゴリーに含まれるか否かの判断がしやすい（明確に判断できる）カテゴリーを形成していると考えられる。

以上の点を踏まえると、意味②のほうがより基本的であるといえる。このことから、意味②から意味⑤という方向性で、メタファーによって拡張していると考えられる。

次に、意味④と意味⑥の相互関係について検討する。

意味④については先に述べた通りである。一方、意味⑥は、〈何らかのモノらしいと感じられる特徴〉によって、〈複数のモノ〉を1つのカテゴリーとして形成するケースである。この2つの意味からは以下のようなスキーマが抽出できる（これを「スキーマ E」とする）。

#### スキーマ E（意味④と意味⑥のスキーマ）

〈何らかの弁別的特徴を有する複数のモノによって形成されるカテゴリー〉

このような共通点はあるものの、カテゴリーの境界の明瞭さに関しては、意味④と意味⑥で違いが見られる。まず、意味④に関しては、例えば「医療系」などのように、特に何らかの職業や学問などの〈何らかの分野に特化している〉という特徴によってカテゴリー化されるケースである。そのため、主体の個人的な判断や評価がカテゴリー化に影響するケースは比較的少なく、ある対象があるカテゴリーに含まれることを認定する際の条件がより明確であると考えられる。一方、意味⑥に関しては、例えば「食事系」や「秋葉系」など、〈何らかのモノらしいと感じられる特徴〉によってカテゴリー化されるケースであるため、その特徴が〈何らかのモノらしい〉と感じられるかどうかは、個々の主体の判断や評価によって判断されるものであるといえる。

以上の点を踏まえると、意味④のほうがより基本的であるといえる。このことから、意味④から意味⑥という方向性で、メタファーによって拡張していると考えられる。

次に、意味⑥と意味⑦の相互関係について検討する。

意味⑥については先に述べた通りである。一方、意味⑦は、〈何らかのモノに類似していると感じられる特徴〉によって〈複数のモノ〉を1つのカテゴリーとして形成するケースである。この2つの意味からは以下のようなスキーマが抽出できる（これを「スキーマ F」とする）。

#### スキーマ F（意味⑥と意味⑦のスキーマ）

〈何らかの百科事典的な特徴が感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリー〉

このような共通点はあるものの、カテゴリーの境界の明瞭さに関しては、意味⑥と意味⑦で違いがあるといえる。まず、意味⑥については、本章4.6節で述べたように、名詞の概念そのものと、その名詞の典型的な属性との間には、「近接的」な関係が成り立っている（三宅 2006: 132）。例えば、「食事系」の場合、〈食べ応えのある量である〉、〈主食として食される食べ物が含まれている〉といった諸々の特徴は、「食事」に密接に結びついており、容易に類推できる（近接的な関係の）特徴であるといえる。一方、意味⑦については、例えば「草食系」における、〈異性との交際に消極的である、童顔である、細身である、常に周囲に気を配る、人前で恥ずかしがる〉などの特徴は、主体が対象とする人物に対して個人的な評価や判断に基づいて見出される特徴であり、「草食（動物）」という語からは容易に類推できる特徴であるとはいえない。つまり、〈「草食（動物）」と類似している〉と判断できるかどうかに関しては、程度差があると考えられる。

以上の点を踏まえると、意味⑥のほうがより基本的であるといえる。このことから、意味⑥から意味⑦という方向性で、メタファーによって拡張していると考えられる。

次に、意味①と意味⑧の相互関係について検討する。

意味①については先に述べた通りである。一方、意味⑧は、Xに動詞を取るケース（例：「混ぜる系」）や動作性名詞を取るケース（例：「発酵系」）が主な事例であり、〈ある行為あるいは変化〉の主体である〈複数のモノ〉あるいは対象である〈複数のモノ〉を1つのカテゴリーとして形成するケースである。この2つの意味からは以下のようなスキーマが抽出できる（これを「スキーマG」とする）。

#### スキーマG（意味①と意味⑧のスキーマ）

〈何らかの事物を含む複数のモノによって形成されるカテゴリー〉

このような共通点はあるものの、[X+系]の意味は全体的にXが名詞であるケースが多い中で、Xが動詞、あるいは動作性名詞であるという特徴を有するのは意味⑧のみである。そのため、意味⑧は（少なくとも）意味①に比べて周辺に位置づけられる意味であると思われる。

以上の点を踏まえると、意味①のほうがより基本的であると考えられる。このことから、意味①から意味⑧という方向性で、メタファーによって拡張していると考えられる。

次に、意味⑦と意味⑨の相互関係について検討する。

意味⑦については先に述べた通りである。一方、意味⑨は、<何らかの評価的特徴が感じられるという特徴>によって<複数のモノ>を1つのカテゴリーとして形成するケースである。この2つの意味からは以下のようなスキーマが抽出できる（これを「スキーマH」とする）。

#### スキーマH（意味⑦と意味⑨のスキーマ）

<主体による何らかの判断、認識に基づく特徴が感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリー>

このような共通点はあるものの、<主体による何らかの判断、認識に基づく特徴>の程度性は異なるといえる。意味⑦は<何らかのモノに類似していると感じられる>という類似性に基づくカテゴリーを表しているため、意味⑨のほうが主体個人の判断や評価の程度が大きく、個人差が表れやすいと考えられる。

なお、以下では、意味⑦から意味⑨に拡張することに伴う、このような評価的な意味が創発することへの動機づけについて述べる。まず、以下の実例のように、意味⑦においても、評価的な文脈で用いられるケースが多いといえる。

- (66) 仕事に生きがいを感じているワケではないけれど、辞めるワケにもいかず、「寝て→起きて→仕事して→寝て」の繰り返し。そんなボクに、「おまえってマジメだよな～」「もっと外に出ろよ!!」「彼女とか欲しいと思わないワケ?」「こいつ、草食系だからなあ……」と好き勝手に言う同僚や、大学時代からの友達たち。

(略)

別に彼女が欲しくないワケじゃないけど、自分からナンパをしたことがあるわけではなく、11年間も彼女がいなくなると、周りからは「女子に奥手な草食系男子」に分類されてしまう世の中らしい。

(<http://www.kekkon-hikaku.com/main/kusao-taiken01.html>)

- (67) たしかに草食系男子はなよなよしたイメージがありますが、1人の人に一途に尽くしてくれるイメージがあるので草食系男子が好きです。

(<https://girlschannel.net/topics/84717/>)

(66)、(67) はどちらも「草食系」(男子) が用いられている実例である。まず、(66) では、「こいつ、草食系だからなあ……」と述べられていることや、「女子に奥手」と述べられていることから、「草食系」に対して(あるいは、「草食系」と見なされている話者に対して) マイナスの評価がなされているといえる。一方、(67) では、「草食系」(男子) に対して、「なよなよしたイメージがありますが」というようにマイナスの側面を指摘しつつも、「1人の人に一途に尽くしてくれるイメージがあるので草食系男子が好き」と述べられており、「草食系」に対してプラスの評価がなされている。つまり、意味⑦においても、このように評価的な文脈で使用されることが多いと考えられる。そして、意味⑨に拡張することによって、その評価性が意味特徴として顕在化(前景化)していると考えられる。

また、[X+系] の意味は全体的に X が名詞であるケースが多い中で、X が形容詞や形容動詞、あるいは副詞や動詞連用形による転成名詞であるという特徴を有するのは意味⑨のみである。そのため、意味⑨は(少なくとも)意味⑦に比べて周辺に位置づけられる意味であると思われる。

以上の点を踏まえると、意味⑦のほうがより基本的であるといえる。このことから、意味⑦から意味⑨という方向性で、メタファーによって拡張していると考えられる。

ここまで、[X+系] 構文における個々の意味の相互関係と、多義構造全体における大きな意味拡張の方向性について検討してきた。なお、スキーマ A~H のさらに上位のスキーマとして、以下のスーパー・スキーマが抽出できると考えられる。

#### [X+系] 構文のスーパー・スキーマ

##### <何らかの存在<sub>x</sub>に関する特徴を有する複数の存在によって形成されるカテゴリー>

まず、<何らかの存在>とは、[X+系] という形式において、特に X によって動機づけられる特徴である。また、<関係する>に関しては、例えば、意味①の場合では、<構成要素として含んでいる>という意味特徴として具体化し、意味⑦の場合では、<類似している>という意味特徴として具体化している。つまり、個々の意味から抽出されたスキーマをさらに抽象化すると、<関係する>という特徴が抽出されると考えられる。

そして、<複数の存在>に関しては、[X+系] によってカテゴリー化される対象を抽象化したものを表している。本研究において認定した9つの意味のうち、対象がより限定されるのは、意味②における<複数の組織>のみであり、他の意味は全て<複数のモノ>である。

これらをさらに抽象化すると、[X+系]における対象は<複数の存在>であるといえる。なお、本章2.2節で確認した、山下(2013)におけるスーパー・スキーマ的意味の記述では、「Xと類似性を有すること」と記述している。しかし、本研究における意味①や、意味②のような意味からは、「Xと類似性を有する」という特徴を抽出できるとは考えにくい。ため、本研究では<何らかの存在 $x$ に関する特徴を有する>と記述した。

以上、[X+系] 構文における9つの意味の相互関係について検討した。最後に、ここまで検討してきた [X+系] 構文の9つの意味と個々のスキーマによって形成される多義構造を以下に図示する(図1)。

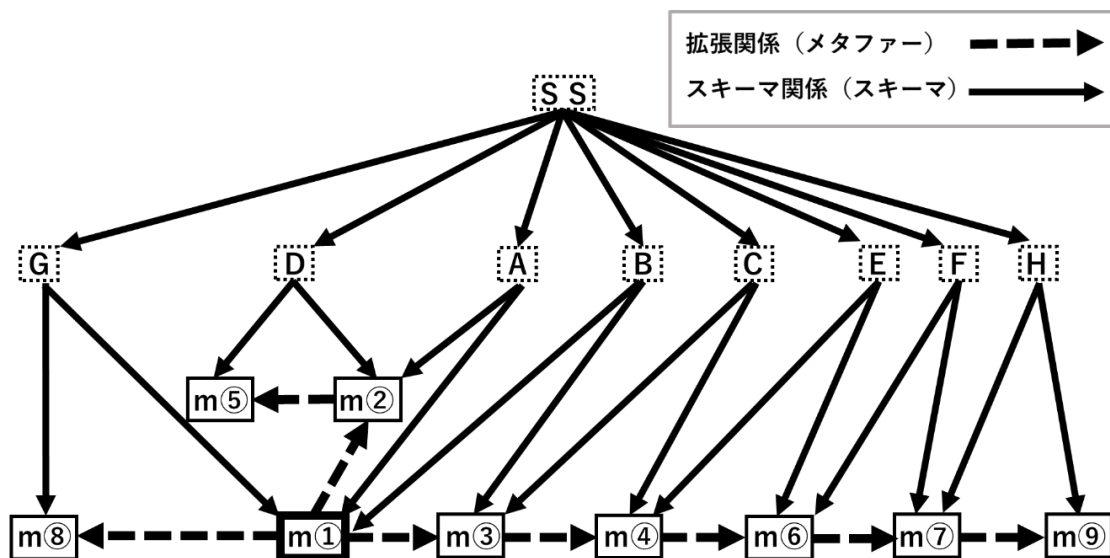


図1：[X+系] 構文の多義構造

以下に、図1の [X+系] 構文の多義構造における表記について、簡略に説明する。

- (a) 「m」は「意味」を表し、各意味を「m①」のように表記している。また、各スキーマは、例えば「スキーマA」であれば「A」のように、それぞれアルファベットによって表記している。なお、「SS」は「スーパー・スキーマ」を表している。
- (b) [X+系] 構文のプロトタイプの意味、つまり、概念的に最も基本的で、拡張の基盤となる意味は意味① (m①) である。
- (c) 意味①と意味②はメタファーの関係にあり、共通する意味として、<何らかの存在を含む複数の存在によって形成されるカテゴリー>というスキーマ A が抽出でき

る。

- (d) 意味①と意味③はメタファーの関係にあり、共通する意味として、〈何らかの存在をルーツとする複数のモノによって形成されるカテゴリー〉というスキーマ B が抽出できる。
- (e) 意味③と意味④はメタファーの関係にあり、共通する意味として、〈何らかの範囲に含まれる複数のモノによって形成されるカテゴリー〉というスキーマ C が抽出できる。
- (f) 意味②と意味⑤はメタファーの関係にあり、共通する意味として、〈何らかの存在に帰属する複数の存在によって形成されるカテゴリー〉というスキーマ D が抽出できる。
- (g) 意味④と意味⑥はメタファーの関係にあり、共通する意味として、〈何らかの弁別の特徴を有する複数のモノによって形成されるカテゴリー〉というスキーマ E が抽出できる。
- (h) 意味⑥と意味⑦はメタファーの関係にあり、共通する意味として、〈何らかの百科事典的な特徴が感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリー〉というスキーマ F が抽出できる。
- (i) 意味①と意味⑧はメタファーの関係にあり、共通する意味として、〈何らかの事物を含む複数のモノによって形成されるカテゴリー〉というスキーマ G が抽出できる。
- (j) 意味⑦と意味⑨はメタファーの関係にあり、共通する意味として、〈主体による何らかの判断、認識に基づく特徴が感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリー〉というスキーマ H が抽出できる。

### 3. 6. 3 単純語「系」と派生語 [X+系] の関連性

本節では、単純語、つまり単独の名詞として用いられる「系」と、[X+系] 構文の多義構造の関連について検討する。

まず、第2章6.4節で述べたように、大堀 (2005: 4) では、Hopper (1991) が挙げている文法化に伴う変化の「兆候」とでも言うべき5つの現象についてまとめている。その1つである「分岐 (divergence)」という現象に関して、「文法化が起きた時に元の自立性をもった語彙的用法がなくならず、ある形態が語彙的用法と文法的用法の両方をもつ現象」と述

べている<sup>105</sup>。その日本語の例として、「しまう」には（通常の動詞として用いられる）語彙的用法と、「てしまう（>ちゃう）」のような文法化した用法が共にあると説明している（大堀 2005: 5）。以上の点を踏まえると、「系」に関しても、以下に挙げるような単純語としての用法と接尾辞としての用法のいずれも存在していることから、文法化による変化の兆候として捉えられる「分岐」の段階であると考えられる。

以下は、単純語として「系」が用いられている実例である。

(68) 科学の目的は（略）世界を理解することであるが（略）、通常はその中の興味のある部分を切り取って科学的研究の対象とする。その切り取られたものが「系」である。  
(<https://www.kousakusha.com/ks/ks-t/ks-t-3-33.html>)

(69) 原子・分子・電子などのミクロな構成要素がたくさん集まると、構成要素間の相互作用のために、異なる性質を持つ複数の状態（相）がマクロに出現します。最も身近なものとしては、水分子の集合体で、氷（固体）・水（液体）・水蒸気（気体）の3相があります。非常に多くの構成要素からなる系のマクロなふるまいをミクロな立場から説明するのが統計力学です。

(<http://www.sci.osaka-u.ac.jp/introduction/undergraduate/physics.html>)

単純語の「系」は(68)、(69)のように、主に科学、統計力学などの学問分野における用語であり、その意味はおおよそ、<ある学問分野で研究対象として捉えられる複数の要素によって形成されるまとまり>であると考えられる。つまり、単純語の「系」はおおよそ（研究対象とする上での）境界が明確に定められている>という特徴を有するといえる。

そして、[X+系]の9つの意味には、明確な条件によるカテゴリーもあれば、明確な条件によらないカテゴリーもある。すなわち、[X+系]構文の意味は、大きな拡張の方向性として、（より単純語の「系」の意味に近い）境界が明瞭なカテゴリーの意味から、境界が不明瞭なカテゴリーの意味へ拡張していると考えられる。前者に関しては、例えば「生薬系」

（意味①）は、「生薬」が対象に含まれているか否かの判断がしやすく、「トヨタ系」（意味②）も、対象の「企業」が「トヨタ自動車」を中核とするグループに属するという明確な基

---

<sup>105</sup> Hopper (1991: 24) では、'The Principle of Divergence, (...) refer to the fact that when a lexical form undergoes grammaticization, for example to an auxiliary, clitic or affix, the original form may remain as an autonomous lexical element and undergo the same changes as any other lexical items.'と述べられている。



準がある。一方、後者に関しては、例えば「草食系」(意味⑦)は、対象の「若者」が<恋愛に消極的>であるかは明確に判断できるものではなく、「かわいい系」(意味⑨)は、主体によってその評価に差が出やすいといえる。このような拡張の方向性は、単純語の「系」から派生語の「系」へと文法化してきた「分岐」の過程の中で、単純語の「系」が有する<(研究対象とする上で)境界が明確に定められている複数の要素によって形成されるまとまり>という特徴が漂白化し、それに伴って主体の価値判断や認識の程度が高まっているためであると考えられる。

以上、単純語の「系」の意味との関わりから、[X+系]構文の多義構造全体における大きな意味拡張の方向性について検討した。

### 3. 7 本章のまとめ

以上、本章では、接尾辞「系」と、それに前接する要素Xから成る [X+系] 構文の多義性、及び意味拡張の様相について考察した。具体的には、個々の実例の意味記述を踏まえて、ボトムアップ的に9つの意味を認定し、[X+系] 構文における「メトニミー的用法」による事例の意味についても検討した。また、[X+系] 構文は、用法上の制約や意味特徴の具体性の高さという点から見て、意味①が最も概念的に基本的な意味、つまり、派生(拡張)の基盤となる意味であり、松本(2010)における「概念的中心性」を有すると考えられることから、意味①をプロトタイプの意味として認定した。さらに、9つの意味の相互関係について、メタファーによる意味拡張という観点から考察した。最後に、単純語として用いられる「系」の意味や諸特徴を検討した上で、接尾辞の「系」が単純語の「系」からの文法化の兆候として捉えられる「分岐」(Hopper 1991)の段階にあることを指摘し、さらにそのような文法化による変化の過程の中で、<(研究対象とする上で)境界が明確に定められている複数の要素によって形成されるまとまり>という特徴が漂白化していることに伴い、主体の価値判断や認識の程度が高まることによって、境界が明瞭なカテゴリーの意味から、境界が不明瞭なカテゴリーの意味へ拡張していることを指摘した。

以上の分析により、先行研究では扱われていなかった「私は外資系の企業を志望しています」や、「このクラスの大半はアジア系だ」のような多様な形式に見られる、対象が<人以外の物>を表す事例も含めて、[X+系] という形式の多義性と意味拡張の様相を明らかにすることができた。なお、山下(2013)では、人を表す「Y系」「X派」における「系・派」

の、それぞれの共通する意味特徴について分析されていたが、第4章で検討する [X+派] 構文の意味との違いを明らかにする前提として、本章では接尾辞「系」とそれに前接する X から成る [X+系] 構文を精緻に記述した。

## 第4章 カテゴリーを形成する [X+派] 構文の意味分析

### 4.1 はじめに

本章では、接尾辞「派」と、それに前接する要素 X から形成される [X+派] 構文を考察対象とし、その多義性、及び意味拡張の様相について共時的に分析する。

まず、4.2節では、接尾辞「派」に関する主な先行研究として山下 (2015) を取り上げ、その問題点を指摘する。

次に、4.3節では、[X+派] 構文における X に様々な品詞や言語単位の要素を取りうることを確認する。また、[X+派] 構文は、さらに大きな単位の構文である [X 派 Y] を始めとする複数の構文によって用いられること、そして、本章ではその複数の構文に共通する [X+派] という形式における構文の意味を検討することを確認する。

次に、4.4節では、[X+派] 構文における複数の意味を記述し、その多義性について検討する。ここでは、個々の実例の意味記述を踏まえて、ボトムアップ的に [X+派] 構文の複数の意味を認定する。また、4.5節では、[X+派] 構文における「メトニミー的用法」の事例を取り上げ、考察する。

次に、4.6節では、4.4節で認定した [X+派] 構文における4つの意味の相互関係について、比喻による意味拡張という観点から検討する。特に、単純語として用いられる「派」の意味との関係から、[X+派] 構文における意味拡張の方向性について検討する。

最後に、4.7節では、本章の内容をまとめる。

### 4.2 先行研究概観

接尾辞「派」の多義性について考察している主な先行研究としては、第3章2.3節において取り上げた、山下 (2015) がある。山下 (2015) では、「彼は草食系だ」における「草食系」、「彼は和食派だ」における「和食派」のような事例を、ある種の人物を表す「Y系」「Z派」として位置づけており、その合成語レベルの意味について分析している<sup>106</sup>。しかし、

---

<sup>106</sup> 山下 (2015) における「系・派」の意味区分と記述については、第3章2.3節を参照されたい。

第3章2.4節において、問題点③として指摘したように、一貫して人物を表す事例に限定していること、そして、特に「Y系」と「Z派」に共通する意味特徴に焦点が当てられていることから、それぞれの違いに関しては再考の余地があるといえる。例えば、接尾辞「派」は、本研究で収集した事例においても、その多くは<複数の人によって形成されるカテゴリー>を表すが、中には<複数の物によって形成されるカテゴリー>を表す事例も存在する。例えば、以下の(1)では、「和食(料理)」に対して「正統派」が用いられ、(2)では、「海外ドラマ」に対して「社会派」が用いられている。

- (1) 連載ではちりめん山椒やしめ鯖など、手間と時間をかけた正統派の和食を紹介している富田さん。 (『週刊アエラ』2015年3月9日)
- (2) 海外では、その時代を反映する社会派ドラマが多く作られています。仮想通貨をテーマにした『スタート・アップ(2016年～)』や、テロ問題を取り上げた『ホームランド(2011年～)』など、まさに現代社会の一部を切り取った作品ばかり。  
(<https://curazy.com/cinema/archives/3616>)

このように<物>に対して用いられる「派」の事例は、山下(2015)では扱われていない。また、「語基+派」という単位における、構成要素の総和として捉えられない意味特徴に関しても、山下(2015)では詳細には明らかにされていない。例えば、接尾辞「派」の事例として、(3)に挙げる「犬派」「猫派」がある。そして、「犬」「猫」という同じ語基を取る接尾辞「系」の事例として、(4)に挙げる「犬系」「猫系」が見られる。

- (3) 「犬派の方」の【犬が好きな理由】は「忠実」や「人懐っこい」という回答が断トツ。(略)一方「猫派の方」の【猫が好きな理由】は「かわいい」がトップ。  
(<https://news.nifty.com/article/item/neta/12225-120607000490/>)
- (4) 気まぐれでツンデレだけど、甘えるとかわいい猫系女子は、男子にモテる！と話題ですよ。一方で、明るく素直で、愛情表現豊かな犬系女子も、違った魅力があると大人気です。 (<https://gakumado.mynavi.jp/gmd/diagnoses/53936>)

(3)では、「犬が好きな理由」「猫が好きな理由」について述べられていることから、「犬派」はおおよそ<(猫と比べて)犬を好む人によって形成されるカテゴリー>、「猫派」

はおよそ< (犬と比べて) 猫を好む人によって形成されるカテゴリー>という意味を表していると考えられる。一方、(4) では、「犬系 (女子)」について「明るく素直で、愛情表現豊か」と述べられており、「猫系」について「気まぐれでツンデレだけど、甘えるとかわいい」と述べられている。このことから、「犬系」はおよそ犬に似ていると感じられる人によって形成されるカテゴリー>、「猫系」はおよそ猫に似ていると感じられる人によって形成されるカテゴリー>という意味を表していると考えられ、第3章4.7節において詳述した [X+系] 構文における意味⑦の事例に該当するといえる。このように、同一の語基が前接した場合に、「派」と「系」で異なるゲシュタルト的な意味を形成しているということに関して、山下 (2015) では詳細に検討されていない。

以上を踏まえると、対象を<人>に限定せず、<物>も含めて網羅的な事例を考察するということと、「派」と「系」の違いを検討する上で、それぞれの構文におけるゲシュタルト的な意味特徴を含めた、より精緻な意味記述が必要であるといえる。

### 4. 3 [X+派] 構文の形式的特徴

本節では、[X+派] 構文の形式的特徴について確認する。まず、[X+派] 構文は、第3章で検討した [X+系] 構文と同様に、様々な品詞や言語単位の要素が X として前接する。そして、[X+派] 構文においても、大きく3つの形式として [X 派 Y]、[X 派の Y]、[Y は/が X 派] が見られた。これらの形式について、X がどのような品詞であるかに基づいて分類し、以下に示す。

まず、表1は [X+派] が [X 派 Y] という形式を構成する要素として用いられるケースであり、その X の品詞性<sup>107</sup>に基づいて分類したものである。

表1：[X 派 Y] における X の品詞分類

X の品詞	事例 <sup>108</sup>
名詞	田中派議員、賛成派議員、反対派議員、保守派政治家、過激派組織、清純派女優、肉体派男子、社会派ドラマ、人権派弁護士

<sup>107</sup> 「品詞性」については、第3章3節における脚注38番を参照されたい。

<sup>108</sup> 以下、表1から表3に挙げる事例は、「筑波ウェブコーパス (NINJAL-LWP for TWC)」、検索エンジン「Yahoo! JAPAN」、朝日新聞のデータベース「聞蔵IIビジュアル」を用いて収集した事例である。

形容動詞 (句)	濃厚派プリン、元気派コメディ
副詞 (句)	サラサラ派化粧水、さっぱり派ラーメン

表1では、Xの品詞が名詞(句)である事例が最も多く見られた。そして、形容動詞、副詞の事例はわずか数例のみが見られ、動詞、形容詞の事例は見られなかった。

次に、表2は [X+派] が [X派のY] という形式を構成する要素として用いられるケースであり、そのXの品詞性に基づいて分類したものである。

表2 : [X派のY] における X の品詞分類

X の品詞	事例
名詞	印象派の絵、永平寺派の寺、ワクチン否定派の声、速球派のピダーソン、がっつり演技派の男優、猫派の方、コーヒー派の彼
動詞	じっくり見る派の私、家で飲む派の YOU と飯島
形容詞	可愛い派の私、大きい派の方
形容動詞	正統派の和食、いろいろ派の方
副詞	さっぱり派のソフトクリーム、ゆっくり派の方

次に、表3は [X+派] が [Yは/がX派] という形式を構成する要素として用いられるケースであり、そのXの品詞性に基づいて分類したものである。

表3 : [Yは/がX派] 構文における X の品詞分類

X の品詞	事例
名詞	私はどちらかというと <u>部屋干し派</u> です。
動詞	休日は <u>家で過ごす派</u> !
形容詞	スマホは <u>小さい派</u> ? <u>大きい派</u> ?
形容動詞	(登山用のザックに関して) というわけで、歳をとってからの私は <u>便利派</u> です。
副詞	ラーメンは <u>あっさり派</u> ? <u>こってり派</u> ?

ここまで、[X+派] を含む主な形式として、[X 派 Y]、[X 派の Y]、[Y は/が X 派] という3つのケースがあることを確認した。次節では、このような形式に共通する [X+派] 構文の多義性を考察する。

なお、第3章において考察した [X+系] 構文と同様に、本研究で収集した全ての事例において、Y に名詞 (句) 以外の要素を取るケースは見られなかった。つまり、[X+派] 構文が用いられる全てのケースにおいて、Y に当てはまる要素は名詞 (句) であるという点が共通しており、それぞれの形式に現れる Y の要素は、< [X+派] によってカテゴリー化される対象 > を表しているといえる。そして、本章2節で触れたように、本研究で収集した事例は < (複数の) 人 > が対象であるものが多く見られた。そのため、[X+派] 構文の多義性を捉える上では、この「どのような人々がカテゴリー化されているのか」という点を考慮することが重要であると考えられる。以上を踏まえて、次節では [X+派] という形式とカテゴリー化される対象 (Y) との関係を考慮した上で、[X+派] 構文において X と「派」がどのような意味的貢献をしているのかという観点から、各意味の区分や記述を検討していく。

#### 4. 4 [X+派] 構文の多義性

本節では、前節までの検討を踏まえて、[X+派] という形式を構文として捉え、その多義性について考察する。具体的には、「筑波ウェブコーパス (NINJAL-LWP for TWC)」、検索エンジン「Yahoo! JAPAN」、朝日新聞のデータベース「聞蔵II ビジュアル」を用いて収集した、計215例の実例の意味を踏まえ、(現代日本語において確立していると考えられる) 4つの意味を提示する<sup>109</sup>。

各意味の分類と記述の方法は以下の通りである。各意味の分類と記述の方法は以下の通りである。まず、収集した個々の事例を観察し、「[X+派] がどのような対象 Y と共起しているのか」という観点と、「[X+派] 全体や対象 Y、[X+派] が用いられている句や文全体に対して、X がどのように意味的な貢献をしているのか」という観点から、同種の意味特徴を有すると思われる複数の事例を1つのグループとしてまとめ、分類する。そして、そのグループの中からいくつかの事例を取り挙げ、その意味を検討する<sup>110</sup>。さらに、それらの意味

<sup>109</sup> 本節における4つの意味の提示は第2章6.3節で述べた靑山(2021)の「多義語分析の課題」における課題1)に相当する。

<sup>110</sup> なお、個々の事例の意味を検討するにあたり、その考察の一部に『明鏡国語辞典 第二版』(以下、『明

の検討を踏まえてボトムアップ的に抽出した、複数の事例に共通する意味を [X+派] 構文における1つの意味として認定する。また、認定した意味に関連する諸々の特徴（その意味における個々の意味特徴や、Xの品詞が何であるかといった形態的特徴、どのような文脈において用いられやすいかなど）について記述する。

#### 4. 4. 1 意味①

はじめに、同種の意味特徴を有する主な例を(5)に提示する<sup>111</sup>。

- (5) 佐藤派（議員）、田中派（議員）、麻生派（政治家）、二階派（政治家）、イスラム教スンニ派（若者）、イスラム教シーア派（最高指導者）、福音派（人々）、浄土真宗本願寺派（寺）、真宗大谷派（寺）、本成寺派（寺）、妙満寺派（寺）、永平寺派（寺）、総持寺派（寺）、バルビゾン派（画家）、印象派（絵画）、写実派（絵画）、古典派（音楽）、ロマン派（絵画）、日本浪漫派（作家）、白樺派（作家）、アララギ派（作家）、新感覚派（作家）、プロレタリア文学派（作家）、美濃派（画家）、狩野派（画家）、伊勢派（俳人）、麦林派（俳人）、住吉派（画家）、土佐派（画家）

次に、(5)の中から5つの実例を取り上げ、その意味について考察する。まず、(6)は「麻生派」「二階派」が用いられている例文である。

- (6) 安倍晋三首相は20日夜、麻生太郎財務相や自民党の二階俊博幹事長らと東京・銀座のステーキ店で会食した。与野党対決となった新潟県知事選や延長国会への対応、9月の自民党総裁選などについて意見交換した。麻生派の甘利明・元経済

---

鏡（第二版）』と呼ぶ）、『デジタル大辞泉』（以下、『大辞泉』と呼ぶ）、『日本国語大辞典 第二版（ジャパナレッジ）』（以下、『日国』と呼ぶ）の意味記述を参照する。また、「印象派」のように、慣習性が高く、これらの辞書に見出し語がある場合はその意味記述を参照する。

<sup>111</sup> 本章4.3節において述べた [X+派] によってカテゴリー化される対象（以下、「対象」と呼ぶ）を各事例の後の（ ）内に示す。つまり、[X派Y] という形式（表1）や、[X派のY] という形式（表2）、[YはX派] という形式（表3）におけるYが「対象」である。なお、「A、B、C…などのX派」の場合、「A、B、C」が「対象」であるが、このように「複数の対象」が [X+派] によってカテゴリー化されている場合は、便宜上それらの上位概念を表す一語を示すこととする。



再生相や二階派の河村建夫衆院予算委員長らも同席。<sup>112</sup>

(『朝日新聞』2018年6月21日 朝刊)

(6) では、麻生太郎財務相の政治観を支持する「甘利明元経済再生相」に対して「麻生派」、二階俊博幹事長の政治観を支持する「河村建夫衆院予算委員長」に対して「二階派」と述べられている。これらは通常「派閥」と呼ばれ、特に政治において、出身や利害関係、政治的意見などを同じくする議員によって構成される集団を指しているといえる<sup>113</sup>。このようなケースでは、[人物+派] という単位によって表され、特にこの場合の<人物>は、「麻生派」における「麻生」のように、当該の人物の姓が前接しているという特徴がある。さらに、[人物+派] という形式における事例は、「狩野派」(画家) や「麦林派」(俳人) のように、美術や文学の分野においても見られた。以上の点を踏まえて [人物+派] という単位における意味を抽出すると、概略以下のように記述できる。

#### [人物+派] の意味

<ある人物の思想や考えを共有する複数の人によって形成されるカテゴリー>

次に、「永平寺派」「総持寺派」が用いられている例文を (7) に挙げる。

- (7) 日本で曹洞宗を興し永平寺を開いた道元禅師、その後に曹洞宗の普及に努め総持寺(祖院)を開いた瑩山禅師。月日は流れ、曹洞宗は永平寺派と総持寺派に分かれるようになりました。永平寺派と総持寺派の間に確執が生じ一時は戦争になる事もありましたが、江戸時代に徳川幕府の配慮で永平寺と総持寺は同格の大本山と定めたのです。  
(<https://jityeryo.exblog.jp/tags/電車/>)

(7) では、日本仏教における曹洞宗について、道元禅師が開いた永平寺を中心とする「永平寺派」と、瑩山禅師が開いた総持寺を中心とする「総持寺派」に分かれたことが述べられ

---

<sup>112</sup> 以下、[X+派] 構文によって表されるカテゴリーの対象が例文内に示されている場合には、点線の下線を施す。

<sup>113</sup> 『大辞泉』によると、「派閥」とは「出身・縁故・利害・政治的意見などで結びついた人々が形成する排他的な小集団。特に、自民党などで特定の政治家のもとに結集している議員の集団」と記述されている。

ている。

なお、このように [場所+派] という単位で表される類例としては、「バルビゾン派」(画家) や、「美濃派」(画家) などが見られた。そして、この場合の<場所>は、「永平寺派」における「永平寺」や、「バルビゾン派」における「バルビゾン」のように、建物名や地名を表す固有名詞によって表されているという特徴がある。以上の点を踏まえて、[場所+派] という単位における意味を抽出すると、概略以下のように記述できる。

### [場所+派] の意味

<ある場所をその象徴とする思想や主義を共有する複数の人によって形成されるカテゴリー>

次に、「印象派」が用いられている例文を (8) に挙げる。

- (8) 印象派の絵は人気がある、モネやゴッホやルノワールやゴーギャン、どれもうっとり幸せな気分にしてくれる優しい絵画たちだ。

(<https://tabispain.com/impressionism/>)

(8) では、モネやゴッホ、ルノワール、ゴーギャンといった画家 (あるいは、それらの画家たちによって描かれた絵画) に対して、「印象派」と述べられている。なお、『日国』によると、「印象派」とは、「絵画で、印象主義をおしすすめた人々」であり、「一八七四年にパリで開かれた、この派の第一回展覧会に出品された、モネの作品「印象・日の出」という題名から一美術記者が嘲笑的に名づけたのが名の由来」とされている。つまり、モネが描いた「印象・日の出」という作品が、その集団を表す象徴として捉えられたことによって、「印象主義」や「印象派」という表現が生まれたといえる。

なお、このことから「印象派」における「印象」は<作品>であるといえるが、このように [作品+派] という単位における類例としては、以下に挙げる「白樺派」がある。

- (9) そもそも「白樺派」という名前は、1910年に刊行された同人誌「白樺」に由来しています。学習院中等科で親しかった武者小路実篤と志賀直哉が中心となり、有島武郎や里見弴とん、柳宗悦といった学習院出身者らを集めてスタートした「白

樺」は、関東大震災の影響によって1923年に廃刊となるまで全160号が発刊されました。現在では、この「白樺」で作品を発表していた作家や、「白樺」の理念や作風を共有していた作家たちを主に「白樺派」と呼んでいます。

(<https://pdmagazine.jp/background/shirakabaha/>)

(9) では、「白樺派」が文学における一つの集団を表すものであり、「武者小路実篤」や「志賀直哉」を始めとする作家が刊行した「白樺」という同人誌における理念や作風を共有していた作家に対して、「白樺派」と表していることが述べられている。このような例も含めて [作品+派] という単位における意味を抽出すると、概略以下のように記述できる。

#### [作品+派] の意味

<ある作品をその象徴とする思想や主義を共有する複数の人によって形成されるカテゴリー>

次に、「ロマン派」が用いられている例文を(10)に挙げる。

- (10) 形式や理性、古典的な構図や色彩にとらわれず、感情や情熱をそのまま画面に露わに表現する作品がロマン派である。代表的な作家であるドラクロワは、ギリシア独立戦争に題材を求めた『キオス島の虐殺』や、自らが参加した七月革命の高揚を描いた『民衆を率いる自由の女神』などの傑作を残した。

(<https://www.y-history.net/appendix/wh1204-010.html>)

(10) では、ドラクロワが描いた『キオス島の虐殺』、『民衆を率いる自由の女神』という絵画作品に対して「ロマン派」と表されている。「ロマン派」とは、(10)に述べられているように、「形式や理性、古典的な構図や色彩にとらわれず、感情や情熱をそのまま画面に露わに表現する作品」を表す用語であり、『日国』では、「ロマン主義」の項目において、「一八世紀から一九世紀にかけて、ヨーロッパを中心に隆盛した思潮。文芸思潮に端を発し、情緒や自然の重視、超理性的なものや永遠に向かう傾向、創造的個性の尊重など、普遍的、理性的なものを理想とする古典主義に対立する思潮として発展、広く芸術・文学・哲学・宗教のあらゆる分野に及んだ。(略)ロマンチズム。」と記述されている。このことから、「ロ

マン派」における「ロマン」は「ロマンチズム」「ロマン主義」という<思想・主義>を表しているといえる。類例として、「写実派」(絵画)「古典派」(音楽)などが該当するといえる。以上の点を踏まえて、[思想・主義+派] という単位における意味を抽出すると、概略以下のように記述できる。

### [思想・主義+派] の意味

<ある思想や主義を共有する複数の人や作品によって形成されるカテゴリー>

その他、(5) に挙げた全ての例に共通する意味特徴も踏まえ、意味①を以下のように記述する。

### [X+派] 構文の意味①

<何らかの(人や物、あるいは事柄をその象徴とする) 思想や主義<sub>x</sub>を共有する複数の人によって形成されるカテゴリー><sup>114</sup>

以下では、意味①の特徴について述べる。まず、<何らかの(人や物、あるいは事柄をその象徴とする) 思想や主義>とは、「派」に前接する名詞である X によって動機づけられる意味特徴である。つまり、「麻生派」における「麻生」のような<人物(姓)>や、「永平寺派」における「永平寺」のような<場所>、「印象派」における「印象(=「印象・日の出」)」のような<作品>、「写実派」における「写実」のような<事柄>などを含めて、<人や物、あるいは事柄>というメタ言語によって表している。そして、これらを表す X は、[X+派] という単位において、<ある思想や主義の象徴>として、メトニミー的な意味を表しているといえる。例えば、「麻生派」における「麻生」は、<「麻生太郎」という人物が有する政治的な思想や主義>を表しており、「印象派」における「印象」は、<西洋美術における「印象・日の出」という作品をその象徴とする思想や主義>を表している。また、「ロマン派」における「ロマン」のような<思想・主義>は、<象徴とされる人や物など>が X によって表されているのではなく、当該の<思想・主義>が具体化しているケースであるといえる。

<sup>114</sup> これ以降、各意味記述の中で特に「派」に前接する要素 X によって動機づけられていると思われる意味特徴に関しては、点線の下線.....を引き、下付きで X を施すこととする。

つまり、意味①は、ある＜ある思想や主義の象徴＞が X として前接するケースと、具体的な＜思想や主義＞が X として前接するケースの両方が見られる。

また、意味①は、「麻生派」と「二階派」、「写実派」と「印象派」、「永平寺派」と「総持寺派」のように、政治や宗教、芸術や文学などの分野において、他の立場との違いを対比的・対立的に示したり、ある思想や主義を共有する人の集団であることを対外的に誇示したりするために組織やグループとして結集されたケースが多いと思われる。

そして、意味①においてカテゴリー化される対象である Y は、＜ある思想や主義を共有する人々＞であると考えられることから、＜複数の人によって形成されるカテゴリー＞というメタ言語によって表している。なお、(8)の「印象派」が修飾しているのは「絵」であるが、この場合の「印象派」は、＜「印象派」というカテゴリーに位置づけられる画家たち＞を表しており、その画家たちによって描かれた「絵」を「印象派の絵」として表していると考えられる。そのため、「印象派」によってカテゴリー化されている対象は、「モネやゴッホ、ルノワール、ゴーギャン」といった画家であるといえる。

以上の考察を踏まえ、意味①を＜何らかの(人や物、あるいは事柄をその象徴とする)思想や主義<sub>x</sub>を共有する複数の人によって形成されるカテゴリー＞と記述する。

#### 4. 4. 2 意味②

はじめに、同種の意味特徴を有する主な例を (11) に提示する。

- (11) 賛成派 (議員)、反対派 (議員)、肯定派 (人々)、否定派 (人々)、慎重派 (政治家)、保守派 (政党)、リベラル派 (政党)、穏健派 (政治家)、積極派 (政治家)、上場推進派 (社長陣営)、革新派 (議員)、強硬派 (政治家)、過激派 (組織)、反体制派 (活動家)、開明派 (島津斉彬)、主戦派 (榎本武揚)、タカ派 (政治家)、ハト派 (政治家)、多数派 (人々)、少数派 (人々)

次に、(11)の中から3つの実例を取り上げ、その意味について考察する。まず、(12)は「賛成派」「反対派」が用いられている例文である。

- (12) J R常磐線佐貫駅の「龍ヶ崎市駅」への改称について、龍ヶ崎市議会は20日の

定例会で、限度額3億8900万円の事業費を含む一般会計補正予算案を賛成多数で可決した。市は2020年春の改称を目指し、来月のJR水戸支社との協定締結に向け協議している。

この日の討論はこの問題に集中した。反対派議員は「費用に見合うだけの効果があるのか」と疑問視し、「市民の意向調査が必要だ」と主張。(略) 賛成派議員は「市を広くアピールできるチャンス。年度をまたぐ事業に詳細な見積もりなど作りようがない」と主張。「目的は駅名の変更ではなく、市の未来を変えることだ」と訴えた。  
(『朝日新聞』2018年6月21日朝刊)

(12) では、茨城県の「龍ヶ崎市議会」において議論された、「JR常磐線佐貫駅の「龍ヶ崎市駅」への改称」という政策に対して、賛成する議員を「賛成派」、反対する議員を「反対派」と述べている。このように「賛成派」「反対派」は、何らかの問題や議題においての意見をXによって表しているといえる。以上を踏まえると、「賛成派」「反対派」の意味は概略、以下のように記述できる。

#### 「賛成派」の意味

<ある問題や議題に対して賛成意見を示す(複数の)人によって形成されるカテゴリー>

#### 「反対派」の意味

<ある問題や議題に対して反対意見を示す(複数の)人によって形成されるカテゴリー>

次に、「穏健派」が用いられている例文を(13)に挙げる。

(13) バイデン氏は上院議員を6期36年、オバマ政権で副大統領を2期8年務めたベテラン政治家。穏健派として、共和党議員らと交渉して妥協点を探る形で政治手腕を発揮してきた。

(<https://www.asagaku.com/chugaku/newswatcher/18336.html>)

(13) では、「共和党議員らと交渉して妥協点を探る形で政治手腕を発揮してきた」とされている「バイデン氏」に対して「穏健派」と表されている。このように「穏健派」は政治

の文脈において用いられることが多いと思われるが、『大辞泉』における「穏健派」の項目において「直面した問題を、強硬手段を用いず、穏やかに解決しようとする立場の人」と記述されているように、広く一般的に用いられることもある。以上の点を踏まえると、「穏健派」の意味は、概略以下のように記述できる。

### 「穏健派」の意味

<直面した問題を、強硬手段を用いず、穏やかに解決しようとする立場をとる（複数の）人によって形成されるカテゴリー>

次に、「ハト派」が用いられている例文を（14）に挙げる。

- (14) 神奈川新聞社は終戦記念日の15日、特別紙面「時代の正体 終戦記念日特集」を発行する。ハト派としてアジア外交や軍縮、核問題に力を注いできた元自民党総裁で、衆院議長も務めた河野洋平氏（80）が単独インタビューに応じ、安倍政権や現在の自民党の在りよう、平和への思いを長時間にわたって語った。

(<https://www.kanaloco.jp/special/kikaku/identity/entry-17353.html>)

(14) では、「アジア外交や軍縮、核問題に力を注いできた」という元自民党総裁の「河野洋平氏」に対して、「ハト派」と述べられている。「ハト派」は政治に関する文脈において用いられ「穏健派」と同様の意味を表すとされている<sup>115</sup>。つまり、平和を意味する「ハト（鳩）」をメタファーとして表し、戦争などの武力行使を行わない平和的な政治観を有する人物に対して用いられるといえる。一方で、戦争などの武力行使を辞さない強硬的な政治観を有する人物に対しては「タカ（鷹）」をメタファーとして表し、「タカ（鷹）派」として対比的に表されている<sup>116</sup>。以上の点を踏まえると、「ハト派」の意味は概略、以下のように記述できる。

---

<sup>115</sup> 『大辞泉』では、「鳩派」の項目において、「強硬手段を用いず、穏健に問題を解決しようとする立場の人たち」と記述されている。

<sup>116</sup> なお、「ハト派」「タカ派」は、「景気安定よりも物価上昇の抑制を優先するのがタカ派、物価上昇を警戒しつつ、景気に十分配慮するのがハト派です。( <https://www.daiwa-am.co.jp/guide/media/article/2814.html> )」とあるように、<政治における立場>としての意味からさらにメタファー拡張し、<金融政策に対する姿勢>においても用いられている。

### 「ハト派」の意味

＜戦争などの強硬手段を用いず、穏健に問題を解決しようとする立場である（複数の）人によって形成されるカテゴリー＞

その他、(11) に挙げた全ての例に共通する意味特徴も踏まえ、意味②を以下のように記述する。

### [X+派] 構文の意味②

＜ある事柄に対する何らかの立場や考え、態度<sub>x</sub>を示す（複数の）人によって形成されるカテゴリー＞

以下では、意味②の特徴について述べる。まず、＜ある事柄に対する立場や考え、態度＞とは、「派」に前接する名詞である X によって動機づけられる意味特徴である。つまり、「賛成派」における「賛成」や、「ハト派」における「ハト（鳩）」などの要素を含めて、＜ある事柄に対する立場や考え、態度＞というメタ言語によって表している。

また、「賛成派」などは、「それは私たち賛成派の意見だ。」のように、カテゴリーの成員である人々がその＜立場や考え、態度＞を認識していることが多いが、「過激派」などは、「その行為は過激派の組織によるものだった。」のように、その＜立場や考え、態度＞が、カテゴリーの成員以外の人々によって、結果的にそのように認識されるケースもあるといえる。

なお、意味②における事例は、(12) の「賛成派」「反対派」のように、政治などの文脈で他の立場との対比・対立関係を示すことが多いが、意味①よりもその関係性の捉え方やどのような成員が当該のカテゴリーに含まれるのかが、個人によって異なるといえる。例えば、(13) の「穏健派」に対する立場としては、「強硬派」「過激派」などが想定されるが、対比・対立関係をどのように捉えるか、どのように表すかは、個人によって異なるものと思われる。つまり、意味①よりも、カテゴリー形成の条件において、個人差が出やすいと考えられる。

また、この点に関連して、意味②においては、時間が経つにつれてカテゴリーの成員同士の立場や考えが変わり、以下の事例のようにカテゴリーの成員が変化することもあるといえる。



- (15) しかし、デモをしていた住民は次第に寝返り、土地の買収に応じていった。気付いた時には反対派は彼一人になっていた。(https://ultra.exblog.jp/5432843/)

(15) では、「土地の買収」に対してデモを起こしていた住民が寝返ったことによって、「反対派」とされるのは「彼」だけになったということが述べられている。つまり、意味①においては、カテゴリー化される対象は<複数の人>であったが、意味②においては、一人の人物であっても [X+派] として表すケースがあるといえる。そのため、意味②においては、カテゴリー化される対象である Y に相当する意味特徴を<(複数の)人>と記述した。

以上の考察を踏まえて、意味②を<ある事柄に対する何らかの立場や考え、態度<sub>x</sub>>を示す(複数の)人によって形成されるカテゴリー>と記述する。

#### 4. 4. 3 意味③

はじめに、同種の意味特徴を有する主な例を (16) に提示する。

- (16) 本格派 (コーヒー)、正統派 (和食料理)、王道派 (バンド)、清純派 (女優)、武闘派 (加藤清正)、庶民派 (タレント)、技巧派 (サッカー選手)、頭脳派 (野球選手)、右脳派 (人)、左脳派 (人)、肉体派 (男子)、個性派 (俳優)、感覚派 (ゴルファー)、実力派 (俳優)、演技派 (女優)、軟投派 (投手)、速球派 (投手)、行動派 (女性)、社交派 (男性)、芸術派 (彼)、自然派 (食品)、都会派 (住宅)、社会派 (ドラマ)、濃厚派 (プリン)、さっぱり派 (ソフトクリーム)

次に、(16) の中から3つの実例を取り上げ、その意味について考察する。まず、(17) は「正統派」が用いられている例文である。

- (17) 連載ではちりめん山椒やしめ鯖など、手間と時間をかけた正統派の和食を紹介している富田さん。 (= (1) 再掲)

(17) では、「ちりめん山椒やしめ鯖」などの和食料理に対して「正統派」と表されてい

る。様々な和食料理がある中で、特に<手間と時間をかけている>という特徴は、「和食料理」というカテゴリーにおいての理想例が有する特徴であり、話者にとってこれらの料理（ちりめん山椒、しめ鯖）はその特徴を有すると見なされることから、「正統派」と表していると考えられる。なお、このように「正統派」が用いられる類例として、「正統派アイドル<sup>117</sup>」や「正統派の装い<sup>118</sup>」といった事例が見られた。これらの類例も含めて「正統派」の意味を抽出すると、概略以下のように記述できる。

### 「正統派」の意味

<その時代、その社会で最も妥当とされる思想や立場である複数の人や物によって形成されるカテゴリー><sup>119</sup>

次に、「演技派」が用いられている例文を（18）に挙げる。

- (18) 「万引き家族」は、生活のために父子が万引きをして暮らす貧しい「家族」の物語。社会からの孤立を描いた「誰も知らない」（04年）、血のつながりを問う「そして父になる」など、家族を撮り続けてきた過去の作品の主題をほうふつとさせる。安藤サクラ、樹木希林ら演技派がそろった。

（『朝日新聞』2018年6月14日夕刊）

（18）では、女優の「安藤サクラ」「樹木希林」に対して「演技派」と表されている。これはそれぞれの女優が、他の女優と比べて、特に演技力の高い女優として評価されているためであると思われる。女優の魅力として捉えられる諸特徴としては、例えば、容姿の美しさ、演技力の高さ、人柄の良さなどが考えられるが、（18）においては当該の女優に対して、特に演技力の高さに焦点が置かれていると考えられる。

なお、このように「演技派」が用いられる類例として、「演技派芸人<sup>120</sup>」や「演技派の彼

---

<sup>117</sup> 用例出典：『朝日新聞』2019年4月18日 夕刊

<sup>118</sup> 用例出典：『朝日新聞』2019年4月18日 夕刊

<sup>119</sup> ここでの意味記述に関しては、『大辞泉』における「正統」の「その時代、その社会で最も妥当とされる思想や立場」という記述を参照した。

<sup>120</sup> 用例出典：<https://www.oricon.co.jp/news/2180084/full/>

女<sup>121</sup>」などの事例が見られた。このことから、「演技派」とされるのは、「女優」のように、演技を本業とする人々だけではないといえる。これらの類例も含めて「演技派」の意味を抽出すると、概略以下のように記述できる。

### 「演技派」の意味

<演技力の高さを有する複数の人によって形成されるカテゴリー>

次に、「社会派」が用いられている例文を(19)に挙げる。

- (19) 海外では、その時代を反映する社会派ドラマが多く作られています。仮想通貨をテーマにした『スタート・アップ(2016年～)』や、テロ問題を取り上げた『ホームランド(2011年～)』など、まさに現代社会の一部を切り取った作品ばかり。 (= (2) 再掲)

(19)では、仮想通貨をテーマにした「スタート・アップ」や、テロ問題を取り上げた「ホームランド」といった海外ドラマに対して、「社会派」と表されている。これは、これらのドラマが現代社会における諸問題を反映した内容のものであることによるものであると考えられる。

なお、このように「社会派」が用いられる類例としては、「社会派小説<sup>122</sup>」や「社会派アート<sup>123</sup>」などが見られ、特に何らかの<作品>が社会的な問題意識を感じさせるものであることを表す事例が多いといえる。これらの類例も含めて「社会派」の意味を抽出すると、概略以下のように記述できる。

### 「社会派」の意味

<社会的な問題意識を強く感じさせる複数の物によって形成されるカテゴリー>

その他、(16)に挙げた全ての例に共通する意味特徴も踏まえ、意味③を以下のように記

---

<sup>121</sup> 用例出典：<https://news.livedoor.com/article/detail/12059516/>

<sup>122</sup> 用例出典：<https://www.netoff.co.jp/tag?tagid=2202>

<sup>123</sup> 用例出典：<https://mediag.bunka.go.jp/article/article-18047/>

述する。

### [X+派] 構文の意味③

<何らかの点において際立つ属性や高いレベルの能力<sub>x</sub>を有する(複数の)人や物によって形成されるカテゴリー>

以下では、意味③の特徴について述べる。まず、<何らかの点において際立つ属性や高いレベルの能力>とは、「派」に前接する名詞である X によって動機づけられる意味特徴である。例えば、「正統派」のような事例は、X 自体がプラス評価を表すケースであり、対象が有する何らかの<際立つ属性>を表しているといえる。また、「演技派」「社会派」のような事例は、[X+派] という単位において、ある属性や能力の理想例であると思われる、<高いレベルの能力>や<際立つ属性>を表すケースであるといえる。特に後者は、[X+派] という形式によって X によって動機づけられる意味特徴がプラスの意味を表すものに限定されているといえるため、よりゲシュタルト性の高い意味特徴であるといえる。いずれもカテゴリーの成員に対して、主にカテゴリーの成員以外の人々から見て、何らかのプラス評価を表すことが共通していると考えられる。

また、意味③は他の立場との対比・対立関係よりも、カテゴリーの成員自体への評価に焦点が置かれている。例えば、(18) の「演技派」は、主に「樹木希林」「安藤サクラ」といった『万引き家族』に出演している女優に焦点を当てた評価であり、対比されると考えられる「演技力が低いと評価されている女優」というカテゴリーは念頭に置かれていないと思われる。

なお、[X+派] 構文における他の 3 つの意味ではカテゴリーの成員が(意味①の「印象派の絵画」のようなメトニミーによる事例を除くと)主に<(複数の)人>である。一方、意味③の場合は、(17) の「正統派」(和食料理)や(19) の「社会派」(ドラマ)のように、<物>がカテゴリーの成員である事例も見られる。そのため、意味③のカテゴリー化される対象である Y に相当する意味特徴を<(複数の)人や物によって形成されるカテゴリー>と記述した。

以上の考察を踏まえて、意味③を<何らかの点において際立つ属性や高いレベルの能力<sub>x</sub>を有する複数の人や物によって形成されるカテゴリー>と記述する。

#### 4. 4. 4 意味④

はじめに、同種の意味特徴を有する主な例を (20) に提示する。

- (20) 紅茶派 (人)、コーヒー派 (彼)、ナン派 (人)、ライス派 (人)、買いだめ派 (私)、自炊派 (人)、《焼肉を食べるときのご飯を食べるか否かに対して》食べる派 (人)、《恋人と別れた後、恋人からのプレゼントを処分するか否かに対して》処分する派 (人)、可愛い派 (私)、《ラーメンの好みに対して》あっさり派 (人)、こってり派 (人)、《ホットケーキの好みに対して》ふんわり派 (人)、もっちり派 (人)

次に、(20) の中から3つの実例を取り上げ、その意味について考察する。まず、(21) は本章2節において挙げた「犬派」「猫派」が用いられている例文である。

- (21) 「犬派の方」の【犬が好きな理由】は「忠実」や「人懐っこい」という回答が断トツ。(略) 一方「猫派の方」の【猫が好きな理由】は「かわいい」がトップ。  
(= (3) 再掲)

(21) では、「犬と猫のどちらが好きか」という話題において、犬が好きな人に対して「犬派」、猫が好きな人に対して「猫派」と述べられている。なお、通常好きな動物について述べる場合、人間にとって身近な動物を答えることが多いと考えられる。ペットとして飼われることも多い「犬」と「猫」は、まさに身近な動物であるため、どちらが好きかという話題によって挙げられやすいといえる。「犬派」と「猫派」という事例は、このような百科事典的な知識<sup>124</sup>に基づいて表されていると考えられる。このような点を踏まえると、「犬派」「猫派」の意味は以下のように記述できる。

##### 「犬派」の意味

< (猫などの他の動物と比べて) 犬を好む複数の人によって形成されるカテゴリー >

<sup>124</sup> 「百科事典的な知識」に関しては、第2章6.1節を参照されたい。

### 「猫派」の意味

< (犬などの他の動物と比べて) 猫を好む複数の人によって形成されるカテゴリー >

次に、「部屋干し派」が用いられている例文を (22) に挙げる。

- (22) 洗濯物は、どちらかというと部屋干し派です。楽に干せるというメリットがある。  
(<https://www.ielove.co.jp/column/hatena/01034/>)

(22) では、普段の生活において、洗濯物を部屋の中で干すこと (部屋干し) が多い話者自身に対して、「部屋干し派」と述べられている。なお、「どちらかという」とあることから、「屋外に干すことも場合によってはあるものの、どちらかという部屋干しを好む傾向がある」ということであると考えられる。このような点を踏まえると、「部屋干し派」の意味は以下のように記述できる。

### 「部屋干し派」の意味

< (屋外に干すなどの他の手段と比べて) 部屋の中に洗濯物を干す傾向がある複数の人によって形成されるカテゴリー >

次に、「可愛い派」が用いられている例文を (23) に挙げる。

- (23) 大好きなディオールもデートの時はハート形にして可愛らしさを出します。  
フォリフォリのラインストーン付き時計は可愛い派の私らしいアイテム。  
彼の試合観戦の時は動きやすいデニムに可愛らしさをプラスしたクラブカリフォルニアのピンクトップスを着ます。  
(光文社 『JJ』)

(23) では、「フォリフォリのラインストーン付き時計」に関して、「可愛い派」である「私らしいアイテム」と述べている。また、「ハート形」や「可愛らしさをプラスしたクラブカリフォルニアのピンクトップス」とあるように、ファッションの嗜好として「可愛いもの」を特に好むことが理解できる。以上を踏まえると、「可愛い派」の意味は以下のように記述できる。

### 「可愛い派」の意味

＜デザインが可愛いものを好む複数の人によって形成されるカテゴリー＞

その他、(20) に挙げた全ての例に共通する意味特徴も踏まえ、意味④を以下のように記述する。

### [X+派] 構文の意味④

＜ある物や事柄、評価的特徴<sub>X</sub>に対する好みや傾向、意見を示す（複数の）人によって形成されるカテゴリー＞

以下では、意味④の特徴について述べる。まず、＜ある物や事柄、評価的特徴＞とは、「派」に前接する名詞や動詞、形容詞、副詞などの X によって動機づけられる意味特徴である。例えば、「犬派」における「犬」や「紅茶派」における「紅茶」は＜物＞を表し、「部屋干し派」における「部屋干し」は＜事柄＞を表すといえる。また、「可愛い派」の「可愛い」や「ふんわり派」の「ふんわり」は＜評価的特徴＞を表すといえる<sup>125</sup>。そして、意味④は、このような X によって表される何らかの＜物や事柄、評価的特徴＞に対する、＜好みや傾向、意見を示す＞ものである。つまり、X に対する何らかの点でのプラス評価を表すケースであり、意味③とは異なるレベルの評価性が関与しているといえる。

そして、意味①から意味③においては、主に他者（や物）に対して [X+派] が用いられるといえる。一方で、意味④においては、例えば「私は断然猫派！」や (23) の「可愛い派の私」のように、自己に対して用いられる [X+派] の事例も多く見られる。つまり、意味①から意味③については、集团的・社会的な文脈（特に、意味①、意味②については、政治や宗教、芸術や文学などの分野）におけるカテゴリーを述べるものであるのに対し、意味④は、特に個人的・私的な文脈におけるカテゴリーを述べるものであるといえる。

一方で、意味④は、(21) の「犬派」と「猫派」のように、同じ文脈において、ある立場

<sup>125</sup> 第3章4.9節で扱った「かわいい系」（ピンクのガーベラ）、「地味系」（おかず）、「がっつり系」（料理）なども、前接要素が形容詞（かわいい）、形容動詞（地味）、副詞（がっつり）であり、これらを総括して＜評価的特徴＞というメタ言語によって表した。本節の [X+派] における意味④の＜評価的特徴＞も同様のものとする。

と他の立場の対比・対立関係を表すケースも多い。特に、以下に示す事例のように、相手の〈好みや傾向、意見〉について尋ねる際に、主に対比・対立関係にある2つの立場を他者に提示する事例が見られる。

(24) 皆さんは紅茶派ですか、コーヒー派ですか？

(<https://basel.co.jp/blog/2010/11/or.html>)

(25) あなたは「かっこいい派 or かわいい派」？夏の足元はスタイルで選ぶ！

(<https://oggi.jp/6492681>)

(26) ラーメンはあっさり派? こってり派?

(<https://girlschannel.net/topics/282144/>)

(24) では、飲み物の嗜好を尋ねる文脈で「紅茶派」と「コーヒー派」、(25) では、靴の好みを探る文脈で「かっこいい派」と「かわいい派」、そして(26) では、ラーメンの好みを探る文脈で「あっさり派」と「こってり派」が提示されている。これらの対比・対立関係は、それぞれの百科事典的な知識に基づいて理解されているものである。例えば、(24) であれば、「(主に成人が) 日常生活を送る中で、通常よく飲んでいる飲み物」として、「紅茶」と「コーヒー」があり、特にこの2つは好み分けやすいということが百科事典的な知識として共有されていると考えられる。

そして、意味①から意味③の事例においては、特に X が名詞 (漢語名詞) であるものが多いが見られたが、意味④は「食べる派」のような動詞、「可愛い派」のような形容詞が前接するケースが見られた。さらには、(飲酒運転の厳罰化に対して)「今より厳しくする派」のように、句や文が前接するケースも見られ、他の意味と比べて特に形態的特徴が多様であり、より臨時的で、複数の成員を想定しないようなカテゴリーを形成しやすいといえる<sup>126</sup>。そのため、意味④のカテゴリー化される対象である Y に相当する意味特徴を〈(複数の) 人〉と記述した。

以上の考察を踏まえて、意味④を〈ある物や事柄<sub>X</sub>に対する好みや傾向、意見を示す (複数の) 人〉によって形成されるカテゴリー〉と記述する。

---

<sup>126</sup> このように文や句が前接するケースについては、他の [X+系] 構文、[X+型] 構文の分析も含めて、第6章において詳しく取り上げる。



なお、ここまで検討した意味①から意味④の各意味の事例には、複数の意味を兼ね備えているものも存在する。例えば、「(ある投手について) カーブやスラップを中心に投球を組み立てる軟投派だった。」<sup>127</sup>という場合の「軟投派」は、<カーブやスラップといった軟球の投球能力が高い>という、意味③としての特徴が焦点化されるケースもあるが、<カーブやスラップといった軟球を特に好んで投げる>という、意味④としての特徴が焦点化されるケースもあると考えられる。

以上、4.4節では、[X+派] 構文における多義性について検討した。

#### 4.5 [X+派] 構文のメトニミー的用法

第3章5節では、[X+系] 構文におけるメトニミー的用法の事例を取り上げた。[X+派] 構文においても、以下に挙げるように [X+派] という形式によって<カテゴリー>を表すのではなく、< [X+派] というカテゴリーに含まれる対象 Y>そのものを表す、メトニミー的用法の事例が存在する。なお、メトニミーの定義については、第2章6.2節において述べた、靱山・深田 (2003:83)、及び多門 (2018:772) に従い、「メトニミー的用法」の定義やその動機づけについては、第3章5節の内容と同様である。

- (27) 7日には岸田派が臨時総会を開きました。党員投票の部分を強調されていらっしゃいましたけれども、立候補を表明されてから2週間近く経ちますが、手応えはいかがですか? (https://news.1242.com/article/313647)

(27) は、2021年9月17日に告示され、同月29日に投開票が行われた自民党総裁選挙に関する事例である。ここでは「岸田派」が用いられているが、「岸田派が臨時総会を開きました」とあり、動詞の「開く」が共起している。その格成分の1つである<行為の主体>を「岸田派」が表していることから、この場合の「岸田派」は<「岸田文雄衆議院議員<sup>128</sup>」の政治観を共有する複数の議員>であると考えられる。これは前節で検討した意味①のメトニミー的用法による事例である。

<sup>127</sup> 用例出典：http://yourei.jp/軟投派

<sup>128</sup> (27) の事例は2021年9月8日時点の内容である。

さらに、以下のような事例も見られる。

- (28) 職場では、利害の異なる人たちの調整をする役割が回ってくることもあります。  
賛成派と反対派が真っ向から対立し、お互い聞く耳も持たず一歩も譲らない状況は厄介なもの。

(<https://www.itmedia.co.jp/bizid/articles/1308/01/news006.html>)

- (29) 自宅で本格派を飲みたいあなたに。焙煎からこだわるコーヒーはいかが？

(<https://www.felissimolife.jp/special/sports/08201608031846.php>)

- (30) (一色海水浴場について)

ゆったり派もアクティブ派も十分楽しめる穴場

(地域限定ぴあ y o k o h a m a 限定版・c h i b a 限定版)

(28) では、職場において異なる立場にある「賛成派」とされる人々と、「反対派」とされる人々が対立することがあると述べられている。つまり、動詞の「対立する」が共起しており、その格成分の1つである<相互行為の主体>を「賛成派」と「反対派」が表していることから、この場合の「賛成派」はおよそ、<ある問題や議題に対して賛成意見を示す人々>を表しており、「反対派」は、<ある問題や議題に対して反対意見を示す人々>を表しているといえる。これは前節で検討した意味②のメトニミー的用法による事例である。

(29) では、「コーヒー」に関して「本格派」と述べられている。なお、「本格」とは、『大辞泉』によると、「本来の格式。もともとの方式。また、それに従っているさま」と記述されている。ここでは、「焙煎からこだわる」などの本来の方式に従って淹れられた、香りや味のよいコーヒーに対して「本格派」が用いられているといえる。また、動詞の「飲む」が共起しており、その格成分の1つである<行為の対象>を「本格派」が表していることから、この場合の「本格派」はおよそ、<本来の方法に従って淹れられた香りや味のよいコーヒー>を表しているといえる<sup>129</sup>。そのため、前節で検討した意味③のメトニミー的用法による事例に該当する。

---

<sup>129</sup> なお、先に述べた『大辞泉』における「本格」の語釈では、特にプラス評価としての意味特徴は見られないが、<本来の方式を採用ものは新しい方式のものよりもよいものである>といった「本格」に対するプラス評価としての百科事典的な特徴は潜在していると考えられる。そして、(29) のような「本格派」、あるいは「本格的」のような派生語になると、それが意味特徴として前景化してくると考えられる。

(30) は、神奈川県にある「一色海水浴場」に関する情報として述べられたものである。ここでは「ゆったり派もアクティブ派も十分楽しめる」と述べられており、動詞の「楽しむ」が共起している。その格成分の1つである<行為の主体>を「ゆったり派」と「アクティブ派」が表していることから、この場合の「ゆったり派」はおよそ、<海水浴場での遊びをゆったりと楽しむことを好む人々>を表しており、一方の「アクティブ派」はおよそ、<海水浴場での遊びをアクティブに楽しむことを好む人々>を表しているといえる。そのため、前節で検討した意味④のメトニミー的用法による事例に該当する。

このように、[X+派] 構文の事例においても、本研究が認定した4つの意味全てにおいて、メトニミー的用法による事例が見られる。

#### 4. 6 [X+派] 構文における意味拡張の方向性

本節では [X+派] という形式が構文として有すると考えられる4つの意味の相互関係について検討する。まず、前節までに検討した、意味①から意味④までの各意味記述とその主な事例を表4に再掲する。

表4：[X+派] 構文の4つの意味とその主な事例

意味①	<何らかの(人や物、あるいは事柄をその象徴とする) 思想や主義 <sub>x</sub> を共有する複数の人によって形成されるカテゴリー> 例：麻生派(政治家)、二階派(政治家)、永平寺派(寺)、総持寺派(寺)、印象派(画家)、ロマン派(画家) など
意味②	<ある事柄に対する何らかの立場や考え、態度 <sub>x</sub> を示す(複数の)人によって形成されるカテゴリー> 例：賛成派(議員)、反対派(議員)、穏健派(政治家)、ハト派(政治家) など
意味③	<何らかの点において際立つ属性や高いレベルの能力 <sub>x</sub> を有する(複数の)人や物によって形成されるカテゴリー> 例：正統派(和食料理)、演技派(女優)、社会派(ドラマ) など
意味④	<ある物や事柄、評価的特徴 <sub>x</sub> に対する好みや傾向、意見を示す(複数の)>

	<p>人によって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：犬派（人）、猫派（人）、部屋干し派（私）、可愛い派（私）など</p>
--	--

以下では、第2章6.3節で述べた靫山（2021）が提案する「多義語分析の課題」に基づいて、課題2）に相当するプロトタイプの意味の認定、及び課題3）に相当する各意味の相互関係の明示について検討する。

#### 4. 6. 1 [X+派] 構文におけるプロトタイプの意味の認定

本節では、[X+派] 構文におけるプロトタイプの意味について検討する。なお、認定の基準については、第3章の [X+系] 構文と同様に、靫山（2021）、瀬戸（2007）、松本（2010）といった先行研究を踏まえて、「用法上の制約が少なく、意味特徴の具体性が最も高く、より明確な条件に基づく、境界が明瞭なカテゴリーを表す意味」を、[X+派] 構文におけるプロトタイプの意味とする。まず、用法上の制約という点では、カテゴリー化される対象が<プラス評価される対象>に限定される意味③と意味④は、用法上の制約があるといえる。そして、「意味特徴の具体性が最も高く、より明確な条件に基づく、境界が明瞭なカテゴリーを表す意味」という点を踏まえると、<何らかの（人や物、あるいは事柄をその象徴とする）思想や主義を共有する>という意味特徴を有する意味①が、最も概念的に基本的な意味、つまり、派生（拡張）の基盤となる意味であり、松本（2009）が述べる概念的な中心性を有する意味であると考えられる。

以上の点から、本研究では意味①を [X+派] 構文におけるプロトタイプの意味として認定する。

#### 4. 6. 2 [X+派] 構文における各意味の相互関係

本節では、[X+派] 構文における各意味の相互関係について検討する。なお、以下では、前節のプロトタイプの意味の認定と同様に、「用法上の制約」、「意味特徴の具体性」、「カテゴリーの境界の明瞭さ」といった点から、意味拡張の方向性を検討する。また、結論から先に述べると、メタファー、シネクドキー、メトニミーという3種の比喩のうち、[X+派] 構文の意味拡張に関与する比喩はメタファーのみである。そのため、本研究で提示する [X+

派] 構文の多義構造は「スキーマティック・ネットワークモデル」に基づくものである。以下では、各意味から抽出できるスキーマとメタファーによる意味拡張の方向性について述べる。

はじめに、意味①と意味②の相互関係について検討する。

まず、意味①は、<何らかの（人や物、あるいは事柄をその象徴とする）思想や主義を共有すること>によって<複数の人>がカテゴリー化されるケースである。一方、意味②は、<ある事柄に対する立場や考え、態度を示すこと>によって、<（複数の）人>がカテゴリー化されるケースである。いずれも政治や宗教などの社会的な文脈において用いられ、何らかの<共通理念>を有するという共通点があり、この2つの意味からは以下のようなスキーマが抽出できる（以下を「スキーマ A」とする）。

#### スキーマ A（意味①と意味②のスキーマ）

<ある共通理念を有する人々によって形成されるカテゴリー>

ただし、意味①は、よりカテゴリーの境界に関する条件が明確で、成員の数が変化しにくいと考えられる。例えば、(8)の「印象派」というカテゴリーに位置付けられる絵画は、どの時代にどの画家によって描かれたものか、あるいは、画家同士の関係性がいかなるものか、どのような美術思潮に基づいて描かれたものか、などの明確な条件があり、例文内に挙げられている「モネやゴッホやルノワールやゴーギャン」のように、「印象派」に位置づけられる成員は限定的であるといえる。一方、意味②は、(15)の「反対派」のように、<ある事柄に対する考え、態度>が徐々に変化することによってそのカテゴリーの成員が変化したり、あるいは成員が一人の場合であっても用いられたりするケースが見られる。以上の点を踏まえると、意味①のほうがより基本的であると考えられることから、意味①から意味②という方向性で、メタファーによって拡張していると考えられる。

次に、意味②と意味③の相互関係について検討する。

まず、意味②については先に述べた通りである。一方、意味③は、<何らかの点において際立つ属性や高いレベルの能力を有すること>によって、<（複数の）人>がカテゴリー化されるケースである。いずれも（主に）カテゴリーの成員以外の人々からの、カテゴリーの成員に位置づけられる人や物に対する評価として用いられるという共通点があり、この2つの意味からは、以下のようなスキーマが抽出できる（以下を「スキーマ B」とする）。

### スキーマ B (意味②と意味③のスキーマ)

〈ある物や事柄に対する意識が強いと(主に)他者から評価される存在によって形成されるカテゴリー〉

ただし、カテゴリーの位置づけにおける条件に注目すると、意味③はより個人の価値判断に基づいたカテゴリーを表しているといえる。例えば、(18)の「演技派」に関して、ここでは「安藤サクラ」「樹木希林」に対して述べられているが、どのような俳優に対して「演技派」とするかの判断には個人差があるといえる。以上の点を踏まえると、意味②のほうがより基本的であると考えられることから、意味②から意味③という方向性で、メタファーによって拡張していると考えられる。

次に、意味①と意味④の相互関係について検討する。

まず、意味①については先に述べた通りである。一方、意味④は、〈ある物や事柄に対する好みや傾向、意見を示すこと〉によって、〈(複数の)人〉がカテゴリー化されるケースである。いずれも、例えば「印象派の絵画」(意味①)や「猫派の方」(意味④)のように、カテゴリー化される人々が何らかの価値観や信条を有するという点が共通しており、この2つの意味からは、以下のようなスキーマが抽出できる(以下を「スキーマ C」とする)。

### スキーマ C (意味①と意味④のスキーマ)

〈ある価値観や信条を有する人々によって形成されるカテゴリー〉

ただし、意味①は、より社会的な文脈で用いられることから、カテゴリーの境界に関する条件が明確であるのに対し、意味④は、より私的で、個人に関する文脈で用いられることから、カテゴリーの境界に関する条件は明確に定められているわけではないといえる。また、意味④の事例では、例えば(23)の「可愛い派」のように、自己に対して用いられる事例も多く見られたが、意味①から意味③の事例は、基本的に他者(や物)に対して用いられるものである。このことから、意味④は意味①よりも周辺に位置づけられるものであるといえる。

以上の点を踏まえると、意味①のほうがより基本的であると考えられることから、意味①から意味④という方向性で、メタファーによって拡張していると考えられる。

以上、[X+派] 構文における4つの意味の相互関係について検討した。なお、各意味から

抽出できるスキーマ A~C のさらに上位のスキーマとして、以下のスーパー・スキーマが抽出できると考えられる。

#### [X+派] 構文のスーパー・スキーマ

<何らかの概念<sub>x</sub>に深く関係する立場に属する(複数の)人や物によって形成されるカテゴリー>

まず、<何らかの概念>とは、[X+派] という形式において、特に X によって動機づけられる特徴であり、<深く関係する立場に属する>とは、例えば、意味①の場合では、<何らかの(人や物、あるいは事柄をその象徴とする)思想や主義を共有する>という特徴として具体化し、意味④の場合では、<ある物や事柄、評価的特徴に対する好みや傾向、意見を示す>という特徴として具体化するものである。つまり、個々の意味から抽出されたスキーマをさらに抽象化すると、<何らかの概念<sub>x</sub>に深く関係する立場に属する>という特徴が抽出されると考えられる。

そして、本研究において認定した4つの意味は全て<(複数の)人>がカテゴリー化されるケースか、意味③の「社会派ドラマ」のような事例や、「印象派の絵」のようなメトニミ的用法の事例のような<物>のみであった。そのため、[X+派] 構文によってカテゴリー化される対象として、<(複数の)人や物>というメタ言語によって表している。

最後に、ここまで検討してきた [X+派] 構文の4つの意味と個々のスキーマによって形成される多義構造を以下に図示する(図1)。

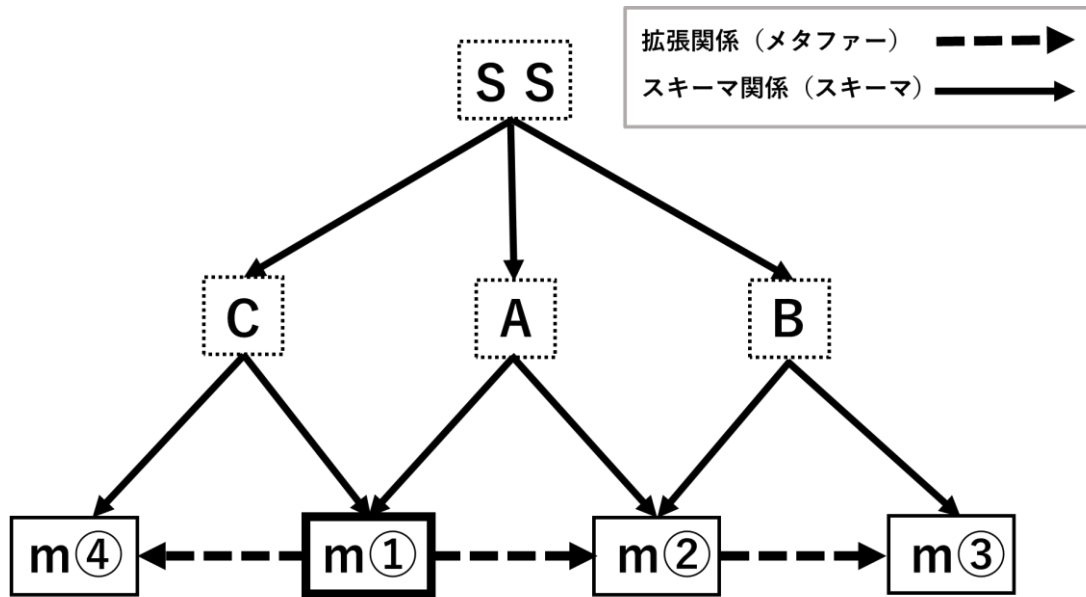


図1：[X+派] 構文の多義構造

以下に、図1の [X+派] 構文の多義構造における表記について、簡略に説明する。

- (a) 「m」は「意味」を表し、各意味を「m①」のように表記している。また、各スキーマは、例えば「スキーマA」であれば「A」のように、それぞれアルファベットによって表記している。なお、「SS」は「スーパー・スキーマ」を表している。
- (b) [X+派] 構文のプロトタイプの意味、つまり、概念的に最も基本的で、拡張の基盤となる意味は意味① (m①) である。
- (c) 意味①と意味②はメタファーの関係にあり、共通する意味として、〈ある共通理念を有する人々によって形成されるカテゴリー〉というスキーマAが抽出できる。
- (d) 意味②と意味③はメタファーの関係にあり、共通する意味として、〈ある物や事柄に対する意識が強いと（主に）他者から評価される存在によって形成されるカテゴリー〉というスキーマBが抽出できる。
- (e) 意味①と意味④はメタファーの関係にあり、共通する意味として、〈ある価値観や信条を有する人々によって形成されるカテゴリー〉というスキーマCが抽出できる。



### 4. 6. 3 単純語「派」と派生語 [X+派] の関連性

本節では、単純語、つまり単独の名詞として用いられる「派」と、[X+派] 構文の多義構造の関連について検討する。なお、第2章6.4節、および第3章6.3節の内容を踏まえると、「派」に関しても、現代日本語において単純語としての用法と接尾辞としての用法のいずれも存在していることから、文法化による変化の兆候として捉えられる「分岐」の段階にあると考えられる。

以下は、単純語として「派」が用いられている実例である。

- (31) 自民党の石破茂元幹事長が顧問を務める石破派（水月会）が、いよいよ存続の危機に立たされている。9月の党総裁選では石破氏が支援した河野太郎広報本部長が岸田文雄首相に敗れ、岸田内閣では派の入閣者がゼロになった。新たに2議員が派を離れ、勢力はピーク時の20人から15人に減少。派のあり方の抜本的見直しを迫る声もある。

(<https://www.sankei.com/article/20211007-O2SAQHCCCTFIRBON5VIBD757BUE/>)

- (32) 人の寄りかたというのはおもしろいもので、三百人が三百人すべて氏素姓を知っているわけではないのに、派は大てい親の地位や経済力によって分れ、蘭子のような、この塾では第一級の親を持つ者は似たような地位の展子たちと親しくなり、日頃木綿着物ばかりで押し通している連中はそれなりの友を選んで寄り集う。先生が固く訓戒されても、稽古にも銘仙ぐらひは着てくる蘭子たちの派と木綿派とはいつも遠く離れ、蘭子自身もこれまで全く関心も持たなかったそういう人たちに、いまは自分からときどき話しかけたりすることもある。

(宮尾登美子著 『一絃の琴』)

(31) では、「自民党の石破茂元幹事長」が顧問を務めている「水月会」という派閥（石破氏が顧問を務めていることから、「通称「石破派」と呼ばれている）に対して、単純語の「派」が用いられている。また、(32) では、「人の寄りかた」、つまり、人がどのような人間同士で集まり、グループを成すものであるかについて述べたものであり、そのようなグループに対して、単純語の「派」が用いられている。つまり、(31) は政治というより広い社

会における組織としての「派」であり、(32) は一般社会において人間同士が成すグループとしての「派」であるという違いはあるものの、これらの事例から単純語の「派」の意味を抽出すると、およそく何らかの共通する価値観を有する人間によって形成された個々の社会的集団>と記述できる。そして、単純語の「派」は、<何らかの点で同じ価値観を共有している>、<人の社会的な集団である>、<他の集団との対比・対立関係がある>といった特徴を有すると考えられるが、[X+派] 構文の4つの意味において、このような特徴を全て有しているのは、「麻生派」や「印象派」のような、意味①のみであるといえる。つまり、単純語の「派」における上述の諸特徴が、文法化の過程の中で漂白化することに伴い、[X+派] 構文の多義構造全体において、より集団的・社会的なレベルのカテゴリーを表す意味から、より個人的なレベルのカテゴリーを表す意味へと拡張していると考えられる。例えば、意味①における<ある思想、主義を共有する>という特徴は、集団的・社会的レベルでのカテゴリーを成す特徴であるといえるが、意味④における<ある物や事柄、評価的特徴への好みや傾向、意見を示す>という特徴は、個人レベルでのカテゴリーを成す特徴であるといえる。

また、この方向性と連動して、前節での各意味の相互関係に関する考察で述べたように、カテゴリーの境界がより明瞭な意味から、不明瞭な意味へと拡張しているといえる。例えば、意味①における「印象派（絵画）」の場合、特に芸術分野の専門家であれば、作品の描写手法や画家などの条件に基づいて、具体的にどのような絵画が「印象派」の成員に該当するのかが判断することができる。一方、意味③における「演技派（女優）」の場合、<演技力が高い>という意味特徴は明確な条件とは言い難く、「演技派」の成員として具体的にどのような女優が挙げられるかについては、個人の価値判断に委ねられるものであるといえる。

以上、単純語の「派」の意味との関わりから、[X+派] 構文の多義構造全体における大きな意味拡張の方向性について検討した。

#### 4. 7 本章のまとめ

以上、本章では、接尾辞「派」と、それに前接する要素 X から成る [X+派] 構文の多義性、及び意味拡張の様相について考察した。具体的には、個々の実例の意味記述を踏まえて、ボトムアップ的に4つの意味を認定し、[X+派] 構文における「メトニミー的用法」の実例の意味についても検討した。また、[X+派] 構文は、用法上の制約や意味特徴の具体性の高

さという点から見て、意味①が最も概念的に基本的な意味、つまり、派生（拡張）の基盤となる意味であり、松本（2010）における「概念的中心性」を有すると考えられることから、意味①をプロトタイプの意味として認定した。そして、4つの意味の相互関係について、メタファーによる意味拡張という観点から考察した。さらに、単純語として用いられる「派」の意味や諸特徴を検討し、接尾辞の「派」が単純語の「派」からの文法化の兆候として捉えられる「分岐」（Hopper 1991）の段階にあることを指摘し、[X+派] 構文の多義構造全体において、その特徴が文法化の過程の中で漂白化することに伴い、より集団的・社会的なレベルのカテゴリーを表す意味から、より個人的なレベルのカテゴリーを表す意味へと拡張していること、そして、カテゴリーの境界が明瞭な意味から、境界が不明瞭な意味へと拡張していることを指摘した。

なお、山下（2015）においては、カテゴリー化される対象が<人>に限定されていたが、「正統派のおかず」や「社会派ドラマ」のような<物>が対象であるケースも含めて、本研究では網羅的に事例を扱うことができた。また、山下（2013）では、人を表す「Y系」「X派」における「系・派」の共通する意味特徴として分析されていたが、本研究では、第3章において接尾辞「系」とそれに前接するXから成る [X+系] 構文を精緻に記述し、本章では [X+派] 構文を精緻に記述した。このようにそれぞれの構文を詳細に検討することによって、個々の事例のゲシュタルト的な意味特徴も含めて、それぞれの接尾辞によって動機づけられる意味の違いを明らかにした。

## 第5章 カテゴリーを形成する [X+型] 構文の意味分析

### 5.1 はじめに

現代日本語には、「体験型留学」における「体験型」や「僕は直感型だ」における「直感型」のように、「～型（がた）」が用いられる事例が存在する。このような「～型」について、『新明解国語辞典（第八版）』では、「（がた）の形で」「共通の性質や形式が認められる状態」と記述されている。このことから、「体験型」や「直感型」のような [X+型] という表現はおおよそ、〈ある（複数の）対象〉に対して用いられ、それらを何らかの〈カテゴリー〉に位置づける上で用いられると考えられる。

そして、このように用いられる「～型」は、例えば「体験型」の場合、「体験の型（かた）」のようにパラフレーズすることはできず、「体験型（がた）」という形式によって、単純語の「型」では表せない〈カテゴリー〉としての意味を表しているといえることから、この場合の「型（がた）」は接尾辞であると考えられる。一方で、例えば「血液型」の場合、「血液の型（かた）」にパラフレーズすることが可能であり、その意味は「A型」「B型」「O型」「AB型」などの、〈個々の血液のタイプの総称〉を表すといえることから、この場合の「型（がた）」は複合語の後接要素であると思われる。本章では、特に接尾辞としての「型（がた）」と、それに前接する要素 X から形成される派生名詞としての [X+型] という形式を構文として捉え、その多義性や意味拡張の様相について共時的に分析していく。

以下では、本章の構成について述べる。まず、5.2 節では、接尾辞「型」に関する主な先行研究として、パーマー（2021）を取り上げ、その問題点を指摘する。

次に、5.3 節では、[X+型] 構文における X に様々な品詞や言語単位の要素を取りうることを確認する。また、[X+型] 構文は、さらに大きな単位の形式である [X型Y] を始めとする複数の形式によって用いられること、そして、本章ではその複数の形式に共通する [X+型] という形式における構文の意味を検討することを確認する。

次に、5.4 節では、[X+型] 構文における複数の意味を記述し、その多義性について検討する。ここでは、個々の事例の意味記述を踏まえて、ボトムアップ的に [X+型] 構文の複数の意味を認定する。また、5.5 節では、[X+型] 構文における「メトニミー的用法」の事例を取り上げ、考察する。

次に、5.6節では、5.4節で認定した [X+型] 構文における6つの意味の相互関係について、比喩による意味拡張という観点から検討する。特に、単純語として用いられる「型(かた)」の意味との関係から、[X+型] 構文における意味拡張の方向性について検討する。

最後に、5.7節では、本章の内容をまとめる。

## 5.2 先行研究概観

接尾辞の「型(がた)」を考察対象として扱う主な先行研究としては、パーマー(2021)がある。パーマー(2021)では、「釣り鐘状の花」で用いられる接尾辞「状」に注目し、その意味と類似する「釣り鐘形・型の花」のような接尾辞「形・型(ガタ)」との比較を通して、その意味・用法を詳細に記述している。特に「形・型」に関して、パーマー(2021:14)では、「ガタ」は「形状」から「タイプ」まで広がっている」として、「涙形」(形状)、「ケーキ型」(鋳型)、「夜型人間」(タイプ)、「血液型」(排他的タイプ)という4つの分類を示している<sup>130</sup>。ただし、「状」との比較に主軸が置かれていることから、「型(がた)」に関しては網羅的に考察されているわけではなく、意味の区分も緩やかな分類に留まっているといえる。例えば、パーマー(2021)では、以下に挙げるような事例については詳細に検討されていない。

- (1) 甲府市富士見1丁目の山梨県立中央病院は13日までに、イギリス型やブラジル型、南アフリカ型の新型コロナウイルスの変異株3種とは異なる変異株を13例検出した。(https://www.asahi.com/articles/ASP4F7K1XP4FUZOB00Z.html)
- (2) 何かを学ぶというより、海外の文化を味わい、海外生活の体験がしたい人向けなのが体験型留学。(https://study.goo.ne.jp/ryugaku/sp/guide/001.html)

<sup>130</sup> なお、パーマー(2021)では、「形・型(ガタ)」を和語接尾辞として位置づけた上で、上述の4つの分類を示しているが、特に「ケーキ型」(鋳型)と「血液型」(排他的タイプ)は、他の2つの分類とは性質が異なるものと考えられる。つまり、「涙形」と「夜型(人間)」は、「涙の形(かた)」「夜の型(人間)」のようにパラフレーズできず、単純語の「型(かた)」では表せない意味を有するといえることから、派生語であると思われる。一方、「鋳型」を表す「ケーキ型」は、「ケーキの型」にパラフレーズが可能であり、「型にケーキの生地を入れる」のように用いられる場合の、単純語としての「型」の意味を強く有することから、複合語であると思われる。また、本章1節で述べたように、「血液型」も複合語であると思われる。

(1) は、「イギリス型」のように、前接要素が〈国名〉を表すケースの事例であり、(2) は、「留学」という〈事柄〉に対して「体験型」が用いられている事例である。パーマー(2021)においては、「状」との比較において特に重要な、「形・型(カタ)」の〈形状〉としての意味に焦点が置かれていることから、このように前接要素が〈国名〉を表すケースや、〈事柄〉に対して「型」が用いられるケースなどは扱われていない。そのため、このような事例も含めて、[X+型] という形式における意味の多義性を網羅的に検討する必要がある。

なお、大庭(2021)では、東洋の伝統的な武道や芸能、さらには漢方など、様々な領域における「型(かた)」(の概念)に関して、それらがどのように捉えられ、活用されてきたのかについて概説している。そして、その「型」による事物の捉え方のアプローチと、「科学的方法論」による事物の捉え方のアプローチについて詳細に比較し、「型」によるアプローチを、科学では扱いきれない主題や対象を処理するために有用な、新たな方法論的ツールとして活用する可能性を提示している。その中で大庭(2021:4-7)は、「型」という言語表現に関して、「型」の辞書的定義を踏まえた上で、例えば「アメリカ型社会」と「日本型社会」のように用いられる「型」を「事物の枠組みや分類方法としての型」として捉え、武道や茶道、あるいは能や狂言、歌舞伎などの芸能において用いられる「型」を「叡智の表現・伝達方法としての型」として捉えている。本章の分析は、特に前者のような「型」による「事物の枠組みや分類方法」のあり方について、[X+型] という形式における多義性という面からアプローチするものとして位置づけられる。

### 5. 3 [X+型] 構文の形式的特徴

本節では、[X+型] 構文の形式的特徴について確認する。まず、[X+型] 構文は、第3章で検討した [X+系] 構文、第4章で検討した [X+派] 構文と同様に、様々な品詞や言語単位の要素が前接する。そして、[X+型] 構文においても、[X型Y]、[X型のY]、[Yは/X型] という大きく分けて3つの形式が見られた。これらの形式について、Xがどのような品詞であるかに基づいて分類し、以下に示す。

まず、表1は [X+型] が [X型Y] という形式を構成する要素として用いられるケース

であり、その X の品詞性<sup>131</sup>に基づいて分類したものである。

表 1 : [X 型 Y] における X の品詞分類

X の品詞	事例 <sup>132</sup>
名詞	ドーム型ケーキ、リンゴ型肥満、猫型ペットロボット、スプリング型フィーダー、ワイヤー型ペンケース、音声型 SNS、直下型地震、郊外型ショッピングセンター、熊本型放牧、屋外型施設、イギリス型の変異株、夏型過敏性肺炎、2020 年型バッテリー、参加型テレビ CM、体験型留学、質問型営業、周遊型イベント、療養型病院、劇場型政治、ジョブズ型スピーチ
動詞	寝る型コラーゲンマシン、ほめる型指導、なる型言語
ナ形容動詞	安全型ガス機器、複雑型熱けいれん
副詞	さっぱり型化粧水、あっさり型ラーメン

表 1 では、X の品詞が名詞（句）である事例が最も多く見られた。そして、動詞、ナ形容詞、副詞の事例はわずか数例のみが見られ、イ形容詞の事例は見られなかった。

次に、表 2 は [X+型] が [X 型の Y] という形式を構成する要素として用いられるケースであり、その X の品詞性に基づいて分類したものである。

表 2 : [X 型の Y] における X の品詞分類

X の品詞	事例
名詞	ハート型のピザ、コの字の家、アーチ型の橋、スクエア型の足、円盤型のパン、たい焼き型のチョコ菓子、キャミソール型のワンピース、セダン型の自動車、カートリッジ型の新商品、海溝型の大規模地震、冬型の気圧配置、将来型の農業、共助型の災害公営（復興）住宅、滞在型の観光、草の根型の運動、感情型

<sup>131</sup> 「品詞性」については、第 3 章 3 節における脚注 38 番を参照されたい。

<sup>132</sup> 以下、表 1 から表 3 に挙げる事例は、「筑波ウェブコーパス (NINJAL-LWP for TWC)」、検索エンジン「Yahoo! JAPAN」、朝日新聞のデータベース「聞蔵 II ビジュアル」を用いて収集した実例である。

	の人、決断型の首相
動詞	吊る型の除湿消臭グッズ、話す型の学習、勉強する型の俳優、 痩せ型の男、置き型のバスタブ、横書き型のスコアカード、紋 切り型の接客
イ形容詞	おとなしい型の猫
ナ形容詞	単純型の熱性けいれん、元気型のホーム
副詞	まったり型のコミュニケーション、ゆっくり型の森村さん うっとり型のキャッチコピー、しっとり型の焼き芋

表2においても、Xの品詞が名詞である事例が最も多く見られた。動詞の事例に関しては、数例が見られたが、「痩せ型の男」「置き型のバスタブ」など、特に動詞連用形の事例が多かった。また、ナ形容詞、副詞の事例はわずか数例のみが見られ、イ形容詞の事例は「おとなしい型の猫」の1例のみだった。

次に、表3は [X+型] が [Yは/がX型] という形式を構成する要素として用いられるケースであり、そのXの品詞性に基づいて分類したものである。

表3：[Yは/がX型] 構文におけるXの品詞分類

Xの品詞	事例
名詞	マスクッチは <u>うちわ型</u> 。 (2021年4月24日『朝日新聞』朝刊) 僕は <u>直感型</u> だ。 ( <a href="https://origin.golfnetwork.co.jp/news/detail/26217">https://origin.golfnetwork.co.jp/news/detail/26217</a> )
動詞(句)	日本の雇用体系は、 <u>雇って育てる型</u> で、一組織の中で部署を異動して回るが、アメリカの場合は、ほぼ日本型の異動はない。 ( <a href="http://ryam1603.blog125.fc2.com/blog-date-201109.html">http://ryam1603.blog125.fc2.com/blog-date-201109.html</a> )
形容詞	上司は <u>うるさ型</u> ですが、ビルも態度悪いです。 ( <a href="https://chaos-next-door.com/bl/?p=4504">https://chaos-next-door.com/bl/?p=4504</a> )
形容動詞	岡山は金銭感覚が鋭くビジネスの成功例も多い <u>真面目型</u> 。 ( <a href="https://zexy.net/article/app000100719/">https://zexy.net/article/app000100719/</a> )



副詞	うちの子どもは <u>おっとり型</u> でおとなしい性格。 ( <a href="https://www.happy-note.com/qa/101504.html">https://www.happy-note.com/qa/101504.html</a> )
----	---

表1から表3において最も多く見られた事例は、Xが名詞であるケースである。Xに動詞が用いられるケースにおいては、基本形が用いられるケースは「ほめる型指導」「話す型の学習」のようなごく一部の事例のみであり、「痩せ型の男」「置き型のバスタブ」のように連用形が用いられるケースの方が多く見られた。また、動詞よりも「体験型留学」「滞在型の観光」など、Xが漢語動作名詞であるケースが多く見られた。

ここまで、[X+型]を含む主な形式として、[X型Y]、[X型のY]、[Yは/がX型]という3つのケースがあることを確認した。次節では、このような形式に共通する[X+型]構文の多義性を考察する。なお、第3章において考察した[X+系]構文、そして、第4章において考察した[X+派]構文と同様に、本研究で収集した全ての事例において、Yに名詞(句)以外の要素を取るケースは見られなかった。つまり、[X+型]構文が用いられる全てのケースにおいて、Yに当てはまる要素は名詞(句)であるという点が共通しており、それぞれの構文に現れるYの要素は、< [X+型]によってカテゴリー化される対象 >を表しているといえる。そして、[X+型]構文の多義性を捉える上では、この「どのような対象がカテゴリー化されているのか」という点を考慮することが重要であると考えられる。

以上を踏まえて、次節では[X+型]という形式とカテゴリー化される対象(Y)との関係を考慮した上で、[X+型]構文においてXと「型」がどのような意味的貢献をしているのかという観点から、各意味の区分や記述を検討していく。

なお、以下に挙げるように、[X+型]の事例の中には、[X型にV]という形式によって表せる事例も見られる。

- (3) シンク、加熱器機、調理・配膳スペースがU字型に並び、非常にゆったりしたレイアウトになります。

(<https://www.lixil-reform.net/encyclopedia/kitchen/layouts/>)

- (4) 国家公務員の定年延長自体は、時代の要請にかなうが、年齢構成が逆ピラミッド型になり、中堅・若手にしわ寄せが及ばないよう、働き方改革を同時に進めることが大切だろう。 (2021年4月22日『朝日新聞』朝刊)

(3) の「U字型」は、「シンク、加熱器機、調理・配膳スペース」が「U字」のように並んでいることを表していると考えられる。また、(4) の「逆ピラミッド型」は、国家公務員の定年延長によって、その年齢構成が「逆ピラミッド」のようになっていることを表しているといえる。このようなケースは、[X型にV] という形式によって表せるものである。本研究では、[X+型] の〈カテゴリー〉としての意味の多義性や意味拡張の様相について考察することに主眼を置くため、特に表1から表3のような形式において現れる [X+型] の事例とYの関係を考察するが、(3) や (4) のような〈様態〉としての [X+型] の事例も、広義での〈カテゴリー〉を表すものとして捉え、考察対象とする。

#### 5. 4 [X+型] 構文の多義性

本節では、前節までの検討を踏まえて、[X+型] という形式を構文として捉え、その多義性について考察する。具体的には、「筑波ウェブコーパス (NINJAL-LWP for TWC)」、検索エンジン「Yahoo! JAPAN」、朝日新聞のデータベース「聞蔵II ビジュアル」を用いて収集した、計220例の実例の意味を踏まえ、(現代日本語において確立していると考えられる) 6つの意味を提示する<sup>133</sup>。

各意味の分類と記述の方法は以下の通りである。まず、収集した個々の事例を観察し、「[X+型] がどのような対象Yと共起しているのか」という観点と、「[X+型] 全体や対象Y、[X+型] が用いられている句や文全体に対して、Xがどのように意味的な貢献をしているのか」という観点から、同種の意味特徴を有すると思われる複数の事例を1つのグループとしてまとめ、分類する。そして、そのグループの中からいくつかの事例を取り挙げ、その意味を検討する<sup>134</sup>。さらに、それらの意味の検討を踏まえてボトムアップ的に抽出した、複数の事例に共通する意味を [X+型] 構文における1つの意味として認定する。また、認定した意味に関連する諸々の特徴(その意味における個々の意味特徴や、Xの品詞が何であるかといった形態的特徴、どのような文脈において用いられやすいかなど) について記述する。

<sup>133</sup> 本節における6つの意味の提示は第2章6.3節で述べた靱山(2021)の「多義語分析の課題」における課題1)に相当する。

<sup>134</sup> なお、個々の事例の意味を検討するにあたり、その考察の一部に『明鏡国語辞典 第二版』(以下、『明鏡(第二版)』と呼ぶ)、『デジタル大辞泉』(以下、『大辞泉』と呼ぶ)、『日本国語大辞典 第二版(ジャパナレッジ)』(以下、『日国』と呼ぶ)の意味記述を参照する。また、「直下型」のように、慣習性が高く、これらの辞書に見出し語がある場合はその意味記述を参照する。

### 5. 4. 1 意味①

はじめに、同種の意味特徴を有する主な例を (5) に提示する<sup>135</sup>。

- (5) スクエア型 (足)、オブリーク型 (足)、ハート型 (ピザ)、コの字型 (家)、U字型 (配置)、円盤型 (パン)、楕円型 (頭)、ボックス型 (電子タバコ)、アーチ型 (橋)、痩せ型 (男)、蕁麻疹型 (薬疹)、セダン型 (自動車)、A4型 (封筒)、ピラミッド型 (ババロア)、たい焼き型 (チョコ菓子)、リンゴ型 (肥満)、洋ナシ型 (肥満)、手帳型 (スマホケース)、封筒型 (寝袋)、マミー型 (寝袋)、ペン型 (レーザーポインター)、ゴーグル型 (VR端末)、帽子型 (自転車用ヘルメット)、猫型 (ペットロボット)

次に、(5) の中から 3 つの実例を取り上げ、その意味について考察する。まず、(6) は「ハート型」が用いられている例文である。

- (6) ハート型のピザのラインアップは、「ハートのアメリカン」「ハートのドミノ・デラックス」「ハートのウルトラチーズ 250g」の 3 品。<sup>136</sup>

(<https://news.yahoo.co.jp/articles/fb8ffb596e24f9fee6c00578c0352842e0fd5103>)

(6) では、「ハートのアメリカン」「ハートのドミノ・デラックス」「ハートのウルトラチーズ 250g」という 3 つのピザの品目に関して、「ハート型」と述べている。ここでは、3 つのピザに関して、その形が「ハート」であることが共通している。また、このように「ハー

---

<sup>135</sup> 本章 5.3 節において述べた [X+型] によってカテゴリー化される対象 (以下、「対象」と呼ぶ) を各事例の後の ( ) 内に示す。つまり、[X 型 Y] という形式 (表 1) や、[X 型の Y] という形式 (表 2)、[Y は X 型] という形式 (表 3) における Y が「対象」である。なお、「A、B、C…などの X 型」の場合、「A、B、C」が「対象」であるが、このように「複数の対象」が [X+型] によってカテゴリー化されている場合は、便宜上それらの上位概念を表す一語を示すこととする。

<sup>136</sup> 以下、[X+型] 構文によって表されるカテゴリーの対象が例文内に示されている場合には、点線の下線を施す。

ト型」が用いられる類例として、「ハート型の葉<sup>137</sup>」などの事例が見られた。このことから、「葉」のような<自然産物>であっても、「ピザ」のような<人工物>であっても、その一つ一つが同じように「ハート」の形をしているということが共通している場合、「ハート型」が用いられるのだといえる。以上の点を踏まえて、「ハート型」の意味を抽出すると、概略以下のように記述できる。

### 「ハート型」の意味

<ハートの形をしている複数のモノによって形成されるカテゴリー>

次に、「セダン型」が用いられている例文を(7)に挙げる。

(7) セダン型の自動車の購入を考えています。

・日産 Y50 フーガ後期

・トヨタ 200系クラウンロイヤルサルーン の二つで悩んでいます。

(<https://carview.yahoo.co.jp/ncar/catalog/nissan/fuga/chiebukuro/detail/?qid=10154937015>)

(7) では、「日産 Y50 フーガ」「トヨタ 200系クラウンロイヤルサルーン」のような「自動車」のタイプとして「セダン型」が用いられている。「セダン」とは、乗用車の種類の1つであり、『大辞泉』によると、「ボンネット・室内スペース・トランクルームの三つに分かれている」とされている。また、「セダンとは、車の分類の1つで、3ボックスで4ドアの車のことです。2ドアのセダンもあるようですが、一般的には4ドアの車を指します。<sup>138</sup>」とあるように、通常は4つのドアを備えているという特徴を有する。以上の点を踏まえると、「セダン型」の意味は概略、以下のように記述できる。

### 「セダン型」の意味

<内装がボンネット、室内スペース、トランクルームの3つに分かれ、ドアが4つあると

---

<sup>137</sup> 用例出典：<http://www.tanushimaru.co.jp/green-tank/deciduous-tree/katsura.html>

<sup>138</sup> 参考 URL：<https://www.goo-net.com/magazine/knowhow/carlife/26539/>

いう外見的特徴を有する車によって形成されるカテゴリー>

次に、「猫型」が用いられている例文を(8)に挙げる。

- (8) 「あまえんぼうねこちゃん」は、本物みたいな「尻尾」の動きと「鳴き声」で感情表現が豊かな、愛らしい猫型ペットロボット。ふわふわな抱き心地で本物の猫の鳴き声も多数収録。鳴き声・尻尾の動き・感情表現は全100通り以上。

(<https://robotstart.info/2020/02/12/nekotobo.html>)

(8)では、「あまえんぼうねこちゃん」という、猫のような見た目をしたペットロボットの商品に対して、「猫型」と表されている。例文から、その見た目や触り心地だけでなく、仕草や鳴き声までも含めて、本物の猫そっくりに作られているということがわかる。つまり、その機能的な特徴までも含めて、猫に類似しているという特徴があるといえる。なお、同じように「猫型」が用いられている事例として、「猫型のチーズケーキ<sup>139)</sup>」があるが、この場合において猫のようであるとされるのは、その外見的特徴(特に輪郭)のみである。そのため、「猫型」という事例は特にその<外見的特徴>に基づいて対象をカテゴリー化していると考えられる。以上の点を踏まえると、「猫型」の意味は概略、以下のように記述できる。

### 「猫型」の意味

<猫のような見た目をしている複数のモノによって形成されるカテゴリー>

その他、(5)に挙げた全ての例に共通する意味特徴も踏まえ、意味①を以下のように記述する。

### [X+型] 構文の意味①

<何らかの外見的特徴<sub>X</sub>を有する、または何らかのモノ<sub>X</sub>と外見的特徴が類似している複数のモノによって形成されるカテゴリー><sup>140)</sup>

<sup>139)</sup> 用例出典：<https://maidonanews.jp/article/13440994>

<sup>140)</sup> これ以降、各意味記述の中で特に「型」に前接する要素Xによって動機づけられていると思われる意味特徴に関しては、点線の下線.....を引き、下付きでXを施すこととする。

以下では、意味①の特徴について述べる。まず、＜何らかの外見的特徴＞とは、「型」に前接する名詞や動詞などの X によって動機づけられる意味特徴である。例えば、(6) の「ハート型」の「ハート」や、(7) の「セダン型」の「セダン」は、対象である「ピザ」「自動車」の＜外見的特徴＞を直接表しているケースである。また、「痩せ型」(男)の場合、「痩せる」という動詞連用形である「痩せ」によって、対象である「男」の＜外見的特徴＞を直接表している。一方、(8) の「猫型」における「猫」は、対象である「ペットロボット」が、まるで猫のように見えるということから用いられている。つまり、このようなケースにおいての「型」に前接する名詞 X を＜何らかのモノ＞として表している。このように、意味①には、その外見的特徴を直接 X が表すことによって対象 Y がカテゴリー化されるケースと、＜何らかのモノ＞との類似性に基づいて対象 Y がカテゴリー化されるケースがある。いずれも、対象 Y の＜外見的特徴＞に基づいてカテゴリー化されるということが共通しているといえる。

そして、意味①は特に名詞の「形(かたち)」に近い意味を有するといえる。例えば、(6) の「ハート型」であれば、「ハートの形」にパラフレーズすることが可能である。ただし、(6) では「ハート型のピザ」の成員として具体的な「ピザ」の品目が挙げられており、よりカテゴリーとしての特徴が強いと考えられる。

以上の考察を踏まえ、意味①を＜何らかの外見的特徴<sub>X</sub>を有する、または何らかのモノ<sub>X</sub>と外見的特徴が類似している(複数の)モノによって形成されるカテゴリー＞と記述する。

なお、[X+型]の各意味はプロトタイプ・カテゴリーを成しており、その事例は典型例から周辺例まで連続的なものであると考えられる。例えば、意味①であれば、(6)の「ハート型」「マミー型」のような＜外見的特徴＞に基づくケースが典型例であると考えられるが、中には(8)の「猫型」における、＜猫のような仕草をする＞といった＜機能的特徴＞までも含む事例も見られ、このようなケースは意味①の中でもより周辺に位置づけられると考えられる。

## 5. 4. 2 意味②

はじめに、同種の意味特徴を有する主な例を(9)に提示する。

- (9) カートリッジ型 (ペン)、スプリング型 (餌台)、ワイヤー型 (ペンケース)、フック型 (ピアス)、リボン型 (ヘアゴム)、マグネット型 (ブックマーカー)、ストラップ型 (社員証ホルダー)、短毛型 (犬)、中間型 (犬)、長毛型 (犬)、温泉型 (テーマパーク)、アトラクション型 (ホテル)、マルチテナント型 (物流施設)、音声型 (SNS)、Bluetooth 型 (イヤホン)、防水型 (ラジオ)

次に、(9) の中から3つの実例を取り上げ、その意味について考察する。まず、(10) は「カートリッジ型」が用いられている例文である。

- (10) 墨・書道用品メーカーの呉竹 (奈良市) が開発した「からっぽペン」は、文字どおりインクの入っていない「からっぽ」のペン。内部のまっさらの綿芯 (わたしん) を、お気に入りのインクに浸してセットすれば、簡単に自分だけのオリジナルのペンができあがる。(中略) 今春には繰り返し使えるカートリッジ型の新商品も発売した。 (2021年4月26日『朝日新聞』夕刊)

(10) は、「呉竹」という墨・書道用品のメーカーが開発した、「からっぽペン」と呼ばれる商品に関する例文である。ここでは、綿芯にインクを浸してセットする方法を採る従来の「からっぽペン」からの新商品である、「カートリッジ」にインクをスポイトで入れ、ペンの中にセットする方法を採るものに対して、「カートリッジ型」と述べられている<sup>141</sup>。また、類例として、「カートリッジ型の浄水器<sup>142</sup>」のような事例も見られた。このことから、通常「カートリッジ型」は、交換可能な「カートリッジ」を含んだ商品に対して用いられるものと思われる。このような類例も含めて、「カートリッジ型」の意味を抽出すると、概略以下のように記述できる。

### 「カートリッジ型」の意味

<交換が可能な部品を含んでいる複数の商品によって形成されるカテゴリー>

<sup>141</sup> 参考 URL : <https://www.kuretake.co.jp/product/koto/karappopen>

<sup>142</sup> 用例出典 : [https://www.nihon-filter.com/product/recycle/item\\_007.html](https://www.nihon-filter.com/product/recycle/item_007.html)

次に、「短毛型」「長毛型」「中間型」が用いられている例文を (11) に挙げる。

- (11) 犬の被毛のタイプは本当に千差万別、多種多様の一言に尽きます。基本的に長さによって、短毛型(ショート・コート)・中間型(普通型)・長毛型(ロング・コート)の3つに分類することができます。短毛型としてはラブラドル・レトリバーやバグ、ブルドッグ、長毛型としてはマルチーズやオールドイングリッシュ・シープドック、中間型としては柴などの日本犬やジャーマンシェパードなどがあげられます。(http://www.peppynet.com/library/archive/html/n1906.html)

(11) では、犬のタイプについて、その毛の長さに基づいて、「短毛型」「長毛型」「中間型」があることが述べられている。例えば、ここでは具体的な「短毛型」の犬の種類として、「ラブラドル・レトリバー」「バグ」「ブルドッグ」が挙げられている。なお、「中間型」は、それ単独では何と何の間であるのかわからないが、ここでは犬の毛の長さについて述べており、他の種類として「短毛型」「長毛型」があるため、その中間の長さの毛を持つ犬のことを「中間型」と述べているのだということがわかる。また、次のような事例も見られることから、「犬」や「モルモット」のような動物に対して、その毛の長さによる分類として、「短毛型」などが用いられていることがわかる。

- (12) モルモットと言うのは、日本でマーモットとまちがえてつけられた名前、飼育された中では長毛種、短毛型、巻き毛型がある。

(http://ojizoo.jp/zukan/html/0106006.htm)

以上を踏まえ、ここでは特に「短毛型」の意味について、概略以下のように記述する。

### 「短毛型」の意味

<短い毛を有する複数の動物によって形成されるカテゴリー>

次に、「音声型」が用いられている例文を (13) に挙げる。

- (13) 松崎さんは並行して、インスタグラムのライブ配信や音声型SNS「クラブハウ



ス」での講義に長時間を費やしてきた。(2021年4月21日『朝日新聞』朝刊)

(13) では、「クラブハウス」と呼ばれる SNS アプリケーションに対して、「音声型」が用いられている。これは、他の多くの SNS アプリケーションと異なり、「音声」を使ってコミュニケーションを取ることが特徴とされている。また、類例として、「音声型 GPS ゴルフナビ<sup>143</sup>」のような事例も見られた。このように、機械やアプリケーションに「音声」の機能が備わっているものに対して、「音声型」が用いられていることがわかる。このような類例も含めると、「音声型」の意味は、概略以下のように記述できる。

### 「音声型」の意味

＜音声の機能が備わっている複数の機械やアプリケーションによって形成されるカテゴリー＞

その他、(9) に挙げた全ての例に共通する意味特徴も踏まえ、意味②を以下のように記述する。

### [X+型] 構文の意味②

＜何らかのモノ<sub>x</sub>を特に際立った部分として含んでいる複数のモノによって形成されるカテゴリー＞

以下では、意味②の特徴について述べる。まず、＜何らかのモノ＞とは、「型」に前接する名詞である X によって動機づけられる意味特徴である。つまり、「カートリッジ型」における「カートリッジ」や、「音声型」における「音声」が＜何らかのモノ＞に相当する。

そして、意味①は、対象 Y の構造全体における、＜（主に視覚によって知覚される）外見的特徴＞に基づいたカテゴリーを表すケースである一方で、意味②は、対象 Y の構造全体のなかの、ある＜部分＞に基づいたカテゴリーを表しており、特に X が対象 Y にとっての、＜際立った部分＞として捉えられることに基づくカテゴリーを表しているといえる。例えば、(11) の「短毛型」における「短毛」は、他の犬と区別する上でより際立った身体的特

---

<sup>143</sup> 用例出典：<https://navi.golbaka.com/voice-hikaku2018/>

徴として捉えられる<部分>であり、(13)の「音声型」における「音声」も、他のSNSアプリケーションとの差別化を図る上で重要な機能的要素として捉えられる<部分>であるといえる。

なお、「カートリッジ型」における「カートリッジ」は、主に<視覚によって知覚できる具体物>であるといえる。類例として、「スプリング型」(餌台)や、「ワイヤー型」(ペンケース)などの事例があり、このようなケースは、より<際立った部分>として知覚されやすいといえることから、意味②における典型例であると考えられる。一方、「音声型」における「音声」のように、<聴覚によって知覚できる機能>を表す事例も見られるが、このようなケースは、視覚に基づくケースと比べると、<際立った部分>としての知覚のされやすさが若干劣ると考えられることから、意味②の周辺例に位置づけられると考えられる<sup>144</sup>。

以上の考察を踏まえて、意味②を<何らかのモノ<sub>X</sub>を特に際立った部分として含んでいる複数のモノによって形成されるカテゴリー>と記述する。

### 5. 4. 3 意味③

はじめに、同種の意味特徴を有する主な例を(14)に提示する。

- (14) 海溝型(地震)、直下型(地震)、西高東低型(気圧配置)、南高北低型(気圧配置)、イギリス型(変異株)、ブラジル型(変異株) インド型(変異株)、エジプト型(足)、ギリシャ型(足)、ローマ型(足)、アメリカ型(社会)、日本型(社会)、都市型(ショッピングセンター)、地方型(サテライトオフィス)、東北型(農業)、熊本型(放牧)、郊外型(ショッピングセンター)、屋外型(施設)、屋内型(テーマパーク)

次に、(14)の中から3つの実例を取り上げ、その意味について考察する。まず、(15)は「直下型」が用いられている例文である。

<sup>144</sup> 同様に、対象の<機能>が際立った部分として捉えられるケースとして、「Bluetooth 型」(イヤホン)、「防水型」(ラジオ)、などが挙げられる。

- (15) 昭和東南海地震(1944年)はプレートの境界で起きた地震で、広い範囲で揺れと津波による被害が出ました。死者は約1200人。翌年の三河地震は直下型地震で、被害は狭い範囲でしたが約2300人が亡くなりました。

(2021年4月20日『朝日新聞』朝刊)

(15) では、1945年に発生した「三河地震」に対して「直下型」が用いられている。なお、「直下型」について、『日国』では、「人の住む地域に発生した地震で、震源地がその地域の真下にあるもの」と記述されている。つまり、「直下型」における「直下」は、<地震の震源地の場所・位置>を表しているといえる。なお、「直下型」は主に「地震」に対して用いられる専門用語である。以上の点を踏まえて「直下型」の意味を抽出すると、概略以下のように記述できる。

#### 「直下型」の意味

<人の住む地域の真下で起きた地震によって形成されるカテゴリー>

次に、「イギリス型」「ブラジル型」「南アフリカ型」が用いられている例文を(16)に挙げる。

- (16) 甲府市富士見1丁目の山梨県立中央病院は13日までに、イギリス型やブラジル型、南アフリカ型の新型コロナウイルスの変異株3種とは異なる変異株を13例検出した。 (= (1) 再掲)

(16) では、新型コロナウイルスの「変異株」に対して、「イギリス型」「ブラジル型」「南アフリカ型」が用いられている。ここでは、それぞれの変異株が発生した国や地域に基づいて、「イギリス型」などと表しているといえる。なお、以下で述べられているように、変異株の名称に対して国名や地域名を用いることは差別につながるとして、現在では特にギリシャ文字を用いた名称が使用されることが多くなったとされている。

- (17) 「汚名を着せることや差別につながることを避け、コミュニケーションしやすくするため、当局やメディアが新しいラベルを使うことを推奨する」

WHO は 5 月 31 日付で、4 種ある新型コロナウイルスの「懸念される変異株 (VOC)」について、新たにギリシャ文字を使った呼び名をつけた。

英国、南アフリカ、ブラジル、インドの各地で見つかった変異株が、それぞれ「アルファ」「ベータ」「ガンマ」「デルタ」となった。

(<https://www.asahi.com/articles/ASP6Q6V68P6BULBJ014.html>)

以上の点を踏まえ、ここでは特に「イギリス型」の意味について、概略以下のように記述する。

### 「イギリス型」の意味

<イギリスで発生した変異株によって形成されるカテゴリー>

次に、「都心型」「郊外型」が用いられている例文を (18) に挙げる。

- (18) 郊外型のショッピングモールは、その規模の大きさや店舗の多様さにより、アミューズメントパークさながらの集客を誇るものがあります。

([https://scalefree-network.com/2012/11/30/post\\_404.html](https://scalefree-network.com/2012/11/30/post_404.html))

(18) では、「ショッピングモール」に対して「郊外型」が用いられている。都市ではなく「郊外」に建てられたショッピングモールに対して「郊外型」と表していると考えられるが、ここでは、「その規模の大きさや店舗の多様さ」について述べられていることから、<都心の店舗よりも大きく、テナント数が多い>という特徴に焦点が置かれていると考えられる。また、「郊外型」と対比的表される事例として、以下のように「都心型」などがある。

- (19) 都心型ショッピングセンターは、比較的買回り品や嗜好品、高級高額品の扱が多い事から、買控え傾向や低価格志向の影響を受け、売上減を招いています。一方郊外型ショッピングセンターは、食料品・生活必需品等の取り扱いが多い事や、低価格の品揃えをするテナントを導入するなど、消費者ニーズを捉えいち早くその変化に対応している。

([https://www.homemate-research-department-store.com/useful/16401\\_shop](https://www.homemate-research-department-store.com/useful/16401_shop))

p\_082/)

さらに、「郊外型」は、以下のような事例も見られる。

- (20) 東井芳隆・専務理事は「密になりにくい地方の自然や食を楽しむ『郊外型観光』も人気になる可能性が高い。今後はお城や食などテーマに合わせたツアーも作りたい」と話す。 (2021年10月29日『朝日新聞』夕刊)

このような類例も含めて、「郊外型」の意味を抽出すると、概略以下のように記述できる。

### 「郊外型」の意味

〈(都心にはない好ましい特徴を有する) 郊外にある複数の物や事柄によって形成される  
カテゴリー〉

その他、(14) に挙げた全ての例に共通する意味特徴も踏まえ、意味③を以下のように記述する。

### [X+型] 構文の意味③

〈何らかの空間領域や位置<sub>x</sub>で成立する複数の事物によって形成されるカテゴリー〉

以下では、意味③の特徴について述べる。まず、〈ある空間領域や位置〉とは、「型」に前接する名詞である X によって動機づけられる意味特徴である。例えば、「イギリス型」における「イギリス」のような〈国〉や、「郊外型」における「郊外」のような〈地域〉を含めて〈空間領域〉というメタ言語によって表している。そして、「直下型」における「直下」のようなケースを〈位置〉というメタ言語によって表している。

また、意味③における対象 Y は、「イギリス型の変異株」における「変異株」のような〈物体〉だけでなく、「直下型地震」における「地震」や、「郊外型観光」における「観光」のような〈自然現象〉や〈事柄〉を表すものも見られることから、〈複数の事物によって形成されるカテゴリー〉と記述した。

なお、(18) の「郊外型のショッピングモール」では、〈都心の店舗よりも大きく、テナ

ント数が多い>といった特徴が焦点化されていると述べた。また、(20)の「郊外型観光」では、<都心では経験できない、地方特有の自然や食文化を楽しめる>といった特徴が焦点化されていると考えられ、いずれも<都心にはない好ましい特徴>が焦点化されているといえる。このように、意味③では、<ある空間領域や位置に特有の際立った属性>に焦点が置かれるケースが見られ、このようなケースは [X+型] 構文におけるよりゲシュタルト性の高い特徴を表すケースであるといえる。

以上の考察を踏まえて、意味③を<何らかの空間領域や位置<sub>x</sub>で成立する事物によって形成されるカテゴリー>と記述する。

#### 5. 4. 4 意味④

はじめに、同種の意味特徴を有する主な例を (21) に提示する。

- (21) 夏型 (過敏性肺炎)、冬型 (気圧配置)、従来型 (ウイルス)、現行型 (車種)、次期型 (車種)、2020 年型 (車種)、未来型 (オフィス)、将来型 (任意後見契約)、タイムリリース型 (プロテイン)、短時間型 (睡眠薬)、長時間型 (睡眠薬)

次に、(21) の中から 3 つの実例を取り上げ、その意味について考察する。まず、(22) は「冬型」が用いられている例文である。

- (22) (岐阜県の気象情報について)

冬型の気圧配置が強まった影響で 18 日、県内の広い範囲で雪が降った。

(2021 年 2 月 19 日『朝日新聞』朝刊)

(22) は岐阜県の気象情報に関する例文であり、「気圧配置」に対して、「冬型」が用いられている。なお、『日国』によると、「冬型気圧配置」という項目において、「冬の典型的な気圧配置。日本付近では、西方にシベリア高気圧、東方海上に発達した低気圧のある西高東低型で、季節風が強まる。」と記述されている。このように、「冬型」は、特に「冬」の時期に多く見られる典型的な気圧配置に対して用いられるといえる。このような点を踏まえると、「冬型」の意味は以下のように記述できる。

### 「冬型」の意味

<冬の時期に多く出現する気圧配置によって形成されるカテゴリー>

次に、「2020 年型」が用いられている例文を (23) に挙げる。

- (23) イギリス市場でスバル・フォレスターが 2020 年型へと移行し、マイルドハイブリッド仕様の e-BOXER の先行予約受付も開始されました。

(<https://cobby.jp/forester-minorchange.html>)

(23) では、「株式会社 SUBARU」(以下、スバル) で販売されている「フォレスター」という車種の自動車に対して、「2020 年型」が用いられている。「スバル」では、毎年全ての車種の自動車の部分的な改良(年次改良)を行っており<sup>145</sup>、(23) では「2020 年」の年次改良車として販売される「フォレスター」に対して「2020 年型」が用いられている。

なお、類例として、「iPhoneSE (2020 年型)」が発売されて話題になっています。<sup>146</sup> や、「2020 年型バッテリーは、2019 年型以前のファンと互換性がないので使用できません。<sup>147</sup>」のような事例も見られる。これらの事例から「2020 年型」は、年次改良や定期的に同種のモデルが販売されるような製品に対して用いられることがわかる。このような類例も含めて、「2020 年型」の意味を抽出すると、概略、以下のように記述できる。

### 「2020 型」の意味

<2020 年のモデルとして販売される複数の製品によって形成されるカテゴリー>

次に、「将来型」が用いられている例文を (24) に挙げる。

---

<sup>145</sup> 参考：<https://www.subaru-shinshu.co.jp/staffblog/%E6%96%B0%E8%BB%8A%E3%81%AF%E3%81%84%E3%81%A4%E3%81%8C%E8%B2%B7%E3%81%84%E3%81%8B%E6%A4%9C%E8%A8%BC/>

<sup>146</sup> 用例出典：<https://snsdays.com/iphone/2020-new-model-leak/>

<sup>147</sup> 用例出典：<https://www.tokyouniform.com/shop/sagyougidepot/shop/item.php?cd=UDWSET032>

- (24) 将来型…本人の判断能力が低下する前の生活支援、療養看護、財産管理事務を行うことを内容とする通常の委任契約を締結せず、判断能力低下後の任意後見契約のみの契約。

(<http://okayamakousyou.sakura.ne.jp/ninnikoukenkeiyaku.html>)

(24) は「任意後見制度（またはその契約）」に関する説明文である。「任意後見制度」とは、「将来認知症や精神障害などで判断能力が不十分になったときに、あらかじめ契約を締結して選任しておいた任意後見人から支援を受けるための制度<sup>148</sup>」とされている。その中で「将来型」は、通常の任意後見制度の契約に見られる、契約者本人の判断能力が低下する前の内容を含めた委任契約は締結せずに、将来的な判断能力が低下した後の任意後見契約のみ契約するものを指すとされている。つまり、この場合の「将来型」における「将来」とは、<任意後見制度の契約を締結した人物の判断能力が低下する時期>を表しているといえる。

なお、「将来型」は、「将来型の農業」のような事例も見られる。このような類例も含めて、「将来型」の意味を抽出すると、概略、以下のように記述できる。

### 「将来型」の意味

< (何らかの時点から見て) 先の未来に影響が現れる複数の事柄によって形成されるカテゴリー >

その他、(21) に挙げた全ての例に共通する意味特徴も踏まえ、意味④を以下のように記述する。

### [X+派] 構文の意味④

< 何らかの時間や時期<sub>x</sub>に成立する複数の事物によって形成されるカテゴリー >

以下では、意味④の特徴について述べる。まず、<何らかの時間や時期>とは、「型」に前接する名詞である X によって動機づけられる意味特徴である。例えば、「冬型」における「冬」のような<季節>や、「2020 年型」における「2020 年」のような<年>、「将来型」

---

<sup>148</sup> 参考：<http://okayamakousyou.sakura.ne.jp/ninnikoukenkeiyaku.html>



における「将来」のような<時期>を含めて、<何らかの時間や時期>というメタ言語によって表している。

なお、「2020 年型」は、具体的な<時間や時期>を X が表しているケースである。一方、「将来型」は、例えば (24) では「任意後見制度」において<契約を締結した人物の判断能力が低下する時期>を「将来」が表している。このようなケースは個々の文脈によって、X の表す<時間や時期>が具体化するケースであるといえる。

そして、意味④における対象 Y は、「冬型の気圧配置」における「気圧配置」のような<自然現象>や、「2020 年型の車」における「車」のような<製品>、「任意後見契約の契約形態」としての「将来型」のような<事柄>などを表す事例が見られることから、<複数の事物によって形成されるカテゴリー>と記述した。

以上の考察を踏まえて、意味④を<何らかの時間や時期<sub>X</sub>>に成立する複数の事物によって形成されるカテゴリー>と記述する。

#### 5. 4. 5 意味⑤

はじめに、同種の意味特徴を有する主な例を (25) に提示する。

- (25) 参加型 (テレビ CM)、体験型 (留学)、周遊型 (イベント)、滞在型 (観光)、給付型 (奨学金)、振込型 (特殊詐欺)、予約型 (乗り合いタクシー)、量産型 (ミートソース)、変異型 (ウイルス)、循環型 (森づくり)、自裁型 (林業)、地域密着型 (介護サービス)、町民参加型 (イベント)、大量生産型 (家)、ライブ配信型 (授業)、デリバリー型 (社食サービス)、スタディーツアー型 (留学)、ギシギシ型 (歯ぎしり)、ガリガリ型 (歯ぎしり)、カチカチ型 (歯ぎしり)、吊る型 (除湿消臭グッズ)、ほめる型 (指導)、なる型 (言語)、する型 (言語)、置き型 (ハンドドライヤー)、耳かけ型 (補聴器)、横書き型 (スコアカード)、詰め込み型 (教育)

次に、(25) の中から 4 つの実例を取り上げ、その意味について考察する。まず、(26) は「体験型」が用いられている例文である。

- (26) 何かを学ぶというより、海外の文化を味わい、海外生活の体験がしたい人向けの体験型留学。  
(= (2) 再掲)

(26) では、「留学」に対して「体験型」が用いられている。通常の留学は、海外で外国語を学ぶなど、学びが中心の事柄であるといえるが、「何かを学ぶというより、海外の文化を味わい、海外生活の体験がしたい人向け」とあるように、何らかの「体験」を伴う留学に対して、ここでは「体験型」と述べていると考えられる。

なお、類例として、「体験型のイベント<sup>149</sup>」や「体験型ホテル<sup>150</sup>」のような事例も見られた。このような類例も含めて、「体験型」の意味を抽出すると、概略、以下のように記述できる。

### 「体験型」の意味

<実際に自身の身をもって経験する過程を伴う複数の事物によって形成されるカテゴリー>

次に、「変異型」が用いられている例文を (27) に挙げる。

- (27) 変異型ウイルスは感染力が従来型ウイルスよりも強く、重症化率も高い可能性が示唆されています。  
(<https://www.covid19-yamanaka.com/>)

(27) は「新型コロナウイルス」に関する例文である。ここでは、これまでに見られていたウイルスの遺伝子情報が変化したものに対して「変異型」と表している<sup>151</sup>。なお、「変異型」という派生語は、従来あらゆるウイルスの遺伝子情報が変化したものに対して用いられていたと推察されるが、2020年以降の新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、「変異型」は特に<「新型コロナウイルス」においてその遺伝子情報が変化したもの>としての意味で用いられることが多くなったといえる。以上の点を踏まえると、「変異型」は概略、以下のように記述できる。

---

<sup>149</sup> 用例出典： <https://bae.dentsutec.co.jp/articles/afromance-02/>

<sup>150</sup> 用例出典： <https://livhub.jp/news/takaone.html>

<sup>151</sup> 参考 URL： <https://medicaldoc.jp/news/202104n0171/>

### 「変異型」の意味

＜遺伝子情報が変化した複数のウイルスによって形成されるカテゴリー＞

次に、「デリバリー型」が用いられている例文を (28) に挙げる。

- (28) デリバリー型の社食サービスは、名前の通り社食を会社に届けてくれるものです。お弁当やお惣菜、レストランのメニューを届けてくれる社食サービスまで、多岐にわたります。

(<https://shashoku-service-navi.com/hikaku/delivery-2/>)

(28) では、「社食サービス」に対して「デリバリー型」が用いられている。ここでは、「社食を会社に届けてくれる」という特徴に基づいて、「デリバリー型」と表しているといえる。なお、類例として、「デリバリー型の PCR 検査<sup>152</sup>」のような事例も見られた。このような類例も含めて「デリバリー型」の意味を抽出すると、概略、以下のように記述できる。

### 「デリバリー型」の意味

＜ある場所への配達を伴う複数の物やサービスによって形成されるカテゴリー＞

次に、「ギシギシ型」「ガリガリ型」「カチカチ型」が用いられている例文を (29) に挙げる。

- (29) 寝苦しい熱帯夜が続くと熟睡の時間が短くなり、疲労やストレスで無意識のうちに「歯ぎしり」をする人が多くみえます。

歯ぎしりには三つのタイプがあります。歯をすりあわせるギシギシ型、食いしむガリガリ型、そしてカチカチ鳴らすカチカチ型。

([http://diary-etc.at.webry.info/201107/article\\_7.html](http://diary-etc.at.webry.info/201107/article_7.html))

---

<sup>152</sup> 用例出典 : <https://nordot.app/729514227680313344?c=39546741839462401>

(29) では、「歯ぎしり」の種類として、「ギシギシ型」「ガリガリ型」「カチカチ型」があることが述べられている。これらはそれぞれ、寝ている間の「歯ぎしり」という行為の様態がどのようなものであるかに基づいて、3つの種類に分類されていると考えられる。例えば、「ギシギシ型」であれば、歯をすりあわせる際に出る「ギシギシ」という音によって表されているといえる。以上を踏まえ、ここでは特に「ギシギシ型」の意味について、概略、以下のように記述する。

### 「ギシギシ型」の意味

＜歯をギシギシと音を立てながらすりあわせる歯ぎしりによって形成されるカテゴリー＞

その他、(25) に挙げた全ての例に共通する意味特徴も踏まえ、意味⑤を以下のように記述する。

### [X+型] 構文の意味⑤

＜ある行為や変化（における何らかの様態）<sub>x</sub>を伴って成立する複数の事物によって形成されるカテゴリー＞

以下では、意味⑤の特徴について述べる。まず、＜ある行為や変化（における何らかの様態）＞とは、「型」に前接する（主に）動作名詞や副詞などの X によって動機づけられる意味特徴である。例えば、「体験型」における「体験」や「デリバリー型」における「デリバリー」は＜行為＞を表し、「変異型」における「変異」は＜変化＞を表すと言える<sup>153</sup>。また、「ギシギシ型」における「ギシギシ」は、例えば (29) の場合、＜（歯ぎしりという）行為の様態＞を表している。これらの意味特徴を総称して、＜ある行為や変化（における何らかの様態）＞というメタ言語によって表している。

<sup>153</sup> この点について、例えば「体験型留学」は、句にパラフレーズすると、「(ある人物が何かを) 体験する留学」となり、「体験(する)」は、＜行為の主体＞、＜行為の対象＞を格成分とする他動詞であるといえる。このように、「Xする」という形式にした場合に「他動詞」であるケースに関して、＜行為＞というメタ言語を用いて表している。一方、「変異型ウイルス」は、句にパラフレーズすると、「(遺伝子情報が) 変異するウイルス」となり、「変異(する)」は、＜変化の主体＞を格成分とする自動詞であるといえる。このように、「Xする」という形式にした場合に「自動詞」であるケースに関して、＜変化＞というメタ言語によって表している。

なお、意味⑤における〈何らかの行為や変化〉を表す X は、「体験型」「変異型」の他、「参加型」（テレビ CM）、「滞在型」（観光）、「循環型」（森づくり）など、漢語動作名詞のケースが散見される。また、「課題遂行型」（授業）、「地域密着型」（サービス）、「町民参加型」（まちづくり）など、X が「漢語名詞＋漢語動作名詞」という形式によって表される事例も散見される。また、「吊る型」（除湿消臭グッズ）、「ほめる型」（指導）のように、X が動詞基本形であるケースや、「置き型」（バスタブ）、「耳かけ型」（補聴器）のように、X が動詞連用形であるケースも見られた。

そして、意味⑤における対象 Y は、「体験型留学」における「留学」のような〈事柄〉や、「変異型ウイルス」における「ウイルス」のような〈生物〉、「将来型」のような〈事柄〉などを表す事例が見られることから、〈複数の事物によって形成されるカテゴリー〉と記述した。

なお、意味⑤の事例の中のより特殊なケースとして、以下に「劇場型」が用いられている例文を挙げる。

- (30) 「劇場型犯罪」とは、犯人がテレビや新聞などのマスメディアを利用し、私たちは観客として演劇や映画を観るかのように進んでいく犯罪のこと。未解決に終わった「グリコ・森永事件」がその代表例で、犯行声明を新聞に送るなどその人目を引く大胆さが特徴です。

([https://honto.jp/booktree/detail\\_00009140.html](https://honto.jp/booktree/detail_00009140.html))

(30) では、「犯人がテレビや新聞などのマスメディアを利用し、私たちは観客として演劇や映画を観るかのように進んでいく犯罪」が「劇場型（犯罪）」と呼ばれることについて述べている。また、『大辞泉』において「劇場型政治」という項目が見られることから、比較的定着している事例であると考えられる。そして、このような「劇場型」がカテゴリー化する対象は、「犯罪」や「政治」といった〈行為・事柄〉であることから、この場合の「劇場」は、〈演劇や映画などを観るための場所〉というよりも、〈劇場で観られる演劇や映画の中で行われるような行為〉としての意味を表していると考えられる。つまり、「劇場」という〈場所〉によって、まず〈そこで催される演劇や映画〉という〈（その場所に関係する）事物〉としての意味特徴がメトニミー的に理解され、そこから〈演劇や映画のような行為〉としての意味特徴がメタファー的に理解されていると考えられる。このように X に

よってメタファーとメトニミーの両方が関わる意味を表すケースは、意味⑤の中でも周辺の事例であり、[X+型] 構文の事例の中でもよりゲシュタルト性の高い事例であると考えられる。

以上の考察を踏まえて、意味⑤をくある行為や変化（における何らかの様態）<sub>x</sub>を伴って成立する複数の事物によって形成されるカテゴリー→と記述する。

## 5. 4. 6 意味⑥

はじめに、同種の意味特徴を有する主な例を (31) に提示する。

- (31) 外向型 (人)、内向型 (人)、思考型 (人)、直感型 (僕)、調整型 (政治家)、決断型 (政治家)、短期集中型 (人間)、朝型 (私)、夜型 (夫)、うるさ型 (国会議員)、おとなしい型 (猫)、真面目型 (姑)、おっとり型 (娘)、ゆっくり型 (森村さん)、ハムレット型 (人)、ドンキホーテ型 (人)、アポロ型 (人)、ディオニュソス型 (人)、山登り型 (人)、川下り型 (私)、話し好き型 (医者)、聞き役型 (医者)、リーダー型 (人)、情熱型 (人間)

次に、(31) の中から4つの事例を取り上げ、その意味について考察する。まず、(32) は「直感型」が用いられている例文である。

- (32) 僕は、直感型です。状況によって、パッと浮かんだ“ひらめき”を大事にしてプレーをしています。 (<https://origin.golfnetwork.co.jp/news/detail/26217>)

(32) は、ゴルファーである話者が自身のことを「直感型」と述べている例文である。ここでは、「状況によって、パッと浮かんだ“ひらめき”を大事にしてプレーをしています」と述べられていることから、「プレー」のような何らかの行為を行う上で、「直感」を特に働かせる気質であることから、「直感型」と表されているといえる。また、「直感型」は、以下に挙げる例文に見られるように、一般に気質や行動の傾向の違いに基づいた人の分類の1つとされている。

- (33) 人は大きく2つのタイプに分けられます。外向型と内向型です。さらに4つのタイプにも分けられます。思考型、感情型、感覚型、直感型です。このタイプ論を提唱したのは、有名な心理学者のカール・グスタフ・ユング。

(<https://uranaitv.jp/content/485523>)

以上の点を踏まえて、「直感型」の意味を概略、以下のように記述する。

### 「直感型」の意味

<説明や証明を待たずに、直ちに物事の真相を心で感じ取る気質や傾向がある複数の人によって形成されるカテゴリー><sup>154</sup>

次に、「調整型」「決断型」が用いられている例文を(34)に挙げる。

- (34) しかし成長の時代が終わると、与野党のなれ合いが国を停滞させているとされ、政権交代可能な緊張感のある政治が求められた。行き着いたのが衆院の小選挙区で、それを巧みに利用した先駆者は小泉純一郎だった。小泉は、意見が違う相手と交渉し、妥協点を見いだす従来の調整型ではなく、異論を押し切ってでも自らの「信念」を通そうとする決断型であった。

(2021年4月23日『朝日新聞』朝刊)

(34)は、「小泉純一郎」の政治手法について述べた例文である。ここでは特に従来の「意見が違う相手と交渉し、妥協点を見いだす」方法を採用する政治家を「調整型」とし、それに対して「小泉純一郎」は、「異論を押し切ってでも自らの「信念」を通そうとする」方法を採用する政治家であったことから、「決断型」と述べられている。以上を踏まえ、ここでは特に「決断型」の意味について、概略、以下のように記述する。

### 「決断型」の意味

---

<sup>154</sup> ここでは、『日国』における「直感」という項目の「説明や証明をまたないで、直ちに物事の真相を心で感じ取ること」という語釈を参照した。

<何らかの行為や行動において、自身の信念や意志に基づいて判断する気質や傾向がある複数の人によって形成されるカテゴリー>

次に、「おっとり型」が用いられている例文を (35) に挙げる。

- (35) うちの子どもはおっとり型でおとなしい性格。この子にあった幼稚園を探しているのですが、なかなか見つかりません。

(<https://www.happy-note.com/qa/101504.html>)

(35) は、話者が自身の「子ども」に対して、「おっとり型」と表している事例である。なお、『大辞泉』では「おっとり」について、「人柄・しぐさなどが、落ち着いていてこせこせとしないさま。おおよくなさま。」と記述されている。このような記述を踏まえると、「おっとり型」の意味は概略、以下のように記述できる。

#### 「おっとり型」の意味

<人柄やしぐさなどが鷹揚で、落ち着いている傾向がある複数の人によって形成されるカテゴリー>

次に、「ドン・キホーテ型」「ハムレット型」が用いられている例文を (36) に挙げる。

- (36) ドン・キホーテ型はお人好しで楽道家、ハムレット型は臆病で道を歩いても空から何か落ちてこないかと心配する性質、どちらが良い訳ではありませんが、世の中には双方のタイプの人がいるといえそうです。

(<https://www.pref.nara.jp/20397.htm>)

(36) では、「お人好しで楽道家」といった気質の人に対して「ドン・キホーテ型」、「臆病で道を歩いても空から何か落ちてこないかと心配する」といった気質の人に対して「ハムレット型」が用いられている。「ドン・キホーテ」と「ハムレット」は、それぞれ『ドン・キホーテ』、『ハムレット』という小説の主人公であるが、ここではそれぞれの主人公と同じような性格や気質で、同じような行動を取る人々に対して、「ドン・キホーテ型」と「ハ



ムレット型」として、対比的に表していると考えられる。以上を踏まえ、ここでは特に「ドン・キホーテ型」の意味について、概略、以下のように記述する。

### 「ドン・キホーテ型」の意味

＜小説『ドン・キホーテ』の主人公と同じように、お人よしで楽道家であるといった気質の複数の人によって形成されるカテゴリー＞

その他、(31) に挙げた全ての例に共通する意味特徴も踏まえ、意味⑥を以下のように記述する。

### [X+型] 構文の意味⑥

＜（何らかの物事に対する）気質や行動の傾向<sub>X</sub>がある複数の人によって形成されるカテゴリー＞

以下では、意味⑥の特徴について述べる。まず、＜（何らかの物事に対する）ある気質や行動の傾向＞とは、「型」に前接する名詞や動作名詞、副詞などの X によって動機づけられる意味特徴である。例えば、「直感型」における「直感」や「決断型」における「決断」のような漢語名詞によって表される＜事柄＞は、対象である＜人＞の＜（何らかの物事に対する）気質や行動の傾向＞を表しているといえる。また、「おっとり型」における「おっとり」のように、X が＜（何らかの物事に対する）気質や行動の様態＞を表す副詞であるケースも見られる。

そして、意味⑥における対象 Y は (32) から (36) の事例に見られるように、いずれも＜人＞であることから、＜複数の人によって形成されるカテゴリー＞と記述した。

また、(36) の「ドン・キホーテ型」「ハムレット型」の類例として、「アポロ型」「ディオニュソス型」「ジョブズ型」のような事例が見られる。これらは全て X が＜人名＞を表す固有名詞であり、特に X がシネクドキーとしての意味を表すケースである<sup>155</sup>。このようなケースにおいて、意味⑥の＜（何らかの物事に対する）気質や行動の傾向＞という意味特徴を

---

<sup>155</sup> なお、靱山・深田 (2003:81) では、シネクドキーにおける具体例の1つとして、「本来この名で呼ばれていた人と同種の人一般を指すようになっていく」という例を挙げており、「ドン・キホーテ」によって＜空想的で行動的な人間一般＞を表すという例もその1つとして挙げている。

理解する上では、X が表す<人物>に関する百科事典的意味を理解する必要がある。例えば、「ドン・キホーテ型」の場合、小説の中の「ドン・キホーテ」という人物がどのような性格であって、物語の中でどのような行動を取るのか、といった知識がなければ、「ドン・キホーテ型」とされる人の<気質や行動の傾向>は理解することができないといえる。

なお、意味⑥の<気質や行動の傾向>に基づく人のカテゴリーの事例として、以下に挙げる「朝型」「夜型」もある。

- (37) 街行く人に「あなたは朝型? 夜型?」と質問したところ、なんと全体の64%の型が夜型だと答えました。

(<http://www.ntv.co.jp/megaten/library/date/09/10/1031.html>)

(37) の「朝型」「夜型」は、X に<時間や時期>を表す「朝」「夜」が用いられている。そのため、本章4.4節において扱った意味④との関連が感じられるが、「朝型」は<朝早く起きて行動する傾向が強い複数の人によって形成されるカテゴリー>、「夜型」は<夜遅くまで起きて行動する傾向が強い複数の人によって形成されるカテゴリー>を表していることから、意味④よりも対象となる人物の<気質・行動の傾向>に焦点が置かれていると考えられる。そのため、このような事例も意味⑥に相当すると考えられる。

以上の考察を踏まえて、意味⑥を< (何らかの物事に対する) 気質や行動の傾向<sub>X</sub>がある複数の人によって形成されるカテゴリー>と記述する。

以上、5.4節では、[X+型] 構文における多義性について検討した。

## 5. 5 [X+型] 構文のメトニミー的用法

第3章5節では [X+系] 構文のメトニミー的用法による事例を、そして、第4章5節では [X+派] 構文のメトニミー的用法による事例を取り上げた。[X+型] 構文においても、[X+型] という形式によって<カテゴリー>ではなく、< [X+型] というカテゴリーに含まれる対象 Y>そのものを表す、メトニミー的用法の事例が存在する。以下では、前節までに検討した6つの意味のうち、意味①、意味④、意味⑥におけるメトニミー的用法の事例を取り上げる。なお、メトニミーの定義については、第2章6.2節において述べた、靱山・深田 (2003: 83)、及び多門 (2018: 772) に従い、「メトニミー的用法」の定義やその動機づ

けについては、第3章5節、第4章5節の内容と同様である。

- (38) 分離して使いわけできるので、手帳型が好きな人でも、普通のスマホケースが好きな人でも、どちらでも使いやすいと思います。

(<https://mikujin2198.com/iphone12-amovo-case-review/>)

- (39) イギリス型が出たイギリスでも、かなりインド型に変わっていて、やがては世界中に広がる可能性のある変異ウイルス

([https://blogs.mbc.co.jp/mbcnews/cat\\_covid19/12828/](https://blogs.mbc.co.jp/mbcnews/cat_covid19/12828/))

- (40) しかも全ての年齢層で夜型が多かったのです。

(<http://www.ntv.co.jp/megaten/library/date/09/10/1031.html>)

まず、(38) は、「スマートフォンケース」の形状における種類の1つとして、「手帳型」が用いられている例文である。ここでは、「手帳型が好きな人でも、…」とあり、特に「好き」というナ形容詞が共起している。その必須成分の1つである<感情の対象>を「手帳型」が表していることから、この場合の「手帳型」はおよそ、<手帳のような見目をしているスマートフォンケース>であると考えられる。これは前節で検討した、意味①のメトニミー的用法による事例である。

そして、(39) では、本章4.4節においても取り上げた、「新型コロナウイルスの変異株」の1つとしての「イギリス型」「インド型」が用いられている事例である。ここでは、「イギリス型が出たイギリスでも」、「インド型に変わっていて」とあり、それぞれ動詞の「出る」と「変わる」が共起していることがわかる。そして、「出る」の格成分の1つである<変化の主体>を「イギリス型」が表し、「変わる」の格成分の1つである<変化の結果>を「インド型」が表している。このことから、(39) の「イギリス型」はおよそ、<イギリスで発生した共通する遺伝子情報をもつ複数の変異株>そのものを、「インド型」はおよそ、<インドで発生した共通する遺伝子情報をもつ複数の変異株>そのものを表しているといえる。これは前節で検討した、意味④のメトニミー的用法による事例である。

最後に、(40) は、ある調査において「夜型」の人が全ての年齢層で多かったということが述べられている例文である。ここでは、「夜型が多かった」とあり、イ形容詞の「多い」が共起していることがわかる。その必須成分の1つである<状態・性質の主体>を「夜型」が表しているといえることから、この場合の「夜型」はおよそ、<夜遅くまで起きて行動す

る傾向が強い人々>を表しているといえる。これは前節で検討した、意味⑥のメトニミー的用法による事例である。

このように、[X+型] 構文の事例においても、メトニミー的用法による事例が見られる。なお、本節では意味①、意味④、意味⑥における実例に基づいて考察したが、メトニミー的用法は [X+型] 構文における全ての意味において見られる用法であるといえる。

## 5. 6 [X+型] 構文における意味拡張の方向性

本節では [X+型] という形式が構文として有すると考えられる6つの意味の相互関係について検討する。まず、前節までに検討した、意味①から意味⑥までの各意味記述とその主な事例を表4に再掲する。

表4：[X+型] 構文の6つの意味とその主な事例

意味①	<p>&lt;何らかの外見的特徴<sub>x</sub>を有する、または何らかのモノ<sub>x</sub>と外見的特徴が類似している複数のモノによって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：ハート型（ピザ）、セダン型（自動車）、猫型（ペットロボット）など</p>
意味②	<p>&lt;何らかのモノ<sub>x</sub>を特に際立った部分として含んでいる複数のモノによって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：カートリッジ型（ペン）、短毛型（犬）、音声型（SNS アプリケーション）など</p>
意味③	<p>&lt;何らかの空間領域や位置<sub>x</sub>で成立する複数の事物によって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：直下型（地震）、イギリス型（変異株）、郊外型（ショッピングセンター）など</p>
意味④	<p>&lt;何らかの時間や時期<sub>x</sub>に成立する複数の事物によって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：冬型（気圧配置）、2020年型（自動車）、将来型（任意後見契約）など</p>
意味⑤	<p>&lt;ある行為や変化（における何らかの様態）<sub>x</sub>を伴って成立する複数の事物によって形成されるカテゴリー&gt;</p>

	例：体験型（留学）、変異型（ウイルス）、デリバリー型（社食サービス）、ギシギシ型（歯ぎしり）など
意味⑥	<p>&lt; (何らかの物事に対する) 気質や行動の傾向<sub>x</sub>がある複数の人によって形成されるカテゴリー &gt;</p> <p>例：直感型（僕）、決断型（小泉純一郎）、おっとり型（子ども）、ドン・キホーテ型（人）など</p>

以下では、第2章6.3節で述べた靱山（2021）が提案する「多義語分析の課題」に基づいて、課題2）に相当するプロトタイプの意味の認定、及び課題3）に相当する各意味の相互関係の明示について検討する。

### 5. 6. 1 [X+型] 構文におけるプロトタイプの意味の認定

本節では、[X+型] 構文におけるプロトタイプの意味について検討する。なお、認定の基準については、第3章の [X+系] 構文、第4章の [X+派] 構文と同様に、靱山（2021）、瀬戸（2007）、松本（2010）といった先行研究を踏まえて、「用法上の制約が少なく、意味特徴の具体性が最も高く、より明確な条件に基づく、境界が明瞭なカテゴリーを表す意味」を、[X+型] 構文におけるプロトタイプの意味とする。まず、用法上の制約という点では、カテゴリー化される対象が多くの意味で<具体物>や<事柄>である中、<人>に限定される意味⑤と意味⑥は、用法上の制約があるといえる。そして、「意味特徴の具体性が最も高く、より明確な条件に基づく、境界が明瞭なカテゴリーを表す意味」という点を踏まえると、<何らかの外見的特徴を有する、または何らかのモノと外見的特徴が類似している>という意味特徴を有する意味①が、最も概念的に基本的な意味、つまり、派生（拡張）の基盤となる意味であり、松本（2009）が述べる概念的な中心性を有する意味であると考えられる。

以上の点から、本研究では意味①を [X+派] 構文におけるプロトタイプの意味として認定する。

### 5. 6. 2 [X+型] 構文における各意味の相互関係

本節では、[X+型] 構文における各意味の相互関係について検討する。なお、以下では、前節のプロトタイプの意味の認定と同様に、「用法上の制約」、「意味特徴の具体性」、「カテ

ゴリーの境界の明瞭さ」といった点から、意味拡張の方向性を検討する。また、結論から先に述べると、メタファー、シネクドキー、メトニミーという3種の比喻のうち、[X+型] 構文の意味拡張に関与する比喻はメタファーのみである。そのため、本研究で提示する [X+型] 構文の多義構造は「スキーマティック・ネットワークモデル」に基づくものである。以下では、各意味から抽出できるスキーマとメタファーによる意味拡張の方向性について述べる。

はじめに、意味①と意味②の相互関係について検討する。

まず、意味①は、<何らかの外見的特徴を有すること>、あるいは<何らかのモノと外見的特徴が類似していること>によって、<複数のモノ>がカテゴリー化されるケースである。一方、意味②は、<何らかのモノを特に際立った部分として含んでいること>によって、<複数のモノ>がカテゴリー化されるケースである。いずれも対象 Y は<複数のモノ>であり、<知覚可能な構造を有する>という共通点があることから、この2つの意味からは以下のようなスキーマが抽出できる（以下を「スキーマ A」とする）。

#### スキーマ A（意味①と意味②のスキーマ）

<何らかの知覚可能な構造を有することを共通点とする複数のモノによって形成されるカテゴリー>

ただし、意味①は主に対象 Y の構造全体を視覚によって捉えることによって形成されるカテゴリーであるが、意味②は対象 Y の構造の一部が<特に際立った部分>として、視覚や聴覚などによって知覚されることによって形成されるカテゴリーであるため、意味①の方が知覚のされやすさの程度が（若干）高いと考えられる。以上の点を踏まえると、意味①のほうがより基本的であると考えられることから、意味①から意味②という方向性で、メタファーによって拡張していると考えられる。

次に、意味②と意味③の相互関係について検討する。

まず、意味②については先に述べた通りである。一方、意味③は、<何らかの空間領域や位置で成立すること>によって、<複数の事物>がカテゴリー化されるケースである。

いずれも対象 Y が存在、成立する上で、ある部分が機能しているという点に着目していることが共通しており、この2つの意味からは以下のようなスキーマが抽出できる（以下を「スキーマ B」とする）。

### スキーマ B (意味②と意味③のスキーマ)

<何らかの部分機能が機能していることを共通点とする複数の事物によって形成されるカテゴリー>

ただし、意味②は対象 Y の構造そのものにおける<部分>に着目した意味であるのに対し、意味③は対象 Y が成立するための<場所としての部分>であることから、「カテゴリーの認識のされやすさ」という点では、意味②の方が若干高いと考えられる。以上の点を踏まえると、意味②のほうがより基本的であると考えられることから、意味②から意味③という方向性で、メタファーによって拡張していると考えられる。

次に、意味③と意味④の相互関係について検討する。

まず、意味③については先に述べた通りである。一方、意味④は、<何らかの時間や時期に成立すること>によって、<複数の事物>がカテゴリー化されるケースである。

いずれも対象 Y は<複数のモノ>であり、<何らかの範囲において成立する>という点が共通していることから、この2つの意味からは以下のようなスキーマが抽出できる(以下を「スキーマ C」とする)。

### スキーマ C (意味③と意味④のスキーマ)

<何らかの範囲において成立することを共通点とする複数の事物によって形成されるカテゴリー>

ただし、意味③は<空間領域や位置>に基づくカテゴリーの意味であるのに対し、意味④は<時間や時期>に基づくカテゴリーの意味であることから、「カテゴリーの認識のされやすさ」という点では、意味③の方が高いと考えられる<sup>156</sup>。以上の点を踏まえると、意味③のほうがより基本的であると考えられることから、意味③から意味④という方向性で、メタフ

---

<sup>156</sup> 認知言語学のアプローチに基づく多義語分析において、<空間>から<時間>へと拡張するケースはしばしば指摘されている。例えば、靱山(2003:143-145)では、名詞の「あたり」や動詞の「ぬく」、イ形容詞の「近い」について、その用法上の制約の観点から空間の意味から時間的意味へと拡張しているとされており、このような一方向的な意味の拡張は、「時間という把握しにくい対象を、空間という把握しやすい対象を通して理解するという私たちの認知方略(cognitive strategy)の言語への反映」と述べている。

ァーによって拡張していると考えられる。

次に、意味②と意味⑤の相互関係について検討する。

まず、意味②については先に述べた通りである。一方、意味⑤は、〈ある行為や変化（における何らかの様態）を伴って成立すること〉によって、〈複数の事物〉がカテゴリー化されるケースである。

いずれも対象 Y は、〈何らかの要素を伴うことで成立する〉という点が共通していることから、この2つの意味からは以下のようなスキーマが抽出できる（以下を「スキーマ D」とする）。

#### スキーマ D（意味②と意味⑤のスキーマ）

〈何らかの要素を伴って成立することを共通点とする複数の事物によって形成されるカテゴリー〉

ただし、意味②は対象 Y の構造における〈特に際立った部分としての要素〉に基づくカテゴリーを表すのに対し、意味⑤は〈ある行為や変化（やその様態）としての要素〉に基づくカテゴリーを表すことから、「カテゴリーの認識のされやすさ」という点では、意味②の方がより高いと考えられる。例えば、意味②の「カートリッジ型のペン」の場合、「カートリッジ」という〈要素〉が視覚によって知覚されることに基づいて「ペン」がカテゴリー化されているが、意味⑤の「体験型留学」の場合、〈実際に身体をもって行われる様々な経験〉に基づいて「留学」がカテゴリー化されているといえるため、少なくとも意味②と比べると抽象的で、一般性の高い〈要素〉によってカテゴリー化されているといえる。以上の点を踏まえると、意味②のほうがより基本的であると考えられることから、意味②から意味⑤という方向性で、メタファーによって拡張していると考えられる。

次に、意味⑤と意味⑥の相互関係について検討する。

まず、意味⑤については先に述べた通りである。一方、意味⑥は、〈（何らかの物事に対する）気質や行動の傾向〉によって、〈複数の人〉がカテゴリー化されるケースである。

いずれも〈何らかの行為や変化を共通点とするカテゴリー〉という点が共通していることから、この2つの意味からは以下のようなスキーマが抽出できる（以下を「スキーマ E」とする）。



**スキーマ E (意味⑤と意味⑥のスキーマ)**

<何らかの行為や変化(やその様態)を共通点とする複数の存在によって形成されるカテゴリー>

ただし、意味⑤における対象 Y は<複数の事物>であるのに対し、意味⑥における対象 Y は<複数の人>に制限された意味を表すことから、意味⑤の方が対象 Y の制約が少なく、より基本的であると考えられる。このことから、意味⑤から意味⑥という方向性で、メタファーによって拡張していると考えられる。

以上、[X+型] 構文における 6 つの意味の相互関係について検討した。

なお、ここまでの考察を踏まえると、[X+型] 構文の多義構造全体における意味拡張の方向性として、大きく 2 つの方向性があると考えられる。まずは、具体物に関する物理的属性から、人の営みや出来事に関する抽象的属性へと拡張しているという方向性である。例えば、意味①の「ハート型」(ピザ) は、物理的な形状に基づいて<具体物>がカテゴリー化されるケースを表すが、意味⑥の「直感型」(人) は、その気質や行動の傾向に基づいて、<人>がカテゴリー化されるケースである。そして、この大きな拡張の方向性と連動して、カテゴリーの境界が明瞭な意味から、境界が不明瞭な意味へと拡張しているといえる。例えば、意味①の「ハート型」における<ハートの形である>というカテゴリーの条件は、その条件の認識において、個人差や程度性が低いといえる。一方、意味⑥の「直感型」における<直ちに物事の真相を心で感じ取るような気質や傾向がある>というカテゴリーの条件には、その認識において、個人差や程度性があるといえる。

なお、各意味から抽出できるスキーマ A~E のさらに上位のスキーマとして、以下のスーパー・スキーマが抽出できると考えられる。

**[X+型] 構文のスーパー・スキーマ**

<何らかの点<sub>x</sub>において他者が認識しやすい特徴を有する複数の人や物、事柄などによって形成されるカテゴリー>

まず、<何らかの点において他者が認識しやすい特徴>とは、[X+型] という形式において、特に X によって動機づけられる特徴であり、例えば、意味③の場合では、<何らかの空間領域や位置>という特徴として具体化し、意味⑤の場合では、<ある行為や変化(にお

ける何らかの様態) >という特徴として具体化するものである。つまり、個々の意味から抽出されたスキーマをさらに抽象化すると、<何らかの点において他者が認識しやすい特徴>が抽出されると考えられる。

そして、本研究において認定した6つの意味におけるカテゴリー化される対象は、「ハート型のピザ」のような<複数の物>や、「直感型の人」のような<人>、「体験型留学」のような<事柄>などがある。そのため、[X+型] 構文によってカテゴリー化される対象として、<複数の人や物、事柄など>というメタ言語によって表している。

最後に、ここまで検討してきた [X+型] 構文の6つの意味 (m①~m⑥) と、A~Eのスキーマ、さらにスーパー・スキーマ (SS) によって形成される多義構造を以下に図示する (図1)。

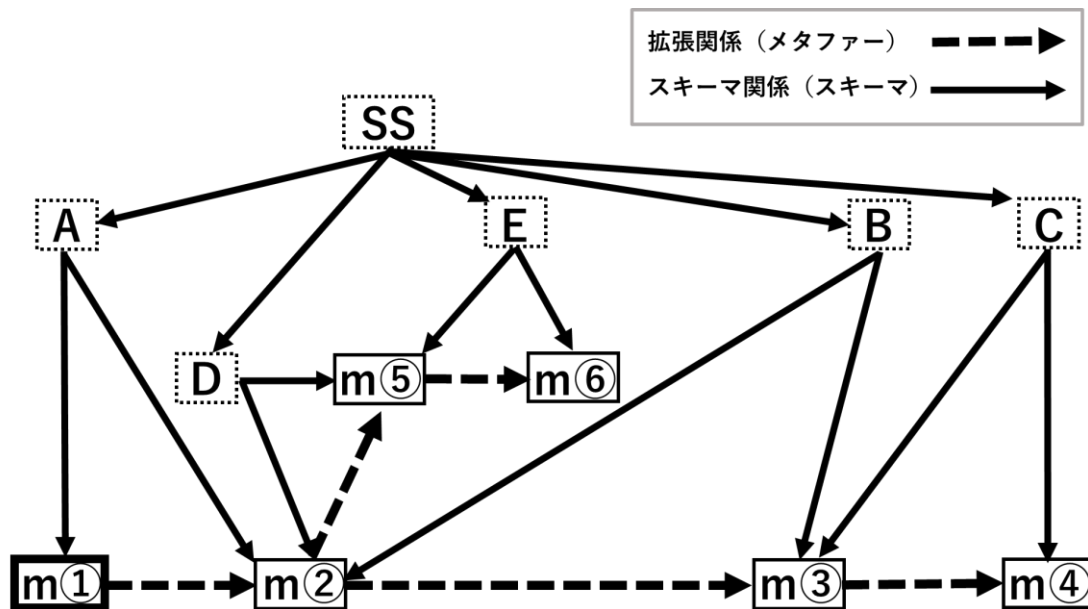


図1：[X+型] 構文の多義構造

以下に、図1の [X+型] 構文の多義構造における表記について、簡略に説明する。

- (a) 「m」は「意味」を表し、各意味を「m①」のように表記している。また、各スキーマは、例えば「スキーマA」であれば「A」のように、それぞれアルファベットによって表記している。なお、「SS」は「スーパー・スキーマ」を表している。
- (b) [X+型] 構文のプロトタイプの意味、つまり、概念的に最も基本的で、拡張の基盤となる意味は意味① (m①) である。

- (c) 意味①と意味②はメタファーの関係にあり、共通する意味として、〈何らかの知覚可能な構造を有することを共通点とする複数のモノによって形成されるカテゴリー>というスキーマ A が抽出できる。
- (d) 意味②と意味③はメタファーの関係にあり、共通する意味として、〈何らかの部分機能が機能していることを共通点とする複数の事物によって形成されるカテゴリー>というスキーマ B が抽出できる。
- (e) 意味③と意味④はメタファーの関係にあり、共通する意味として、〈何らかの範囲において成立することを共通点とする複数の事物によって形成されるカテゴリー>というスキーマ C が抽出できる。
- (f) 意味②と意味⑤はメタファーの関係にあり、共通する意味として、〈何らかの要素を伴って成立することを共通点とする複数の事物によって形成されるカテゴリー>というスキーマ D が抽出できる。
- (g) 意味⑤と意味⑥はメタファーの関係にあり、共通する意味として、〈何らかの行為や変化（やその様態）を共通点とする複数の存在によって形成されるカテゴリー>というスキーマ E が抽出できる。

### 5. 6. 3 単純語「型（かた）」と派生語 [X+型] の関連性

本節では、単純語、つまり単独の名詞として用いられる「型」と、[X+型] 構文の多義構造の関連について検討する。なお、第2章6.4節、第3章6.3節、第4章6.3節の内容を踏まえると、「型」に関しても、現代日本語において（通常「かた」と発音される）単純語としての用法と、（通常「がた」と発音される）接尾辞としての用法のいずれも存在していることから、文法化による変化の兆候として捉えられる「分岐」の段階にあると考えられる。

以下は、単純語の「型」が用いられている実例である。

- (41) 7ミリくらいの薄さに伸ばして好きな型でクッキーを抜く  
(<https://cookpad.com/recipe/4349878>)
- (42) 柔道場、剣道場と倉庫を備えた武道場は、体育館に隣接した学校敷地の東端にあり、鉄骨造平屋建て、延床面積は約 600 平方メートル。この日の竣工式には、同大学の清水由洋理事長らも出席し、柔道部の男子学生 2 人が投げの型の演武

を披露した。 (<https://www.iga-younet.co.jp/2018/03/29/4448/>)

- (43) 血液の赤血球表面上にある A 抗原・B 抗原の有無により A・O・B・AB の 4 種に分類する(した)血液の型。オーストリアのカール・ランドシュタイナーが 1900 年に発見した。

([https://www.bs.jrc.or.jp/csk/hiroshima/donation/m2\\_02\\_03\\_word.html](https://www.bs.jrc.or.jp/csk/hiroshima/donation/m2_02_03_word.html))

まず、(41) では、クッキーの作り方について述べているものであり、同じ形のクッキーを作り出すために用いられる道具に対して「型」が用いられている。つまり、このような場合の「型」の意味はおよそ、<同じ形のを複数作り出すための枠を備えた道具>であるといえる。

また、(42) では、柔道において規範となる動きを組み合わせたものに対して「型」が用いられている。つまり、このような場合の「型」の意味はおよそ、<(武道や武術などにおいて) 同じ動作や姿勢を繰り返した規範となる動き<sup>157</sup>>であるといえる。なお、このような意味の「型」は、芸能や演芸などの他分野においても転用されている。

そして、(43) では、カール・ランドシュタイナーが 1900 年に発見した「ABO 式血液型」に関して、「血液の型」と述べられている。「血液の型」は、(43) にあるように、血液の赤血球表面上にある A 抗原・B 抗原の有無によって A・O・B・AB の 4 種に分類されるものであるが<sup>158</sup>、類例として「遺伝子の型」「ウイルスの型」などの事例も見られる。このような場合の「型」の意味はおよそ、<物質や生物などを類別する際の、共通した特徴を有するタイプ>であるといえる。

ここまで取り上げた単純語の「型」の意味について、以下にまとめる。

### 単純語の「型」の意味

意味 I : <同じ形のを複数作り出すための枠を備えた道具>

意味 II : <(武道などにおいて規範となる) 同じ動作や姿勢を繰り返す一連の形>

意味 III : <物質や生物などを類別する際の、共通した特徴を有するタイプ>

---

<sup>157</sup> なお、大庭 (2021:16) では、武道・武術における「型」について、「その武道・武術が伝えたい叡智、すなわち技術や業のノウハウや、達人的な身体を伝え、修行者が習得するために使用された教範であった」と述べている。

<sup>158</sup> 「血液型」の分類のしくみについては、奈良 (2010) において詳細に記述されている。

そして、それぞれの意味の具体性の高さを踏まえると、意味Ⅰ→意味Ⅱ→意味Ⅲへと拡張していると考えられる。以下では、この単純語の「型」における3つの意味の拡張と、先述の [X+型] 構文の意味の拡張の関連性について検討する。なお、以下では便宜上、単純語「型」との関連を述べるために、[X+型] 構文を「派生語」と呼び考察していく。

まず、単純語の「型」における意味のうち、意味Ⅰは<道具>としての意味であるが、派生語の [X+型] の意味は全て<カテゴリー>を表しているという点で異なる。ただし、特に単純語の意味Ⅱの<(具体性の高い)形>を表す意味から、意味Ⅲの<(抽象性の高い)タイプ>を表す意味へ拡張しているという方向性と、派生語の [X+型] における意味拡張の方向性(具体物に関する物理的属性から、人の営みや出来事に関する抽象的属性へと拡張しているという方向性)が同様のものであると考えられる。

なお、単純語の意味Ⅰと、派生語の意味①は、<ある形状を有する>という点では共通しているが、意味①では、意味Ⅰの<道具>という特徴は失っており、<形状>という意味特徴のみを有するといえる。また、単純語の意味Ⅱと、派生語の意味①は、いずれも<形>という意味特徴が共通しているが、派生語の意味①では、単純語の意味Ⅱにおける<規範性>という特徴が失われた<形>であるといえる。つまり、単純語の意味Ⅰと意味Ⅱから、派生語の意味①へと、その意味特徴が漂白化しているといえる。

そして、単純語の意味Ⅰから意味Ⅲは全て、「Xの型(かた)」のように名詞として用いられるものであるが、派生語の意味①から意味⑥は、「Xの型」にはパラフレーズすることができない<sup>159</sup>。つまり、単純語の「型」が属する名詞という文法カテゴリーからの脱範疇化が起きていると考えられる。このように、漂白化と脱範疇化の両方の側面が見られることから、単純語の「型(かた)」から接尾辞「型(がた)」への文法化が起きているといえる。

ここまで、[X+型] 構文における個々の意味の相互関係と、多義構造全体における大きな意味拡張の方向性について検討した。そして、単純語の「型」の意味との関わりから、文法化の方向性についても検討した。

<sup>159</sup> ここでは、「Xの型」に形式を変えたときに、元の [X+型] が表す<カテゴリー>としての意味が失われる場合において、パラフレーズ不可と捉えている。例えば、派生語の意味①の事例である「ハート型」を「ハートの型」に言い換えると、この場合の「型(かた)」は<(ハートの)形を作り出すことのできる枠を備えた道具>を表し、単純語の意味Ⅰの事例に相当すると考えられる。つまり、派生語の「ハート型」が表す<カテゴリー>としての意味は「ハートの型」では表せないため、パラフレーズ不可となる。

## 5. 7 本章のまとめ

以上、本章では、接尾辞「型」と、それに前接する要素 X から成る [X+型] 構文の多義性、及び意味拡張の様相について考察した。具体的には、個々の実例の意味記述を踏まえて、ボトムアップ的に6つの意味を認定し、[X+型] 構文における「メトニミー的用法」の実例の意味についても検討した。また、[X+型] 構文は、用法上の制約や意味特徴の具体性の高さという点から見て、意味①が最も概念的に基本的な意味、つまり、派生（拡張）の基盤となる意味であり、松本（2010）における「概念的な中心性」を有すると考えられることから、意味①をプロトタイプの意味として認定した。そして、6つの意味の相互関係について、メタファーによる意味拡張という観点から考察し、[X+型] 構文の多義構造全体において、具体物に関する物理的属性としての意味から、人の営みや出来事に関する抽象的属性としての意味へと拡張している方向性があることを指摘した。さらに、この大きな拡張の方向性と連動して、カテゴリーの境界が明瞭な意味から、境界が不明瞭な意味へと拡張していることを指摘した。最後に、単純語として用いられる「型」の意味やその諸特徴を検討し、接尾辞の「型」が単純語の「型」からの文法化の兆候として捉えられる「分岐」（Hopper 1991）の段階にあることを指摘した上で、意味特徴の漂白化や、文法カテゴリーにおける脱範疇化が起きていることに基づいて文法化の過程を考察した。

以上の分析から、従来の先行研究では検討されていなかった、[X+型] という形式における〈カテゴリー〉の意味の多義性を明らかにすることができた。そして、その拡張の方向性を捉える上で、文法化の観点から単純語と接尾辞の連続性についても示すことができた。

## 第6章 カテゴリーを形成する [X+系] 構文・[X+派] 構文・[X+型] 構文の拡張的用法 一句・文が前接するケースー

### 6. 1 はじめに

第3章においては、「アジア系」(留学生)や「草食系」(男性)などの[X+系]構文を、第4章においては、「麻生派」(国会議員)や「演技派」(女優)などの[X+派]構文を、そして第5章においては、「ハート型」(ピザ)や「直感型」(人)などの[X+型]構文を考察対象とし、その多義性や意味拡張の様相について検討してきた。ここまでの分析においては、「系」「派」「型」の前接要素Xが、「アジア」「演技」「ハート」といった単一の語であるケース(つまり、各構文が派生語であるケース)を主な考察対象としてきたが、実際には以下のように複数の語が結びついた句、あるいは、文の形式が前接する事例も存在する。

- (1) 単純におもしろかった。というか、興味深かった。人間の心理を描いてる点は「es」に近い。ああいう世界が絶望の中でも一つの希望がある系の映画は好きです。  
([http://www.tcp-ip.or.jp/~iwamatsu/bbs\\_log03/28nitigo.html](http://www.tcp-ip.or.jp/~iwamatsu/bbs_log03/28nitigo.html))
- (2) お買い物のタイプは、買いだめ派ではなくて、その日の特売品を中心に献立を決めて毎日お買い物をする派です。  
(<http://tokyo.l-ma.jp/tokyo/column/index69.html>)
- (3) 次に、1960年代から75年頃までは、工業型社会への移行の時代であり、「夢の時代」ともいえる時代である。工業型社会となり、技術革新が進み、高度経済成長がもたらされた。欧米に追いつけ追い越せ型の近代化が進められ、生きる目的が未来の豊かな生活や便利な都市生活などに収斂されていく時期であり、学校教育への依存度が高まり、高校・大学進学率が上昇し、受験競争という状況も生まれた。  
(<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/26947/26008.pdf>)

(1) は、『28日後…』という映画に対する評価コメントであり、「系」に「世界が絶望の中でも一つの希望がある」という「文」が前接している。また、(2) は、話者の日常的な買

い物に関して述べたものであり、「派」に「その日の特売品を中心に献立を決めて毎日お買い物をする」という文が前接している。そして、(3) は、日本の高度経済成長期の時代における近代化について述べたものであり、「型」に「欧米に追いつけ追い越せ」という文が前接している。

このようなケースは、本論文の第3章から第5章において考察してきた、単独の語が前接する派生語からの拡張であると考えられる。そのため、以下ではこのようなケースを「拡張的用法」と呼び、派生語の意味との関連を考察していく。

## 6. 2 先行研究概観

本研究で考察対象とする「系」「派」「型」の拡張的用法に関して論じている先行研究は、「派」を考察対象の1つとして挙げている大坂・笠 (2014) の他には、管見の限りでは見当たらない。そのため、大坂・笠 (2014) に関しては、「派」の拡張的用法の事例について取り上げる本章4節で詳しく述べることとし、本節では他の接尾辞の拡張的用法について考察している先行研究を取り上げて概観する。

はじめに、山下 (2005) を確認する。山下 (2005: 93) は、漢語接尾辞の「式」「的」を取り上げ、以下のような事例を挙げている。

- (4) 最近運転していて感じるのは、合図が「自分のやりたいことをやらせろ」式のものに変わってきているということ。まゆをひそめることが多くなりました。

(山下 2005: 93)

- (5) かけひきを楽しむ心持ちが必要。すすんでその上司の下に入ったフリして、実は自分が操作しているんだ的な発想をしていると、意外と楽に過ごせるものです。

(山下 2005: 93)

山下 (2005) では、漢語接尾辞の「式」や「的」に、語のレベルを超えた句や文相当の単位が前接する表現を取り上げ、そのような表現を「引用表現」と呼んでいる。また、それらの前接単位を「先行句」と呼び、その内容には「成句・慣用句」「スローガン・コピー」「発話・思考内容」などの例が見られると述べている。

次に、泉 (2019) を確認する。泉 (2019) は、現代日本語においてその用法に広がりを見



せている「感」という形式を取り上げ、その形式的な特徴と意味的な特徴について包括的に記述している。泉（2019）では、「感」の用法を以下の4つの用法<sup>160</sup>に区分している。

- (6) ① 自立語としての用法  
（例：「隔世の感」「意外な感」など）
- ② 複合語としての用法 …「感」が複合語の後部要素であるもの  
（例：「違和感」「正義感」など）
- ③ 臨時一語的な用法 …「感」が接尾辞的にふるまうもの  
（例：「しっとり感」「チョコレート感」など）
- ④ 文を包摂する用法  
（例：「一緒に頑張ろう感」「やっちゃまったな感」など）

（泉 2019: 85）

①は自立語（単純語）として「感」が用いられる用法であり、②は複合語の後部要素として「感」が用いられる用法である。

そして、③は接尾辞的に「感」が用いられる用法である。この用法に関して、泉（2019: 98）では、その全ての事例が日本社会において定着している表現ではないことに触れ、「話者自身が「適切な表現が見つからないために臨時的に使用している」こと、あるいは「新しい（と話者が思っている）概念に対して臨時的に命名を行っている」ことを認識したうえで使用していると推察される」と述べている。なお、このような見解は本研究で考察対象としてきた [X+系] 構文、[X+派] 構文、[X+型] 構文の事例においても同様であると考えられる。

また、④については、影山（1993: 326）が「[夏目漱石と正岡子規] 展」などのように、「語の内部に句が包み込まれる現象」に対して「句の包摂」と述べていることを踏まえて、「感」に関しては句を包摂するケースの他、「という」などの引用形式を介さずに文が「感」に直接接続する現象があるとし、このようなケースを「文を包摂する用法」と呼んでいる<sup>161</sup>。

<sup>160</sup> ①～④の番号は、筆者が便宜上付したものである。

<sup>161</sup> さらに、泉（2020）では、名詞が文に直接後続する形式として、「振り込め詐欺」「ANA でハワイへ行こう！キャンペーン」「早く帰れオーラ」「へー、そうなんだ程度」「今すぐ辞めろ発言」「どっちなんだよ問題」「困ったな状態」などを取り上げ、このような事例を「語が文を包摂する形式」と呼んでいる。

そして、このような用法は特にウェブ上の種々のテキストや会話などにおいて事例が多く観察されるとしている。

本研究が考察対象とする「系」「派」「型」に関しても、第3章～第5章で取り上げた事例は、接尾辞として用いられるものであり、泉(2019)が述べている「臨時一語的な用法」に相当するものも見られた<sup>162</sup>。そして、本章1節において挙げた(1)、(2)、(3)のような事例は、泉(2019)が述べている④の用法(「文の包摂用法」)に該当する事例であると考えられる。

これらの先行研究を踏まえて、次節では[X+系]構文、[X+派]構文、[X+型]構文において、句や文が前接する拡張的用法の事例を取り上げ、その特徴を観察する。

### 6.3 [X+系] 構文の拡張的用法のケース

本論文の第3章では、[X+系]構文の意味を9つに分類した。以下では[X+系]構文においてXが句や文である拡張的用法の事例を提示し、当該の事例が9つの意味のうち、どの意味からの拡張的用法であるのかを検討する。

はじめに、[X+系]構文の拡張的用法の事例を、以下に3つ提示する。

- (7) うちの母は、自営業なのと、上に兄貴がひとりいるのとは忙しかったから、私の憶えてるおやつは、たいがい市販品だったかな。あと、オーブンが一応あったけど、あまりオーブン料理に興味ないらしく、ケーキ、クッキーは数えるほどしか作ってなかった。でも、冷蔵庫で固める系はよく作ってたな。コーヒゼリー、

---

<sup>162</sup> 例えば、[X+系]、[X+派]、[X+型]では、以下に挙げるように、定着していないと思われる新奇な事例が存在する。特にこれらは臨時一語的に形成された<アドホック・カテゴリー>を表していると考えられる。

「恋愛がわずらわしいというのは、恋愛や結婚のハードルを高く設定しすぎて、選り好みが強くなり、よほど理想的な相手でない限りは挑戦しようとしなから。草食系なのではなく『美食系』(『週刊アエラ』2015年6月22日)

「自分は原発推進派でも反対派でもない。言うなれば無関心派、傍観者とも言える。」(<https://www.kikusui.co.jp/coffeebreak/article/?no=32>)

「将来の夢に向かって進学、就職と一歩ずつ進む人を「山登り型」としたら、私はその時々で流れを見極める「川下り型」だと思っています。」(2021年6月07日『朝日新聞』朝刊)

牛乳プリン。いちばん美味だったのは、レアチーズケーキ。

(<http://www11.plala.or.jp/apathy/surelog/015.html>)

- (8) (『28日後…』という映画の評価コメント)

単純におもしろかった。というか、興味深かった。人間の心理を描いてる点は「es」に近い。ああいう世界が絶望の中でも一つの希望がある系の映画は好きです。 (＝(1)再掲)

- (9) なんか知らんけど、大阪府大阪市じゃなくて、Osaka-Wan, Japan になってしまってます。で、東京が Tokyo になってしまってるし。なーんででしょう？何かウイルスでも感染しちゃった系でしょうか？

(<https://blog.wanichan.net/entry/2015/04/24/174225>)

(7) では「冷蔵庫で固める」という句が「系」に前接している。ここでは、およそ以下のようなプロセスに基づいたカテゴリーを表していると考えられる。

- (10) 「冷蔵庫で固める系」のお菓子が作られるプロセス

材料を混ぜ合わせる → 型に入れる → 冷蔵庫で固める → 型から取り出す

つまり、(7) に挙げた「コーヒーゼリー」「牛乳プリン」「レアチーズケーキ」などのお菓子が作られるプロセス全体の中で、「冷蔵庫で固める」という<行為>が焦点化されることによって、例文内で挙げられている「ケーキ」「クッキー」のような「オーブンで焼く菓子」とは異なるカテゴリーとして対比されていると考えられる。このことから、「冷蔵庫で固める系」は、第3章で示した [X+系] 構文の9つの意味のうち、意味⑧の<ある行為や変化<sub>x</sub>>が何らかのプロセスの一部として含まれる複数のモノによって形成されるカテゴリー→ (例：「混ぜる系」「曲がる系」など) からの拡張的用法であると考えられる。

(8) は、『28日後…』という映画に関して述べたものであり、「世界が絶望の中でも一つの希望がある」という文が「系」に前接している。ここでは、当該の映画以外にも『es』という映画が挙げられており、このような映画も含めて、「世界が絶望の中でも…」と話者が評価するような映画が他にもある、という意識で述べていると考えられる。そのため、第3章で分類した9つの意味のうち、意味⑨の<何らかの評価的特徴<sub>x</sub>>が感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリー→ (例：「かわいい系」「地味系」など) からの拡張的用法で

あると考えられる。

(9) は、パソコンのトラブルに関して述べられたものであり、「何かウイルスでも感染しちゃった」という文が「系」に前接している。「～ちゃった」は「～てしまう（～てしまった）」という補助動詞の縮約形であり、ここでは<実現している可能性のある事態（＝パソコンがウイルスに感染すること）は悔やむべきものである>というような、話者の感情を表すモダリティ的な意味を表していると考えられる<sup>163</sup>。なお、山下（2005）では「式」「的」に関して、「「自分のやりたいことをやらせろ」式」「実は自分が操作しているんだ的」のように、「話者の発話・思考内容」を表す先行句が前接するケースがあると指摘されている。そのため、(9) の事例も、前接要素の文が話者による事態把握の仕方を表していることから、このようなケースに該当するといえる。また、(9) は「話者の認識や評価に基づく発話・思考内容」を表すものであるといえることから、[X+系] 構文の9つの意味のうち、意味⑨からの拡張的用法であると考えられる。

## 6. 4 [X+派] 構文の拡張的用法のケース

本論文の第4章では、[X+派] 構文の意味を4つに分類した。以下では [X+派] 構文において X が句や文である拡張的用法の事例を提示し、当該の事例が4つの意味のうち、どの意味からの拡張的用法であるのかを検討する。

はじめに、[X+派] 構文の拡張的用法の事例を、以下に3つ提示する。

- (11) 皆さま、朝はパン派？ ご飯派？ 我が家は子供たちがご飯好きなので、基本的にはご飯にお味噌汁なのですが、時々食べたくなるのが食パン！

(<https://mi-mollet.com/articles/-/24261?layout=b>)

- (12) お買い物のタイプは、買いだめ派ではなくて、その日の特売品を中心に献立を決めて毎日お買い物をする派です。 (= (2) 再掲)

---

<sup>163</sup> 杉本（1991:109）では、「太郎は死んでしまった」というような場合の「～てしまう」には、「実現した事態は悔やむべきものである」という意味を表すこともあるとし、「これは、話者による事態の把握のしかたを表しているという点で、モダリティの意味と言うことができる」と述べている。なお、(9) では、「何かウイルスでも感染しちゃった系でしょうか？」と述べており、まだ「パソコンがウイルスに感染しているかどうか」が話者自身にも把握できていないといえることから、<実現している可能性のある事態>であるといえる。

- (13) 飲酒運転による事故、罰則が厳しくなったにも関わらず、相変わらず多発して  
ますね。私は「今より厳しくする派」です。

(<https://oshiete.goo.ne.jp/qa/6944943.html>)

(11) は、「朝はパン」という句が「派」に前接している。また、その後に見られる「ご飯派」に関しても、単に<ご飯を好む>という意味を表しているわけではなく、「朝食に食べるものとして」という前提のもとで<ご飯を好む>ということを表している。また、「朝はパン派」のように、[ZはX派]<sup>164</sup>という形式の事例はよく観察される（例：「カレーはライス派」「鞆は大きい派」「好きなものは最初に食べる派」など）。

(12) は、「その日の特売品を中心に献立を決めて毎日お買い物をする」という文が「派」に前接している。話者は「買い物のしかた」について述べており、その対比する関係として示されているのは、「買いだめ派」である。「買い物のしかた」に対して「買いだめ」と「その日の特売品を…」を対比関係として示しているのは、話者が有する「日常的な買い物のしかた」に関する百科事典的知識に基づくものであるといえる。

また、第4章 [X+派] の周辺的な意味になると、当該の事例によって示される対比関係（あるいは対立関係）が念頭に置かれなくなったり、より背景化したりすると考えられる。そのため、(13) では、「飲酒運転の罰則」に対して、「今より厳しくする派」と述べているが、話者自身の意見や立場を示すことに焦点が当てられているため、対比・対立する関係にある「罰則を厳罰化せず、現状維持すること」などを表す内容は [X+派] という形式では言語化されていない。

以上の点を踏まえると、(11) から (13) の事例は、第4章で示した [X+派] 構文の4つの意味のうち、意味④の<ある物や事柄<sub>X</sub>に対する好みや傾向、意見を示す（複数の）人によって形成されるカテゴリー>（例：「猫派」「部屋干し派」など）からの拡張的用法の事例であるといえる。

なお、第4章4.4節では、[X+派] 構文の意味④における前接要素Xは、「食べる派」のような動詞、「可愛い派」のような形容詞が前接するケースが見られ、さらには、「今より厳しくする派」のように、句や文が前接するケースも見られることを指摘した。そして、この

---

<sup>164</sup> この場合のZは、「朝はパン派」における「朝」、「カレーはライス派」における「カレー」のように、<話者が話題としたい物や事柄>を表している。

ことから、他の意味と比べて特に形態的特徴が多様であり、より臨時的で、複数の成員を想定しないようなカテゴリーを形成しやすいということを指摘した。この点に関連して、大坂・笠（2014）では、「集団の構成員の選考や考え方に対する名づけ」を行うときに「派」が用いられると述べており、「時間があればあるほどゆったりのおんびりしちゃう派」のような例を挙げている。このような例は、集団を表す接尾辞（＝「派」）を使いながらも、対象が個体や個別的事態の場合があり、「これは、仮に表現したい内容が固体に起こった個別的事態であったとしても、そのような集団が存在するかのように表現している」と指摘している。このような指摘は、本論文の第4章6節で指摘した、[X+派] 構文の意味拡張全体の方角性として、より周辺的な意味になればなるほど、より「個人レベルでのカテゴリー」としての意味へ拡張しているという点と共通するものであるといえる。

## 6. 5 [X+型] 構文の拡張的用法のケース

本論文の第5章では、[X+型] 構文の意味を6つに分類した。以下では [X+型] 構文において X が句や文である拡張的用法の事例を提示し、当該の事例が6つの意味のうち、どの意味からの拡張的用法であるのかを検討する。

はじめに、[X+型] 構文の拡張的用法の事例を、以下に3つ提示する。

- (14) みんなで走る型のランニングイベントだと、「他のランナーのペースについていけるかな？」と気後れしたりすることもあると思うのですが、このルールであればそれぞれが自由に好きなペースで好きな距離を走れるので、気軽にイベントにご参加いただけると思います。

(<https://seadays.jp/news/20181214liveloverun/>)

- (15) 次に、1960年代から75年頃までは、工業型社会への移行の時代であり、「夢の時代」ともいえる時代である。工業型社会となり、技術革新が進み、高度経済成長をもたらされた。欧米に追いつけ追い越せ型の近代化が進められ、生きる目的が未来の豊かな生活や便利な都市生活などに収斂されていく時期であり、学校教育への依存度が高まり、高校・大学進学率が上昇し、受験競争という状況も生まれた。 (= (3) 再掲)

- (16) 任せておきなさい型弁護士

相談の内容を聞いていく中で、相談者の気持ちをよくとらえ、期待する解決方向を指し示し、大丈夫頑張ってやりましょうと言って請け負うタイプ。

(<http://kyotolaw.jp/kawaraban/skawaraban2008.02.html>)

(14) は、「ランニングイベント」に対して述べられたものであり、「みんなで走る」という句が「型」に前接している。ここでは、通常の「ランニングイベント」が、「みんなで走る」という<行為>を伴って行われるものであるという点から、「みんなで走る型」と表示していると考えられる。以上を踏まえると、「みんなで走る型」は、第5章で示した [X+型] 構文の6つの意味のうち、意味⑤の<ある行為や変化（における何らかの様態）<sub>x</sub>>を伴って成立する複数の事物によって形成されるカテゴリー→（例：「体験型」「変異型」など）からの拡張的用法による事例であると考えられる。

(15) は、高度経済成長の時代における「近代化」の様相について述べたものであり、「欧米に追いつけ追い越せ」という文が「型」に前接している。この場合の「欧米に追いつけ追い越せ」という文は、この時代の「近代化」という<事柄の様相>を表していると考えられる。そして、このような文は、山下（2005）が述べている「スローガン・コピー」を表す「先行句」に該当する事例であると思われる。以上を踏まえると、(15) は6つの意味のうち、意味⑤の<ある行為や変化（における何らかの様態）<sub>x</sub>>を伴って成立する複数の事物によって形成されるカテゴリー→からの拡張的用法による事例であると考えられる。

(16) は、「弁護士」の性格のタイプについて述べたものであり、「任せておきなさい」という文が「型」に前接している。この場合の「任せておきなさい」は、「相談の内容を聞いていく中で、相談者の気持ちをよくとらえ、…」といった特徴を有する「弁護士」がいかにも発言しそうな台詞として捉えられ、当該の弁護士の<気質>を端的に表したものであると捉えられる。このような文は、山下（2005）が述べている「スローガン・コピー」を表す「先行句」に該当する事例であると思われる。以上を踏まえると、(16) は6つの意味のうち、意味⑥の<（何らかの物事に対する）気質や行動の傾向<sub>x</sub>>がある複数の人によって形成されるカテゴリー→（例：「直感型」「決断型」など）からの拡張的用法であると考えられる。

## 6. 6 本章のまとめ

第3章から第5章では、単独の語が前接する [X+系] 構文、[X+派] 構文、[X+型] 構

文の意味拡張について考察し、その全体の方向性として、周辺的な意味に拡張すればするほど、より話者の個人的な価値判断や認識に基づいて対象がカテゴリー化され、カテゴリーの境界が不明瞭になると分析した。そして、本章ではそれぞれの拡張的用法について考察し、[X+系] 構文は、意味③、意味⑨からの拡張的用法に該当する事例が、[X+派] 構文は、意味④からの拡張的用法に該当する事例が、そして、[X+型] 構文は、意味⑤、意味⑥からの拡張的用法に該当する事例を取り上げ、考察した。つまり、各構文のより周辺的な意味になると、話者の価値判断や認識に基づいて、対象が該当すると思われる〈カテゴリー〉が臨時的に命名される程度が高まるため、その前接する要素 X の形式も語のレベルを超えて多様になっていると考えられる。

また、第3章では [X+系] 構文の意味拡張に伴って、単純語としての「系」の意味特徴が「希薄化」し、共時的なレベルでの「文法化」が進んでいると主張した。また、第4章では [X+派] 構文について、第5章では [X+型] 構文について、同様に単純語の「派」「型」からの文法化の過程について考察した。この点に対する拡張的用法からの傍証として、次の2点が挙げられる。1点目は、拡張的用法の事例において、それぞれの接尾辞を含めない表現にしても、全体の意味や内容が大きく変わらない場合があることである。例えば、(9)、(11)、(15) の事例は、以下のように、それぞれ「系」「派」「型」を含めない表現にしても、表している内容は大きく変わらないと考えられる。

(17) 何かウイルスでも感染しちゃった系でしょうか？

→ 何かウイルスでも感染しちゃった (の) でしょうか？

(18) 皆さま、朝はパン派？ご飯派？

→ 皆さま、朝はパン？ご飯？

(19) 欧米に追いつけ追い越せ型の近代化が進められ…

→ 欧米に追いつけ追い越せの近代化が進められ…

2点目は、1点目の特徴に関連するものでもあるが、拡張的用法においては、各派生語が有する〈カテゴリー〉としての意味特徴が希薄化しているケースが見られるという点である。つまり、例えば (9) の「何かウイルスでも感染しちゃった系でしょうか？」や、大坂・笠 (2014) の指摘する「時間があればあるほどゆったりのんびりしちゃう派」、そして (15) の「欧米に追いつけ追い越せ型の近代化」のように、〈複数の対象が想定されていない〉、



<他のカテゴリーとの対比・対立関係が想定されていない>などの特徴を有する事例も多く見られ、このような特徴は通常の「カテゴリー」が有する<複数の対象が成員である>、<他のカテゴリーと差別化する>といった特徴が希薄化したものであると考えられる<sup>165</sup>。

以上、本章では [X+系] 構文、[X+派] 構文、[X+型] 構文における拡張的用法の事例について検討した。なお、本研究では各構文において、より周辺的な意味ほど拡張的用法が起きやすいという傾向は掴めたものの、それ以外の意味に対応する拡張的用法が存在しないという確証はないため、今後はより広範な事例から拡張的用法について検討する必要がある。

---

<sup>165</sup> なお、このような通常のカテゴリーの特徴は、第2章4節において取り上げた、辻 (2013: 40)、(2010: 18) 及び、榎山 (2010: 18) における「カテゴリー」および「カテゴリー化」の規定から見出せる特徴である。

## 第7章 結論

以下では、本研究のまとめと今後の課題を提示する。

まず、以下に本研究のまとめを提示する。

本研究では、「系」「派」「型（がた）」を接尾辞とする派生語の意味を、認知言語学の枠組みによって考察し、その多義性や意味拡張の様相、そしてその背景にあるカテゴリー化のメカニズムについて考察した。具体的には、「系」とそれに前接している要素を X とした [X+系] 構文（例：「アジア系」「草食系」など）、「派」とそれに前接している要素を X とした [X+派] 構文（例：「印象派」「猫派」など）、「型」とそれに前接している要素を X とした [X+型] 構文（例：「ハート型」「直感型」など）を考察対象とし、これらの派生語の意味形成のしくみについて、認知言語学におけるカテゴリー化の概念や構文理論の枠組みを援用して共時的に分析した。

まず、第2章「理論的背景」では、従来の語構成論について概観した。特に接尾辞や派生語がどのように規定されているのかを確認し、その上で、本研究で取り上げる「系」「派」「型」をそれぞれ接尾辞として位置づけた。

次に、本研究の考察に関わる言語単位や品詞の諸特徴について確認した。

次に、本研究の分析において重要な概念である、「カテゴリー（category）」および「カテゴリー化（categorization）」について確認した。

次に、本研究が依拠する構文理論について概観した。特に様々な研究者によって概ね共有されている、その理論的な特徴として、以下の3点を提示した。

- (1) ① 構文は形式と意味が対となった記号であり、非要素還元的な意味を有する。
- ② 構文は典型事例から拡張事例までの幅を有するカテゴリーであり、ネットワーク構造を成している。
- ③ 構文理論は使用基盤モデルに依拠する。

第3章から第6章における分析は、この3点に基づいて行ったものである。さらに、この枠組みを援用した合成語研究について概観し、本研究において構文理論を援用することの利点として、使用基盤モデルの観点から、実際の言語現象に基づいて、各接尾辞の意味や用

法の動的な広がり過程を、より定着している事例から新奇な事例までも含めて、統一的に捉えることが可能になることを指摘した。

続いて、本研究において援用する認知言語学の諸概念（百科事典的意味、メタファー、シネクドキー、メトニミー、文法化）について確認した。また、本研究の分析は、靱山（2021）における「多義語分析の課題」に基づいて行うことについて確認した。

以上の理論的背景を踏まえて、第3章「カテゴリーを形成する[X+系]構文の意味分析」では、[X+系]という単位を考察対象とした。まず、[X+系]構文が現れる事例の形式的特徴を検討し、前接する要素の品詞やどのような形式によって用いられるのかを考察した。特に、[X系Y] [X系のY] [Yは/がX系]という3つの形式によって[X+系]構文が用いられることを確認し、それらの形式に共通する[X+系]という形式を構文として捉えて分析することを確認した。そして、その多義性を検討する上では、特に上述の3つの形式のうち、Yの要素との関係を捉えることが重要であることを指摘した。

具体的な意味分析では、ボトムアップ的な手法を採り、個々の事例の意味記述を踏まえて、その共通点として抽出できる意味を[X+系]構文が有する1つの意味として認定した。以下に、本研究において認定した[X+系]構文の9つの意味とその主な事例、そして多義構造のネットワーク図を再掲する。

表1：[X+系]構文の9つの意味とその主な事例（再掲）

意味①	<何らかのモノ <sub>x</sub> を構成要素として含む複数のモノによって形成されるカテゴリー> 例：生薬系（入浴剤）、太陽系（惑星）、外資系（企業）など
意味②	<何らかの組織 <sub>x</sub> を中核とするグループに属する複数の組織によって形成されるカテゴリー> 例：トヨタ系（企業）、テレビ朝日系（テレビ局）、自民党系（会派）など
意味③	<何らかの空間領域や血筋 <sub>x</sub> を出自（あるいは出所）とする複数のモノによって形成されるカテゴリー> 例：メキシコ系（人）、インディアン系（人）、アジア系（作家）、家庭系（ごみ）など
意味④	<何らかの分野 <sub>x</sub> に特化した複数のモノによって形成されるカテゴリー>

	例：医療系（仕事）、交通系（ICカード）、舞台系（照明技術）、映像系（照明技術）など
意味⑤	<p>&lt;何らかの（総称によって表される）類<sub>x</sub>に属する複数のモノによって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：循環器系（器官）、柑橘系（果物）、クッキー系（お菓子）、ピンク系（色）など</p>
意味⑥	<p>&lt;何らかのモノ<sub>x</sub>らしいと感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：食事系（料理、菓子）、洋食喫茶店系（料理）、秋葉系（ファッション）など</p>
意味⑦	<p>&lt;何らかのモノ<sub>x</sub>に類似していると感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：草食系（若者）、体育会系（会社）、二郎系（ラーメン店）など</p>
意味⑧	<p>&lt;ある行為や変化<sub>x</sub>が何らかのプロセスの一部として含まれる複数のモノによって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：混ぜる系（ラーメン）、発酵系（微生物）、曲がる系（球種）、血管が詰まる系（病気）など</p>
意味⑨	<p>&lt;何らかの評価的特徴<sub>x</sub>が感じられる複数のモノによって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：かわいい系（ピンクのガーベラ）、地味系（おかず）、がっつり系（料理）、癒し系（音楽）など</p>

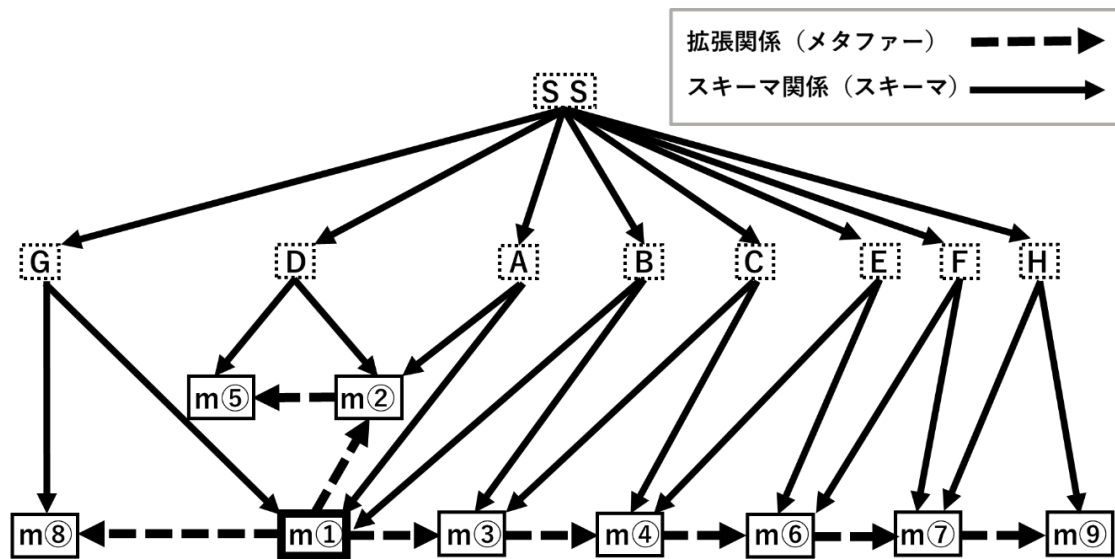


図1：[X+系] 構文の多義構造（再掲）

さらに、[X+系] 構文における「メトニミー的用法」の実例の意味についても検討した。

そして、[X+系] 構文は、用法上の制約や意味特徴の具体性の高さという点から見て、意味①が最も概念的に基本的な意味、つまり、派生（拡張）の基盤となる意味であり、松本（2010）における「概念的的中心性」を有すると考えられることから、意味①をプロトタイプの意味として認定した。さらに、9つの意味の相互関係について、メタファーによる意味拡張という観点から考察した。

最後に、単純語として用いられる「系」の意味や諸特徴を検討した上で、接尾辞の「系」が単純語の「系」からの文法化の兆候として捉えられる「分岐」（Hopper 1991）の段階にあることを指摘し、さらにそのような文法化による変化の過程の中で、<（研究対象とする上で）境界が明確に定められている複数の要素によって形成されるまとまり>という特徴が漂白化していることに伴い、主体の価値判断や認識の程度が高まることによって、境界が明瞭なカテゴリーの意味から、境界が不明瞭なカテゴリーの意味へ拡張していることを指摘した。

次に、第4章「カテゴリーを形成する接尾辞「派」を含む派生語の意味分析」では、[X+派] という単位を考察対象とした。まず、第3章における [X+系] 構文の分析と同様に、[X+派] 構文が現れる事例の形式的特徴を検討し、前接する要素の品詞やどのような形式によって用いられるのかを考察した。特に、[X+系] 構文と比べると、品詞の偏りは見られつつも、[X派Y] [X派のY] [Yは/がX派] という3つの形式によって [X+派] 構文が

用いられることを確認し、それらの形式に共通する [X+派] という形式を構文として捉えて分析することを確認した。そして、その多義性を検討する上では、特に上述の3つの形式のうち、Yの要素との関係を捉えることが重要であることを確認した。

そして、具体的な意味分析では、第3章と同様にボトムアップ的な手法を採り、個々の事例の意味記述を踏まえて、その共通点として抽出できる意味を [X+派] 構文が有する1つの意味として認定した。以下に、本研究において認定した [X+派] 構文の4つの意味とその主な事例、そして多義構造のネットワーク図を再掲する。

表2：[X+派] 構文の4つの意味とその主な事例（再掲）

意味①	<p>&lt;何らかの（人や物、あるいは事柄をその象徴とする）思想や主義<sub>x</sub>を共有する複数の人によって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：麻生派（政治家）、二階派（政治家）、永平寺派（寺）、総持寺派（寺）、印象派（画家）、ロマン派（画家）など</p>
意味②	<p>&lt;ある事柄に対する何らかの立場や考え、態度<sub>x</sub>を示す（複数の）人によって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：賛成派（議員）、反対派（議員）、穏健派（政治家）、ハト派（政治家）など</p>
意味③	<p>&lt;何らかの点において際立つ属性や高いレベルの能力<sub>x</sub>を有する（複数の）人や物によって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：正統派（和食料理）、演技派（女優）、社会派（ドラマ）など</p>
意味④	<p>&lt;ある物や事柄、評価的特徴<sub>x</sub>に対する好みや傾向、意見を示す（複数の）人によって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：犬派（人）、猫派（人）、部屋干し派（私）、可愛い派（私）など</p>

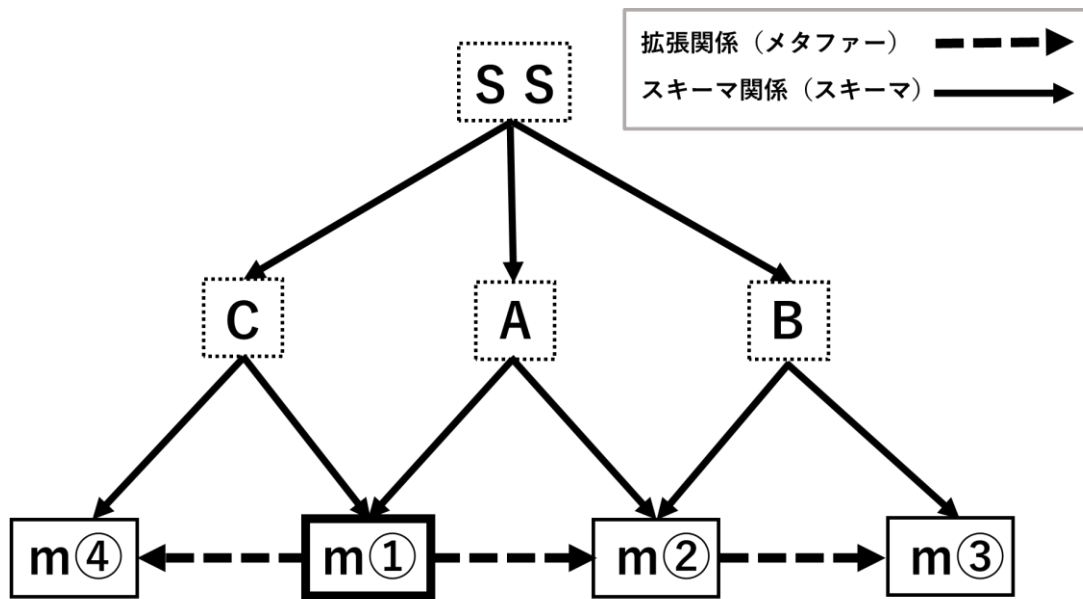


図2：[X+派] 構文の多義構造（再掲）

さらに、[X+派] 構文における「メトニミー的用法」の実例の意味についても検討した。そして、[X+派] 構文は、用法上の制約や意味特徴の具体性の高さという点から見て、意味①が最も概念的に基本的な意味、つまり、派生(拡張)の基盤となる意味であり、松本(2010)における「概念的中心性」を有すると考えられることから、意味①をプロトタイプの意味として認定した。そして、4つの意味の相互関係について、メタファーによる意味拡張という観点から考察した。さらに、単純語として用いられる「派」の意味や諸特徴を検討し、接尾辞の「派」が単純語の「派」からの文法化の兆候として捉えられる「分岐」(Hopper 1991)の段階にあることを指摘し、[X+派] 構文の多義構造全体において、その特徴が文法化の過程の中で漂白化することに伴い、より集団的・社会的なレベルのカテゴリーを表す意味から、より個人的なレベルのカテゴリーを表す意味へと拡張していること、そして、カテゴリーの境界が明瞭な意味から、境界が不明瞭な意味へと拡張していることを指摘した。

次に、第5章「カテゴリーを形成する接尾辞「型(がた)」を含む派生語の意味分析」では、[X+型]という単位を考察対象とした。まず、第3章における[X+系]構文の分析、第4章の[X+派]構文の分析と同様に、[X+型]構文が現れる事例の形式的特徴を検討し、前接する要素の品詞やどのような形式によって用いられるのかを考察した。特に、[X+系]構文と比べると、品詞の偏りは見られたが、[X型Y] [X型のY] [Yは/がX型]という3つの形式によって[X+型]構文が用いられることを確認し、それらの形式に共通する[X

+型] という形式を構文として捉えて分析することを確認した。そして、その多義性を検討する上では、特に上述の3つの形式のうち、Yの要素との関係を捉えることが重要であることを確認した。

そして、具体的な意味分析では、第3章、第4章と同様にボトムアップ的な手法を採り、個々の事例の意味記述を踏まえて、その共通点として抽出できる意味を[X+型] 構文が有する1つの意味として認定した。以下に、本研究において認定した[X+型] 構文の6つの意味とその主な事例、そして多義構造のネットワーク図を再掲する。

表3：[X+型] 構文の6つの意味とその主な事例（再掲）

意味①	<p>&lt;何らかの<u>外見的特徴</u><sub>x</sub>を有する、または何らかの<u>モノ</u><sub>x</sub>と外見的特徴が類似している複数のモノによって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：ハート型（ピザ）、セダン型（自動車）、猫型（ペットロボット）など</p>
意味②	<p>&lt;何らかの<u>モノ</u><sub>x</sub>を特に際立った部分として含んでいる複数のモノによって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：カートリッジ型（ペン）、短毛型（犬）、音声型（SNS アプリケーション）など</p>
意味③	<p>&lt;何らかの<u>空間領域や位置</u><sub>x</sub>で成立する複数の事物によって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：直下型（地震）、イギリス型（変異株）、郊外型（ショッピングセンター）など</p>
意味④	<p>&lt;何らかの<u>時間や時期</u><sub>x</sub>に成立する複数の事物によって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：冬型（気圧配置）、2020年型（自動車）、将来型（任意後見契約）など</p>
意味⑤	<p>&lt;ある<u>行為や変化（における何らかの様態）</u><sub>x</sub>を伴って成立する複数の事物によって形成されるカテゴリー&gt;</p> <p>例：体験型（留学）、変異型（ウイルス）、デリバリー型（社食サービス）、ギシギシ型（歯ぎしり）など</p>
意味⑥	<p>&lt;（何らかの物事に対する）<u>気質や行動の傾向</u><sub>x</sub>がある複数の人によって形成されるカテゴリー&gt;</p>



	例：直感型（僕）、決断型（小泉純一郎）、おっとり型（子ども）、ドン・キホーテ型（人）など
--	--

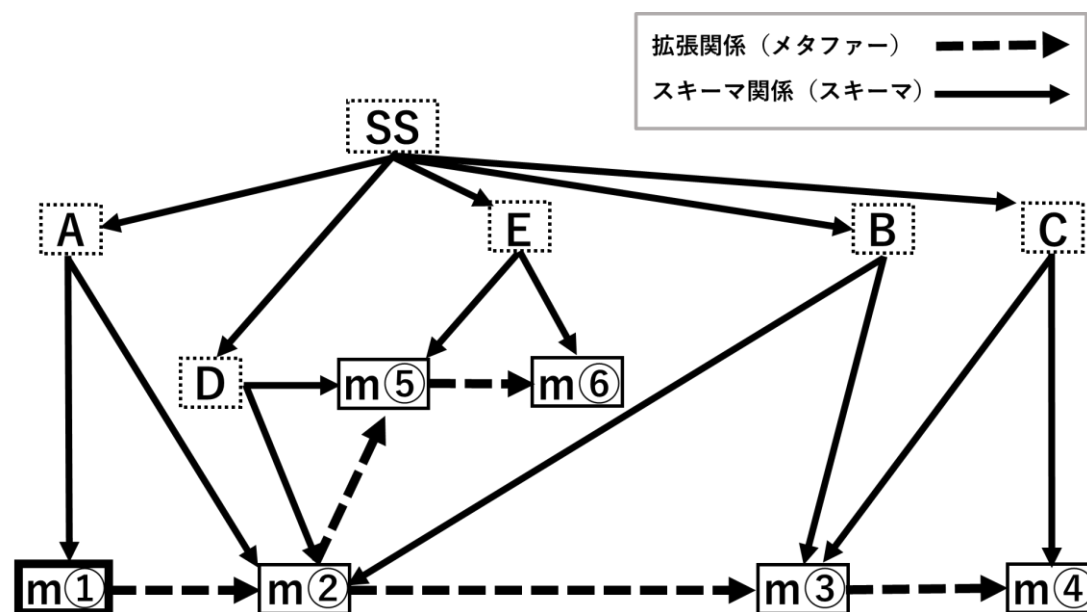


図3：[X+型] 構文の多義構造（再掲）

さらに、[X+型] 構文における「メトニミー的用法」の実例の意味についても検討した。また、[X+型] 構文は、用法上の制約や意味特徴の具体性の高さという点から見て、意味①が最も概念的に基本的な意味、つまり、派生（拡張）の基盤となる意味であり、松本（2010）における「概念的な中心性」を有すると考えられることから、意味①をプロトタイプの意味として認定した。そして、6つの意味の相互関係について、メタファーによる意味拡張という観点から考察し、[X+型] 構文の多義構造全体において、具体物に関する物理的属性としての意味から、人の営みや出来事に関する抽象的属性としての意味へと拡張している方向性があることを指摘した。さらに、この大きな拡張の方向性と連動して、カテゴリーの境界が明瞭な意味から、境界が不明瞭な意味へと拡張していることを指摘した。最後に、単純語として用いられる「型」の意味やその諸特徴を検討し、接尾辞の「型」が単純語の「型」からの文法化の兆候として捉えられる「分岐」（Hopper 1991）の段階にあることを指摘した上で、意味特徴の漂白化や、文法カテゴリーにおける脱範疇化が起きていることに基づいて文法化の過程を考察した。

次に、第6章「カテゴリーを形成する [X+系] 構文・[X+派] 構文・[X+型] 構文の拡

張的用法一句・文が前接するケース」では、句や文が前接する [X+系] 構文、[X+派] 構文、[X+型] 構文の事例を挙げ、このような用法は第3章から第5章において考察対象とした派生語の用法からの拡張であるということから、本研究では「拡張的用法」と位置づけた。そして、このような拡張的用法について、他の接尾辞について考察されている先行研究の記述も踏まえながら、本研究の分析におけるどの意味からの拡張的用法であるのかを、実例に基づいて検討した。そして、第3章から第5章にかけて検討した、各構文の意味の中でも、より周辺的な意味において拡張的用法の事例が見られることを指摘した。さらに、各接尾辞の文法化の傍証として、拡張的用法では、それぞれの接尾辞を含めない表現にしても、全体の意味や内容が大きく変わらないケースが見られること、各派生語が有する<カテゴリー>としての意味特徴が希薄化しているケースが見られることを指摘した。

以上、本研究のまとめを提示した。最後に、本研究で明らかになったことを踏まえて、今後のさらなる検討課題を提示する。

まず、本研究が考察とした [X+系] 構文、[X+派] 構文、[X+型] 構文は、現代日本語において定着していると思われる表現から新奇な表現まで存在する、生産性の高い構文であるといえる。特に周辺的な意味になるほど、話者を始めとする主体の個人的な価値判断や認識がカテゴリー形成に関わるようになり、境界がより不明瞭なカテゴリーを形成しやすいということが明らかになった。また、前接する要素は語のカテゴリーに留まらず、話者が臨時一語的に表した句や文といった形式に接続する新奇な事例も見られ、その場合はもはや<カテゴリー>としての特徴が失われているような事例も見られた。

本研究ではこれら3つの構文を「カテゴリーを形成する構文」として位置づけたが、今後の課題として、各構文同士がどのように関係しあい、ネットワークを形成しているのか、つまり、どのように構文間ネットワークを広げているのかについても検討する必要がある<sup>166</sup>。

また、このような「カテゴリーを形成する構文」の意味や用法の広がりについては、社会言語学の知見からさらに深めることが可能になると思われる。例えば、第3章では[X+系] 構文の事例として、「草食系」「肉食系」を挙げて考察したが、それぞれの<カテゴリー>としての意味が定着することによって、以下のような事例が生まれているといえる。

---

<sup>166</sup> 例えば、野田 (2011a: 162) においても、様々な形式の複合語の構文的意味に関して、「意味的に強い関係性を有すると考えられる異なる構文同士の関係性」(=構文間ネットワーク)について検討することが今後の課題として提示されている。

- (2) 気になる女性がアスパラベーコン系女子だったら、どのようにアプローチしたらよいのでしょうか。ぱっと見は派手で交友関係も広い肉食系女子に見えて、話してみると実はシャイで奥手な草食系という彼女へのアプローチ法をご紹介します。  
(<http://www.konkatsu-niigata.com/fulfill/type03.html>)
- (3) ロールキャベツ系男子は、外側から見ると草食系（ロールキャベツのキャベツ部分）ですが、中身は肉食系（ロールキャベツの中身の肉）の男性のことです。  
(<https://tantei-ch.jp/article/349/>)

これらの表現は、さらに上位のカテゴリーとして、＜「恋愛」や「交友関係」に対する人々の意識に基づいた複数の人によって形成されるカテゴリー＞が形成されていると考えられ、個々のカテゴリーの定着とともに広がりを見せていると考えられる。このように、あるカテゴリーから他のカテゴリーが生まれるというカテゴリー化の動的な側面を明らかにする上では、社会や文化との関わりからより詳細に言語表現を捉える必要があるといえる。

また、本研究では「系」「派」「型」という3つの接尾辞を取り上げ、それらが後接した派生語によってどのように事物がカテゴリー化されているのか、という観点から考察を行った。他にもこのようなある種のカテゴリーを表す接尾辞の事例は存在しており、その1つとして例えば「～色（しょく）」がある。「～色」は概略、＜～の特徴を備えた色彩＞という意味を有しており、例えば「有彩色」「反対色」のような例が存在する。この場合の意味は、実際に視覚で捉えられる＜色＞の意味を有しており、具体性の高い意味であるといえる。一方、「～色」には＜～らしい特徴＞といった意味も有しており、例えば「郷土色」「政治色」のような例が存在する。この場合は実際に視覚で捉えられる＜色＞としての意味は失っており、＜～らしい＞という抽象的な属性としての意味であると考えられる。このような事例においても、本研究が考察した「系」「派」「型」と同様に、単純語の意味からの文法化という観点から、カテゴリーとしての意味形成について明らかにすることが可能になると思われる。

以上のような観点も踏まえ、今後さらに現代日本語における複数の事例を詳細に検討することによって、そのカテゴリー化のしくみや様相について、より包括的に明らかにすることを目指したい。

## 参考文献

- 泉大輔 (2019) 「「感」の形式的特徴と意味・用法に関する包括的考察」『日本語・日本学研究』9, pp. 85-110, 東京外国語大学国際日本研究センター
- 泉大輔 (2020) 「語が文を包摂する形式の形式的特徴に関する考察」『東京外国語大学日本研究教育年報』24, pp.1-19, 東京外国語大学日本専攻
- 李澤熊 (2020) 『日本語の意味研究の新たな扉を開く 意味分析の方法と実際』開拓社
- 上原聡 (2010) 「名詞化と名詞性—その意味と形—」『日本語学』29-11 明治書院 pp.24-38
- 大坂朋史・笠万裕美 (2014) 「集団を表す接尾辞の新用法」『日本語の研究』10 (4) pp.131-132 日本語学会 (日本語学会 2014 年度春季大会ブース発表要旨)
- 大庭良介 (2021) 『「型」の再考—科学から総合学へ—』京都大学学術出版会
- 大堀壽夫 (2001) 「構文理論：その背景と広がり」『英語青年』147-9 pp.526-530 研究社
- 大堀壽夫 (2005) 「日本語の文法化研究にあたって 一概観と理論的課題—」『日本語の研究』1(3), pp.1-17, 日本語学会
- 尾谷昌則 (2006) 「構文文法の歴史的背景と今後の展望」『人間情報学研究』11, pp.25-43, 東北学院大学人間情報学研究所
- 尾谷昌則 (2011) 「第2章 認知言語学と構文文法」山梨正明 (編) 『構文ネットワークと文法—認知文法論のアプローチ—』研究社
- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』ひつじ書房
- 河上誓作 (2001) 「第4部 ことばと認知の仕組み」原口庄輔他 (編) 『ことばの仕組みを探る 生成文法と認知文法』pp.165-214, 研究社
- 熊代敏行 (2013) 「事物 (entity)、モノ (thing)、関係 (relationship)」辻幸夫 (編) 『新編 認知言語学キーワード事典』研究社, p.153, 研究社
- 斎藤倫明 (2011) 「第1部 語彙論概説」『これからの語彙論』ひつじ書房
- 史春花 (2014) 『日本語における促音形／撥音形複合動詞の諸相—コンストラクション形態論からのアプローチ—』神戸大学人文学研究科博士学位論文
- ジョン・R.テイラー・瀬戸賢一 (2008) 『認知文法のエッセンス』大修館書店
- 杉本武 (1991) 「「てしまう」におけるアスペクトとモダリティ(1)」九州工業大学情報工学部紀要 (人文・社会科学篇) 第4号, pp.109-126, 九州工業大学情報工学部

- 鷲見幸美 (2019) 「多義性と認知言語学」, 辻幸夫他 (編) 『認知言語学大事典』, pp.572-582, 朝倉書店
- 瀬戸賢一 (2007) 「メタファーと多義語の記述」 楠見孝 (編) 『メタファー研究の最前線』 ひつじ書房, pp.31-61
- 多門靖容 (2018) 「比喩」 日本語学会 (編) 『日本語学大辞典』 東京堂出版
- 陳奕廷・松本曜 (2018) 『日本語語彙的複合動詞の意味と体系—コンストラクション形態論とフレーム意味論—』 ひつじ書房
- 辻幸夫 (2013) 「カテゴリー化」 辻幸夫 (編) 『新編 認知言語学キーワード事典』 研究社, pp.40-41, 研究社
- 坪井栄治郎・早瀬尚子 (2020) 『認知言語学 (1) 認知文法と構文文法』 開拓社
- 中島晶子 (2010) 「新造語における「度」「系」「力」の用法」 大島弘子・中島晶子・ブラン・ラウル (編) 『漢語の言語学』 pp.159-175, くろしお出版
- 奈良信雄 (2010) 『とっても気になる血液の科学—からだのシミからシミまで大活躍』 技術評論社
- 西村義樹 (2015) 「句」 斎藤純男・田口善久・西村義樹編 『明解言語学辞典』 p.50 三省堂
- 日本語記述文法研究会 (2009) 「第3部 各と構文」 日本語記述文法研究会 (編) 『現代日本語文法2』 くろしお出版
- 日本語記述文法研究会 (2010) 「第2部 形態論」 日本語記述文法研究会 (編) 『現代日本語文法1』 くろしお出版
- 野田大志 (2011a) 『現代日本語における複合語の意味形成—構文理論によるアプローチ—』 名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士学位論文
- 野田大志 (2011b) 「[他動詞連用形+具体名詞]型複合名詞の意味形成」 『日本語の研究』 7(2), pp.1-16, 日本語学会
- 野田大志 (2013) 「現代日本語における[X+屋]型派生名詞の構文的多義性」 『人間情報学研究』 18, pp.39-57, 東北学院大学人間情報学研究所
- 野田大志 (2014) 「ある種の「人」を表す合成語の意味形成：百科事典的意味観に基づくアプローチ」 『日本認知言語学会論文集』 14, pp.673-678, 日本認知言語学会
- 野村益寛 (2013) 「分析可能性 (analyzability)」 辻幸夫 (編) 『新編 認知言語学キーワード事典』 研究社, p.330, 研究社
- パトリック・パーマー (2021) 「接尾辞「状」の意味・用法について—「ガタ」との比較を

- 中心にー」『日本語学会 2021 年度春季大会発表予稿集』 pp.13-18, 日本語学会
- 早瀬尚子・堀田優子 (2005) 『認知文法の新展開 カテゴリー化と用法基盤モデル』 研究社.
- 堀江薫 (2019) 「文法化」辻幸夫他 (編) 『認知言語学大事典』 pp.336-345, 朝倉書店
- 松本曜 (2009) 「多義語における中心的意味とその典型性：概念的 center 性と機能的 center 性」  
『Sophia linguistica』 57, pp 89-99, 上智大学国際言語情報研究所
- 水野義道 (1987) 「漢語系接辞の機能」『日本語学』 6 (3) (特集・漢語) pp.60-69, 明治書院
- 三宅知宏 (2005) 「現代日本語における文法化 —内容語と機能語の連続性をめぐって—」  
『日本語の研究』 1(3), pp.61-76, 日本語学会
- 村尾治彦 (2013a) 「第 9 章 構文」森雄一・高橋英光 (編) 『認知言語学 基礎から最前線へ』  
pp.205-230, くろしお出版
- 村尾治彦 (2013b) 「第 3 章 認知形態論から語彙論へ」山梨正明・吉村公宏・堀江薫・靱山  
洋介 (編) 『認知音韻・形態論』 くろしお出版
- 村上聖一 (2010) 「民放ネットワークをめぐる議論の変遷—発足の経緯、地域放送との関係、  
多メディア化の中での将来—」『NHK 放送文化研究所年報』 54 pp.7-54, 日本放送出版  
協会
- 森岡健二 (2001) 『要説日本文法体系論』 明治書院
- 靱山洋介 (2001) 「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喻」山梨正明他 (編) 『認知言  
語学論考』 No.1 pp.29-58 ひつじ書房
- 靱山洋介 (2010) 『認知言語学入門』 研究社
- 靱山洋介 (2014) 『日本語研究のための認知言語学』 研究社
- 靱山洋介 (2021) 『[例解] 日本語の多義語研究 認知言語学の視点から』 大修館書店
- 靱山洋介・深田智 (2003) 松本曜 (編) 『認知意味論』 大修館書店
- 山下喜代 (2005) 「漢語と文体—漢語接尾辞を含む合成語と引用表現を中心に—」中村  
明・野村雅昭・佐久間まゆみ・小宮千鶴子 (編) 『表現と文体』 pp.87-97, 明治書院
- 山下喜代 (2013) 「接辞性字音形態素の造語機能」野村雅昭 (編) 『現代日本漢語の探求』  
pp.83-108 東京堂出版
- 山下喜代 (2015) 「漢語接尾辞「系・派」について—人物を表す派生語の分析を中心に—  
—」『青山語文』 45 pp.112-125, 青山学院大学日本文学会
- 山下喜代 (2018) 「字音形態素のカテゴリー化：接辞を中心に—」『青山語文』 48, pp.217-  
228, 青山学院大学

- 山本清隆 (1995) 「単純語・複合語・派生語」『日本語学』5月号, pp.36-43, 明治書院
- Croft, William (2001) *Radical Construction Grammar*. Oxford University Press.
- Croft, William (2007) “Chapter18 Construction Grammar” *The Oxford Handbook of Cognitive Linguistics*. pp.463-508 Oxford University Press.
- Fillmore, Charles J. (1982) “Frame Semantics.” *Linguistics in the Morning Calm*. pp.111-137. Hanshin Publishing.
- Fillmore, Charles J., Paul Kay and Mary C. O’Connor (1988) “Regularity and Idiomaticity in Grammatical Constructions” *Language* 64(3) pp.501-538.
- Geert Booij (2010) *Construction Morphology*. Oxford University Press.
- Goldberg, Adele E. (1995) *Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure*. University of Chicago Press. (河上誓作・早瀬尚子・谷口一美・堀田裕子訳 (2001) 『構文文法論 英語構文への認知的アプローチ』 研究社)
- HAMLITSCH, Nathan Jesse (2020) 『日本語借用拘束形態素に関する認知言語学的研究：フレーム意味論および構文形態論の観点から』名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士学位論文
- Hopper, Paul J. (1991) “On some principles of grammaticalization.” In: Traugott, Elizabeth Closs and Bernd Heine (eds.) *Approaches to grammaticalization*. Vol.1, pp.17-35, John Benjamins.
- Hopper, Paul J. and Traugott, Elizabeth Closs (2003<sup>2</sup>) (1993<sup>1</sup>) *Grammaticalization*, Cambridge University Press. (日野資成 (訳) (2003) 『文法化』九州大学出版会)
- Langacker, Ronald W. (1987) *Foundations of Cognitive Grammar*, Vol.1. Stanford University Press.
- Langacker, Ronald W. (1991) *Foundations of Cognitive Grammar*, Vol.2. Stanford University Press.
- Langacker, Ronald W. (1999) *Grammar and Conceptualization*. Mouton de Gruyter.
- Langacker, Ronald W. (2000) “Dynamic Usage-Based Model.” In: Michael Barlow and Suzanne Kemmer (eds.) *Usage-Based Models of Language*, pp.1-65. Stanford: CSLI Publications. (坪井栄治郎訳. (2000) 「動的使用依拠モデル」坂原茂 (編) 『認知言語学の発展』 pp.61-143 ひつじ書房)
- Kay Paul and Fillmore, Charles J. (1999) “Grammatical Constructions and Linguistic

Generalizations: The What's X doing? Construction." *Language*, 75, pp.1-33, Linguistic Society of America.

## 参考辞書

- 『デジタル大辞泉』(2001) 小学館 [「ジャパンナレッジ lib」(<https://japanknowledge.com/>)]
- 『日本国語大辞典 第二版』(2007) 小学館 [「ジャパンナレッジ lib」(<https://japanknowledge.com/>)]
- 『明鏡国語辞典 第二版』(2011) 大修館書店

## 用例出典

朝日新聞記事データベース

「聞蔵Ⅱビジュアル」 (<http://database.asahi.com/index.shtml>)

国立国語研究所・Lago 言語研究所

「NINJAL-LWP for BCCWJ」 (<http://nlb.ninjal.ac.jp/search/>)

筑波大学・国立国語研究所・Lago 言語研究所

「NINJAL-LWP for TWC」 (<http://nlt.tsukuba.lagoinst.info/search/>)

検索エンジン「Yahoo! JAPAN」 (<https://www.yahoo.co.jp/>)

『CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊』 新潮社



## 謝辞

本論文は、筆者が名古屋大学大学院人文学研究科応用日本語学分野博士後期課程での在籍期間に取り組んだ研究成果をまとめたものです。本論文の執筆にあたり、数多くの方々から温かいご指導とご助言を賜りました。

まず、指導教員である李澤熊先生には、博士前期課程の入学以来お世話になり、本研究を進めるにあたって、終始懇切なるご指導とご鞭撻を賜りました。李先生が背中を押し続けてくださったからこそ、このように博士論文として形にすることができたと強く実感しております。心より感謝申し上げます。

また、同研究科の堀江薫先生、杉村泰先生、永澤済先生には、本論文の審査において、今後の研究の発展に繋がる有益なご助言を多数賜りました。堀江先生は、特に理論的な側面に関する重要なお指摘をくださり、さらに本論文の考察を深める上で重要な先行研究を紹介してくださいました。また、杉村先生は、予備審査の段階から本論文の構成や分析の手法などに関して、大変きめ細やかにご指摘やご助言をくださいました。そして、永澤先生は、より緻密に言語現象を観察することや、通時的な観点から分析することの重要性を、改めて教えてくださいました。なお、応用日本語学分野の永澤先生には、博士前期課程の頃より授業を通してお世話になりました。多くの重要な先行研究に関してご教授いただき、さらに本論文の執筆にも繋がった自身の考察について発表させていただいた際には、大変有益なお指摘を多く賜りました。3名の先生方よりいただいたご指摘やご助言を踏まえて、本論文の考察を今後もさらに発展させていきたいと存じます。

さらに、学内外問わず、これまで多くの先生方にも大変お世話になりました。まず、南山大学の柗山洋介先生には、博士前期課程での修士論文の執筆において、研究の構想段階から数多くのご助言をいただき、さらに南山大学にご栄転後も、変わらず懇切丁寧なご指導を賜りました。あらゆる側面から言語現象を観察し、その特徴を詳細に記述することの重要性を、柗山先生のご指導を通して学びました。また、愛知学院大学の野田大志先生には、学部時代から数えて10年近くお世話になり、言語研究や論文執筆の基礎を教えてくださいました。野田先生と出会い、言葉を研究することの魅力や面白さを教えてくださいましたからこそ、私は現在の道に進むことができました。そして、本研究科英語学分野の秋田喜美先生には、博士後期課程の間、授業を通してお世話になりました。特に言語学の様々な理論や諸概念に関し

て、幅広くご指導を賜りました。さらに、現代日本語学研究会、表現学会名古屋例会、日本認知言語学会での自身の発表に関しても、数多くの方々より重要なご指摘とご助言を賜りました。

また、現代日本語学講座と応用日本語学分野の先輩方、在学生の皆さまには、本研究を進めるにあたって、様々な観点からのご助言や励ましのお言葉をいただきました。皆さまのご活躍の様子からは常に刺激をいただき、本研究を進める原動力となりました。

これまでお世話になった多くの皆さまに、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

最後に、この道に進む私を故郷から温かく見守り、常に励まし続けてくれた家族に、心から感謝いたします。